



SOKA University Discover your potential

履修要項

Academic Guide Book

2024年度入学生用

経済学部

Faculty of Economics

法学部

Faculty of Law

文学部

Faculty of Letters

経営学部

Faculty of Business Administration

教育学部

Faculty of Education

理工学部

Faculty of Science and Engineering

看護学部

Faculty of Nursing

国際教養学部

Faculty of International Liberal Arts

Discover your potential

SOKA University

建学の精神

Founding Principles

人間教育の最高学府たれ

Be the highest seat of learning for humanistic education

新しき大文化建設の揺籃たれ

Be the cradle of a new culture

人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

Be a fortress for the peace of humankind

ブロンズ像の指針

Two Guidelines engraved in the bronze statue

英知を磨くは何のため 君よそれを忘るるな

For what purpose should one cultivate wisdom?

May you always ask yourselves this question!

労苦と使命の中にのみ 人生の価値は生まれる

Only labor and devotion to one's mission in life gives
life its worth.

この履修要項は、手元において 卒業まで大切に保管してください。

卒業時まで使用します。紛失しないように注意してください。

(再配布いたしません)

※履修要項の内容はポータルサイトでも閲覧できます。

この履修要項には、学業（履修、成績）・卒業・学籍等に関することが記載されています。

修学する上で、重要な内容ですので、しっかりと読み理解するようにしてください。

なお、入学後にカリキュラム等、履修要項に関する変更が発生した場合は、掲示等でお知らせします。



入学後の各種ガイダンスでこの履修要項を使用しますので、必ず持参して参加してください（詳しい時間帯などはオリエンテーション日程表で確認してください）。

目 次

第Ⅰ章 学生生活のスタートにあたって

1. 創価大学 ミッションステートメント	1
2. 教育目標と3つのポリシー	2
3. 受講モラルガイドライン	3

第Ⅱ章 学生生活に関する基本事項

1. 大学からの連絡について	5
2. 窓口業務について	7
3. 学籍番号と学生証について	7
4. 学籍情報変更の届出	8
5. 各種証明書の発行について	9
6. 標準修業年限・在学期間・在籍期間について	10
7. 休学・退学について	10
8. 転学部・転学科について	11
9. 再入学について	12

第Ⅲ章 学修に関する基本事項

1. 1年間の流れとセメスター・タームの併用制について	13
2. 授業のしくみ	14
3. 授業の出席と公欠制度	15
4. 障害のある学生に対する授業等における合理的配慮の申請について	18
5. 単位のしくみ	18
6. カリキュラムの概要	19
7. 科目ナンバリングについて	19
8. 進級と卒業条件について	20
9. 創価コアプログラムについて	20
10. 卒業基準単位数について	22
11. 定期試験について	24
12. 追試験について	25
13. レポートについて	26
14. 試験における不正行為について	27
15. 成績評価	28
16. GPAについて	29
17. 成績発表と成績に関する質問票について	31
18. 単位認定制度について	31
19. 成績優秀者について	35
20. 早期卒業制度について	36
21. 卒業見込証明書の発行について	36
22. 学位について	37
23. 主専攻と副専攻について	38

第Ⅳ章 履修について

1. 履修計画の立て方	39
2. 時間割の確認方法	40
3. シラバスについて	41
4. 履修登録手続きの方法について	42
5. 履修取消期間について	44
6. CAP制（履修登録単位数の上限）について	44
7. 再履修制度について	45
8. 履修年次について	45
9. 他学部・他学科科目の履修について	45
10. 創価コアプログラム科目（基礎科目／言語科目／数理・データサイエンス・自然科目）の履修について	45

1 1. 履修人数制限科目について	49
1 2. 専門科目ゼミの登録について	49
1 3. 卒業論文科目の履修について	50
1 4. 通常の授業時間帯以外で開講する科目の履修について	51

第V章 共通科目

1. 教育理念・目標	52
2. 共通教育のラーニング・アウトカムズ（学習成果）	52
3. 共通科目の構成	53
4. 共通科目の履修について	53
5. 共通科目表の見方について	55
■共通科目表一覧	56

第VI章 各学部・学科の履修について

経済学部 経済学科	61
法学部 法律学科	75
文学部 人間学科	93
経営学部 経営学科	108
教育学部	120
教育学科	123
児童教育学科	129
理工学部 情報システム工学科	135
理工学部 共生創造理工学科	142
看護学部 看護学科	152
国際教養学部 国際教養学科	166

第VII章 副専攻制度

1. 副専攻制度について	178
2. English Medium Program (EMP) について	179
3. データサイエンスについて	179
4. SDGs (Sustainable Development Goals；持続可能な開発目標) について	179
■副専攻科目表	180

第VIII章 特設課程

1. 教職課程	194
2. 社会教育主事課程	195

第IX章 各種システムの利用について

1. 学内の ICT 環境（パソコン教室・プリンタの利用）	196
2. ユーザID について	197
3. パスワードについて	197
4. 学内無線 LAN について	198
5. Google Workspace サービスについて	198
6. 学習支援ポータルサイト「PLAS」について	198
7. 履修・成績システム [通称：Campus Square] について	202
8. 出席状況の確認方法について	203
9. 学生ポートフォリオについて	204

第X章 学内の学習支援施設について

1. 中央図書館	205
2. ラーニング・コモンズ『SPACE』 / WLC Self-Access Center	210

巻末付録

◆規程（創価大学学則（抜粋）、創価大学履修規程、等）	213
◆教室配置図・キャンパスマップ	232

第 I 章 学生生活のスタートにあたって

1. 創価大学ミッションステートメント

1930年、牧口常三郎創価学会初代会長は、『創価教育学体系』（第1巻）を世に問いました。「創価」とは、価値の創造を意味します。その価値の中心は生命にほかなりません。生命の尊厳を守る平和という「大善」に向かって挑戦を続け、いかなる困難にあっても価値の創造をやめない—そうした人格、すなわち「創造的人間」の育成にこそ、創価教育の眼目があります。

この牧口の透徹した生命尊厳の思想は、戸田城聖第2代会長に引き継がれ、そしてその遺志を継承した池田大作第3代会長によって、創価教育の理念を実現するため1971年に創価大学は創立されました。そして創立者は、建学の精神として、

- ・ 人間教育の最高学府たれ
 - ・ 新しき大文化建設の揺籃たれ
 - ・ 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ
- の3つを示しました。

人間教育の最高学府たれ

創立者は、価値を創造し、人類に還元していくことが創価大学の本来の使命であるとし、学生に「創造的人間たれ」と呼びかけました。

大学での教育は決して専門知識の伝授に止まるべきではありません。知識を智慧と錯覚しているのが、現代人の最大の迷妄であり、求められるのは刻々と変化する現実に応じて、知識を生かしながら、問題を解決するために自在に智慧を發揮していく人間です。こうした視点から、創価大学では「人間教育」を目指し、豊かな人間性を基盤として、人類が直面する個々の問題に真摯に取り組み、智慧を發揮していく創造的人間を育成します。

新しき大文化建設の揺籃たれ

中世ヨーロッパに誕生した大学は、キリスト教を基盤にスコラ哲学を發展させ、ルネサンス（人間復興）を生み出すのに大きな役割を果たしました。現代においては、新たなる地球文化を生み出すために、今一度、あらゆる学問、理性、感情等を統合し、正しく位置づける哲学が要請されています。その哲学の基軸となるのは「人間」であり、求められるべきは、真の「教養」をそなえた地球市民としての創造的人間にほかなりません。

地球市民とは、智慧と勇気と慈悲の人といえるでしょう。人種や民族や文化の差異を尊重し、理解し、成長の糧とする勇気。遠いところで苦しんでいる人々にも同苦し、連帯していく慈悲。その勇気と慈悲の心から、智慧は限りなく湧いてきます。創価大学は、地球市民すなわち創造的人間の連帯をもとに新たなる地球文化建設の揺籃たることを目指します。

人類の平和を守るフォートレスたれ

牧口常三郎と戸田城聖は、第2次世界大戦中に軍国主義に敢然と抵抗したために過酷な弾圧を受け、牧口は獄死しました。戸田は出獄後、牧口の平和への遺志を継ぎ、1957年に「原水爆禁止宣言」を発表しました。そして創立者は、こうした平和思想の実現のために、世界で数多くの知性と対話を繰り広げ、民衆と民衆との交流を開いてきました。平和の探求は、創価教育の魂です。

牧口は、「人道的競争」こそ今後の人類の進むべき道であると指摘しました。軍事的競争でもなく、経済的競争でもなく、いかに人類に幸福をもたらすかの競争。今求められているのは、こうした人道的競争を担う創造的人間の育成にほかなりません。世界のあらゆる人々と開かれた対話を展開する平和のフォートレスを創価大学は目指します。

創立者は開学の日に、

英知を磨くは何のため 君よそれを忘るるな

労苦と使命の中にのみ 人生の価値（たから）は生まれる

との指針を学生に贈りました。世界の平和、民衆の幸福という使命を忘れることなく、真摯に学問に取り組む労苦のなかから、創造的人間が生まれる—それが創価大学です。

2. 教育目標と3つのポリシー

(1) 教育目標

創価大学は、池田大作先生により創価教育の理念を実現するため1971年に創立されました。そして創立者は、建学の精神として、

- 人間教育の最高学府たれ
- 新しい大文化建設の揺籃たれ
- 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ

の3つを示しました。

創価大学は、創立者池田大作先生が示された建学の精神に基づき、地域社会や地球社会の課題と真摯に向き合い、人々の幸福と世界の平和の実現に貢献する「創造的人間」、すなわち、価値創造を実践する「世界市民」の育成を目指します。

そのために、たしかな「知力」を基盤とし、不確かな未来を切り開く「創造性」を発揮する力、協働する人々の価値観や理念など「多様性」を受容（寛容）する力を育む教育に取り組みます。

(2) ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学は価値創造を実践する「世界市民」の育成を教育目標に掲げ、次の知識・技能並びに態度を身につけ、所定の期間在学し所定の単位を修得しGPA基準を満たした学生に学位を授与します。

- (1) 各学部等が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができる。
- (2) 論理的に考え、適切な表現で伝えることができる。
- (3) 多様性を尊重し、他者と協働することができる。
- (4) 課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができる。

(3) カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学は、創造的人間の育成を目標とし、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能並びに態度を修得させるために、大学全体として実施する共通科目と、各学部が実施する専門科目を、学士課程教育機構のもとに体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた教育を提供します。創価大学が提供する全科目にコースナンバーを付与し、順次性と体系性を明示しています。

創価大学は入学者が自立した学習者となっていけるように、初年次に初年次セミナー、学術文章作法、外国語等の基礎・導入科目、データサイエンス入門を開講しています。初年次教育推進室が入学前教育を含めた大学全体として、その編成・調整をはかっています。また、創価大学は「幅広い学び」を保証するために、自分が所属する学部の分野以外の科目や学部横断的なプログラムを体系的に学修したことを認める「副専攻制度」、留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化科目の提供をしています。さらに、学生が将来を意識しながら主体的な学びを実践できるように、1年次から4年次にかけて順次性を意識したキャリア科目を提供しています。

(4) アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

創価大学は「創造的人間」の育成をめざしてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ならびにアドミッション・ポリシーを定めています。そこで創価大学は入学を希望する者に対して、本学の教育理念を理解し、高等学校までの教育で育成が期待される「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）にわたる基礎的な能力を備えていることを求めます。それらの能力を多面的に評価することを基本方針として入学試験を実施します。具体的には、

- ① 創価大学の教育理念を理解し、自身の目的観に照らして本学での学修を希望すること。総合型選抜（PASCAL入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）ではそのことを出願資格とし、「面接試験」においてもそれを評価します。
- ② 高等学校までの教育において到達目標とされるものの基礎学力を修得していること。総合型選抜（PASCAL入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）では、調査書などに基づき基礎学力の修得状況を判断します。一般選抜の大学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試

(以下一般選抜)、そして外国人入試では、そうした基礎学力、即ち、知識・技能、思考力、判断力等を評価します。

- ③ 基礎的な英語能力を有すること。創価大学の入試において英語能力を重視します。特に一般選抜のうち大学共通テスト利用入試では英語の得点配分を他科目より高く設定します(理工学部、看護学部を除いた学部)。また、学校推薦型選抜(公募推薦入試)、一般選抜では、実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を英語の点数として換算する措置をとります。
- ④ 諸問題の解決のために主体性をもって多様な人々と協働して取り組んでいく資質と意欲を有すること。総合型選抜(PASCAL入試、小論文方式)、学校推薦型選抜(公募・指定校推薦入試)においては「書類審査」と「面接試験」を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、協働性、学習意欲を評価します。特に総合型選抜(PASCAL入試)では「グループ・ディスカッション」(理工学部除く)、「プレゼンテーション」(理工学部)により、協働性や表現力等を評価します。総合型選抜(小論文方式)では「小論文」により、思考力や表現力等を評価します。一般選抜においては、主体性、協働性に関する高等学校等までの取り組みについて出願時に記入を求め、入学後の修学指導等に活用します。

3. 受講モラルガイドライン

(1) 創価大学におけるアカデミック・インテグリティ

アカデミック・インテグリティ(Academic Integrity)とは「学問における誠実性」と訳され、高等教育に共通する理念です。最高学府で学ぶ私たちは、自らの学問に対し、責任ある態度で真摯に公正に向き合わなくてはなりません。また創価大学という学問共同体においては、お互いの権利を尊重し、すべての人の努力が公平に報われる環境を作り、虚偽や欺瞞といった不正を許さない姿勢と、品位のある一人一人の人格が問われます。アカデミック・インテグリティには、学生がお互いに不正をしない、不正に加担しない、という高い人格を磨いていくという意味もあります。

例えば、次のような学問における不誠実行為は、大学の理念に反する重大な違反と見なされ、場合によっては、停学や単位不認定などの処分に該当します。

■試験や通常授業における不正行為

試験中だけでなく、ふだんの授業中や授業外の課題を行う際にも、教員の許可なく他人の回答を自分の回答として提出することや、自分の回答を他人に写させるなどした場合は不正行為とみなされます。

なお特に試験におけるカンニングなどの不正行為については、履修要項の『試験における不正行為について』(P.26)のページを参照してください。

■剽窃(ひょうせつ)

課題やレポート作成時などに、他人の文章や考えについて出典先を明記せずにそのまま自分のものとして提出・発表すること。

例：他人が書いた課題やレポートを自分のものとして提出する。

自分が書いた課題やレポートを他人が書いたものとして提出する。

他人の文章や考えを、出典先を明記せずにそのまま引用する(インターネットからのコピー&ペーストも含まれる)。

(2) 出席確認について

今日、大学教育においては厳格な成績評価が求められており、授業への出席はそのための大切な前提となります。本学ではそのために出席票・点呼・出席確認システムなどを使用して出席調査を行います。授業への出席に関しては、以下の項目に特に注意してください。

- ① 出席確認は、第1回目の授業から行います。
- ② 早退する場合は、担当教員の許可を得てください。無断の早退は欠席扱いとなります。
- ③ 遅刻時間は授業ごとに担当教員が設定することになっていますので、担当教員に確認してください。
- ④ ICカードリーダーによる出席確認システムが使用されている授業で学生証を忘れた場合は、必ず授業開始前に担当教員に申し出てください。後で申し出ても出席になりません。
- ⑤ 出席票を用いて出席を取る授業で出席票配布時に出席していない場合は、遅刻又は欠席となります。

後で申し出ても出席になりません。

- ⑥ 出席票の記入を忘れた場合、又はICカードリーダーに学生証をタッチし忘れた場合は、欠席扱いとなります。後で申し出ても出席になりません。
- ⑦ ICカードリーダーで出席登録を行う科目は、PLASサイト内の「出席確認システム」のページで出欠状況が確認できます。
- ⑧ ICカードリーダーによる出席確認システムにおいて他人の学生証を身代わりに使用して出席登録したり、タッチをただけで授業に出席しないなどの不正が判明した場合は当該授業の出席が無効となるだけでなく、単位の修得そのものが難しくなる場合もあります。なおこの点は実行者だけでなく身代わりを依頼したのものにも適用されます。

(3) 基本的な受講マナーの励行

真摯に学問に取り組むため、 創大生として基本的な受講マナーを励行しましょう

- ◆ 担当教員に許可なく授業中に私語をしない。
- ◆ 担当教員に許可なくスマートフォン・携帯電話等を使用しない。
- ◆ 担当教員に許可なく授業中にみだりに入退室をしない。
- ◆ 授業には積極的に集中力を持って参加する。
※著しく受講態度の悪い学生（長時間の居眠りや、意図的に議論への参加を拒否するなど）は、その時限の受講が停止される場合があります。
- ◆ 他の受講生の迷惑となるような行為は行わない。

第Ⅱ章 学生生活に関する基本事項

1. 大学からの連絡について

大学から学生のみなさんに連絡事項がある場合は、掲示板、ポータルサイト「PLAS」、又はホームページに掲載します。**確認を怠ったことにより生じた問題は大学として一切責任を負いませんので、日頃から掲示等を確認しましょう。**

(1) ポータルサイト「PLAS」

ポータルサイト「PLAS」には、以下の連絡事項が掲載されています。これ以外にもさまざまな機能がありますので、一日に一度はポータルサイトにアクセスし、確認を行いましょう。

- ・ お知らせ・・・大学の各部局からのお知らせが掲載されています
- ・ あなた宛の連絡・・・学生個人宛の連絡事項が掲載されています
- ・ 休講・補講・教室変更情報・・・履修登録した授業の休講・補講・教室変更情報が掲載されています
- ・ 教員からの講義連絡・・・履修登録した授業の担当教員からの連絡事項が掲載されています

- ポータルサイト <https://plas.soka.ac.jp/>
※あらかじめブックマークしておくとう便利です

■パソコンでアクセスした場合



■スマホでアクセスした場合



(2) ホームページによる掲示

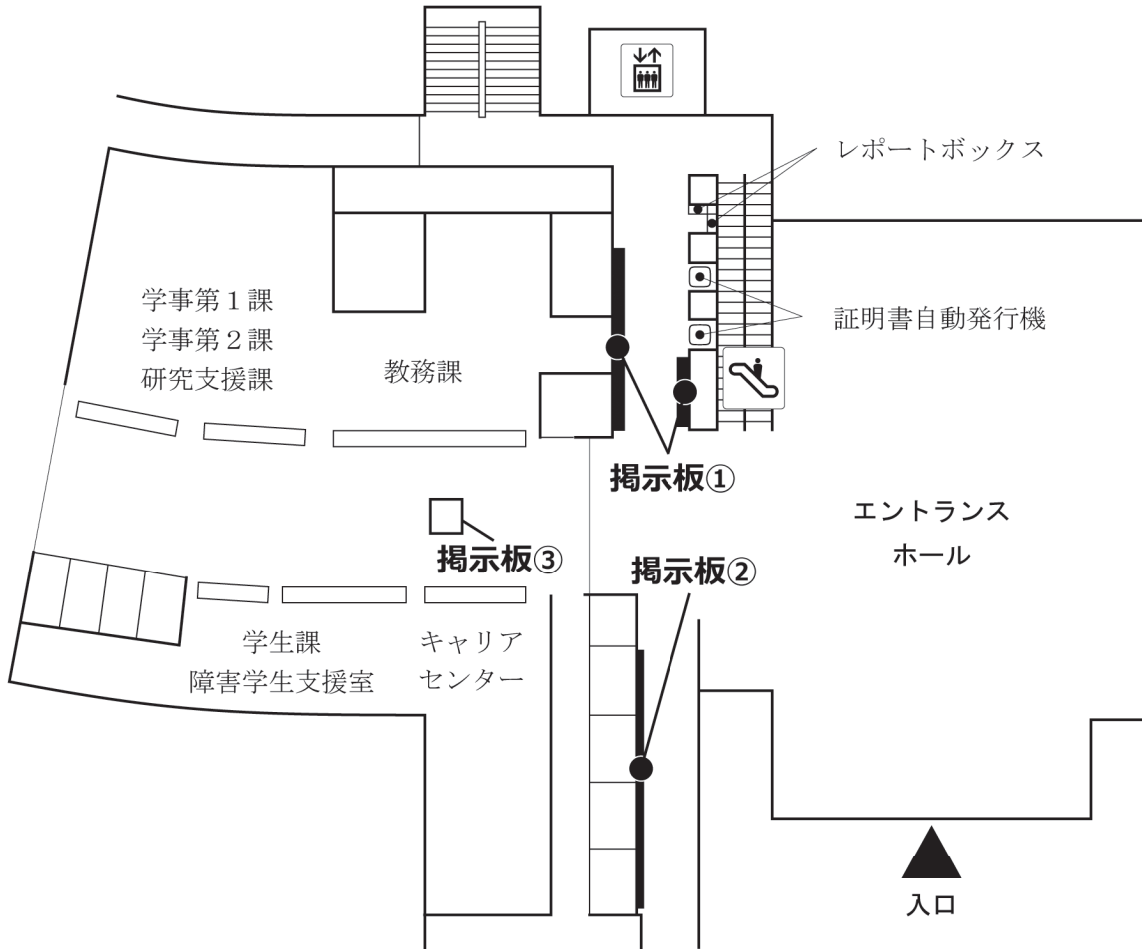
大学事務局からの全体的な連絡はホームページに掲載されることもあります。以下に教務課からの情報が掲載されるページの URL を掲載しますので、適宜確認しましょう。

- 大学HP（授業・成績・履修など） <https://www.soka.ac.jp/campuslife/learning/>

(3) 掲示板案内図

大学事務局からの連絡を行う掲示板は中央教育棟1階に設置されています。大学に来た際は必ず確認しましょう。

掲示板①	<input type="radio"/> 電子掲示板（教務部・学生部・学事部） <input type="radio"/> 教務部掲示板（全学向けのお知らせ、補講情報、試験・レポート情報等） <input type="radio"/> 学部掲示板（経済・経営・文・国際教養学部） <input type="radio"/> 文系大学院掲示板（経済学・法学・文学・国際平和学研究科）
掲示板②	<input type="radio"/> キャリアセンター掲示板
掲示板③	<input type="radio"/> 学生部掲示板 <input type="radio"/> 学事部掲示板



このほか、一部の掲示物は各棟の掲示板に掲出される場合もあります。

- ・教育学部棟（B棟）1階
- ・工学部棟（E棟）1階
- ・本部棟（M棟）3階
- ・看護学部棟（N棟）2階

2. 窓口業務について

学生生活に関わる各種申請、届出、相談等の取扱業務と窓口受付時間は以下のとおりです。

なお、定期試験期間中や各種行事開催時には窓口受付時間が変更されます。窓口時間を変更する場合は、その都度掲示やポータルサイトでお知らせします。

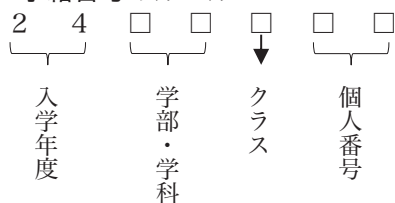
担当窓口	取扱業務	窓口時間
教務部	履修・成績・単位認定・卒業に関すること 学籍異動（休学・退学・再入学）に関すること 転学部・転学科・転籍に関すること 休講・補講、教室設備等の授業運営に関すること 定期試験、演習、卒業論文に関すること 授業の出席や公欠に関すること 各種証明書の申請・発行に関すること	【月曜日～金曜日】 9時30分～17時 【土曜日】 9時30分～12時 ※長期休業期間中は平日の9時30分～12時です
学生部	身上変更の届出、学生証の再発行に関すること 通学証明書、学割や団体割引に関すること 施設貸出、学内・外活動届、備品使用に関すること アルバイト紹介やアパート紹介に関すること 学外活動や学友会（クラブ・サークル）に関すること クラブ活動による公欠に関すること 学生寮に関すること、遺失物・拾得物に関すること 学生相談室や障害学生支援室に関すること 奨学金に関すること、その他各種報告・相談など	
キャリアセンター	進路全般、就職活動支援に関すること 公務員試験、国家試験、資格試験講座に関すること 就職活動による公欠に関すること	
国際部 (中央教育棟6階)	海外留学、海外短期研修に関すること 外国人留学生に関すること	
教職キャリアセンター (教育学部棟1階)	特設課程（教職・社会教育主事）に関すること 教育実習、介護等体験、学校インターンシップに関すること	

3. 学籍番号と学生証について

(1) 学籍番号について

学籍番号とは以下のルールによって付与される7桁の番号で、学生個々に異なる番号が付与されています。各種届出や証明書の発行、履修登録、試験を受験するなどの際にこの学籍番号が必要になりますので、正確に記憶し、記入の際は正しく明記しましょう。

■学籍番号のルール



※学部・学科は以下の数字で示されています

- | | |
|-------------------|----------------|
| 06 経済学部 経済学科 | 21 経営学部 経営学科 |
| 01 法学部 法律学科 | 17 文学部 人間学科 |
| 26 教育学部 教育学科 | 27 教育学部 児童教育学科 |
| 58 理工学部 情報システム工学科 | |
| 59 理工学部 共生創造理工学科 | |
| 61 看護学部 看護学科 | |
| 35 国際教養学部 国際教養学科 | |

■暗証番号（4桁）について

学籍番号決定通知に記載されている4桁の暗証番号は、システムの利用登録や証明書自動発行機を使用する際に必要となります。こちらも合わせて覚えておきましょう。なお、暗証番号は、ポータルサイト内で確認できます。確認方法はP.197「(2) 証明書自動発行機を利用する際のパスワード」を参照してください。

(2) 学生証について

学生証は本学の学生であることを証明するものです。裏面の注意事項を守り、常に携行してください。また、以下の点にも注意してください。

■注意事項

- ① 学生証がないと各種証明書や学割の発行を受けられません。また、定期試験の受験、通学定期券の購入、SPACe や図書館などの学内施設利用もできません。
- ② 学生証の裏面に「在籍シール（1年間有効）」のないものは無効です。1年毎に必ずシールの更新をしてください。シールの更新は毎年4月に行います。詳細は掲示等によって連絡します。
- ③ 強い衝撃を与えるとICチップが破損する恐れがあります。取扱いには十分注意してください。

■学生証を紛失したら

学生証を紛失・破損した場合は、直ちに学生課窓口にて再発行の手続きを行ってください。なお、再発行には数日かかります。また、再発行後、紛失した学生証が見つかった場合は、旧学生証を直ちに学生課窓口に戻却してください。

《再発行の手続き方法》

- ① 顔写真（4cm×3cm、カラー）を用意し、証明書自動発行機にて「学生証再発行申請」の用紙を購入（再発行の場合は2,000円、ICチップ破損による再発行の場合は1,000円）
※証明書自動発行機で「学籍番号入力」ボタンを押し、「30□□□□□□□□」（□は学籍番号）を入力し、画面の案内に従って操作することで用紙を購入できます
- ② 購入した用紙に必要事項を記入し、学生課窓口にて提出

■定期試験日に学生証を忘れた場合

定期試験受験時には学生証を提示することが必要です。万が一学生証を携帯していない場合は、試験開始前に教務課窓口（法学部、教育学部、理工学部事務室でも可）にて「定期試験受験許可証」（発行当日のみ有効）の交付を受けてください。なお、定期試験受験許可証を発行する際は手数料として300円かかります。

《定期試験受験許可証の発行方法》

- ① 証明書自動発行機にて「定期試験受験許可証申請用紙」を購入し、必要事項を記入の上、教務課窓口（法学部、教育学部、理工学部、看護学部事務室でも可）にて提出
※証明書自動発行機で「学籍番号入力」ボタンを押し、「30□□□□□□□□」（□は学籍番号）を入力し、画面案内に従って操作することで用紙を購入できます
- ② 窓口にて本人確認を行った後、許可印を押した「定期試験受験許可証」を交付します。許可印がないものは無効です。試験の際は、許可印の押された「定期試験受験許可証」を机の見える位置に置いてください。
- ③ その日の最終試験終了後、許可証を試験監督に提出してください。

4. 学籍情報変更の届出

本人、又は保証人の身上で何かしらの変更があった場合や、引越しなどによって、大学に届けている住所や電話番号などに変更があった場合は、大学からの緊急の連絡や、発送物（学費振込用紙など）の送付に支障をきたしますので、速やかに以下の方法で変更手続きを行ってください。

変更項目	手続き方法
改姓等による学生氏名、保証人氏名の変更 保証人の変更	学生課窓口に変更届を提出
学生氏名の英字表記・学生住所・電話番号 保証人住所・電話番号（携帯番号含む）	ポータルサイト(PLAS)の「履修・成績システム」ページ内にある「学生住所変更」で変更登録
学生携帯番号 学生メールアドレス	ポータルサイト(PLAS)内の「個人環境設定」で変更登録

5. 各種証明書の発行について

大学が発行する証明書は、証明書自動発行機又は担当部課の窓口にて発行・交付しています。なお、証明書自動発行機で証明書や申請書を発行する際は学生証が必要です。

■証明書自動発行機の設置場所と稼働時間

証明書自動発行機は以下の場所に設置されています。

- 中央教育棟 1階（エスカレーター脇） ○教育学部棟（B棟） 1階
- 本部棟（M棟） 4階 ○理工学部棟（E棟） 1階

稼働時間帯は次のとおりです。なお、入学試験や各種行事などにより、稼働時間を変更又は臨時で休業する場合があります。稼働時間を変更する場合は、ポータルサイトにてお知らせします。

曜日	通常	春・夏・冬季休業期間中
月・火・木	9:00～18:30	9:00～17:00
水・金	9:00～17:00	
土	9:00～12:00	9:00～12:00 (窓口申請はできません)
日・祝祭日	休業	休業

■証明書発行に関する注意事項

即日発行できる証明書は以下の表で「証明書自動発行機で即日発行」欄に○が付されている証明書を証明書自動発行機で発行する場合のみです。即日発行欄に○が付されているものでも、学生証を紛失した等により窓口にて証明書を発行・交付する場合は以下の表に記載されている日数がかかりますので、余裕を持って申請を行ってください。当該学期の成績が反映された成績証明書は、翌学期に発行可能となります。また、卒業見込証明書の発行には、修得単位数や通算 GPA 等の条件があります。詳しくは「第三章 21. 卒業見込証明書の発行について」(P.36～37)を参照してください。

■発行できる証明書

証明書の種類	手数料	証明書自動発行機で即日発行	担当窓口	窓口発行の場合の 交付日
①成績証明書（和文・英文）	300円	○	教務課	2日後
②在学証明書（和文・英文）	200円	○		2日後
③卒業見込証明書（和文・英文）	300円	○		2日後
④成績・卒業見込証明書	300円	○		2日後
⑤休学証明書	300円	—		2日後
⑥健康診断証明書	300円	○	保健センター	×
⑦学生旅客運賃割引証（学割）	無料	○	学生課	×
⑧科目履修証明書	300円	—	教務課	2日後
				7日後
⑨人物に関する証明書（人物考察書）	200円	—	教職キャリアセンター	7日後
⑩教員免許状取得見込証明書	300円			7日後
⑪学力に関する証明書	300円			7日後
⑫通学証明書	無料	—	学生課	翌日
⑬在寮証明書	200円	—	学生課	2日後

※土曜日・休日は発行日数に含まれません。

※即日発行できない証明書については、証明書自動発行機で必要な申請書を購入し、必要事項を記入して担当部課の窓口へ提出してください。

※③・④の証明書の発行は、在学第7セメスター以降にしか発行できません。

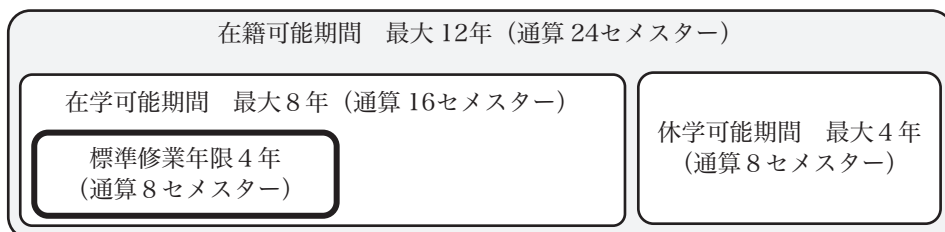
※「⑥健康診断証明書」は、最新年度の健康診断を受けた方のみ発行されます。なお、健康診断を受けていても未受診の検査項目、又は再検査項目や異常値がある場合は証明書自動発行機で証明書を発行することはできません。健康診断証明書を発行できない場合は保健センターまでお問い合わせください。

※「⑫通学証明書」は学生課窓口を設置している申請用紙に必要な事項を記入し、窓口へ提出してください。

6. 標準修業年限・在学期間・在籍期間について

標準修業年限とは、大学を卒業するために必要な在学期間のことです。本学では、これを学則で「4年（通算8セメスター）」と定めています。なお、学部により早期卒業（在学期間3年間又は3年半；通算6セメスターまたは7セメスター）を認める場合があります。

また、本学に在学できる期間は、休学期間を除き最大8年間（通算16セメスター）と定めています。休学期間は最大4年間（通算8セメスター）まで認められていますので、在学期間と休学期間を合わせると、創価大学に在籍できる期間は最大で12年間（通算24セメスター）です。



7. 休学・退学について

(1) 休学

休学とは、学長の許可を受けて大学に在籍したまま休むことを指し、経済事情、留学、病気や怪我などの理由により長期間授業に出席できない場合は、1セメスター、又は1年間の休学を願い出ることができます。

ただし、休学期間は「大学を休む（授業を受けない）期間」ですので、標準修業年限や在学期間には算入されません。したがって、休学した期間分だけ卒業できる時期が遅れることになります。

なお、休学した場合であっても年度が変わると自動的に進級します。例えば、1年生が半年間あるいは1年間休学しても、翌年度の学年は2年生になります。また、休学期間中も学内の諸施設（図書館、SPACe等）や各種システム（ポータルサイト等）を使用することができます。

■休学の手続き方法

休学の手続きは、所定の「休学願」（ポータルサイトからダウンロード、または教務課窓口で配布）に必要事項を記入し、保証人連署の上、教務課に提出してください。休学願の提出締切日は以下の通りです。

休学期間	提出締切日(教務課必着)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月1日～翌年3月31日（春学期→秋学期の1年間） ・ 4月1日～9月15日（春学期のみ） 	5月31日
<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月16日～翌年9月15日（秋学期→翌春学期の1年間） ・ 9月16日～翌年3月31日（秋学期のみ） 	11月15日

※病気・ケガによる休学は、医師の診断書の提出が必要です

※私費留学による休学は、留学先の「入学許可書（写し）」を添付してください

※休学が許可された後、休学通知書及び休学時の学費の振込用紙が送付されます

■休学期間の延長

休学期間の延長を希望する場合は、休学願を再度提出し、許可を得なければなりません。

ただし継続して2年（4セメスター）を超えて休学することはできません。また、通算して4年間（8セメスター）を超えて休学することはできません。

■休学終了時の手続き

休学期間が満了した時点で、自動的に復学になります。復学時に手続きを行う必要はありません。通常通り学期初めのガイダンスへ出席し、履修登録の手続きを行ってください。

■休学中の学費

休学中の学費は「在籍料」のみ徴収します。金額は以下の通りです。なお、学費納入に関する詳細は、財務部 経理課 (042-691-2214) へお問い合わせください。

休学期間	半年休学	1年間休学
2024年度入学生	30,000円	60,000円

(2) 退学

退学には、退学願を提出することによる自主退学と命じられての退学（強制退学）があります。退学した場合でも、本人の申請により、成績証明書、在籍期間証明書、退学証明書などの証明書を発行することができます（所定の手数料がかかります）。

■自主退学

自主退学の手続きは、所定の退学願（教務課窓口で配布）に必要な事項を記入し、保証人連署の上、学生証を添付して退学を希望する学期内に教務課に提出してください。

※退学日は原則として所定の会議で退学を承認した日となります。

※退学をする学期の学費が未納の場合は、「学費未納による退学」と同様の扱いとなります。

■強制退学

下記の理由に該当した場合は、退学（強制）を命じられます。

- ① 在学期間が8年間を満了した者（学則第5条）
- ② 履修登録を行わなかった者（学則第10条）
- ③ 入学後4年間（休学期間を除く）を経過して合計40単位以上を修得していない者（学則第11条の2）
- ④ 当該学期の学費を納入しない者（学則第42条）
- ⑤ 懲戒により退学を命じられた者（学則第46条）

8. 転学部・転学科について

転学部・転学科とは、入学時とは異なる学部・学科に異動することをいい、学部・学科の定員に欠員がある場合に限り、在学期間及び修得単位数の条件を満たし、転学部・転学科試験に合格することで、希望する学部・学科の2年次、又は3年次に異動することができます。なお、年度により学部・学科の在籍学生数の関係から、転学部・転学科の受入を実施しない場合がありますので注意してください。また、看護学部、国際教養学部、及び文学部人間学科社会福祉専修については、転学部・転学科の受入は行いません（文学部人間学科への転学部・転学科は可能です）。

(1) 転学部・転学科の条件

転学部・転学科をするためには、以下の条件をすべて満たす必要があります。

異動先の学年	出 願 条 件	試 験
2年次	本学に1年以上在学し、共通科目、専門科目の中から14単位以上を修得又は見込みであること	12月上旬に実施する転学部・転学科試験に合格すること
3年次	本学に2年以上在学し、共通科目、専門科目の中から62単位以上を修得又は見込みであること	

※出願できる学部・学科は1つのみです。複数学科への併願はできません。

※試験に合格した後、年度末において修得単位の条件（2年次＝14単位以上、3年次＝62単位以上）を満たさない場合は合格が取り消されます。

※転学部・転学科試験の試験要項は毎年5月中旬にホームページに掲載されます。試験科目や出願書類、出願期間などの詳細は試験要項を確認してください。また、過去3年間分の過去問題も掲載しています。

※転学部・転学科した場合、単位の修得状況により、卒業までに標準修業年限を超える場合や、教員免許取得に必要な単位を修得できない場合があります。事前に教務課（教職関係は教職キャリアセンター）にご相談ください。

(2) 既に修得した単位の取り扱いについて

転学部・転学科前に修得した単位は、転学部・転学科先の卒業要件に合わせて単位の振替が行われます（ただし、不合格となった科目の単位・成績は引き継がれません）。

なお、転学部・転学科前に所属していた学部・学科の専門科目は、転学部・転学科後は「他学科専門科目」として扱われ、卒業要件上の自由選択単位として算入されることとなります。特に3年次に転学部・転学科する場合は、転学部・転学科先の卒業要件単位数に十分注意してください。

9. 再入学について

本学を退学し、再入学を願い出た者には、選考の上で再入学を許可することがあります。出願後は、学生部委員会及び学部教授会にて審査を行います。

(1) 再入学の資格

再入学のための出願資格は、以下①②いずれかの条件に該当する場合のみです。在学期間8年満了、又は懲戒により強制退学となった場合は再入学の資格がありません。また、再入学できる学部・学科は退学時に在籍していた学部・学科に限ります。なお、再入学後の学年については、退学時点までの在学期間及び修得単位数により決定します。

■再入学出願資格

- ① 自主退学（学費未納を除く）をした場合は、再入学日が退学日より半年以上4年以内の者
- ② 学費未納のまま自主退学した者、又は強制退学した者のうちその理由が履修登録未了、4年40単位未満、学費未納である者については、再入学日が退学日より半年以上2年以内の者

(2) 再入学できる時期と手続き期限

4月（春学期）、又は9月（秋学期）に再入学することができます。再入学は、以下の表の提出期限までに再入学願を提出し、許可を受けた後に再入学手続き書類の提出、及び学費を納入することで手続きが完了します。再入学に際して試験は行いません。

なお、外国人留学生は、在留資格取得等の手続きがありますので、以下の期限の1ヶ月前までに再入学願を提出してください。

再入学時期	再入学願の提出期限
4月（春学期）	1月31日
9月（秋学期）	6月15日

(3) 再入学時に納入する費用について

再入学手続きの際、再入学許可年度の学費（1学期分）を納入する必要があります。なお、入学金は発生しません。

再入学願を提出し、再入学が許可された後、再入学許可通知と合わせて学費納付書を送付しますので、納付書に記載された期日までに学費を納入してください。

※学費の詳細については、財務部 経理課（042-691-2214）までお問い合わせください。

(4) 退学前に修得した単位の取扱いについて

退学前に修得（合格）していた単位は、再入学する学年のカリキュラムに読み替えた上で再入学時に単位の認定を行います。単位認定に際しては成績（評価）をそのまま引き継ぎます。

なお、カリキュラムの変更により、単位認定できない場合があります。詳しくは教務課までお問い合わせください。

第Ⅲ章 学修に関する基本事項

1. 1年間の流れとセメスター・タームの併用制について

創価大学では、1年間の春学期、秋学期の2つにわけ、その各々の学期を「セメスター (Semester)」と呼んでいます。例えば、4月入学の学生の場合、1年次の春学期は「第1セメスター」、3年次の秋学期は「第6セメスター」というように、学期が進行するにつれてセメスター数も進行していきます。また、セメスターの授業期間を前半と後半に分け、これを第1ターム・第2タームと呼びます。具体的には以下の通りです。

学 期	春学期			秋学期								
期 間	4月1日～9月15日						9月16日～翌年3月31日					
	授業期間			夏季休業	授業期間			春期休業				
	4月～5月末	6月上旬～7月末	9月中旬～11月中旬		11月中旬～1月末							
ターム名称 (下段は略称)	春学期 第1ターム	春学期 第2ターム	夏季集中 ターム	秋学期 第1ターム	秋学期 第2ターム	冬季集中 ターム						
	春1ターム	春2ターム	夏集中	秋1ターム	秋2ターム	冬集中						
1年次	第1セメスター			第2セメスター								
2年次	第3セメスター			第4セメスター								
3年次	第5セメスター			第6セメスター								
4年次	第7セメスター			第8セメスター								

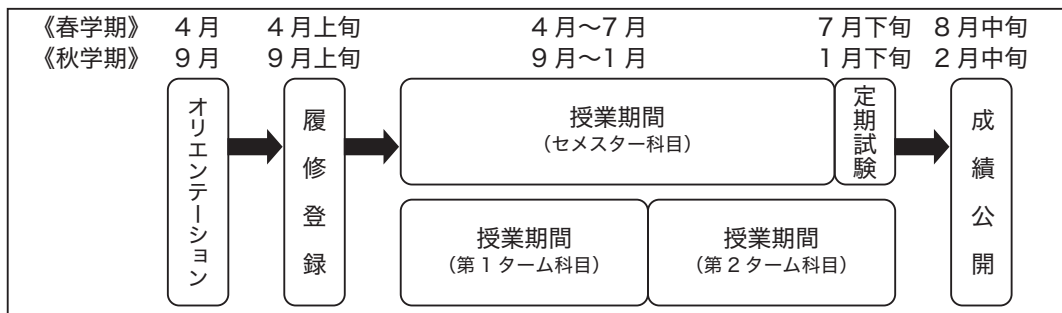
※年度により、秋学期の開始日が9月16日以前になる場合があります

※9月入学者の場合は、1年次秋学期が「第1セメスター」となります。

※再入学した場合、退学前の在学期間に応じてセメスター数が変わります。詳しくは再入学時にご案内します。

※2024年度4月時点では、タームで開講する科目は少数となっているため、開講している科目のほとんどはセメスター科目です。

また、それぞれのセメスターは大まかに以下の流れで進んでいきます。これらの詳しい日程は、毎年2月頃にポータルサイト上に翌年度のスケジュールが掲載されますので、必ず確認してください。



- 春学期と秋学期の始めに履修登録を行います。なお、履修登録は「履修登録期間」「履修修正期間」内に必ず完了させてください。履修登録を行わなかった授業は履修することができません。また、1科目も履修登録を行わなかった場合は、学則により退学が命じられることとなりますので、十分に注意してください。
- 成績評価は、試験その他適切な方法（レポート等も含む）により行われます。詳しくは各授業のシラバスを確認してください。
- 各学期（セメスター）の成績は、ポータルサイト（PLAS）での発表と同時に、保護者ポータルを通じて保護者にも公開されます。

2. 授業のしくみ

授業は、各学期セメスター科目は15週にわたって開講されます。ターム科目は8週で行われます。この他、夏休み・春休みを利用して開講される科目もあります。

(1) 授業時間

授業時間は各時限90分です。月・火・木曜日は5時限、水・金曜日は4時限まで授業が行われます。時間帯は以下の通りです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05

(2) 授業時間割・教室について

各学期の授業時間割は、毎年3月中旬にポータルサイト内の「web時間割」ページに、春学期・秋学期分が同時に公開されます。大学では、学生が自分で時間割を決め、履修登録を行い、授業を受講しますので、この履修要項に記載されている内容や、web時間割に掲載されている注意事項、各種ガイダンスでの説明を踏まえて自分の履修計画を立てましょう。

なお、授業の開講曜日・時限・教室等の変更が生じた場合は、ポータルサイト内のweb時間割上でお知らせします。また、一時的な変更については、担当教員より直接連絡が行われる場合もありますので、授業内の案内やポータルサイトに送られてくる「講義連絡」もよく確認してください。

(3) 休講について

教員のやむを得ない理由等によって授業が休みになることがあります。これを「休講」といい、授業の休講情報はポータルサイト、及び中央教育棟1階ロビーの教務部電子掲示板を通じて連絡が行われます。事情によっては急ぎよ授業が休講となる場合がありますので、随時ポータルサイトを確認するよう心がけてください。また、緊急の場合は、職員が直接教室でお知らせする場合があります。

なお、休講の連絡もなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業が始まらない場合は、教務課までご連絡ください。

(4) 補講について

授業が休講となった場合は、代わりの日時に授業が行われます。これを「補講」といい、原則として水・金曜日の5時限目、若しくは土曜日の1～4時限目に行われます。

補講情報(補講が行われる授業、日時、教室等)は、ポータルサイトと中央教育棟1階ロビーの掲示を通じてお知らせします。

(5) 全学休講措置について

台風や積雪、交通機関の不通など、やむを得ない事情が発生した場合は、全学休講措置(すべての授業を休講する)が行われる場合があります。全学休講措置は、以下の状況のとき、教務部長、学生部長及び大学事務局長の協議により判断されます。全学休講措置を講じる場合は、ホームページ、ポータルサイトを通じて連絡します。

- ① JR東日本(八王子駅を中心とした路線)又は西東京バス(八王子駅-大学間)が運休している場合
- ② 多摩北部・多摩南部・多摩西部地方のいずれかに気象に関する「特別警報」、又は「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」が発令されている場合
- ③ その他、地震等の災害により学生の登下校に困難又は危険が伴う場合

この休講措置については、午前中の授業(1・2時限目)は午前6時の時点、午後の授業(3時限目以降)は午前10時の時点で判断します。ただし、交通機関の運休や天候の悪化が確実に予測される場合は、この時刻以前に判断する場合があります。また、上記の基準に該当する場合であっても、天候の回復など、授業実施や学生の登下校に大きな支障はないと判断される場合は全学休講措置を行いません。授業の有無については、大学からの情報をよく確認してください。

3. 授業の出席と公欠制度

(1) 出席の記録方法

授業には、履修登録を行った時間割に従って毎時間必ず出席しなければなりません。出席は、学生証を利用して、ポータルサイトの「出席確認システム」に記録しています。授業に出席する際は、教室の入口に設置されているカードリーダーに学生証をタッチし、出席の記録を行ってください。研究室などのカードリーダーが設置されていない教室や、授業の性質によりカードリーダーの記録以外の方法などにより各授業担当教員が個別に出席を管理している場合があります。各授業担当教員の指示に従い、自らの責任において出席の記録を行ってください。

出席確認システムでは、授業開始 10 分前から、各授業担当教員が設定している遅刻設定時間までの間に学生証がタッチされたものを「出席」、遅刻設定時間にタッチされたものを「遅刻」として記録しています。遅刻設定時間以降はカードリーダーで出席の登録を行うことはできず、原則として欠席として扱われます。

万が一、学生証を忘れた場合や、何らかの理由によりカードリーダーで出席の記録を行うことができない場合は、必ず授業開始時間前に授業担当教員に申し出てください（授業終了後に申し出が行われた場合は、原則として欠席として扱われます）。

(2) 出席状況の確認方法

カードリーダーを利用して登録した出席の状況は、ポータルサイト内の「出席確認システム」でいつでも確認することができます。また、この出席確認システムは大学内のパソコンだけでなく、自宅のパソコンやタブレットなどからでも確認することができます。

また、欠席が一定回数（セメスター科目は総授業回数の 5 分の 1、及び 3 分の 1、ターム科目は 3 分の 1）に達すると、出席確認システムより大学のメールアドレス宛に通知が自動的に送信されます。



出席確認システム

[>> ログアウト](#)

学生用メニュー

>> 授業・出席情報一覧

授業・出席情報一覧

学生名:

授業科目名:

表示種別: 履修科目のみ 未履修科目含む

凡例: ○:出席、公:公欠、×:欠席、遅:遅刻、休:休講

2009/06/29 現在の出席状況です。 表示区分: 全て

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/19	04/26	05/10	05/17
電気科学 - 物理化学概論 - 伊藤 博文	12	92	○	○	×	○

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/21	04/28	05/12	05/19
電気科学 - 英語 I - 伊藤 博文	8	67	○	○	×	×

授業科目名	回数	出席率 (%)	04/16	04/23	05/07	05/14
電気科学 - 英語 II - 伊藤 博文	7	54	○	○	○	×

各授業科目をクリックすると、
打刻時間を含む詳細を表示します。

■電気科学 - 物理化学概論 - 伊藤 博文

開講日	状況	打刻時間
04/19	○	10時00分 ~ 11時30分
04/26	○	10時03分 ~ 11時28分
05/10	×	
05/17	○	10時01分 ~ 11時29分
05/24	○	08時58分 ~ 11時27分
05/31	○	10時01分 ~ 11時31分
06/07	遅	10時30分 ~ 11時28分
06/14	○	10時04分 ~ 11時30分
06/21	×	
06/28	○	10時02分 ~ 11時28分
07/05	○	10時05分 ~ 11時28分
07/12	○	10時01分 ~ 11時31分
07/19	○	08時58分 ~ 11時30分
09/20	-	
09/27	-	
10/04	-	
10/11	-	
10/18	-	

(3) 欠席について

授業を欠席する場合は特に手続きを行う必要はありません。ただし、授業担当教員と相談し、欠席した授業を補うようにしてください。また、授業時数の 3 分の 1 を超えて欠席した場合、その科目の単位修得ができませんので注意してください。

※欠席回数が授業時数の 3 分の 1 を超えて欠席している場合、履修規程により教員は成績として「N評価（評価不能／不合格）」となります。

なお、病気などにより長期にわたって授業に出席できない場合は教務課までご相談ください。

(4) 公欠について

授業を次の一覧表に掲載された理由でやむを得ず欠席する場合、申請により「公認欠席（以下、公欠という）」とすることができます。公欠を希望する場合は、ポータルサイトの各種申請関連メニューの「公欠申請」から申請登録を行ってください。申請には、公欠理由を証明する書面等の添付が必要です。

「公欠願」の申請受付の締切日は、公欠対象となる授業の最終授業日までです。

■公欠となった授業の出席と学修の取り扱いについて

公欠が認められた場合は、その授業回をN評価の判断基準である「欠席回数」から除外することができます（総授業回数は公欠となった授業回を含みます）。ただし、公欠が認められた場合でも、公欠対象授業内で実施した学修及び課題等は免除されませんので、授業担当教員の指示に従って自己学習や課題等の提出を行ってください。

■公欠の対象となる理由

公欠理由	手続窓口
① 教育実習（教育実習・観察教育実習）、社会教育主事課程の社会教育実習及び教員免許取得に必要な介護等体験に参加する場合	教職キャリアセンター
② 看護学部における臨地実習及び研修に参加する場合	看護学部事務室
③ 文学部における社会福祉専修専用の実習に参加する場合	文学部事務室
④ 演習・共通演習で行う実習又は研修に参加する場合（※1）	教務課(理工学部生は理工学部事務室)
⑤ 就職採用試験（ただし会社訪問は含まない）、公務員試験を受ける場合（※2）	キャリアセンター
⑥ 教員採用試験を受ける場合	教職キャリアセンター
⑦ 学部・学科・専攻が実施するクラス研修旅行に参加する場合	研修旅行の責任者
⑧ 本学公式行事に学生代表として参加する場合	学生課
⑨ スポーツ公式試合に参加する場合（※3）	学生課
⑩ 忌引の場合（※4）	教務課(理工学部生は理工学部事務室)
⑪ 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」の施行に伴い、この法律に基づいて公判への参加等の役割を担う場合（※5）	教務課
⑫ 感染症による出席停止措置を受ける場合（※6）	教務課
⑬ 公認心理師養成課程の心理実習に参加する場合	教育学部事務室
⑭ その他教務部長が正当な理由であると認めた場合（※7）	教務課

- ※1 ④の理由での公欠は、担当教員から研修計画書が提出され、教務部長が承認した場合に限ります。
- ※2 ⑤の就職採用試験（ただし会社訪問は含まない）とは、インターンシップ及び仕事体験等、採用や選考を伴う説明会、面接試験・筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会等をいいます。
- ※3 ⑨のスポーツ公式試合に参加する場合は、本学学生会の体育会系クラブ所属の学生が公式試合に正選手・準選手・大会役員として参加することです。また、公式試合とは、都大会以上の試合及び当該クラブが所属するリーグ又は団体が実施する公式の団体戦並びに個人戦をいいます。なお、⑨の理由で公欠を申請する場合は、クラブ団体が一括して学生課に申請してください。
- ※4 ⑩の忌引により公欠が認められる日数は、会葬礼状等により示された日を含んで以下の通りです。なお、いずれの場合も移動に要する日数を含んで取得できる最大の日数です。また、土・日・祝日もこの日数に含まれます。また、忌引による公欠は連続でのみ取得することができます。

父母（養父母）	7日間
祖父母（曾祖父母含む）・兄弟姉妹	3日間

- ※5 ⑪の理由には裁判員候補者として裁判所に行く場合を含みます。
- ※6 感染症による出席停止の措置とは、「創価大学感染症による出席停止取扱いに関する内規」の定めにより出席停止措置を受ける場合に限ります。対象となる感染症と出席停止の日数は次のページの通りです。なお、対象の感染症について国の定める「学校保健安全法施行規則」やその他関連法令に改正があった場合は、改正後の法令に準じます。

感染症の種類	対象疾病	出席停止の期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）、及び特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第3項第6号に規定する特定鳥インフルエンザ）、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症	完全に治癒するまで
第二種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）	発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核及び髄膜炎菌性髄膜炎	
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他出席停止の措置が必要と考えられる感染症	病状により保健センター又は他の医師において感染の恐れがないと認められるまで

- ※7 ⑭のその他教務部長が正当な理由であると認めた場合とは、次のことなどをいいます
- ア 本学を代表してインターゼミナール大会に参加する場合
 - イ 文芸局、芸術局系クラブ所属の学生が、公演、スピーチコンテスト等に参加する場合
 - ウ 政府等公的機関が実施する行事に参加する場合、学術団体が主催する学会等において発表者として参加する場合
 - エ 国家試験を受験する場合

■公欠の回数について

公欠理由が一覧表の⑤、⑥、⑧及び⑨の場合、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は4回以内、週に1回の授業を実施する場合は2回以内とします。ただし、教務部長が認めた場合はこの限りではありません。公欠理由が一覧表の⑩の場合、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は10回以内、週に1回の授業を実施する場合は5回以内とします。

■特設課程に関する注意事項

公欠理由の①（教育実習、介護等体験）、⑥（教員採用試験）については、以下の通り条件があります。

教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育実習校より正式回答（公文書）のあった期間のみ公欠を認めます ・ 教育実習前後の期間の公欠は認められません。また、実習のための事前打ち合わせや、実習校確保のための事前活動についても、公欠は認められません
教育職員免許取得に必要な介護等体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護等体験のために必要な7日間のみ公欠を認めます ・ 介護等体験前後の期間の公欠は認められません ・ 介護等体験のための事前打ち合わせや、事前活動についても公欠は認められません ・ 公欠の申請には「介護等体験証明書」を提示し、「学校又は施設の長」の証明を確認後、公欠の証明印を押します
教員採用試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として就職活動のための公欠の取扱いに準じます ・ 申請時に教員採用試験受験票など試験日が明記された教育委員会発行の書類を提示してください ・ 原則として当該試験日のみ公欠を認めます ・ 1次試験、2次試験ともに同様の取扱いとします

4. 障害のある学生に対する授業等における合理的配慮の申請について

障害学生支援室（以下、支援室）は、障害等の理由により修学上の支援が必要な学生のための窓口です。支援が必要な学生が障害のない学生と同等の教育・研究の機会が得ることができるよう、相談員（臨床心理士や精神保健福祉士）を配置し、学内外の関係部署等と連携して、修学上の支援を実施いたします。

【障害学生支援室】

場所：中央教育棟1階・学生課内
窓口時間：平日9:30～17:00（学生課の窓口に準じます）
電話番号：042-691-9433（平日9:00～17:00）
メール：syougai-support@soka.ac.jp

■授業における合理的配慮の流れ

授業における合理的配慮の申請は、ポータルサイトの利用メニュー「各種申請関係 → 合理的配慮申請」より申請書をダウンロードして、根拠書類と一緒に窓口へ提出、またはメールで支援室にお送りください。なお、合理的配慮の申請は、セメスター毎に提出する必要があります。

①授業における合理的配慮申請書の提出	申し出には根拠書類（診断書・障害者手帳・主治医意見書など）のご提出が必要です。授業開始後1週目までに申し出ると、学修がスムーズに進みます。
②合理的配慮支援計画書の策定	合理的配慮の申し出に対し、そのニーズと意思を十分尊重した上で、相談員と支援計画案を作成、支援室よりアカデミック・アドバイザーに申請があった旨を報告し、関係する教職員等と協議し、合理的配慮支援計画書を策定します。
③履修相談	合理的配慮支援計画案をもとに、アカデミックアドバイザーと履修相談を行います。
④合意形成	合理的配慮支援計画書は当該学生の合意を得て決定します。
⑤合理的配慮の通知	合理的配慮支援計画書は、原則当該学生から履修している教員へ通知します。原則、履修修正期間終了までに通知することが望ましいです。
⑥合理的配慮の提供	具体的な合理的配慮は、障害のある学生が関係する教職員と連携・協働して提供します。
⑦中間面談	履修取消期間までに、個別に面談を行い、履修計画や配慮についての見直しを実施します。
⑧振り返り	当該セメスター終了後に、相談員が当該学生と面談し、合理的配慮の提供の状況を把握し、必要に応じて関係者と協議を行い、その改善に努めます。

5. 単位のしくみ

「単位制」とは、授業科目を履修し、定期試験等で合格することによって、授業科目ごとに定められている単位を修得し、その合計が各学部・学科・専修の定めた卒業に必要な単位数を満たしたときに卒業資格が与えられる制度です。各科目の単位数は、学則で次のように原則が定められています

第12条 1単位の授業科目は、授業及び授業時間外の学修を合わせて45時間を必要とする内容をもって構成することを標準とし、各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間から45時間の授業をもって1単位とする。

例えば、2単位の科目を修得するためには、30時間から90時間の授業を受講し、かつ、授業時間と授業時間外で合計90時間以上の学修が必要です。創価大学で開講する2単位の講義科目の多くは、30時間の授業時間で開講されていることから、このほかに60時間（1週当たり4時間）の授業時間外学習が課せられていることとなります。

したがって、単位修得のためには、授業時間だけではなく、授業時間外にも積極的に学習することが必要です。なお、各授業科目の単位数、及び授業時間数は共通科目一覧表、各学部・学科の専門科目表を確認してください。

6. カリキュラムの概要

カリキュラムとは、大学教育の目的を達成するために、授業科目の配置や履修年次などの教育計画を示すものです。

創価大学の授業科目は、「共通科目」と「専門科目」、教職等の免許取得のための「特設課程科目」で構成され、それぞれの授業科目は、講義、演習、実験・実習・実技といった形態で開講されています。また、授業科目には、次のような科目特性があります。

必修科目	卒業するために必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	学部・学科が定める科目群の中から決められた単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	学部・学科が定める科目群の中から自由に選択し修得する科目

創価大学を卒業するためには、「専門科目の選択科目を〇〇単位以上修得すること」などの要件が決められていますので、自分の所属する学部・学科の卒業要件単位数をよく確認し、計画的に単位を修得していきましょう。

7. 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、開設されている科目の特性・レベル・学修の順序性などをアルファベットと数字で表し、教育課程の体系性を明示したものです。この科目ナンバリングにより、その授業科目の特性やレベルを判断しながら、履修できるようになっています。

■アルファベット4文字について：教育課程上の位置付け（科目の特性）を表す

記号	科目特性	記号	科目特性
GFDC	共通科目／基礎科目	LAWP	専門科目／法学部
GUNI	共通科目／大学科目	HUMR	専門科目／文学部（選択必修科目）
GENG	共通科目／言語科目（英語）	HUML	専門科目／文学部（言語系）
GSFL	共通科目／言語科目（英語以外）	HUMC	専門科目／文学部（文化系）
GOFL	共通科目／言語科目（英語以外）	HUMS	専門科目／文学部（社会系）
GGCE	共通科目／世界市民教育科目	HUMW	専門科目／文学部（社会福祉）
GMDN	共通科目／数理・データサイエンス・自然科目	HUMI	専門科目／文学部（学際）
GHUM	共通科目／人文科学系科目	HUMP	専門科目／文学部（実習・演習）
GSOC	共通科目／社会科学系科目	EDUC	専門科目／教育学部教育学科
GNAT	共通科目／健康科学系科目	PRED	専門科目／教育学部児童教育学科
GINT	共通科目／学際系科目	SCEN	専門科目／理工学部
GCAR	共通科目／キャリア教育系科目	INFO	専門科目／理工学部情報システム工学科
GGCP	共通科目／GCP科目	SESI	専門科目／理工学部共生創造理工学科
GJLC	共通科目／日本語・日本文化科目	NURS	専門科目／看護学部
GOPT	海外研修・実習科目	INLA	専門科目／国際教養学部
ECON	専門科目／経済学部	TETC	特設課程科目
BUSI	専門科目／経営学部		

■数字3桁について：科目のレベルを表示

	科目のレベル
100の位	
000番台	リメディアル科目（卒業単位には算入しない）
100番台	共通科目・専門基礎科目
200番台	共通科目の上級科目・専門科目の初級科目
300番台	専門科目の中級科目
400番台	専門科目の上級科目
500番台以上	大学院レベルの科目

8. 進級と卒業条件について

創価大学では、進級するための条件はありません。修得単位数に関係なく、年度が変われば、進級します。例えば入学して2年目には全員が2年生となります（休学中でも進級します）。

また、卒業するためには、以下の4項目の条件をすべて満たすことが必要です。

- ① 在学 Semester が8 Semester 以上であること（休学期間を除く）。
ただし、早期卒業の条件を満たす場合は、この限りではありません。※1
- ② 各学部・学科で定められた卒業に必要な単位数をすべて修得していること。※2
- ③ 通算 GPA が2.00 以上であること。※3
- ④ 学費を完納していること

※1 早期卒業については、「第三章 20. 早期卒業について」(P.36) を参照してください。

※2 卒業までに必要な単位数は「第三章 10. 卒業基準単位数について」(P.21～23)、及び P.61 以降の各学部・学科の説明を参照してください。

※3 GPA については、「第三章 16. GPA について」(P.29～31) を参照してください。

9. 創価コアプログラムについて

創価コアプログラムとは、本学の共通科目の教育理念・目標を踏まえ、創価大学で学ぶことに誇りを持ち、所属学部にかかわらず、全員が幅広い教養を身につけることを目指すプログラムです。具体的には(1)「基礎科目」、(2)「大学科目」、(3)「言語科目」、(4)「世界市民教育科目」、(5)「数理・データサイエンス・自然科目」の5つの科目群から指定された科目を学びます。

原則として、2年次終了（国際教養学部生は3年次終了）までの修得を目指して取り組んでください。

(1) 「基礎科目」

共通科目の「基礎科目」として開講されている「初年次セミナー（理工学部生は初年次プロジェクト）」、「学術文章作法」等を修得する必要があります。学部によって修得すべき単位数が異なっていますので、必要な単位数の詳細は各学部のページで確認してください。

(2) 「大学科目」

「大学科目」（自校教育科目）では、創価大学の建学の精神や歴史を、さまざまな視角から学びます。一人ひとりの興味に合わせて、以下の科目から2科目（4単位）（看護学部は1科目・2単位）以上を修得してください。

- ① 学生生活を充実させるための基礎力を身につけたい
・人間教育論 A（『創立者の語らい』を読み議論する）
- ② 大学生に求められる教養を身につけたい
・人間教育論 B（創立者の書物に取り上げられる世界の古典を学ぶ）
・現代文明論（創立者の考えを、探究のための「コンパス」として、現代文明の諸課題を考える）
・大学史の中の創価大学（大学の課題を調べて提案する）
- ③ 世界市民としての力を磨きたい
・人間教育論応用（『創立の精神を学ぶ』収録の講演を学ぶ）
- ④ 創立者についてしっかり学びたい
・創価教育論（牧口常三郎・戸田城聖・池田大作の生涯と思想を学ぶ）
・共通基礎演習（創立者の対談集などを用いて現代の問題を議論する）
〈担当教員により異なる〉

(3) 「言語科目」

今日の国際化社会で求められる多文化共生力を育成するため、その基礎教育として伝統的に力を注いできた語学教育を一層高める取り組みとして、第1外国語として英語6単位（経営学部は10単位、国際教養学部は16単位）以上、第2外国語として英語以外の言語を1つの言語で4単位（経営・看護学部は除く）以上の修得が必要です。原則として、**第1外国語は2年次終了まで、第2外国語は1年次（国際教養学部は3年次）終了までに必要な単位を修得してください。**この期間内で修得できない場合、他の科目の履修に影響がでて不利益になることがあります。また、言語科目の必要な単位をすべて修得していることが卒業見込証明書発行のための条件となっていますので、十分に注意してください。

※外国人留学生で日本留学生試験（日本語）330点未満、又は日本語能力試験（N1）140点未満の方は日本語を第2外国語として履修します。

※外国人留学生は申請により日本語を第1外国語とし、日本語以外の言語（英語を含む）を第2外国語とすることができます。

※具体的にどのような科目を履修するかは各学部・学科が説明している内容やweb時間割などをよく確認してください。

(4) 「世界市民教育科目」

創立者のコロンビア大学ティーチャーズカレッジでの講演「『地球市民』教育への一考察」で提案された地球的課題である平和・環境・開発・人権をテーマとした「地球市民教育」のための科目等の「世界市民科目」から4単位の修得が必要です（国際教養学部は除く）。

(5) 「数理・データサイエンス・自然科目」

近年、社会にあふれる大量のデータを活用して、社会の諸問題の解決に貢献し、データから価値を創造する人材のニーズが急速に高まっています。初級レベルの数理・データサイエンス・AIのスキルを身に付けることを目指す「データサイエンス入門」は、全学生が修得する必要があります。

10. 卒業基準単位数について

各学部・学科が定める卒業基準単位数は以下の一覧表の通りです。詳細はP.61以降の各学部学科の説明を参照してください。また、P.20の「8. 進級と卒業条件について」の記載があるとおり、以下の一覧表の単位を修得したとしても、通算 GPA が2未満の場合は卒業できませんので注意してください。

■共通科目・学部学科英語科目の卒業基準単位数

学部	学科	共通科目及び外国語											計		
		①基礎科目		②大学科目	③言語科目		④世界市民教育科目	⑤数理・データサイエンス・自然科目 ※5	⑥人文・社会・健康科目					⑦キャリア教育系科目	⑧海外研修・実習科目
		初年次セミナー ※1	学術文章作法 ※2		第1外国語 ※3	第2外国語 ※4			社会科学系科目	人文科学系科目	健康科学系科目	学際系科目			
経済	経済	2	2	4	6	4	4	2	2				2	—	28
法	法律	2	2	4	6	4	4	4	—	—	—	—	—	—	26
文	人間	2	2	4	6	4	4	2	2	—	—	—	—	—	26
経営	経営	2	2	4	10	—	4	2	2				2	—	28
教育	教育	2	2	4	6	4	4	4	—	2		—	—	—	—
	児童教育														
理工	情報システム工	2	2	4	6	4	4	2	2	2	—	—	—	—	28
	共生創造理工	2	2	4	6	4	4	2	2	2	—	—	2	—	30
看護	看護	—	2	2	6	—	2	2	2				—	—	16
国際教養	国際教養	2	—	4	16	4	—	2	—	—	—	—	—	—	28

※1 理工学部生は「初年次プロジェクト」を2単位修得すること。

※2 学術文章作法は、原則として「学術文章作法1」で修得すること。

※3 第1外国語は、原則として英語を履修すること。学部学科英語科目のある経済学科、経営学科、情報システム工学科、共生創造理工学科、国際教養学科は、学部学科英語科目を優先して卒業に必要な単位数を修得すること。

※4 第2外国語は、1つの言語で4単位以上を修得すること（経営学部、看護学部を除く）。

※5 「データサイエンス入門」は全学部必修科目。

■専門科目・自由選択の卒業基準単位数

学部	学科	専門科目				自由選択	計	共通科目 (上記)	総計
		必修科目	選択必修科目	選択科目	小計				
経済	経済	—	28 ※1	38	66 ※2	30	96	28	124
法	法律	—	18 ※3	50	68 ※4	30	98	26	124
文	人間	—	16	46	62 ※5	36	98	26	124
経営	経営	8	34 ※6	36	78	18	96	28	124
教育	教育	14	18	46	78	18	96	28	124
	児童教育	14	14	50 ※7	78	18	96	28	124
理工	情報システム工	14	8 ※8	48	70	26	96	28	124
	共生創造理工	27	8	36	71 ※9	23	94	30	124
看護	看護	103	—	—	103	6	109	16	125
国際教養	国際教養	34	44 ※10	—	78	18	96	28	124

- ※1 経済学科の専門選択必修科目は、以下の通りそれぞれの領域から指定された単位数を修得すること。
 ・ミクロ経済学：4単位 ・マクロ経済学：4単位 ・経済数学入門：4単位 ・経済と歴史：4単位
 ・統計：4単位 ・簿記：2単位 ・演習Ⅰ：2単位 ・演習Ⅱ：2単位 ・演習Ⅲ：2単位
- ※2 経済学科の専門科目には、選択したコースの科目（専門科目表に▲印が付されている科目）を18単位以上含めること。
- ※3 法律学科の専門選択必修科目は、以下の通りそれぞれの領域から指定された単位数を修得すること。
 ・演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲまたは Special Seminar for Global Issues Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：6単位
 なお、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに加えて、専門選択科目として Special Seminar for Global Issues Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修することができる。
 ・法学の基礎とSDGsまたは Introduction to Legal Studies：2単位
 ・学部基本科目（A群）：10単位 ※ただし、English Medium Program 生は、学部基本科目（B群）から10単位
- ※4 法律学科の専門科目には、選択したコースの科目（専門科目表に▲印が付されている科目）を16単位以上含めること。また、地球平和共生コースを選択した場合は、コースが指定する All English 科目（専門科目表に（AE）と書かれている科目）を7単位以上含めること。
- ※5 人間学科の専門科目は、イントロダクトリー科目、ベーシック科目、アドヴァンスト科目に分けられています。専門科目として修得する62単位は、以下の表の通り修得すること。

科目特性	イントロダクトリー		ベーシック		アドヴァンスト		計
	選択必修	選択	選択必修	選択	必修	選択	
卒業基準単位数	2	4	2	26	12	16	62

- ※6 経営学科の専門選択必修科目は、選択必修科目A群、B群に分けられており、以下の通り指定された単位数を修得すること。

科目特性	卒業基準単位数	備 考
選択必修A群	18	以下の通り各領域から指定された単位数を修得すること ・経営学から4単位 ・簿記原理から4単位 ・統計学から4単位 ・経済学から4単位 ・人間主義経営演習から2単位
選択必修B群	16	

- ※7 児童教育学科の専門選択科目は、教科A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を修得すること。なお、A～Eの各群では、2単位の修得が必須である。
- ※8 情報システム工学科の専門選択必修科目は、以下の通り指定された単位数を修得すること。

単位数	備 考
8単位以上	以下の通り各領域から指定された単位数を修得すること ・1年次春学期の微積分学から2単位 ・1年次春学期の線型代数学から2単位 ・1年次春学期の数学演習から2単位 ・実験科目から2単位

- ※9 共生創造理工学科の専門科目として修得する71単位は以下の表の通り修得すること。また、専門応用科目の「領域選択必修科目」は、選択した領域が指定する科目から8単位修得すること。「領域選択科目」は、選択した領域が指定する科目から14単位修得すること。

科目特性	専門導入科目	専門基礎科目			専門演習科目	専門応用科目			計
	必修科目	必修科目	選択必修科目A	選択必修科目B	必修科目	領域選択必修科目	領域選択科目	選択科目	
卒業基準単位数	4	13	4	4	10	8	14	14	71

- ※10 国際教養学科の専門選択必修科目は、Quantitative & Qualitative Analysis 科目群（QQA 科目群）、Level 100-200 科目群、Level 200 科目群、Level 300-400 科目群の4つの科目群から、それぞれ以下の表の通り単位を修得すること。また、Level 100-200 科目群及び Level 300-400 科目群の中には、「歴史・社会・文化」「政治・国際関係」「経済・経営」の3つの分野があり、各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。

科目特性	QQA 科目群	Level 100-200 科目群	Level 200 科目群	Level 300-400 科目群	計
卒業基準単位数	4	16 (3分野から各4単位、計12単位を含めること)	4	20 (3分野から各4単位、計12単位を含めること)	44

11. 定期試験について

定期試験には学期途中に行われる中間試験とターム末に行われるターム末試験、学期末の学期末試験があります。科目によっては学期末試験期間前の最終授業日に試験を行う場合があります。また、授業中に小テストやレポート提出が課される場合もありますので、授業担当教員の指示に従ってください。なお、学期末試験期間に実施する試験の日程は、ポータルサイトを通じてお知らせします。また、定期試験を受験する際は必ず学生証を持参してください。

(1) 学期末試験

学期末試験とは、各セメスター末に一定の期間を設けて行う試験で、原則16週目に行います。学期末試験の日程等についてはポータルサイトを通じて発表します。

なお、学期末試験期間中はセメスター科目の授業は行いません。また、台風・積雪等の理由で試験を実施できなかった場合は、予め決められている予備日に実施します。

(2) 中間試験

中間試験とは、各セメスターの中間に一定の期間を設けて行う試験です。学期末試験とは異なり、すべての科目で実施されるものではなく、週2回授業の科目を中心に、原則として授業時間内に行われます。中間試験を実施する科目や日程は、ポータルサイトに掲示され、学期末試験に準じて行われます。なお、この中間試験は、後述する追試験の対象とはなりません。万が一中間試験を欠席した場合は、各授業担当教員の指示に従ってください。

(3) ターム末試験

各ターム末の定期試験は、原則8週目の授業時間内で実施(90分授業の内、45分を利用し実施)します。但し一部の科目は、別日程で行う場合があります。ターム末試験が台風・積雪等の理由で実施できなかった場合は、あらためて別日程で行います。主に授業内で試験を実施しますが、追試験の対象になります。

(4) 各定期試験の受験資格

中間試験、ターム末試験、及び学期末試験は履修登録した授業科目についてのみ受験することができます。

(5) 試験時間帯

各定期試験は、通常の授業時間帯で実施します。試験時間は原則45分間、60分間、90分間のいずれかです。ただし、例外で授業時間以外に実施する科目もあります。その場合はポータルサイトを通じてお知らせします。

(6) 答案について

答案用紙には必ず学籍番号と氏名を記入してください。また、無回答の場合でも必ず提出してください(試験終了時に答案用紙枚数を確認します)。

(7) 受験上の注意事項

各定期試験は、次の注意事項を確認の上、受験してください。

- ① 試験教室には、試験開始に十分に間に合うように余裕をもって集合してください。特にバスを利用して大学に通学している方は、交通渋滞などを考慮し大学に30分前に到着できるよう心がけてください。
- ② 学生証がないと受験できません。また、裏面のシールを更新していない学生証では受験できません。試験時間中は学生証を机の上(通路側)に写真の部分を上にして置いてください。学生証を紛失した場合などは、早急に再発行の手続きをしてください。また、試験時に学生証を忘れた場合は、教務課窓口(又は各棟事務室)で「定期試験受験許可証」を申請し、発行された許可証を机の上においてく

ださい（定期試験受験許可証の発行方法は P.8 を参照）。なお、定期試験受験許可証に許可印が押されていないものは無効です。

- ③ 持ち込みを許可されたもの以外の所持品は座席の下においてください。机の中に所持品を入れておくと、不正行為とみなされる場合があります。
- ④ 辞書付き電卓、電卓付き時計、辞書付き時計、電子辞書等の電子機器は、特に指定のない限り持ち込みを厳禁とします。また、携帯電話（スマートフォンを含む）を時計の代わりとして使用することはできませんので、必ず試験前に電源を切ってください。なお、中央教育棟には教室に時計が設置されていませんので、時計を各自持参してください。
- ⑤ 試験教室では、1 席おきに座ってください。
- ⑥ 試験開始以降は途中退出できません。

(8) 定期試験の延期について

定期試験実施予定日が次の事由に該当する場合、「交通機関の運休、台風・積雪等に伴う休講措置」に準じて定期試験を延期し、あらかじめ決められた予備日に定期試験を行うことがあります。したがって、定期試験予備日に試験が行われる可能性があることを前提に準備を行ってください。

ただし、下記の事由が発生している場合でも、試験の実施に影響がないと判断される場合は、定期試験を通常通り行います。また、午前 10 時までには下記の事由が解消された場合は、午前中の試験のみ延期し、午後の試験を予定通り実施します。

- ① 午前 6 時の時点で、J R 東日本（八王子駅を中心とした首都圏）及び西東京バスのうち 1 社でも全面的な運休があった場合
- ② 多摩北部・多摩南部・多摩西部地方のいずれかに気象庁から「気象等に関する特別警報」、「暴風警報」、「大雪警報」又は「暴風雪警報」が発令されている場合

定期試験を延期する場合は、ホームページ、ポータルサイトを通じて連絡します。

*交通機関の不運・遅延により定期試験を受験できなかった場合は、公的交通機関が発行する遅延証明書を提出し、所定の手続きを行うことで追試験を受けることができます。詳しくは「第三章 12. 追試験について」(P.25～26)を参照してください。

12. 追試験について

追試験とは、ターム末試験及び学期末試験を病気などのやむを得ない事情により受験できなかった人を対象に行う試験です。希望者が自由に受験できる試験ではありません。なお、追試験を受験するためには所定の申請期間に、試験を欠席した理由を証明する書類とともに追試験受験願を提出する必要があります。

(1) 追試験の対象となる科目

- ① セメスター科目
学期末試験期間内に実施した科目のみが対象です。授業内で試験を実施した試験（授業内試験）やレポート科目は対象外です。
- ② ターム科目
ターム末に実施した科目のみが対象です。レポート科目は対象外です。

(2) 追試験受験のための手続き

追試験を受験するためには、指定された期間内に、ポータルサイトの案内に従って手続きをしてください。その際に、次のページの「(3) 受験資格」で示した証明書類の提出が必要です。ターム末試験の追試験についても公欠申請とは別に追試申請を行ってください。

指定された期間内に追試験申請手続きをしなかった場合はいかなる理由があっても追試験を受験することはできません。

また、手続きは原則として本人が行ってください。ただし、追試験の受験資格を有する本人が、入院等のやむを得ない理由により手続きを取れない場合に限り、代理人による手続きを認めます。詳細は教務課に相談してください。

なお、追試験の受験の可否は、申請に基づき、教務部長による審査の上で発表されます。したがって、申請者全員が追試験を受験できるわけではありません。特に通常の授業への出席日数が授業実施日数の3分の2より少ない場合、受験が許可されない場合があります。

(3) 追試験の受験資格

ターム末試験・学期末試験を次の理由で欠席し、証明書類等でその理由が確認できる場合に追試験を受験することができます。なお、ターム末試験・学期末試験に以下の理由で遅刻したとしても、試験を受験した場合には、追試験の受験資格はありません。

理 由	証 明 書 類
国家試験・教員採用試験・地方公務員試験	受験票など試験の受験を証明できるもの
就職試験（セミナーを除く）（※1）	受験票など試験の受験を証明できるもの
スポーツ全国選手権大会出場	学生課が発行する所定の証明書
本人の傷病	医師の診断書等（※2）
忌引き（2親等以内の親族に限る）（※3）	会葬礼状など
電車・バスなどの公的交通機関の遅延	遅延証明書（駅などで発行されるもの）
交通事故・災害（火災等）	事故証明書又は罹災証明書
本学の授業として開講する実習に参加する場合	実習への参加を示す証明書
その他教務部長が正当な理由であると認めた場合	その理由を証明する書類等

- ※1 就職試験（セミナーを除く）については、インターンシップ及び仕事体験等、採用や選考を伴う説明会、面接試験、筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会、セミナー等に参加する場合は、キャリアセンターが受験資格を認めるかどうかを判断します。
- ※2 病院などの公共施設が発行する診断書を原則とします。詳しくは、定期試験時に発表される「追試験の実施について」を参照してください。
- ※3 忌引の期間は、両親（養父母）の場合は7日間、兄弟・姉妹・祖父母（曾祖父母含む）の場合は3日間とします（土日を含む）

(4) 受験許可者及び時間割発表について

追試験の受験許可者及びその時間割と教室は、ポータルサイトで発表します。追試験は、試験の代わりに「レポート」が課される場合がありますので、発表日に必ず確認を行ってください。

また、追試験当日は必ず学生証を持参してください。万が一学生証を忘れた場合は、定期試験と同様に「定期試験受験許可証」の発行を受けてください。

1.3. レポートについて

レポートとは、試験に代わる方法で学修の成果を判断するものです。したがって、試験と同じ厳格さが要求されます。

教員の指示によりグループでのレポート作成や提出が認められた場合以外は、他の人にレポートを貸したり、他の人のレポートを丸写ししたりする、又は引用した文章等の著書名や著者を明記しないで借用すること（剽窃）は厳禁です。このようなレポート作成における不正行為は、試験と同様に処分の対象となります。

作成したレポートは、教員の指示した方法により提出してください。主な提出先は以下の通りです。

(1) ポータルサイト「PLAS」で提出する場合

ポータルサイトにログイン後、教員の指示する方法でレポートファイルを送信してください。レポート送信後は、ポータルサイトの画面の「レポート送信状況」が「提出済」になっていることを必ず確認してください。また、レポートを提出する際は、締め切り期日に余裕を持って提出してください。教員が設定した提出期限を過ぎた場合は、レポートの提出ができなくなります。

なお、ファイルを作成する際は、教員の指示するアプリケーションを使用してください。教員の指示する方法以外でレポートを作成した場合は、たとえ正常にファイル送信が行えたとしても、受理されない場合があります。

(2) 紙媒体で提出する場合

紙媒体でレポートを作成する場合は、以下の点に注意してください。なお、レポートボックスへ提出する場合は、指定された場所に各自で提出してください。提出期限を過ぎた場合は、いかなる理由があっても一切受け付けません。また、一度提出したレポートの変更・訂正も認めません。必ず完成したレポートのみを提出してください。

- ・指定された用紙・様式に従うこと。また、複数枚にわたる場合は、レポートが散逸しないよう必ずホチキス、ひも、のり等で綴じて提出すること（クリップは不可）。
- ・提出期限（締め切り時間）を厳守すること。

■レポートボックス設置場所

- 中央教育棟 1階（エスカレーター脇） ○教育学部棟（B棟）1階
- 理工学部棟（E棟）1階 ○本部棟（M棟）8階 ○看護学部棟（N棟）1階

14. 試験における不正行為について

試験で不正行為を行った場合、又は不正行為とも見なされるような行為があった場合は、学則第46条に定める懲戒処分を受けるとともに、「定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規」に基づき、そのセメスター又は年度の全科目の単位が取り消されます。なお、この不正行為は、中間試験・定期試験・追試験のほか、授業期間中に実施する試験やレポートにおいても同様に取り扱われます。

(1) 処分の対象となる不正行為

試験においては、絶対に不正行為をしてはなりません。カンニングペーパー等は、試験教室に持ち込んでいることが判明しただけで不正行為としてみなされます。また、本人が不正行為を行う意思がない場合でも、試験監督者が不正行為を行ったと判断する場合も処分の対象となります。

処分の対象となる不正行為は、以下の通りです。

- ① あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだ者
- ② あらかじめ書き込みをされた六法全書、辞書等を持ち込んだ者
- ③ 参照不許可の教科書、参考書、ノート等を参照した者
- ④ 許可なく携帯電話・電子機器等を使用、又は参照した者
- ⑤ 解答用紙のすり替えをした者
- ⑥ 言語、動作等をもって受験者相互に連絡した者
- ⑦ 他の学生の答案を見て、答案を作成した者
- ⑧ 許可なくみだりに席を離れた者、その他監督者の指示に反する行為をした者
- ⑨ 身替わり受験を依頼した者、又は身替わり受験をした者
- ⑩ 他人の答案を作成した者、不正に作成された答案を提出した者、及びそれらの行為をさせた者
- ⑪ その他、不正な手段を用いて受験した者

(2) 処分の内容

不正行為をした者は、学則第46条及び定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規に従い、厳正に対処します。処分の内容は以下の通りです。

■懲戒について

- ・戒告処分（上記の①から⑧、⑪に該当する場合）
- ・停学処分（上記の⑨、⑩に該当する場合、過去に戒告処分を受けた者が再び不正行為をした場合、及びその他の重大な不正行為をした場合）
- ・退学処分（過去に停学処分を受けた者が再び不正行為をした場合）

■単位の取り消される範囲

戒告処分の場合は当該学期の全履修科目、停学・退学処分の場合は当該年度の全履修科目の単位が取り消されます。

15. 成績評価

履修登録した授業科目の成績評価は、定期試験やレポートの評価、授業中の学修成果などに基づいて総合的に判断されます。各授業科目の成績評価方法や基準については科目によって異なり、その詳細はシラバスに示されています。こうして総合的に判断された成績評価は以下のように表記され、合格となった場合のみ単位を修得できます。

■成績評価基準（学則第16条／履修規程第7条3）

方法	評価	基準点数	GP	合否	内 容
ABC 評価	A+	100～95	4.0	合格	特に優れている
	A	94～90	4.0		優れている
	A-	89～85	3.7		良好
	B+	84～80	3.3		
	B	79～75	3.0		
	B-	74～70	2.7		科目の要求を一応満たしている
	C+	69～65	2.3		
	C	64～60	2.0		
	D+	59～55	1.7		
	D	54～50	1.3		
	PF 評価	E+	49～45	1.0	不合格
E		44～0	0.0	合格の水準を満たさない	
N		評価不能	0.0	(注)	
単位認定	P	合格	対象外	合格	科目の合格水準を満たしている
	F	不合格		不合格	科目の合格水準を満たしていない
I	R	認定		合格	学外等での学修を本学の単位として認定する
		評価保留		—	インコンプリート制度による成績評価保留

注：授業時数の3分の1を超えて欠席した場合はN評価となります。また、定期試験を受けなかった、レポートを提出しなかったなど成績評価をすることが不可能な場合に教員はN評価を付けることができます。

- ※1 本学の成績評価方法は、A+からEまでの12段階評価で行われるABC評価と、合否のみを判断するPF評価の2種類があります。PF評価科目は、ABC評価が相応しくないと判断された科目のみで行われています。それぞれの授業がABC評価なのかPF評価なのかはシラバスに記載されています。
- ※2 合格とは単位を修得できたことを表し、不合格とは単位を修得できなかったことを表します
- ※3 学外に向けて発行する成績証明書には合格した科目の評価のみ掲載されます。ただし、GPAについては不合格科目を含めて計算した数値が掲載されます。
- ※4 成績評価については、A+評価の上限を全履修者の5%程度とし、A+評価、A評価及びA-評価の合計の上限は、全履修者の25%程度としています。ただし、履修のための成績条件等があり、一定レベル以上の学生が履修する科目など、所定の会議にてこの成績上限の除外が認められた授業科目はこの限りではありません。

■インコンプリート制度（成績評価の保留）について

通常、各学期の成績評価は、定期試験期間終了後すぐに教員が大学に提出することとなっています。

しかし、定期試験期間以外の授業期間に、学生が授業内で一定以上の学習成果（その時点までの出席が3分の2以上であり、かつ課題などの提出状況が良好等）を修めているにもかかわらず、次のページに掲げられた事情が履修取消期間終了後に発生し、その科目が定める単位修得条件（レポートの提出等）のいずれかの点を満たすことができない場合に、その成績評価の期限を、学期末（春学期は9月15日、秋学期は3月31日）まで延長することができる制度が「インコンプリート制度」です。

【成績評価保留（インコンプリート）の手続き方法】

次のページに掲載されている理由に該当する場合、その理由を証明できる書類を持参した上で、教務課窓口にて「インコンプリート申請書」に必要事項を記入し、確認印を受けた上で授業担当教員に提出し、各自で成績評価保留の許可を得てください。

成績評価保留を教員が認めた場合は、授業担当教員が指定する期日までに、レポート課題の提出等、成績評価に必要な学習を行います。

その後、授業担当教員が教務課に最終成績評価を提出することで、成績評価が確定します。成績公開日よ

り、成績評価が確定するまでの間、その科目の成績は「I」と表示され、GPA等の計算から除外されます。

なお、学期末までに最終の成績評価が行われなかった場合は、その科目の評価は、自動的に「N」(PF評価の場合は「F」)に変更されます。

【成績評価保留（インコンプリート）の対象となる理由】

成績評価を保留する理由	必要な証明書
本人の傷病	医師の診断書や治療等を示す書類
事故	事故証明書など、事故が発生したことを示す書類
災害・火災等に罹災	罹災証明書、又はこれに準ずる書類
留学（本学が正式に派遣を行う場合に限る）	大学が正式に派遣を行う留学であることを証明する書類
その他、上記に準じるやむを得ない事情があると教務部長が判断するもの	その事情を証明する書類

※就職活動や、個人で申し込んだ研修会や留学などは成績評価保留の理由には該当しません。

【成績評価保留の申請の際の注意事項】

- その学期で卒業を予定しており、何らかの事情で成績評価の保留を申し出る場合は、授業担当教員に今学期で卒業の旨を伝えた上で、卒業許可者発表日までに教員による成績評価が完了できるよう、授業担当教員とよく相談してください。
- 成績評価の保留は、あくまでも授業担当教員が許可した場合にのみ行われます。出席不良やレポート課題等の未提出など、授業担当教員が「授業内で一定以上の学習成果を修めていない」と判断した場合は、成績評価の保留は行われません。
- この制度は、いわゆる「救済」を目的としたものではなく、履修継続の意思が十分にあるものの、履修取消期間終了後に上記の事情で学習の継続が困難となった学生に対する措置として行われるものです。
- 学期末の定期試験を欠席した場合は成績評価保留の対象にはなりません。ただし、追試験受験の対象となる理由で試験を欠席した場合は、追試験受験の申し込みを行うことができます。詳しくは「12. 追試験について」(P.25～26)を参照してください。また、成績評価保留が認められている場合でも、定期試験を受験できる状況の場合は、定期試験を受験し、その上で教員が課す課題等を提出してください。

16. GPAについて

GPA (Grade Point Average) とは、各授業科目の成績評価から GP (Grade Point = 成績評点) を換算し、これに各科目の単位数を掛け、その合計を総履修単位数で割った数値のことで、小数点第3位以下は切り捨てられます。最高は4、最低は0で、数式にすると以下のように表されます。

$$GPA = \frac{(GP \times \text{単位数}) \text{の合計}}{GPA \text{計算対象となる科目の総履修単位数}}$$

- ※ GPA の計算には E +、E、N 評価の科目も含まれます。
- ※ PF 評価、R 評価及び I 評価の科目は GPA 計算に算入されません
- ※ 通算 GPA 2 以上が卒業の条件です。

(1) セメスター GPA と通算 GPA

本学で使用する GPA には、「セメスター GPA」と「通算 GPA」の2種類があります。

セメスター GPA	当該セメスターの成績評価のみを使用して算出した GPA
通算 GPA	入学時からのすべての成績評価を使用して算出した GPA ※セメスター GPA の平均値ではありません

セメスター GPA は、学業指導や退学勧告、成績優秀者制度などの基準として使用されています。また、通算 GPA は、卒業要件となっているほか、教職課程の実習参加の基準、交換留学出願基準などにも使用さ

れています。したがって、修得単位数とともに、この GPA も意識して学修に取り組む必要があります。

(2) GPA 算出に関する注意事項

GPA の算出方法は前のページの計算式のとおりですが、再履修により修得した成績（評価と単位）がある場合は、再履修前の成績は通算 GPA の算出から除外され、再履修後の成績が計算に用いられます（再履修前の成績が付けられている学期のセメスター GPA はそのままです）。したがって、再履修をした科目の評価が下がった場合は、通算 GPA の数値が下がることになります。また、合格していた科目を再履修し、再履修後不合格（E+、E 又は N 評価）となった場合は、通算 GPA の数値が下がるとともに、修得単位数も減ることとなります。なお、再履修制度に関する詳細は、「第IV章 7. 再履修制度」(P.45) を参照してください。

また、留学や放送大学などの他大学との単位互換などは、履修登録は行いませんが、所定の手続きにより単位の認定と成績評価が行われます。このような成績評価が「ABC 評価」によって行われた場合は GPA の算出対象となります。反対に「PF 評価」及び「R 評価」で評価された場合は GPA の算出対象とはなりません。

(3) GPA の計算例

単位修得状況と評価が以下のような場合、GPA は次の通り計算されます。

科目名	単位数	評価	GP × 単位数
English I	2	A	4.0×2 = 8
政治学	2	A+	4.0×2 = 8
ミクロ経済学	4	C+	2.3×4 = 9.2
会計学	4	B	3.0×4 = 12
ドイツ語 I	2	E	0×2 = 0
経営管理論	4	D+	1.7×4 = 6.8
初年次セミナー	2	P	計算対象外
合計	20		44

左記の事例の場合、
 ・分子となる GP×単位数の合計は 44
 ・分母となる GPA 計算対象となる科目は「初年次セミナー」を除く 18 単位
 したがって、

$$GPA = \frac{44}{18} = 2.44444 \rightarrow 2.44$$

 ※小数点第 3 位以下は切り捨て

もし「経営管理論」を再履修し、再履修後の評価が「A」となった場合、GP × 単位数が 6.8 から 16 となり、GPA は以下の通りになります。

科目名	単位数	評価	GP × 単位数
English I	2	A	4.0×2 = 8
政治学	2	A+	4.0×2 = 8
ミクロ経済学	4	C+	2.3×4 = 9.2
会計学	4	B	3.0×4 = 12
ドイツ語 I	2	E	0×2 = 0
経営管理論	4	A	4.0×4 = 16
初年次セミナー	2	P	計算対象外
合計	20		53.2

左記の事例の場合、
 ・分子となる GP×単位数の合計は経営管理論の評価が変わったことにより 53.2
 ・分母となる GPA 計算対象となる科目は「初年次セミナー」を除く 18 単位
 したがって、

$$GPA = \frac{53.2}{18} = 2.955555 \rightarrow 2.95$$

 ※小数点第 3 位以下は切り捨て

(4) GPA による学業指導と退学勧告

本学では、卒業要件の一つとして「通算 GPA が 2 以上であること」と定めています。そのため、各セメスターにおいてしっかりと学業に励み、実力をつけて卒業できるよう、以下の基準で学業指導を実施しています。また、セメスター GPA 2 未満の状態が長期にわたっている場合は、退学勧告が行われることがあります。したがって、卒業に向けては修得単位数とともに、GPA についても十分に注意して学修に取り組んでください。

- ① 成績評価が決定した時点で、当該セメスターのセメスター GPA が 2 未満の場合は、学生本人に通知し、担当教員が面談（学業指導）を行います。
- ② セメスター GPA が 2 期連続で 2 未満の場合は、学生本人と保護者に通知し、学生本人と面談（希望する場合は保護者も同席可）を行います。

- ③ セメスター GPA が3期連続、又は累計で4期以上2未満の場合は、学生本人と保護者に通知し、学部長が学生本人と面談（希望する場合は保護者も同席可）の上、退学勧告が行われます（連絡が取れない場合や面談に応じない場合も含む）。ただし、学業継続の可能性があると認められる場合は、退学勧告が保留されることもあります。

17. 成績発表と成績に関する質問票について

(1) 成績発表について

成績発表は学期ごとにポータルサイト上で行います。成績の発表時期は以下の通りですので、必ず自分で確認してください。なお、成績発表の具体的な日時はポータルサイトの学事日程表で確認してください。

	春学期	秋学期
成績発表時期	8月中旬	2月中旬

発表された成績は、ポータルサイトの「履修・成績システム」内の「成績状況照会」画面で確認することができます。成績状況照会画面では、以下の項目が掲載されています。

- ① 学内で実施した各種試験の結果：
「TOEIC-IP」「TOEFL-ITP」「プレイスメントテスト」のスコアが掲載されます。ここに掲載されるスコアは在籍期間中のみ参照でき、退学又は卒業後は参照することはできません。なお、外部にこのTOEIC-IPやTOEFL-ITPのスコアを提出する際は、このページに掲載されているスコア表は正式な証憑としては使用できませんので、テスト主催団体が発行する正式なスコア表を使用してください。
- ② 単位集計一覧表・分野別単位集計一覧・単位修得状況：
卒業基準単位数に対してどれだけの単位を修得できているか、各学期の修得単位数やGPAの推移などが表形式で掲載されています。
- ③ 修得科目一覧：
これまでに履修した科目の成績や単位認定された科目の詳細などが一覧で表示されています。

(2) 成績に関する質問票について

成績発表後、発表された成績に不明な点がある場合は、一定の期間内に以下の手順で「成績に関する質問票」を提出することができます。成績に関する質問票の提出可能期間は、ポータルサイトの学事日程表で確認してください。なお、質問票を提出できる授業科目は、発表となったセメスターの成績のみです。

提出可能期間を過ぎた場合は一切受付できませんので注意してください。また、質問票では「救済を目的とした質問」を行うことはできません。

- ① ポータルサイトにログインし、「履修・成績システム」にアクセスします。
- ② Campus Square ロゴが表示されたページが開きますので、「成績」タブをクリックし「成績評価に関する質問」をクリックします。
- ③ そのセメスターの成績一覧が表示されますので、質問を行う科目を選択してください。
- ④ 質問記入欄に、質問事項（試験の状況、レポート提出の有無、評価基準など、質問の意図が担当教員に伝わるよう十分に注意してください）を入力してください。
- ⑤ 質問票の入力確認を行った後、質問を送信してください。
- ⑥ 正常に質問票が送信されると「受付番号」が表示されますので、その番号を控えてください。
- ⑦ 教員から回答が来たら、大学のメールアドレス宛にお知らせが届きます。「成績に関する質問票」画面にアクセスし、受付番号を選択することで回答内容を確認することができます。
- ⑧ 質問票の提出は、各科目1回に限ります。また、個人的に電子メールなどで教員に質問を行うことはできません。

18. 単位認定制度について

通常は、各セメスターで履修登録した授業に出席し、定期試験などの成績によって合格した場合に単位を修得することができます。それ以外に、所定の要件を満たした場合に、履修以外の方法で単位修得ができる

制度があります。これが単位認定制度です。

なお、単位認定は、申請後に所定の会議で審査が行われ、その会議で承認された後に成績として反映されるため、申請を行ってもすぐには成績には反映されません。申請時期によっては翌semesterの成績に反映される場合もありますので、単位認定によって卒業基準を満たすような履修の仕方は避けてください。単位認定に関するスケジュールはポータルサイトを通じてお知らせします。

(1) 各種検定試験による単位認定

本学の指定する各種検定試験等に合格した場合、その資格を本学の科目の単位として認定することができます。共通科目として認定対象となる検定試験は次のページの通りです。このほか、経済学部、法学部、経営学部、国際教養学部（日本語プログラムの学生のみ）の専門科目として認定対象となる検定試験があります。専門科目については各学部のページを参照してください。

申請を行う際は、ポータルサイトの「履修・成績」ページにある「単位認定申請」にアクセスし、必要事項を入力の上、登録完了画面を印刷し、合格証又はスコア表の原本とともに教務課窓口にて提出してください（合格証又はスコア表は、窓口で確認した後返却します）。

合格証またはスコア表がPDF等のデータ発行のみの場合は、教務課窓口にてその内容を確認します。

また、申請を行う際は以下の点に注意してください。

- ① 単位認定により修得した科目は、その後履修登録（再履修を含む）することはできません。
- ② 既に修得した科目で単位認定を行うことはできません。
- ③ ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ロシア語、ハンガルの単位認定では、同一言語で認定される単位数は最大で4単位です。2単位の認定を受けた後に4単位認定の資格に合格した場合、認定される単位数は2単位のみです。
例) ドイツ語検定3級に合格して2単位の認定を受け、その後ドイツ語検定2級に合格した場合、2級合格により認定される単位数は2単位のみです。
- ④ 同一区分で単位認定の対象となる検定試験が複数ある場合、同一の認定単位数基準で単位認定を申請できるのは1つだけです。例えば、英検準1級とTOEIC 730点を取得した場合、双方で合計4単位の単位認定申請をすることはできず、いずれかの資格で2単位分のみ申請をすることができます。
- ⑤ 入学前に取得した資格による単位認定は、入学後の最初のsemester末までに申請されたもののみ受け付けます。最初のsemesterを休学した場合は、休学期間分、申請期間を延長します。

(2) 他大学との単位互換制度による単位認定

本学に在学しながら本学以外の大学（単位互換協定締結校に限る）の授業科目を受講し、修得した単位を本学の単位として認定する制度があります。現在、本学と単位互換協定を結んでいる大学は以下の通りです。

- 放送大学
- 大学コンソーシアム八王子加盟大学（八王子市を中心とした25大学）
- 東京外国語大学
- ネットワーク多摩加盟大学（多摩地域にキャンパスがある21大学）

この制度の詳細や履修手続き方法、受講できる科目などの詳細は、教務課窓口にて配布する募集要項で確認してください。なお、この要項の配布時期や手続き期間はポータルサイトで発表します。

(3) 既修得単位による単位認定

本学に入学する前に、他の大学や短期大学で既に修得した単位（既修得単位）がある場合、本学の科目の単位として認定することができます。ただし、これにより認定する科目は、既修得単位が本学で開講する科目に相当すると判断された場合に限りです。

既修得単位による単位認定を希望する場合は、教務課窓口で配布する「既修得単位認定願」に必要事項を記入の上、「成績証明書（原本）」と「シラバス」を添付して教務課へ提出してください。

また、本学に入学後、単位互換協定校以外の日本国内の大学や短期大学で単位を修得した場合についても、同様に既修得単位による単位認定を申請することができます。その場合は、他大学等での授業の受講を開始する前に、その学修計画を本学に届けを行い、許可を受けてください。その上で、受講後に「既修得単位認定願」に必要事項を記入の上、「成績証明書（原本）」「シラバス」及び前述の許可を受けた書類を添付して教務課に提出してください。

■単位認定の対象となる検定試験（共通科目）

区分	主催団体	試験名	取得資格	最大認定 単位数	備考
英語	日本英語検定協会	実用英語技能検定	準1級以上	2単位	English Iを優先してEnglish I～IVの中から申請者の単位修得状況により認定 ※国際教養学部生は申請不可
	日本国際連合協会	国際連合公用語英語検定	B級以上		
	ブリティッシュ・カウンシル	IELTS	5.5点以上		
	ケンブリッジ大学英語検定機構	ケンブリッジ英検	FCE以上		
	教育試験サービス(ETS)	TOEIC L&R、TOEIC-IP L&R	TOEIC L&R、TOEIC-IP L&R		
TOEFL(PBT)、TOEFL-ITP			550点以上		
TOEFL(CBT)			213点以上		
TOEFL-iBT			80点以上		
ドイツ語	ドイツ語文学振興会	ドイツ語技能検定	3級	2単位	各言語 I を優先して、I～VIの中から申請者の単位修得状況により認定
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ言語共通参照基準(CEFR)により判定される検定試験		A2	2単位	
フランス語	フランス語教育振興会	実用フランス語技能検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験		A2	2単位	
中国語	日本中国語検定協会	中国語検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	中華人民共和国政府教育部	漢語水平考試(HSK) ※2010年度以降の新方式	5級 (180-199点)	2単位	
ロシア語	ロシア語能力検定委員会	ロシア語能力検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ロシア連邦教育科学省	ロシア語検定試験(ТРКИ)	レベル1	2単位	
			レベル2以上	4単位	
スペイン語	日本スペイン協会	スペイン語技能検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験		A2	2単位	
イタリア語	国際市民交流のためのイタリア語検定協会	実用イタリア語検定	3級	2単位	
			2級以上	4単位	
	ヨーロッパ共通言語参照基準(CEFR)により判定される検定試験		A2	2単位	
ハンゲル	ハンゲル能力検定協会	「ハンゲル」能力検定	3級	2単位	
			準2級以上	4単位	
	大韓民国教育部	韓国語能力試験(TOPIK II)	3級	2単位	
			4級以上	4単位	
データサイエンス	データサイエンティスト協会	データサイエンティスト検定	リテラシーレベル	2単位	データサイエンス入門を認定
数学	日本数学検定協会	実用数学技能検定	1級	2単位	数学基礎I、IIのどちらかで認定
コンピュータ	ICTプロフィシエンシー検定協会	ICTプロフィシエンシー検定	2級以上	2単位	コンピュータ・リテラシーI、IIのどちらかで認定
	マイクロソフト	マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)	Excel一般レベル または Excel上級レベル(エキスパート)		
日本語の単位認定は、学部外国人留学生(外国人学生入学試験合格者)のみが対象					
日本語	日本学生支援機構(JASSO)	日本留学試験(日本語)	330点以上	2単位	日本語 I を優先して I～IVの中から認定
	日本国際教育支援協会 国際交流基金	日本語能力試験(N1) ※2010年度以降の新方式	140点以上		

(4) 海外留学による単位認定

本学では、海外留学先で修得した単位を、本学の科目として単位認定する制度があります。また、休学期間の海外留学についても必要な要件を満たすことで単位認定申請を行うことができます。

海外留学先で修得した単位を本学で単位認定申請するためには、以下の記載する事項を確認の上、各自で必要な手続きを行ってください。なお、専門科目は各学部教授会、共通科目は学士課程教育機構運営委員会にて単位認定の可否を審議します。申請した科目が必ず単位認定されるとは限りません。

■単位認定を行う要件

- ① 留学先が大学又は大学附置の教育施設であること（国際課で確認可能）
- ② 本学が定める授業時間数を充足していること
※本学が定めている授業時間数は共通科目表、専門科目表に記載されています。
単位認定申請には、本学が規定する授業時間数を充足している必要があります
 - ・週1回開講される（授業時間数が30時間）科目は1350分以上
 - ・週2回開講される（授業時間数が60時間）科目は2700分以上
- ③ 手続きに必要な書類がすべて提出されていること（※「■単位認定までの流れ」参照）
- ④ 出発前に教務課と国際課に単位認定を希望する旨を申し出ていること

■単位認定までの流れ

① 留学前

留学前に、以下の書類を教務課窓口まで提出してください。なお、単位認定の考え方や留学先で修得できる科目などに不明な点がある場合は、教務課又は国際課に必ず相談してください。

在籍区分	必要書類	備考
在学留学	在学留学届	教務課窓口で配布しています
休学留学	海外留学届	これらは休学手続きに必要な書類です。単位認定を希望する場合は、「海外留学届」にアドバイザー教員、及び国際課の押印が必要です。
	留学先の入学許可書（コピー）	
	休学願	

② 留学中

留学中は、私費留学の場合のみ「私費留学中間報告書」を以下の宛先に電子メールで提出してください。私費留学中間報告書はホームページからダウンロードすることができます。

- 提出先：教務課 (kyoumu_ex@soka.ac.jp) 及びアドバイザー教員
- 提出時期：留学先のセメスターの中間時点

また、帰国前に成績証明書を2通（提出用と自己保管用）発行してください。成績証明書とは、留学先大学が発行する、大学名称や印（又は署名）が記載された書面のことです。証明書の発行手続き方法は留学先大学へ各自で確認してください。帰国後に成績証明書を留学先大学へ請求した場合、発行までかなりの時間がかかる、又は発行できない場合がありますので十分注意してください。なお、交換留学の場合、留学先大学から創価大学へ直接送付されることがあります。

③ 留学後

留学後は、単位認定に必要な書類を教務課窓口で受け取り、必要事項を記入の上、他の必要書類を添えて教務課窓口へ提出してください。

なお、専門科目での単位認定を希望する場合は、教務課へ提出する前に、各学部の担当教員（副学部長、又はコーディネーター）に単位認定の相談と書類の点検を行う必要があります。教務課窓口で担当教員を確認の上、各自でアポイントメントをとった上で相談・点検を受けてください。

提出書類	入手先	備考
海外留学単位認定願	教務課 (注1)	
講義内容		
私費留学中間報告書		※私費留学の場合のみ必要 ※留学中にメールで提出したものを印刷し、アドバイザー教員の押印を受けたものを提出
成績証明書（原本）	留学先	発行大学名称の記載がある正式なもの
各科目のシラバス（注2）		
授業時間数が明示されている資料		※私費留学の場合のみ必要
成績評価基準が明示されている資料		※私費留学の場合のみ必要

- 注1 教務課で配布する書類は、窓口又はホームページで入手することができます
- 注2 交換留学の場合は、経済学部・経営学部・文学部の専門科目で申請する科目のみ提出。私費留学の場合は申請するすべての科目のシラバスを提出してください。

■留学による単位認定での注意事項

- ① 私費留学による単位認定の上限単位数は、共通・専門科目合わせて半期で20単位です
- ② 単位認定を受けた科目の成績評価はすべて「R」評価です
- ③ 既に単位を修得した科目で申請を行うことはできません。また、入学年度により単位認定できない科目があります。詳しくは教務課窓口までお問い合わせください。

19. 成績優秀者について

成績優秀者の制度は、各学部・学科で定められた GPA の基準値等を上回る成績を修めた学生を成績優秀者とし、次のセメスターの履修において、決められた履修制限（各学期で履修登録することができる上限単位数）の単位数が緩和され4単位多く履修することができます。

また、科目には履修できる年次（履修年次）が定められていますが、成績優秀者は自分の年次よりひとつ上の年次の開講している科目を履修（上級年次履修）することができます。なお、休学した場合は、休学をする直前のセメスターの成績を対象として判定します。

成績優秀者の条件は、学部・学科によって異なりますので、詳細は以下の一覧表、又は各学部・学科の説明を確認してください。

■成績優秀者となる基準

学部	学科	履修上限 単位数	成績優秀者になるための基準		履修制限緩和の内容	
			修得単位数	セメスター GPA	追加単位数	上級年次履修
経済	経済	20 単位	16 単位以上	3.50 以上	4 単位	可
法	法律	20 単位	16 単位以上	3.50 以上	4 単位	可
文	人間	24 単位	16 単位以上	3.50 以上	4 単位	可
経営	経営	20 単位	16 単位以上	3.50 以上	4 単位	可
教育	教育	20 単位	※教育学部には成績優秀者制度はありません			
	児童教育	20 単位				
理工	情報システム工	24 単位	16 単位以上	3.30 以上	4 単位	可
	共生創造理工	24 単位	16 単位以上	3.30 以上	4 単位	可
看護	看護	25 単位	※看護学部には成績優秀者制度はありません			
国際教養	国際教養	20 単位	16 単位以上	3.50 以上	4 単位	可

※成績優秀者になるための修得単位数には単位認定制度で修得した単位を含みます

20. 早期卒業制度について

早期卒業とは、在学3年間（第6 Semester 終了時）又は3年半（第7 Semester 終了時）で卒業が可能となる制度です。早期卒業制度は、経済学部・法学部・経営学部・国際教養学部でのみ導入されており、以下の2つの条件をどちらも満たした場合に限り、早期卒業することができます。

- | |
|---|
| ① 在学第4 Semester 終了時に、学部・学科が定める早期卒業対象者の基準を満たしていること |
| ② 早期卒業を希望する時点（在学第6 Semester、又は第7 Semester 終了時）で、卒業に必要な単位をすべて修得し、かつ学部・学科が定める通算 GPA を満たしていること |

在学第4 Semester 終了時点で早期卒業対象者基準を満たした場合、その次の Semester から履修登録時に卒業を希望する時期を登録する必要があります（卒業時期の登録を行わなかった場合は、通常の修業年限4年間での卒業を希望しているものとみなします）。

なお、早期卒業をするための具体的な基準は以下の通りです。

学部	学科	在学第4 Semester 終了時点		卒業希望時点の 通算 GPA
		修得単位数	通算 GPA	
経済	経済	84 単位以上	3.70 以上	3.70 以上
法	法律	86 単位以上	3.90 以上	3.90 以上
経営	経営	84 単位以上	3.70 以上	3.70 以上
国際教養	国際教養	80 単位以上	3.70 以上	3.70 以上

- ※1 編入学生、及び転学部・転学科をした学生は早期卒業制度の対象外です
- ※2 経営学部では4年次に必修科目が配当されているため、早期卒業をするためには第4 Semester と第5 Semester で成績優秀者となり、上級年次履修をする必要があります

21. 卒業見込証明書の発行について

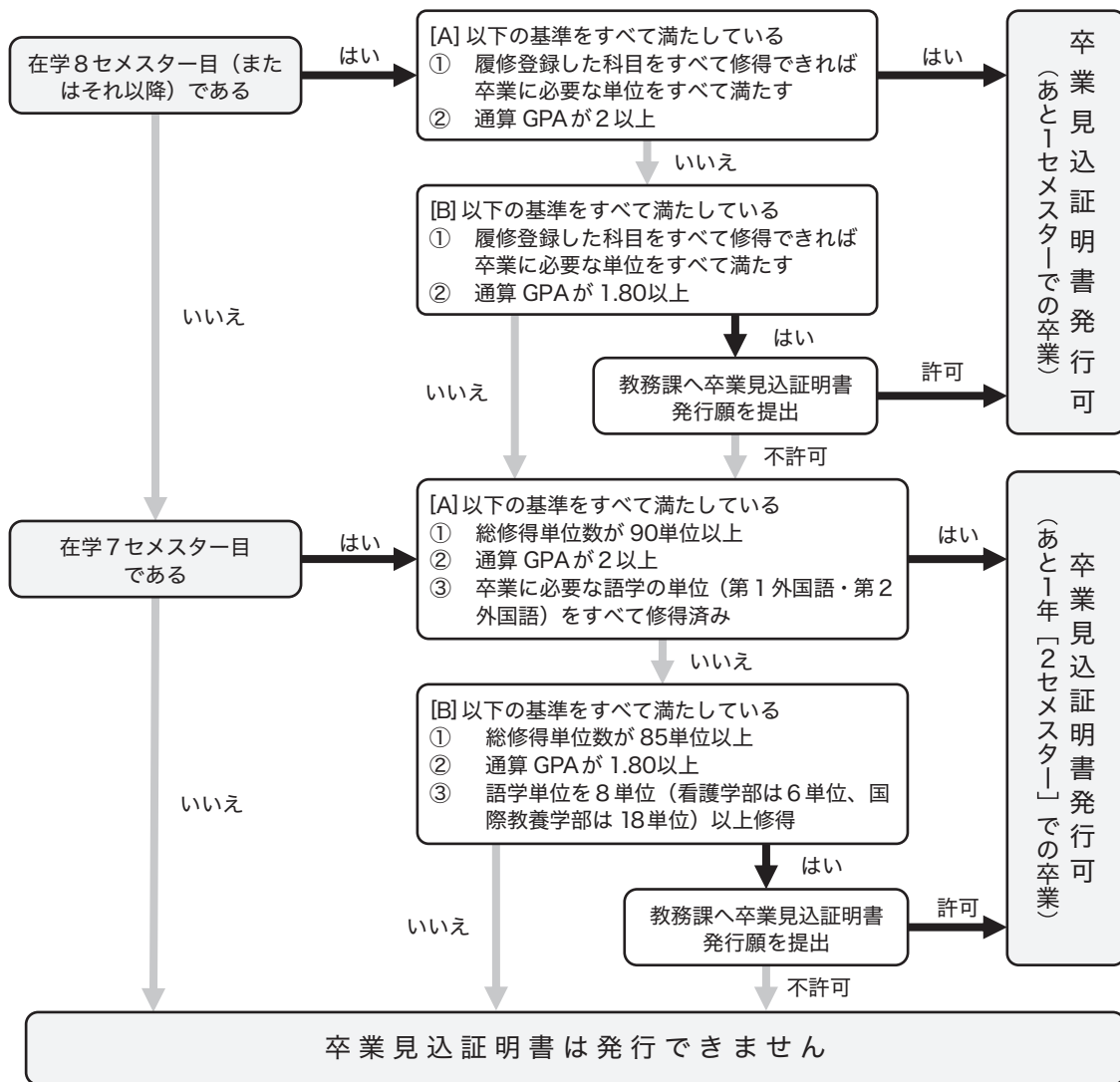
卒業見込証明書とは、大学を残り1 Semester 又は1年で卒業できる見込があることを証明するものです。卒業見込証明書は、在学第7 Semester 以降、次のページの基準を満たしている場合に限り、証明書自動発行機で発行することができます。ただし、早期卒業を希望している場合は証明書自動発行機での発行ができませんので、教務課窓口で発行の申請を行ってください。

(1) 「卒業見込証明書」発行に関する注意事項

次のページの [B] の基準に該当する場合は、教務課窓口にて「卒業見込証明書発行願」を提出し、学部長が決裁したのちに「卒業見込証明書」を発行することができます。したがって、通常より発行できるまでに時間がかかりますので、余裕を持って手続きをしてください。

また、在学第8 Semester 以降は、証明書自動発行機ではあと1 Semester で卒業する見込みがあることを証明するもののみ発行できます。留学などによりあと1年（2 Semester）で卒業する予定の場合は、在学第7 Semester の基準を満たしている場合に限り卒業見込証明書を発行しますので、教務課窓口にて申し出てください。

(2) 「卒業見込証明書」の発行基準



※早期卒業予定者は上記に関わらず、卒業希望時期及び単位修得状況に応じて教務課窓口にて卒業見込証明書発行の可否を判断します。詳しくは教務課窓口にご相談ください。

2.2. 学位について

各学部・学科の定める卒業要件を満たして卒業した者は、各学部・学科が定めるディプロマ・ポリシーを充足したとみなし、以下の学位が授与されます。なお、ディプロマ・ポリシーの詳細は各学部・学科のページを参照してください。

学部	学科	授与される学位	学部	学科	授与される学位
経済	経済	学士(経済学)	教育	児童教育	学士(教育学)
法	法律	学士(法学)	理工	情報システム工	学士(工学)
文	人間	学士(文学)		共生創造理工	学士(理工学)
経営	経営	学士(経営学)	看護	看護	学士(看護学)
教育	教育	学士(教育学)	国際教養	国際教養	学士(国際教養学)

■学位記授与保留制度について

学位記（上記の学位を取得したことを証する証書）は、卒業式の際に授与されます。しかし、卒業時に以下の事由に該当する場合は、その事由が解消するまで学位記の授与が保留されます。なお授与が保留された学位記の保管期間は5年間です。

- ① 学生寮の寮費の未納
- ② 学内貸付金の未返済
- ③ 学内図書館から借りた図書の未返却

2.3. 主専攻と副専攻について

「主専攻 (Major)」とは、大学において主として学修した学問分野のことで、その分野は所属する学部・学科によって決まります。また、文学部では、自らの興味や志向にあわせ、学修する学問領域を選択できる「メジャー制」を実施しています。文学部生は、学部の定めるメジャー修了要件を満たした場合、卒業証明書などに記載される主専攻 (Major) 欄には、自分が選択したメジャーが記載されます。

このほか、創価大学では「幅広い学び」を保証するために、自分の所属する学部の分野以外の科目を体系的に学修し、所定の要件を満たした場合に、卒業証明書、及び成績証明書にその分野を「副専攻 (Minor)」として記載することができます。なお、副専攻は学部ごと（文学部はメジャーごと）に開設されており、副専攻を申請、修了するためには所定の条件があります。詳しくは「第七章 副専攻制度について」(P.178～193) を参照してください。

■主専攻 (Major)

所属学部	主専攻
経済	経済学
法	法学
文	文学 ※メジャーを修了した場合は、修了したメジャー名が付記されます。 ○ Philosophy・Anthropology・Peace Studies:Soka AKADEMIA ○ 英語文化 ○ 国際日本学 ○ 中国・アジア文化 ○ ロシア・ヨーロッパ文化 ○ 哲学・思想文化 ○ 歴史・社会文化 ○ 言語文化 ○ 表現文化 ○ 社会学・人類学 ○ 多文化共生・平和創造
経営	経営学
教育	教育学
理工	■情報システム工学科：工学 ■共生創造理工学科：理工学
看護	看護学
国際教養	国際教養学

■副専攻 (Minor)

本学で開設されている副専攻は以下の通りです。

- ① 経済学
- ② 経営学
- ③ 法学
- ④ 教育学
- ⑤ 理工学
- ⑥ Philosophy・Anthropology・Peace Studies:Soka AKADEMIA
- ⑦ 英語文化
- ⑧ 国際日本学
- ⑨ 中国・アジア文化
- ⑩ ロシア・ヨーロッパ文化
- ⑪ 哲学・思想文化
- ⑫ 歴史・社会文化
- ⑬ 言語文化
- ⑭ 表現文化
- ⑮ 社会学・人類学
- ⑯ 多文化共生・平和創造
- ⑰ English Medium Program
- ⑱ データサイエンス
- ⑲ SDGs

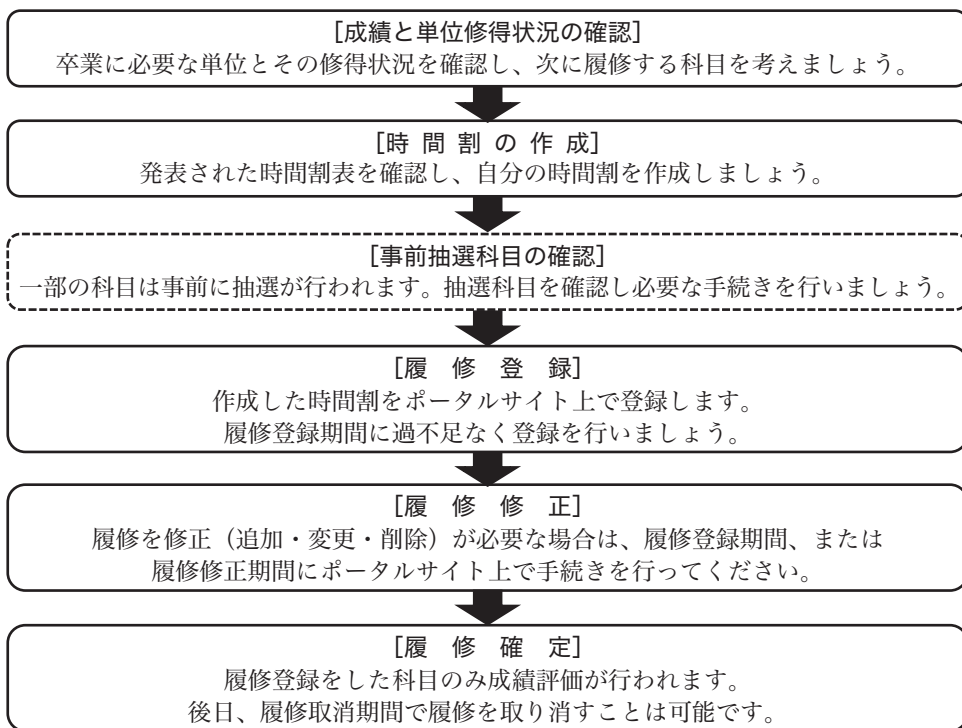
第Ⅳ章 履修について

1. 履修計画の立て方

大学では、卒業までのプロセスを自分で考え、自分が所属する学部・学科の定める卒業要件を満たせるよう、授業科目を計画的に履修することが必要です。したがって、同じ学部・学科に所属している学生でも、それぞれの興味・関心により履修する科目が異なることとなります。また、教育職員免許状などの免許や資格を取得するためには、卒業に必要な科目の履修と並行して、これらの資格取得のための科目を履修していきます。各学期の時間割を決める際は、各学部・学科の定める卒業要件を十分に確認し、それを4年間（8セメスター）で修得できるよう、履修計画を立てましょう。

(1) 履修に関する手続きの概要

「履修」とは、自らが選択した授業を所定の登録手続きを経た上で受講し、単位を修得するまでの一連の過程のことを表します。履修に際しては、毎セメスターで以下の手続きを行う必要があります。



(2) 履修計画を立てるためのポイント

- ① 必修科目は、指定されたセメスターで履修するようにしましょう。
- ② 卒業に必要な語学の単位は、卒業見込証明書発行のための条件にもなっていますので、2年次終了までに修得するようにしましょう。
- ③ 各セメスターの履修上限単位数に注意し、必修・選択必修・選択科目、又は共通科目・専門科目をバランスよく履修しましょう。
⇒所属学部・学科等の時間割表をみて、空き時間を有効活用しましょう。
⇒各科目の授業内容はシラバス（講義要項）で調べましょう。
- ④ 教員免許状などの資格取得に必要な科目は別に配布されたガイドや資料をよく確認しましょう。

2. 時間割の確認方法

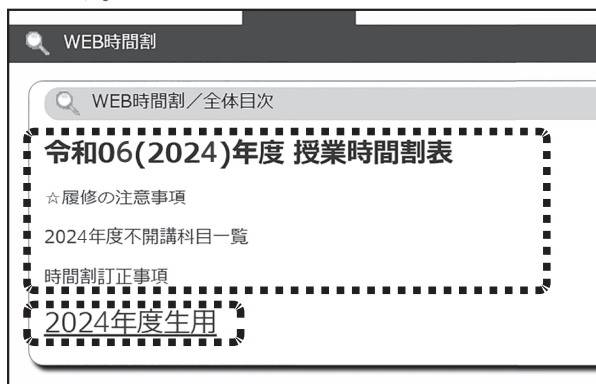
授業の時間割は、毎年3月中旬頃に翌年度（春学期・秋学期）分がポータルサイト内の「web 時間割」で発表されます。また、開講曜日・時限や教室の変更があった場合も、このweb 時間割上でお知らせします。特にweb 時間割に掲載されている「履修に関する注意事項」に、履修登録に際しての確認事項が掲載されていますので、必ず確認してください。

■ web 時間割の閲覧方法

①ポータルサイト「PLAS」にログインし、学習支援メニューの中にある「web 時間割」をクリック。



②別ウィンドウが開き、web 時間割メニューが表示されますので、閲覧したいものを選択します。
※各注意事項は履修前に必ず目を通してください。
※入学年度をクリックすると科目区分を選択する画面に移動します。



③入学年度をクリックすると科目区分を選択する画面が表示されます。科目区分を選択すると時間割表が表示されます。時間割表には「実施チーム」（セメスター科目の場合は非表示）「科目名」「科目ナンバリング」「担当教員」「教室」が掲載されています。変更がある場合は変更項目が赤字で表示されます。また、科目名をクリックするとその授業のシラバスを、教室名をクリックするとキャンパスのどこにある教室かを地図上で確認することができます。

経済学部 経済学科 / 2年次科目 (2018~2022年産学生)

春学期 秋学期

春学期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 09:00~10:30	マクロ経済学 [授業数: 全3] (両履修クラス) [ECON112] 西田 長史 AE532	ミクロ経済学中級 [授業数: 全3] [ECON311] 寺田 和之 AE452	金融論 [授業数: 月3] [ECON331] 小林 孝次 AB103	日本経済史 [授業数: 水3] [ECON351] 神立 孝一 AB102	
2 10:45~12:15	Economics English Communication III [授業数: 水1] (Elementary) [ECON281] Adam Dabrowski AE557(可助教室)	経済数学 [授業数: 木4] [ECON321] 馬場 眞久 AE555	Economics English Communication III [授業数: 月2] (Elementary) [ECON281] Adam Dabrowski AE557(可助教室)	Economics English Communication III [授業数: 月2] (Elementary) [ECON281] E. ラーストロム AE559(可助教室)	基礎統計学A [授業数: 火4] [ECON122] 横井 健策 S201<2>
3 13:05~14:35	Economics English Communication III [授業数: 水1] (Intermediate) [ECON281] M. ローズ AW506(可助教室)	ミクロ経済学中級 [授業数: 全4] [ECON311] 稲谷 秀孝 AW608	Intermediate Macroeconomics [授業数: 月3] [ECON314] 杉本 一郎 AW501	経済特論II [ECON392] 宮林 啓 AE560(可助教室)	マクロ経済学 [授業数: 月1] (両履修クラス) [ECON112] 西田 長史 AE532
4 14:50~16:20	Intermediate Macroeconomics [授業数: 水3] [ECON314] 杉本 一郎 AW901	金融論 [授業数: 水1] [ECON331] 小林 孝次 AB103	日本経済史 [授業数: 水1] [ECON351] 神立 孝一 AB102	マクロ経済学 [授業数: 月1] (両履修クラス) [ECON112] 西田 長史 AE532	ミクロ経済学中級 [授業数: 火1] [ECON311] 小橋 健朗 AE452
	クローバー/経済 I [ECON261] 高木 功 AW303	基礎統計学A [授業数: 全2] [ECON122] 横井 健策 S201<2>	オナーズ・ゼミナー III [ECON203] 高井 孝 AE259	経済数学 [授業数: 火2] [ECON321] 馬場 眞久 AE555	ミクロ経済学中級 [授業数: 火3] [ECON311] 長谷部 秀孝 AW608
					基礎統計学 I [INFO111] 山上 登士 AW302

3. シラバスについて

シラバスとは、授業で扱う内容や進め方、到達目標、成績評価の方法、使用する教科書・参考書など、授業の全体像を示すものです。シラバスは履修登録期間の前にポータルサイト上で公開されます。履修の際は、このシラバスを十分に確認し、自分の履修計画を立てましょう。

■シラバスの確認方法

シラバスの確認方法は、ポータルサイトの「シラバス検索」画面で検索することができます。また、web時間割や履修登録の科目選択画面から科目名をクリックすることで確認することも可能です。ここでは、「シラバス検索」の方法について掲載します。

- ①ポータルサイト「PLAS」にログインし、学習支援メニューの中にある「シラバス検索」をクリック。

メニュー表示履歴

個人

学習支援

シラバス検索

web時間割

授業実施計画(2023年度)

授業実施計画(2024年度)

履修要項

- ②シラバス検索画面が表示されますので、検索条件を入力して検索します。表示された科目名をクリックすることでシラバスを閲覧することができます。

シラバス検索

検索条件

年度: 2023

条件クリア

開講学部: 未選択

キーワード: 未選択

科目属性: 未選択

検索

■シラバスに掲載されている情報

シラバスには以下の内容が掲載されています。

- ・科目名、科目ナンバリング
- ・担当教員
- ・開講学期
- ・授業で使用する言語
- ・授業テーマ（設定がある場合のみ）
- ・授業概要
- ・到達目標
- ・ラーニング・アウトカムズとの関係
- ・SDGs との関連性
- ・担当教員の実務経験の有無
- ・授業計画・内容
- ・評価・試験方法
- ・評価方法（ABC 評価か PF 評価か）
- ・教科書
- ・参考書
- ・履修上のアドバイス
- ・アクティブラーニング実施の有無と内容
- ・授業や自主学習支援に ICT を活用するかどうかの有無
- ・課題（中間試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
- ・履修するために必要な語学スコア基準
- ・担当者のプロフィール
- ・定員並びに履修者選抜方法
- ・授業アンケート結果

シラバス情報

2023年度 春学期 セメスター科目 (GA0103)

Language: English

検索情報

科目名: 初年度セミナー(2単位)(GFDC101)
フレッシュマン・セミナー(2単位)(CCN101)

教員名:

科目名の後ろに水色で表示しているものは科目ナンバリングです

開講期: 春学期

授業で使用する言語: 日本語

授業概要: 大卒で学習を進めるために必要な基本的なスキルを身につけることを目標とする。そのために、①少人数(10~12名程度)、②双方向、かつ③高度の教育形態で学習を進める。そのなかで、大学生活に必要とされる基本的な生活態度も身につけていきたい。

到達目標: 1. 学習、研究や必要に応じて海外学習体験を組み入れた学習計画を立てることができる
2. 授業中の指導教員を通じて、授業と密着して学習課題に取り組みることができる
3. 自身の(学理的)興味やキャリア形成上の関心に合わせて、機動的に学習実践に関する情報・アビリティを活用できる
4. 基本的な学習スキルを身につけ、それと実践することができる
5. 教員とのコミュニケーションを円滑に図ることができる
6. 卒業後(就職活動)としてのアイデンティティの形成
7. 大学生活のサリエンテーション(内定内?)

共通科目または各学部ラーニング・アウトカムズとの関係: 世界有用として専攻・行動するための基礎知識・技能を身につける。
○ 体系的に学入、進捗が把握できること。できる。
○ 当該以外の外国語やコミュニケーションも活用できる。
○ 多様な作業し、他者と協働することができる。
○ 自身の目標を設定し、意欲的に遂行することができる。

授業計画・内容

第1回

4. 履修登録手続きの方法について

履修登録は、各学期の開始時に、ポータルサイト上から学生自身が行います。また、成績評価は履修登録を行った科目のみ行われます。履修登録手続きは、「履修登録期間」と「履修修正期間」が設けられており、これらの期間内に正しく登録を行う必要があります。セメスター科目、ターム科目（第1ターム・第2ターム）すべてを各学期の開始時に登録してください。第2ターム科目は授業9週目にも履修の修正を可能としていますが、履修上限単位数を超えると登録できませんので、ご注意ください（履修上限単位数はP 44 参照）。

これらの期間内に履修登録を行わない場合、学則第10条2に従って強制退学を命じられることとなりますので注意してください。

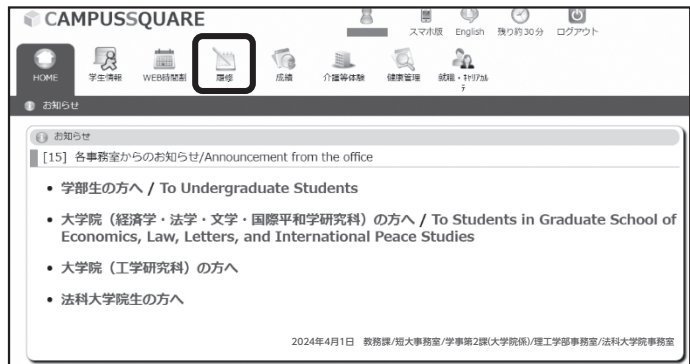
期間	手続き内容	時期
履修登録期間	履修登録を行うことができる期間です。期間内であれば、一度登録を行った後でも履修の追加・変更・削除を行うことができます。	春学期：4月上旬 秋学期：9月中旬
履修修正期間	履修の修正（追加・変更・削除）を行うことができる期間で、履修登録期間の後に1週間程度期間が設けられます。春学期第2ターム科目及び秋学期第2ターム科目は、授業9週目にも設けられています。 <u>この期間内に自分が出席している授業の科目名・教員名が正しく登録されているか必ず確認してください。</u> この期間を過ぎると、履修の追加・変更を行うことは一切できませんので、十分に注意してください（取り消しに限り、後述する履修取消期間に取り消すことができます）。	春学期：4月上～中旬 秋学期：9月中～下旬 ※春学期第2ターム科目及び秋学期第2ターム科目は授業9週目にも履修の修正が可能。

※詳しい日程はポータルサイトのメニューの学習支援の中にある「授業実施計画」、又はweb時間割に掲載されている学事日程表で確認してください。

■ポータルサイトでの履修登録の方法（概要）

履修登録は、ポータルサイトの中にある「履修・成績システム」にアクセスして行います。履修・成績システム画面では、「HOME（お知らせ）」「学生情報」「web時間割」「履修」「成績」などのメニューが設けられており、履修登録はこの中の「履修」にアクセスして登録を行います。詳しい機能や操作方法は、「第IX章 7. 履修・成績（WEB）[通称：Campus Square] について」（P.202）やポータルサイト内に掲載されているマニュアルを参照してください。

- ①ポータルサイト「PLAS」にログインし、サイドメニューの「履修・成績システム」をクリック
- ②「Campus Square」とのロゴがあるページが別ウィンドウで開きますので、この中の「履修」タブをクリックします。



※学期ではじめて「履修・成績システム」にアクセスした際は「学生住所変更」画面が表示されます。

各学期に履修登録手続きを行う際は、最初に大学に届け出ている学生・保証人の住所や連絡先に誤りが無いかを確認する必要があります。この確認が終了するまで『履修登録』のボタンは表示されませんので注意してください。

※特に「英字氏名」については、ここで登録されている内容で英文証明書などが作成されますので、スペルに誤りが無いか、十分に注意して確認してください。

- ③住所確認が完了すると、「履修登録」ボタンが表示されます。「履修登録」ボタンをクリックすると、以下のような時間割表が表示されますので、曜日時限を選択し、履修する科目を選択して登録を行います。なお、履修登録期間の最後の2～3日は、大変混み合う為、コンピュータの処理スピードが遅くなり、登録できない等の状況が生じる場合があります。最後の2～3日は若干の修正を行う程度で、履修登録期間の早い時期に登録を終了するように心がけてください。

	春期・春1	春2	夏集中	秋期・秋1	秋2	冬集中		
	月曜日		火曜日	水曜日		木曜日	金曜日	土曜日
1限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
2限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
3限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
4限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
5限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
6限	未登録		未登録	未登録		未登録	未登録	未登録
集中講義など								
曜日	時限	科目	担当教員名	科目ナンバリングコード	教室名	単位数	履修科目記号	
登録されていません								

■履修に関する注意事項

- 履修登録をしていない授業に出席しても単位は認められません。
- 春学期・秋学期ともに、セメスターの初めの決められた期間に限り登録した科目を、削除・変更・追加することができます。その際に履修制限単位数を超えたり、時間割が重複したりしないよう、十分に注意してください。
- 入学年度以降に新設され、この履修要項に記載されていない科目は、履修できません。
- 実習費の必要な科目は、所定の手続きをしなければ履修できません。

■「履修状況照会」画面について

「履修・成績システム」ページには、各学期の履修登録の状況や自分の単位修得状況が確認できるよう、「履修状況照会」画面を設けています。履修状況照会画面へは、Campus Square とのロゴが表示されたページで、「履修」タブをクリックし、その中にある「履修状況照会」ボタンをクリックしてください。

履修状況照会画面では、主に以下のような項目が表示されます。

- 年度・期の履修状況：履修した科目が時間割表になって表示されます。
- 履修登録状況表：履修制限単位数に対し、何単位履修登録しているか確認できます。
- 単位集計一覧表：卒業に必要な科目の分類ごとに、(A)履修単位数、(B)既修得単位数、(A+B)履修単位を全て修得した場合の単位数、振替後単位数、卒業基準単位数を表示しています。振替後単位数では、科目分類で卒業基準単位数を満たしているかを確認できます。
- また、一番右側の「卒業判定」欄に○・×の記号が表示されます。これは履修登録した科目をすべて修得した場合に卒業基準単位数を満たすかどうか計算し、満たす場合は“○”、不足する場合は“×”を表示します。1か所でも“×”がある場合は、卒業基準単位数を満たさないことを表しています。
- 単位修得状況：各セメスターに修得した単位数・履修制限単位数・GPA 数値などの一覧を表示します。

5. 履修取消期間について

履修取消期間とは、履修登録した科目について、授業の内容が自分の期待するものと異なっている、出席不良で単位修得の見込みがない、などの理由がある場合に、それを取り消すことができる期間です。履修取消期間は、学期の中間時期に設けられています。何らかの理由で履修を取り消す必要がある場合は、この期間内に取り消しを行ってください。履修取消期間に履修取消できる科目はセメスター科目のみです（ターム科目は、第1ターム科目は履修取消ができません。第2ターム科目については、同じ期間を履修修正期間として設けているため、履修の取消だけでなく、追加や修正が可能です）。

履修の取消を行う際は、取消理由を申告する必要があります。取消操作を行うと、直ちに履修・成績システムの履修状況照会画面に反映されますので、正しく取り消しが行われているか必ず確認を行ってください。

取消期間を過ぎると一切履修の取り消しを行うことができませんので、注意しましょう。

■履修取り消しの方法（履修取消期間）

- ① 履修登録の際と同様に「履修登録」画面へアクセスします
- ② 履修取り消しを行う授業をクリックします
- ③ 右のような画面が表示されますので、取消理由を選択し「履修取消」をクリックします
- ④ 履修登録画面に戻りますので、取り消した科目が時間割から消えていれば取り消しは完了です

6. CAP 制（履修登録単位数の上限）について

創価大学では、1科目当たりの授業外での学習時間を十分に確保し、より深い学修を促すことを目的として、各学期で履修登録を行うことができる単位数に上限を設けており、これを「CAP制」と呼んでいます。したがって、履修登録の際は、セメスター科目とターム科目の合計単位数が各学部・学科が設けている上限単位数を超えないよう行う必要があります。各学部・学科が設定する履修上限単位数は以下の通りです。

■履修上限単位数

学部	経済	法	文	経営	教育		理工		看護	国際教養
学科	経済	法律	人間	経営	教育	児童教育	情報システム工	共生創造理工	看護	国際教養
履修上限単位数	20	20	24	20	20	20	24	24	25	20

※ P.35 の「19. 成績優秀者について」に該当する場合は、履修上限単位数が4単位加算されます。

■履修制限除外科目について

履修制限除外科目とは、前述した履修上限単位数に含まれない科目のことで、共通科目や専門科目の一部科目は履修制限除外科目として設定されています。どの科目が履修制限除外科目として設定されているかは、共通科目表または専門科目表に「[制限外]」との記載がありますので確認してください。

また、単位認定により修得した単位も履修上限単位数には含まれません。

※「特設課程科目」は、文学部生及び理工学部生は履修制限除外科目として設定されています（教育学部生は履修制限除外科目ではないため、履修上限単位数に含まれます）。

7. 再履修制度について

再履修制度とは、合格・不合格に関わらず、一度成績がついた科目を、通算 GPA を上げるなどの目的で再び履修することができる制度のことです。再履修した場合は、再履修後の成績を最終評価として通算 GPA の計算に用います。したがって、単位を修得した科目を再履修し、成績が下がった、又は不合格となった場合はその評価が最終評価となるため、通算 GPA が下がったり、修得単位数が減ったりすることとなりますので、十分に注意してください。

再履修の場合であっても、履修制限除外科目以外はすべて履修制限単位数に含まれます。また、成績評価が P 又は R の科目、単位認定制度により修得した科目、及び学部・学科が再履修を認めない科目は再履修できません。

8. 履修年次について

各科目は何学年次から履修できるかが決められています。それが履修年次です。したがって、履修登録ができる科目は、自分の学年と同じ、又はそれより下位の履修年次の科目に限られています。各科目の履修年次は P.56～60 の共通科目表又は各学部・学科のページの専門科目表を確認してください。

なお、成績優秀者制度により履修制限緩和措置を受ける場合は、緩和措置を受けたセメスターに限り自分より1つ上の履修年次科目を履修することができます。成績優秀者制度の詳細は「第三章 19. 成績優秀者について」(P.35)を参照してください。

9. 他学部・他学科科目の履修について

自分の所属している学科以外の学部・学科で開講されている科目は、他学科の学生の履修を認めている科目であれば、自由選択科目として履修することができます。なお、他学科生履修の可否については、各学部・学科のページの専門科目表を確認してください。

10. 創価コアプログラム科目（基礎科目／言語科目／数理・データサイエンス・自然科目）の履修について

(1) 初年次セミナー科目の履修方法

本学では、学習習慣の確立と学習スキルの向上など、大学生としての学習や生活など様々な面で必要な力を身に付けることを目的として第1セメスターに以下の科目を必修科目として開講しています。

履修する曜日・時限と担当教員は、学籍番号によって指定されています。指定された曜日・時限及び担当教員以外の授業を履修することはできません。履修するクラスは入学時のガイダンスで発表します。

なお、1年次に単位修得ができなかった場合は、2年次以降に再度履修することとなります。その際のクラス分けについては、所属する学部の副学部長に相談してください。

科目区分		科目名	単位数	対象学部
共通科目	基礎科目	初年次セミナー	2	下記以外の文系6学部
		初年次プロジェクト	2	理工学部
看護学科専門科目		キャリアデザイン基礎	1	看護学部

(2) 学術文章作法科目（国際教養学部以外の学生）の履修方法

学術文章作法科目とは、アカデミック・ライティングの基礎を学ぶための科目で、共通科目の基礎科目群に配置されている「学術文章作法Ⅰ～Ⅱ」を指します。この学術文章作法科目は国際教養学部を除くすべての学部で必修科目として指定されており、通常は「学術文章作法Ⅰ」を履修します。「学術文章作法Ⅰ」は、入学時に実施するプレースメントテスト（国語）のスコアに基づいてクラス分けが行われますので、指定されたクラスで履修登録を行ってください。なお、この科目は学部によって履修する時期が異なります。また、所定の時期に単位修得ができなかった場合は、再履修用のクラスを春学期・秋学期それぞれに設けていますので、そちらのクラスを受講してください。ただし、再履修用として開講されるクラスは、学習内容をより丁寧に取り扱うため、成績評価の上限（最高評価をBとする）が設けられていますので注意してください。

所属学部	履修セメスター
文学部・経営学部・理工学部・看護学部	第1セメスター（1年次春学期）
経済学部・法学部・教育学部	第2セメスター（1年次秋学期）

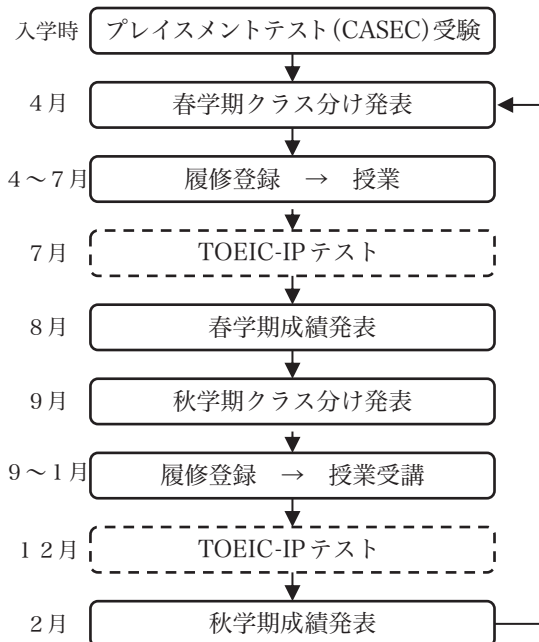
※国際教養学部生は、学術文章作法科目の代わりとして専門必修科目の「Academic Writing（4単位）」を第4セメスターに履修します

(3) 言語科目（第1外国語）の履修方法

本学では、第1外国語として「英語」を履修します。英語の授業は、より語学学習の効果を高めるため、習熟度別に授業を開講しており、プレースメントテスト（CASEC）のスコアでクラス分けを行っています。したがって、入学時に実施されるCASECを必ず受験してください。また、入学後に学内で実施しているTOEIC-IPテストは、その最高点を2年次以降のクラス分けに使用します。

※外国人留学生は申請により日本語を第1外国語とし、日本語以外の言語（英語を含む）を第2外国語とすることができます。詳しくは教務課までお問い合わせください。

■英語科目の履修の流れ



- ※ 秋学期は原則として春学期と同じクラスで授業を受講します。
- ※ スコアによるクラス分けについて、学部学科英語科目の一部では別の実施されるTOEFL ITP テスト、またはTOEFL iBTテストが用いられる場合があります。
- ※ 入学後、学内で実施するTOEIC-IPテストのスケジュールや受験申し込み方法などはポータルサイトを通じてお知らせします。

履修ガイド

■英語科目の種類と履修モデル

英語科目には、大きく分けて、共通科目の「言語科目（英語）」と各学部・学科が設置している「学部・学科英語科目」の2種類があります。

学部ごとに英語科目の履修モデルが示されており、このモデルに沿って2年次終了時までには卒業に必要な第1外国語の単位数を修得することが強く望まれます（注）。なお、各種テストなどによるクラス分けは、この履修モデルに示された科目を履修することを前提に行われます。クラス分けの具体的なスケジュールや方法などは、セメスター開始時のガイダンス、又はポータルサイトを通じてお知らせします。

注：共通科目の「言語科目（英語）」や「学部学科英語科目」のうち、履修モデルに示されていない科目を修得した場合も卒業に必要な第1外国語科目の単位として算入されますが、2年次終了時までには卒業に必要な単位を修得できない可能性があります。

《1年次》

学部		春学期（第1セメスター）	秋学期（第2セメスター）	合計
法・文・教育・看護		English I [GENG101]	English II [GENG102]	4単位
経済	IP生	Academic Foundations for Economic Majors I [ECON183]	Academic Foundations for Economic Majors II [ECON184] ※	4～6単位
	Non-IP生	Economics English Communication I [ECON181]	Economics English Communication II [ECON182]	4単位
経営		・ Study Skills for Business I [BUSI173] ・ Business English I [BUSI175]	・ Study Skills for Business II [BUSI174] ・ Business English II [BUSI176]	8単位
理工		English communication for science I [SCEN101]	English communication for science II [SCEN102]	4単位
国際教養		English for Academic Purpose I [INLA110]	English for Academic Purpose II [INLA111]	4単位

※ 経済学部でIPを履修する学生のうち、Advancedレベルの学生は1年次秋学期に「Global Economy Laboratory [ECON185]」を合わせて履修します

《2年次》

学部		春学期（第3セメスター）	秋学期（第4セメスター）	合計
法・文・教育		English III [GENG103]	English IV [GENG104]	2単位
経済	IP生	Economic Laboratory B [ECON283]	—	2単位
	Non-IP生	Economics English Communication III [ECON281]	—	2単位
経営		Business English III [BUSI177]	—	2単位
理工	情報システム工	English for Information Technologies I [INFO103]	English for Information Technologies II [INFO104]	2単位
	共生創造理工	English for Science and Engineering I [SESI202]	English for Science and Engineering II [SESI203]	2単位
	国際技術協力EP生	English for International Technical Cooperation I [SCEN201]	English for International Technical Cooperation II [SCEN202]	4単位
看護		・ English III [GENG103] ・ Test Preparation TOEIC I [GENG201]	—	2単位
国際教養		・ English for Academic Purpose: Study Abroad I [INLA112] ・ English for Academic Purpose: Study Abroad II [INLA113] ・ English for Academic Purpose: Study Abroad III [INLA114]	—	12単位

■さらに英語を学びたい学生向けの英語科目について

上記の履修モデルに示された英語科目のほか、さらに英語を学びたい学生向けに以下の科目を開設しています。これらの科目は、受講希望者数が多い場合は初回授業時に抽選を実施します。履修を希望する場合は必ず初回の授業に出席してください。

目安 TOEIC スコア	科目名	単位数
400～620	Test Preparation TOEIC I・II [GENG201・202]	各1
	Test Preparation TOEFL I・II [GENG211・212]	各1
450～	English for Study Abroad I・II [GENG171・172] (各2単位)	各2
	TOEFL Preparation for Study Abroad I・II [GENG173・174] (各2単位)	

(4) 言語科目 (第2外国語) の履修方法

経営学部、看護学部以外の学部では、卒業するために英語のほか、第2外国語を1つの言語で4単位の修得が必要であり、1年次(国際教養学部は3年次)に4単位を修得することを前提に時間割が組まれています。

第2外国語として選択できる言語は、

- ドイツ語 ○フランス語 ○中国語 ○スペイン語 ○イタリア語 ○韓国語
○ロシア語 ○日本語(外国人留学生のみ履修可)

- ・ポルトガル語 ・アラビア語 ・スワヒリ語 ・タイ語 ・トルコ語 ・ブルガリア語
・インドネシア語 ・ベトナム語

の16言語です。なお、○が付された8言語については入学時(国際教養学部生は2年次秋学期)に実施される履修希望アンケートに基づきクラスの振り分けを行いますので、○が付された言語を選択した場合は指定されたクラスで履修登録を行ってください。

なお、2年次以降(国際教養学部は4年次)に第2外国語を履修する際は、上記のようなクラス分けを行いませんので、web時間割の言語科目(英語以外)のページに掲載されている科目から希望するクラスを選び履修してください。ただし、履修に際しては授業担当教員の許可が必要ですので、第1回目の授業に必ず出席してください。

※外国人留学生で日本留学生試験(日本語)330点未満、又は日本語能力試験(N1)140点未満の方は日本語を第2外国語として履修してください。

(5) 数理・データサイエンス・自然科学目の「データサイエンス入門」についての履修方法

「データサイエンス入門」では、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事などの場で使いこなすことができるよう、その基礎となる知識・技能を学びます。「データサイエンス入門」はすべての学部で必修科目となっています。「データサイエンス入門」は、学部ごとにクラス分けが行われますので、指定されたクラスで履修登録を行ってください。

所属学部	履修セメスター
法学部・経営学部・教育学部・看護学部・国際教養学部	第1セメスター(1年次春学期)
経済学部・文学部・理工学部	第2セメスター(1年次秋学期)

1.1. 履修人数制限科目について

履修人数制限科目とは、設備や機器などの都合により履修者数に定員を設けられており、履修希望者が定員を超えた場合、選考などにより履修の許可を得なければならない科目をいいます。主な履修人数制限科目は以下の通りです。これらの科目を履修する際は、事前又は1回目の授業に選考が行われます。選考方法はシラバスに記載されていますので、よく確認してください。特に1回目の授業で選考を行う科目は必ず1回目の授業に出席してください（欠席した場合は原則として履修することができません）。

- ① 言語科目
 - ② 体育、音楽、コンピュータ系の実技・実習科目：
「体育実技A～D」「音楽」「美術」「コンピュータ・リテラシーI」など
 - ③ 演習形式の科目：「共通基礎演習」「共通総合演習A・B」「世界市民教育演習A・B」など
 - ④ キャリア教育系科目：「キャリアデザイン基礎」「ワールドビジネスフォーラム」など
- ※ここに掲載した科目はあくまでも一例です。人数制限や選考の有無は必ずシラバスで確認してください

■履修者の選考（抽選）結果の確認方法

授業で履修者の選考（抽選）が行われた場合、その選考（抽選）結果は授業担当教員から報告があったものについて大学のホームページに掲載します。選考結果が掲載されるWEBページは以下の手順でアクセスすることができます。

- 創価大学ホームページ⇒「学生生活」⇒「授業・成績・履修など」
⇒「授業・試験など」⇒「抽選結果（履修許可者）一覧」
<https://www.soka.ac.jp/campuslife/learning/lesson/chusen/>

1.2. 専門科目ゼミの登録について

専門科目ゼミとは、各学部・学科が開講するゼミ形式の授業のことです。ゼミには定員があり、どのゼミに所属するか事前に選考を行います。選考方法や申込期間などは、ポータルサイトとホームページでお知らせします。学部・学科により手続き方法が異なりますので、注意してください。また、留学や休学などにより下記の時期に事前選考や授業を受けられない場合は、所属するゼミの教員、又は所属する学部の副学部長に履修の仕方をよく相談してください。

■事前の選考とゼミ科目の履修時期

学部・学科	2年次		3年次		4年次		
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
経済	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	—	演習Ⅳ	
法	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	—	演習Ⅳ	
文	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	
経営	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	
教育	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ	演習Ⅳ	
理工	情報	—	事前選考	ケーススタディⅠ	ケーススタディⅡ	演習Ⅰ	演習Ⅱ
	共生	—	事前選考	演習Ⅰ	演習Ⅱ	卒業演習Ⅰ	卒業演習Ⅱ
看護	—	—	—	事前選考	卒業研究	—	
国際教養	—	事前選考	SeminarⅠ	SeminarⅡ	SeminarⅢ	—	

13. 卒業論文科目の履修について

卒業論文科目とは、通常の授業とは別に、所属するゼミ教員の指導の下、論文作成を行う科目のことです。論文作成を行う際は、履修登録が必要です。

また、卒業論文の提出方法や期限は学部・学科ごとに異なります。詳しくはポータルサイト、又はホームページでお知らせしますので、よく確認してください。

■卒業論文科目と履修時期

学部	3年次	4年次	
	秋学期	春学期	秋学期
経済	—	—	卒業論文研究
法	—	—	卒業研究
文	—	卒業研究 I	卒業研究 II
教育	卒業研究 I	—	卒業研究 II
理工	—	卒業研究 I	卒業研究 II
看護	—	—	卒業論文
国際教養	—	Junior Paper	—

※経営学部には卒業論文科目はありませんが、ゼミの課題として論文作成が課される場合があります。

※法学部、教育学部、理工学部、看護学部の卒業論文科目には履修条件があります。また、国際教養学部の「Junior Paper」は、単位習得のための英語スコア基準があります。詳細は学部のページを参照してください。

1.4. 通常の授業時間帯以外で開講する科目の履修について

通常の授業とは異なり長期休業期間などに開講する科目や、インターンシップ科目や一部の実習科目などは、授業の曜日・時限とは異なる時間帯で履修登録を行います。毎年度、web 時間割に対象科目や履修登録方法が掲載されますので、履修登録期間内に忘れずに登録を行ってください。

■通常の授業時間以外で開講される科目例

科目区分	科目名	
共通科目	キャリア教育系科目	インターンシップ I～IV
	世界市民教育科目	ボランティア実習 I・II、国際ボランティア実習、海外インターンシップ I～IV
	海外研修・実習科目	海外短期研修 I～VI、海外インターンシップ I～VI
経済学部	経済学科	International Internship A・B、オナーズ・セミナー I～III、卒業論文研究
法学部	法律学科	AF Tutorial I・II、GLP Tutorial I～VIII、まちづくり八王子フィールドワーク、人間の安全保障フィールドワーク、卒業研究、インターンシップ科目
文学部	人間学科	学部インターンシップ A・B、卒業研究 I・II
経営学部	経営学科	Global Business Internship A・B、サービス・ラーニング A・B・C・D
教育学部	教育学科	卒業研究 I・II、教育実習 I (中・高)、教育実習 II (中)、学校体験活動 I～IV (中)
	児童教育学科	卒業研究 I・II、教育実習 I (幼・小)、教育実習 II (幼・小)、教育実習 (特別支援)、学校体験活動 I～IV (幼・小)
理工学部	情報システム工学科	卒業研究 I・II
	共生創造理工学科	卒業研究 I・II、国際技術協力論、海洋学実習
看護学部	看護学科	基盤看護学実習 I (対象理解)、人間発達看護学実習、基盤看護学実習 II (看護過程の展開)、療養生活看護学実習 I (急性)、療養生活看護学実習 II (慢性)、生涯発達看護学実習 I (子どもと家族の看護)、健康生活看護学実習 I (高齢者の健康)、健康生活看護学実習 II (心の健康)、健康生活看護学実習 III (地域在宅生活の健康)、生涯発達看護学実習 II (周産期の看護)、看護実践統合実習、卒業研究、卒業論文
国際教養学部	国際教養学科	English for Academic Purpose: Study Abroad I～III、Academic Foundations: Study Abroad
特設課程	教職に関する科目	教育実習 I (中・高)、教育実習 II (中)、学校体験活動 I～IV (中)

※上記の表はこれまでの実績例です。毎年度情報が更新されますので、必ず web 時間割を確認してください。

■開講される曜日・時限が「集中講義」となっている科目の履修登録方法

上記のような通常の授業時間以外で開講される科目の中には、時間割上、曜日・時限が「集中講義」となっているものがあります。このような科目を履修登録する際は、履修登録画面の時間割表の上、又は下にある「集中講義を登録」ボタンから登録を行います。特に4年次に履修する卒業論文科目などは、主に「集中講義」として開講されますので、履修登録期間内に忘れずに履修登録を行ってください。

なお、曜日・時限が「集中講義」となっている授業を複数登録することも可能です。

春学期		秋学期				
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
2限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
5限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録
6限	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録	未登録

集中講義を登録

集中講義など

曜日	時限	時間割コード	科目	担当教員名	科目ナンバリングコード	教室名	単位数	科目コード	履修科目記号
									集中講義を登録

第V章 共通科目

1. 教育理念・目標

創価大学では建学の理念にもとづく教育目標の達成に向け、学部並びに全学的な教育研究組織において、

- 各学部等が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができる。
- 論理的に考え、適切な表現で伝えることができる。
- 多様性を尊重し、他者と協働することができる。
- 課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができる。

を身につけた世界市民となるべき人材の育成に取り組んでいます。学士課程教育機構が学部を超えて全学の学生に提供する共通科目（これを共通教育と称します）では5項目のラーニング・アウトカムズ（学習成果）を掲げています。

2. 共通教育のラーニング・アウトカムズ（学習成果）

創価大学の学士課程教育機構では、学部を超えて全学の学生に提供する共通科目（これを共通教育と称します）におけるラーニング・アウトカムズを策定しています。

■共通教育のラーニング・アウトカムズ（学習成果）

価値創造を实践する「世界市民」の育成を教育目標に掲げる本学の共通教育では、自立的な学習者としての学習態度を涵養し、他者と協働して学習課題に取り組み、その成果を適切に表現・発信する能力を育成します。具体的には以下の5つのラーニング・アウトカムズ（学習成果）の達成を目指しています。

1. 世界市民として思考・行動するための基礎知識・技能を身につける。
2. 論理的に考え、適切な表現で伝えることができる。
3. 母語以外の外国語でコミュニケーションを図ることができる。
4. 多様性を尊重し、他者と協働することができる。
5. 自らの目標を設定し、自立的に学ぶことができる。

3. 共通科目の構成

共通科目は次のページに掲載されているように10の科目群からなっており、多様な学術内容のバランスの良い修得を促します。

特に基礎科目群・大学科目群・言語科目群・世界市民教育科目群は、「創価コアプログラム」として創価大学生が必ず履修すべき科目を設定しています。なお、創価コアプログラムの詳細については、「第Ⅲ章 9. 創価コアプログラムについて」(P.20～21)や、「第Ⅳ章 10. 創価コアプログラム科目(基礎科目/言語科目/数理・データサイエンス・自然科学)の履修について」(P.45～49)を参照してください。

科目群	説明
基礎科目	初年次セミナーや学術文章作法など、大学での学修を進める上での基礎を学ぶ
大学科目	創価大学の歴史や創立の精神を学ぶ
言語科目(英語)	英語に関する4つの力や留学、就職に向けての英語力を身につける
言語科目(他言語)	英語以外の言語を初修レベルから応用レベルまで学ぶ
世界市民教育科目	グローバル社会における諸課題について幅広く学ぶ
数理・データサイエンス・自然科学	数理・データサイエンス・AIの基礎や自然科学に関する基礎を学ぶ
人文・社会・健康科目	社会科学系科目、人文科学系科目、健康科学科目、学際系科目の4分野を学ぶ
キャリア教育系科目	進路選択や就職に関する力を身につける
海外研修・実習科目	海外研修や海外実習に関する科目
日本語・日本文化科目	日本語の基礎から応用までや日本文化を学ぶ

※日本語・日本文化科目は外国人留学生のみ履修できます

4. 共通科目の履修について

(1) 共通科目の卒業要件と創価コアプログラム

創価コアプログラムとして卒業要件化されている基礎科目、大学科目、言語科目、世界市民教育科目は、原則、第4セメスター(国際教養学部生は第6セメスター)までに修了することを目指してください。

また、共通科目は、各学部・学科で卒業に必要な単位数が異なります。学部・学科ごとに選択必修科目や、全科目群から自由に選択して履修できる選択科目の単位数が指定されていますので、P.22～23の「第Ⅲ章 10. 卒業基準単位数について」や各学部・学科のページを確認してください。

(2) 授業の開講・不開講について

科目の一覧表に、授業科目名が掲載されていても、毎年更新されるweb時間割に掲載されていない科目は不開講のため、履修できません。もし学期の途中で不開講になった場合は掲示などでお知らせします。

(3) 共通基礎演習、共通総合演習について

小人数の定員制です。履修希望者が多い場合は選考となり、合格し許可されないと履修できませんので、必ず第1回目の授業に出席してください。

(4) 体育実技について

体育実技は、第1回目の授業で、希望する種目の授業に必ず出席してください。出席しないと、人数の関係で、履修できない場合があります。また、体育実技は“実際の体験”を重視しますので、授業にしっかり出席することが重要です。

(5) 「インターンシップⅠ～Ⅳ」について

日本国内で実施するインターンシップに参加する場合、所定の要件を満たすことで単位を修得することができます。インターンシップへの参加を希望する場合は、必ずキャリアセンター主催のガイダンスに出席してください。ガイダンス以外（窓口等）での説明はできません。

単位を修得するためには、実習前にキャリアセンターに手続きを行ったうえで、所定期間のインターンシップを行った後に履修登録をしてください。詳細はインターンシップのウェブサイト、及びシラバスを必ず確認してください。なお、この科目は履修制限除外科目です。

https://career.soka.ac.jp/student_internship.html

(6) 「海外インターンシップⅠ～Ⅳ」について

本学では、海外でのインターンシップ経験を通じ、海外の企業や団体での就業体験を通して、外国語能力を高めることに加え、異文化理解を深めながら、国際社会で求められている力を感じ、自らの課題を見つけ、伸ばすべき能力を明確にすることを目的として、共通科目に「海外インターンシップⅠ～Ⅳ」を開設しています。この科目は、国際課が主催する海外インターンシップ・プログラムのほか、学生が自主的に行った海外インターンシップについても、以下の手続きにより、単位を修得することができます。なお、この科目は履修制限除外科目です。

- ① 海外インターンシップ実施前に、「実習計画書」と受入先機関が発行する「実習承諾書（又はインターンシップの受入を証明できる書類）」を国際課へ提出し、承諾印をもらう
- ② インターンシップ終了直後の学期で、実習時間に応じて海外インターンシップ科目の履修登録を行い、「海外インターンシップ 実習レポート」と、受入先機関が発行する「インターンシップ修了証（実習時間数とその成果が明示されているもの）」、及び①で国際課の承諾印を受けた「実習計画書」「実習承諾書」をポータルサイト上で提出する

※履修登録については、海外でのインターンシップ終了後、最も早い学期で履修登録を行ってください。ただし、休学等で本来履修登録すべき期間に登録できない正当な理由がある場合は、帰国後、最も早い学期で履修登録を行ってください。

※実習時間 80 時間ごとに 2 単位修得することができます。

※「実習計画書」は国際課または教務課窓口で配布しています

※国内でのインターンシップについては、キャリアセンターが主催するガイダンスに出席後、事前研修、インターンシップ、レポート提出等を行うことで単位を修得することができます。詳しくはキャリアセンターに確認してください。

※「海外インターンシップ」では、国外での就業体験を通じ、外国語の運用能力や異文化理解を深めることも学修目標の 1 つとして設定していますので、外国人留学生が出身国でインターンシップを行う場合は、この科目での単位修得はできません。

(7) 「ボランティア実習Ⅰ・Ⅱ」について

この科目は、ボランティア活動に参加し、レポートの提出をもって単位認定するものです。なお、この科目を履修するためには、事前登録とボランティア講習の参加、および事前計画書の提出が必要です。事前登録の時期などは、ポータルサイトを通じてお知らせします。なお、この科目は履修制限除外科目です。

(8) 「国際ボランティア実習」について

この科目は、海外ボランティアプロジェクトに夏季・春季休暇期間中に参加し、レポートの提出をもって単位を修得することができます（レポートの提出はポータルサイトを通じて行う）。単位認定の対象となるボランティアは、シラバスを参照してください。海外ボランティアプロジェクトへの参加を希望する場合は、必ず国際課主催のガイダンスに出席してください。

また、履修登録は海外でのボランティア実習終了後、最も早い学期で履修登録を行ってください。ただし、留学等で本来履修登録すべき期間に登録できない正当な理由（休学期間）がある場合は、帰国後、最も早い Semester で履修登録を行ってください。なお、この科目は履修制限除外科目です。

5. 共通科目表の見方について

次のページから掲載されている共通科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目群	科目 ナンバリング	科目名	単位	授業 時間数	履修 年次	備考
⋮ ①	⋮ ②	⋮ ③	⋮ ④	⋮ ⑤	⋮ ⑥	⋮ ⑦

①科目群	「3. 共通科目の構成」で説明されている科目群が記載されています。
②科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
③科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。科目名の末尾にアルファベットやローマ数字が使われている場合があります。ローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、…）はレベルが異なる、又は授業内容が連続していることを表します。また、アルファベット（A、B、C、…）は、授業の内容が異なることを表しています
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤授業時間数	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
⑥履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑦備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。

■ 共通科目表一覧 (2024 年度入学生用)

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考		
①基礎科目	初年次セミナー	GFDC101	初年次セミナー	30	2	1～	注1	
		GFDC102	初年次プロジェクト(情報)	30	2	1～	注2	
		GFDC103	初年次プロジェクト(共生創造)	30	2	1～	注3	
	学術文章作法	GFDC111	学術文章作法Ⅰ	30	2	1～		
		GFDC211	学術文章作法Ⅱ	30	2	1～		
	GFDC131	思考技術基礎	30	2	1～			
②大学科目	GUNI101	人間教育論A	30	2	1～			
	GUNI102	人間教育論B	30	2	1～			
	GUNI121	創価教育論	30	2	1～			
	GUNI104	SOKA education	15	1	1～			
	GUNI131	現代文明論	30	2	1～			
	GUNI141	大学史の中の創価大学	30	2	1～			
	GUNI111	共通基礎演習	30	2	1～			
	GUNI201	人間教育論応用	30	2	1～			
	③言語科目	英語	GENG101	English I	60	2	1～	
			GENG102	English II	60	2	1～	
			GENG103	English III	30	1	1～	
GENG104			English IV	30	1	1～		
GENG251			English Communication Advanced Intensive I	60	2	1～		
GENG252			English Communication Advanced Intensive II	60	2	1～		
GENG211			Test Preparation TOEFL I	30	1	1～		
GENG212			Test Preparation TOEFL II	30	1	1～		
GENG201			Test Preparation TOEIC I	30	1	1～		
GENG202			Test Preparation TOEIC II	30	1	1～		
GENG171			English for Study Abroad I	60	2	1～		
GENG172			English for Study Abroad II	60	2	1～		
GENG173			TOEFL Preparation for Study Abroad I	60	2	1～		
GENG174			TOEFL Preparation for Study Abroad II	60	2	1～		
GENG271			Professional English for Career Development I	60	2	1～		
GENG272			Professional English for Career Development II	60	2	1～		
GENG273			TOEIC Preparation for Career Development I	60	2	1～		
GENG274			TOEIC Preparation for Career Development II	60	2	1～		
GENG181			English Summer intensive	60	2	1～	[制限外]	
GENG182			TOEFL iBT Summer intensive	30	1	1～	[制限外]	
GENG183			IELTS Summer Intensive	30	1	1～	[制限外]	
GENG184			English Winter intensive	60	2	1～	[制限外]	
GENG185			TOEFL iBT Winter intensive	30	1	1～	[制限外]	
GENG186			IELTS Winter Intensive	30	1	1～	[制限外]	
GENG131			Academic Foundations for Global Mobility I	60	2	1・2	注4	
GENG132			Academic Foundations for Global Mobility II	60	2	1・2	注4	
GENG133			English Language Skills for Global Mobility I	60	2	1・2	注4	
GENG134			English Language Skills for Global Mobility II	60	2	1・2	注4	
ドイツ語			GSFL101	ドイツ語Ⅰ	60	2	1～	
			GSFL102	ドイツ語Ⅱ	60	2	1～	
	GSFL201	ドイツ語Ⅲ	30	1	1～			
	GSFL202	ドイツ語Ⅳ	30	1	1～			
	GSFL203	ドイツ語Ⅴ	30	1	1～			
	GSFL204	ドイツ語Ⅵ	30	1	1～			
	フランス語	GSFL111	フランス語Ⅰ	60	2	1～		
GSFL112		フランス語Ⅱ	60	2	1～			
GSFL211		フランス語Ⅲ	30	1	1～			
GSFL212		フランス語Ⅳ	30	1	1～			
GSFL213		フランス語Ⅴ	30	1	1～			
GSFL214		フランス語Ⅵ	30	1	1～			
中国語	GSFL121	中国語Ⅰ	60	2	1～			
	GSFL122	中国語Ⅱ	60	2	1～			
	GSFL221	中国語Ⅲ	30	1	1～			
	GSFL222	中国語Ⅳ	30	1	1～			
	GSFL223	中国語Ⅴ	30	1	1～			
	GSFL224	中国語Ⅵ	30	1	1～			
	GSFL126	D.D.中国語Ⅰ	30	1	1～	注5		
	GSFL127	D.D.中国語Ⅱ	30	1	1～	注5		
	GSFL128	D.D.中国語Ⅲ	30	1	1～	注5		
	GSFL129	D.D.中国語Ⅳ	30	1	1～	注5		
ロシア語	GSFL161	ロシア語Ⅰ	60	2	1～			
	GSFL162	ロシア語Ⅱ	60	2	1～			
	GSFL261	ロシア語Ⅲ	30	1	1～			
	GSFL262	ロシア語Ⅳ	30	1	1～			
	GSFL263	ロシア語Ⅴ	30	1	1～			
	GSFL264	ロシア語Ⅵ	30	1	1～			

[制限外]…履修制限除外科目

※科目によりテーマの異なる複数の授業が開講されていますが同じ科目名のは1つしか修得できません。

注1 経済・法・文・経営・教育・国際教養学部生のみ履修可 注2 情報システム工学科生のみ履修可 注3 共生創造理工学科生のみ履修可

注4 文学部留学準備プログラム登録者のみ履修可 注5 文学部ダブルディグリー生のみ履修可

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考		
③言語科目 (つづき)	スペイン語	GSFL131	スペイン語Ⅰ	60	2	1～		
		GSFL132	スペイン語Ⅱ	60	2	1～		
		GSFL231	スペイン語Ⅲ	30	1	1～		
		GSFL232	スペイン語Ⅳ	30	1	1～		
		GSFL233	スペイン語Ⅴ	30	1	1～		
	イタリア語	GSFL234	スペイン語Ⅵ	30	1	1～		
		GSFL141	イタリア語Ⅰ	60	2	1～		
		GSFL142	イタリア語Ⅱ	60	2	1～		
		GSFL241	イタリア語Ⅲ	30	1	1～		
		GSFL242	イタリア語Ⅳ	30	1	1～		
		GSFL243	イタリア語Ⅴ	30	1	1～		
	韓国語	GSFL244	イタリア語Ⅵ	30	1	1～		
		GSFL151	韓国語Ⅰ	60	2	1～		
		GSFL152	韓国語Ⅱ	60	2	1～		
		GSFL251	韓国語Ⅲ	30	1	1～		
		GSFL252	韓国語Ⅳ	30	1	1～		
		GSFL253	韓国語Ⅴ	30	1	1～		
	ポルトガル語	GSFL254	韓国語Ⅵ	30	1	1～		
		GOFL101	ポルトガル語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL102	ポルトガル語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL103	ポルトガル語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL104	ポルトガル語Ⅳ	30	1	1～		
	アラビア語	GOFL111	アラビア語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL112	アラビア語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL113	アラビア語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL114	アラビア語Ⅳ	30	1	1～		
	スワヒリ語	GOFL121	スワヒリ語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL122	スワヒリ語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL123	スワヒリ語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL124	スワヒリ語Ⅳ	30	1	1～		
	タイ語	GOFL131	タイ語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL132	タイ語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL133	タイ語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL134	タイ語Ⅳ	30	1	1～		
	トルコ語	GOFL141	トルコ語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL142	トルコ語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL143	トルコ語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL144	トルコ語Ⅳ	30	1	1～		
	ブルガリア語	GOFL151	ブルガリア語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL152	ブルガリア語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL153	ブルガリア語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL154	ブルガリア語Ⅳ	30	1	1～		
	インドネシア語	GOFL181	インドネシア語Ⅰ	30	1	1～		
		GOFL182	インドネシア語Ⅱ	30	1	1～		
		GOFL183	インドネシア語Ⅲ	30	1	1～		
		GOFL184	インドネシア語Ⅳ	30	1	1～		
	ベトナム語	GOFL196	ベトナム語Ⅰ	30	1	1～		
GOFL197		ベトナム語Ⅱ	30	1	1～			
GOFL198		ベトナム語Ⅲ	30	1	1～			
GOFL199		ベトナム語Ⅳ	30	1	1～			
その他	GOFL191	言語演習Ⅰ	30	1	1～	*		
	GOFL192	言語演習Ⅱ	30	1	1～	*		
	GOFL193	言語演習Ⅲ	30	1	1～	*		
	GOFL194	言語演習Ⅳ	30	1	1～	*		
④世界市民教育 科目	平和・人権・環境・開発科目	GGCE101	平和学入門	30	2	1～		
		GGCE102	平和と人権	30	2	1～		
		GGCE201	ライフイベントとジェンダー	30	2	3・4		
		GGCE103	環境と開発	30	2	1～		
		GGCE105	環境問題入門	30	2	1～		
		GGCE183	現代マスコミ論	30	2	1～		
		GGCE142	地域研究A	30	2	1～		
		GGCE143	地域研究B	30	2	1～		
		GGCE144	日本研究	30	2	1～		
		GGCE271	世界市民教育演習A	30	2	2～		
		GGCE272	世界市民教育演習B	30	2	2～		
		サービスマーケティング・リーダー シップ科目	GGCE151	留学のための国際理解	30	2	1～	
			GGCE162	国際ボランティア実習	60	2	1～	[制限外]
	GGCE161		ボランティア入門	30	2	1～		
	GGCE261		ボランティア実習Ⅰ	30	1	1～	注6・[制限外]	
	GGCE262	ボランティア実習Ⅱ	30	1	2～	注6・[制限外]		
	GGCE141	八王子学Ⅰ	30	2	1～			
GGCE241	八王子学Ⅱ	30	2	2～				

[制限外]…履修制限除外科目

※科目によりテーマの異なる複数の授業が開講されている場合がありますが同じ科目名ものは1つしか修得できません。

*卒業に必要な第1外国語、または第2外国語の単位として算入することはできません。

注6 「ボランティア入門」の単位を修得済み(または履修中)であること

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考		
④世界市民教育科目(つづき)	サービスマニエール・リーダーシップ科目(つづき)	GGCE182	総合科目特講	30	2	1～		
		GGCE185	トップが語る現代経営A	30	2	1～		
		GGCE186	トップが語る現代経営B	30	2	1～		
		GGCE181	スマート・リーダーシップⅠ	30	2	1・2		
		GGCE281	スマート・リーダーシップⅡ	30	2	2～		
		GGCE282	スマート・リーダーシップⅢ	30	2	2～		
⑤数理・データサイエンス・自然科目	GMDN108	データサイエンス入門	30	2	1～			
	GMDN109	AI基礎	30	2	1～			
	GMDN107	大学生のための情報・デジタルリテラシー	30	2	1～			
	GMDN101	基礎数学Ⅰ	30	2	1～			
	GMDN102	基礎数学Ⅱ	30	2	1～			
	GMDN103	統計学入門Ⅰ	30	2	1～			
	GMDN104	統計学入門Ⅱ	30	2	1～			
	GMDN105	コンピュータリテラシーⅠ	30	2	1～			
	GMDN106	コンピュータリテラシーⅡ	30	2	1～			
	GMDN110	物理科学	30	2	1～			
	GMDN111	情報科学	30	2	1～			
	GMDN112	生命科学	30	2	1～			
	GMDN114	環境科学	30	2	1～			
	GMDN113	プログラミング	30	2	1～			
	GMDN202	データサイエンス演習A	30	2	1～			
	GMDN203	データサイエンス演習B	30	2	1～			
	⑥人文・社会・健康科目	人文科学系	GHUM101	音楽	30	2	1～	
			GHUM111	美術	30	2	1～	
GHUM121			文学入門	30	2	1～		
GHUM131			哲学入門	30	2	1～		
GHUM132			倫理学入門	30	2	1～		
GHUM141			宗教学入門	30	2	1～		
GHUM151			歴史入門	30	2	1～		
GHUM161			言語学入門	30	2	1～		
社会科学系			GSOC101	法学入門	30	2	1～	
			GSOC102	日本国憲法	30	2	1～	
			GSOC111	ミクロ経済学入門	30	2	1～	
			GSOC112	マクロ経済学入門	30	2	1～	
		GSOC121	経営学入門	30	2	1～		
		GSOC131	社会学入門	30	2	1～		
		GSOC141	国際関係論入門	30	2	1～		
		GSOC151	政治学入門	30	2	1～		
		GSOC161	心理学入門	30	2	1～		
		GSOC171	教養地理学	30	2	1～		
		GSOC181	教育学入門	30	2	1～		
		健康科学系	GNAT111	体育実技A	30	1	1～	
GNAT112			体育実技B	30	1	1～		
GNAT113			体育実技C	30	1	1～		
GNAT114			体育実技D	30	1	1～		
GNAT121			体育講義	30	2	1～		
GNAT131			スポーツフィジカルサイエンス	30	2	1～	注7	
学際系		GINT101	共通総合演習A	30	2	1～		
		GINT102	共通総合演習B	30	2	1～		
⑦キャリア教育系科目		GCAR101	キャリアデザイン基礎	30	2	1・2		
		GCAR102	キャリア開発フォーラム	30	2	1・2		
		GCAR103	ワールドビジネスフォーラム	30	2	1・2		
	GCAR111	グローバル社会とキャリア演習	30	2	1～			
	GCAR121	留学生のためのキャリアデザイン基礎(日本語)	30	2	1～			
	GCAR122	留学生のためのキャリアデザイン基礎(英語)	30	2	1～			
	GCAR123	留学生のためのキャリアコミュニケーションA	30	2	1～			
	GCAR124	留学生のためのキャリアコミュニケーションB	30	2	1～			
	GCAR112	次世代産業とキャリア演習	30	2	1～			
	GCAR211	グローバル社会と次世代産業	30	2	2～			
	GCAR212	公共キャリア演習Ⅰ	30	2	2～			
	GCAR213	公共キャリア演習Ⅱ	30	2	2～			
	GCAR201	企業研究	30	2	2～			
	GCAR202	キャリアビジョン演習A	30	2	2～			
	GCAR203	キャリアビジョン演習B	30	2	3・4			
	GCAR204	キャリアビジョン演習C	30	2	3・4			
	GCAR205	キャリアビジョン演習D	30	2	3・4			
	GCAR223	留学生のためのキャリアビジョン演習	30	2	3・4			
	GCAR214	公共キャリア演習Ⅲ	30	2	3・4			
	GCAR215	公共キャリア演習Ⅳ	30	2	3・4			
	GCAR221	留学生のためのキャリアコミュニケーションC	30	2	3・4			
	GCAR222	留学生のためのキャリアコミュニケーションD	30	2	3・4			

[制限外]…履修制限除外科目

※科目によりテーマの異なる複数の授業が開講されていますが同じ科目名ものは1つしか修得できません。

注7 スポーツ推薦入試による入学者のみ履修可

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考			
⑦キャリア教育系科目(つづき)	GCAR206	キャリアアトランジション演習	30	2	4~				
	GCAR104	インターンシップ入門	30	2	1~				
	GCAR181	インターンシップⅠ	30	1	1~	[制限外]			
	GCAR182	インターンシップⅡ	30	1	1~	[制限外]			
	GCAR183	インターンシップⅢ	60	2	1~	[制限外]			
	GCAR184	インターンシップⅣ	60	2	1~	[制限外]			
⑩海外研修・実習科目	GOPT101	海外短期研修(英語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT102	海外短期研修(英語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT103	海外短期研修(英語)Ⅲ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT104	海外短期研修(英語)Ⅳ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT105	海外短期研修(英語)Ⅴ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT106	海外短期研修(英語)Ⅵ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT111	海外短期研修(ドイツ語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT112	海外短期研修(ドイツ語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT113	海外短期研修(ドイツ語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT114	海外短期研修(ドイツ語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT121	海外短期研修(フランス語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT122	海外短期研修(フランス語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT123	海外短期研修(フランス語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT124	海外短期研修(フランス語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT131	海外短期研修(中国語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT132	海外短期研修(中国語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT133	海外短期研修(中国語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT134	海外短期研修(中国語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT141	海外短期研修(スペイン語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT142	海外短期研修(スペイン語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT143	海外短期研修(スペイン語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT144	海外短期研修(スペイン語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT151	海外短期研修(イタリア語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT152	海外短期研修(イタリア語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT153	海外短期研修(イタリア語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT154	海外短期研修(イタリア語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT161	海外短期研修(韓国語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT162	海外短期研修(韓国語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT163	海外短期研修(韓国語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT164	海外短期研修(韓国語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT171	海外短期研修(ロシア語)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT172	海外短期研修(ロシア語)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT173	海外短期研修(ロシア語)Ⅲ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT174	海外短期研修(ロシア語)Ⅳ	-	1	1~	[制限外]			
	GOPT181	海外短期研修(国際理解)Ⅰ	-	2	1~	[制限外]			
	GOPT182	海外短期研修(国際理解)Ⅱ	-	2	1~	[制限外]			
GOPT183	海外短期研修(国際理解)Ⅲ	-	2	1~	[制限外]				
GOPT184	海外短期研修(国際理解)Ⅳ	-	2	1~	[制限外]				
GOPT185	海外短期研修(国際理解)Ⅴ	-	1	1~	[制限外]				
GOPT186	海外短期研修(国際理解)Ⅵ	-	1	1~	[制限外]				
GOPT191	海外インターンシップⅠ	60	2	1~	[制限外]				
GOPT192	海外インターンシップⅡ	60	2	1~	[制限外]				
GOPT193	海外インターンシップⅢ	60	2	1~	[制限外]				
GOPT194	海外インターンシップⅣ	60	2	1~	[制限外]				
GOPT195	海外インターンシップⅤ	30	1	1~	[制限外]				
GOPT196	海外インターンシップⅥ	30	1	1~	[制限外]				
Global Citizenship Program科目 ※GCP所属者のみ履修可									
③言語科目	英語	GGCP151	EAP for Global Citizenship Ⅰ	60	2	1~	[制限外]		
		GGCP152	EAP for Global Citizenship Ⅱ	60	2	1~	[制限外]		
		GGCP251	EAP for Global Citizenship Ⅲ	60	2	2~	[制限外]		
		GGCP252	EAP for Global Citizenship Ⅳ	60	2	2~	[制限外]		
		GGCP155	Academic Foundations for Global Citizenship Ⅰ	60	2	1~	[制限外]		
		GGCP156	Academic Foundations for Global Citizenship Ⅱ	60	2	1~	[制限外]		
		GGCP255	Academic Foundations for Global Citizenship Ⅲ	60	2	2~	[制限外]		
		GGCP256	Academic Foundations for Global Citizenship Ⅳ	60	2	2~	[制限外]		
		④世界市民教育科目	平和・人権・環境・開発科目	GGCP241	プログラムゼミⅢ	30	2	2~	[制限外]
				GGCP242	プログラムゼミⅣ	30	2	2~	[制限外]
サービスラーニング・リーダーシップ科目	GGCP142		プログラムゼミⅡ	30	2	1~	[制限外]		
⑤数理・データサイエンス・自然科目		GGCP161	社会システム・ソリューションⅠ	30	2	1~	[制限外]		
		GGCP261	社会システム・ソリューションⅡ	30	2	2~	[制限外]		
⑦キャリア教育系科目		GGCP141	プログラムゼミⅠ	30	2	1~	[制限外]		
②大学科目		GGCP101	GCPチュートリアルⅠ	30	1	1~	[制限外]		
		GGCP102	GCPチュートリアルⅡ	30	1	1~	[制限外]		
		GGCP201	GCPチュートリアルⅢ	30	1	2~	[制限外]		
		GGCP202	GCPチュートリアルⅣ	30	1	2~	[制限外]		

[制限外]…履修制限除外科目

※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されていますが同じ科目名のものは1つしか修得できません。

科目群	科目ナンバリング	科目名	授業時間数	単位	履修年次	備考	履修できる科目 注9		
							①	②	③
日本語・日本文化科目 ※外国人学生のみ履修可	※日本語能力により履修できる科目が異なります								
③言語科目	日本語	GJLC101	日本語Ⅰ	60	4	1～		○	○
		GJLC102	日本語Ⅱ	60	4	1～		○	○
		GJLC201	日本語Ⅲ	30	2	1～	○	○	○
		GJLC202	日本語Ⅳ	30	2	1～	○	○	○
		GJLC203	日本語Ⅴ	30	2	1～	○	○	○
		GJLC204	日本語Ⅵ	30	2	1～	○	○	○
		GJLC111	日本語基礎	90	6	1～	○	○	
		GJLC112	日本語総合入門	150	10	1～	○	○	○
		GJLC113	日本語総合Ⅰ	150	10	1～	○	○	
		GJLC114	日本語総合Ⅱ	150	10	1～	○	○	
		GJLC115	日本語演習入門	30	2	1～	○	○	
		GJLC116	日本語演習Ⅰ	30	2	1～	○	○	
		GJLC231	日本語読解Ⅱ	30	2	1～	○	○	
		GJLC232	日本語読解ⅢA	30	2	1～	○	○	
		GJLC233	日本語読解ⅢB	30	2	1～	○	○	
		GJLC234	日本語読解ⅣA	30	2	1～	○	○	
		GJLC235	日本語読解ⅣB	30	2	1～	○	○	
		GJLC236	日本語読解ⅤA	30	2	1～	○	○	
		GJLC237	日本語読解ⅤB	30	2	1～	○	○	
		GJLC121	日本語文法Ⅱ	30	2	1～	○	○	
		GJLC221	日本語文法Ⅲ	30	2	1～	○	○	
		GJLC222	日本語文法Ⅳ	30	2	1～	○	○	
		GJLC141	日本語口頭表現入門	30	2	1～	○	○	
		GJLC241	日本語口頭表現Ⅰ	30	2	1～	○	○	
		GJLC242	日本語口頭表現ⅢA	30	2	1～	○	○	
		GJLC243	日本語口頭表現ⅢB	30	2	1～	○	○	
		GJLC244	日本語口頭表現ⅣA	30	2	1～	○	○	
		GJLC245	日本語口頭表現ⅣB	30	2	1～	○	○	
		GJLC246	日本語表現ⅤA	30	2	1～	○	○	
		GJLC247	日本語表現ⅤB	30	2	1～	○	○	
		GJLC151	日本語聴解入門	30	2	1～	○	○	
		GJLC152	日本語聴解Ⅰ	30	2	1～	○	○	
		GJLC251	日本語聴解Ⅱ	30	2	1～	○	○	
		GJLC252	日本語聴解ⅢA	30	2	1～	○	○	
		GJLC253	日本語聴解ⅢB	30	2	1～	○	○	
		GJLC254	日本語聴解ⅣA	30	2	1～	○	○	
GJLC255	日本語聴解ⅣB	30	2	1～	○	○			
GJLC256	日本語聴解ⅤA	30	2	1～	○	○			
GJLC257	日本語聴解ⅤB	30	2	1～	○	○			
GJLC161	日本語文章表現入門	30	2	1～	○	○			
GJLC162	日本語文章表現Ⅰ	30	2	1～	○	○			
GJLC261	日本語文章表現Ⅲ	30	2	1～	○	○			
GJLC262	日本語文章表現Ⅳ	30	2	1～	○	○			
GJLC117	初級漢字	30	2	1～	○	○			
日本語・日本文化科目	GJLC118	日本伝統文化	30	2	1～	注8	○		

※科目によりテーマの異なった複数の授業が開講されていますが同じ科目名のは1つしか修得できません。

注8 卒業に必要な単位には含まれません(自由選択の単位としても算入されません)

注9 ①～③の所属により、履修登録可能な科目が異なります

①の学生:交換留学生、特別履修生(ND)

②の学生:EMP生、国際教養学部の日本語プログラム生

③の学生:②を除く学部生(外国人学生入試、指定校推薦、別科推薦、編入で入学した学生等)

第Ⅵ章 学部・学科の履修について

経済学部 経済学科

1. 理念・目的

創価大学経済学部は、開学以来、建学の精神である「人間教育」「大文化建設」そして「平和創出」に基づき、グローバルな経済社会を担うリーダーの育成を目指してきました。特に、人類の新しい経済のあり方を問う「人間主義経済」の理論的・実践的な研究は、創価大学経済学部が独自に担う使命です。

2. 教育目標

創価大学経済学部は、以下の3つの教育目標を掲げます。

- (1) 体系的な経済学教育を通して、問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する。
- (2) 英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。
- (3) 人間主義に基づく経済学教育を通して、世界の平和と人類の幸福に貢献する人間力を備えた人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

経済学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、以下の能力や学識の修得を求め、学位授与の要件を満たした学生に、学士（経済学）を授与します。

- (1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的また統計的に理解・分析することができる。
- (2) 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、関連する知識と語学力を活用して適切な議論を行うことができる。
- (3) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、また多様性を尊重し、他者と協働しながら、目標を達成することができる。
- (4) 経済問題・社会問題に取り組み、人々の平和と幸福の実現に向けて、経済学を用いて解決策を提案することができる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経済学部は、全学、および本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、学生がラーニング・アウトカムズを達成できるよう、以下の方針でカリキュラムを編成しています。

- (1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的また統計的に理解・分析できるようになるために、まず、必修科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」で経済理論の基礎を、「経済数学入門」「基礎統計学」で数量的分析の基礎を学びます。その後、中級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、また「データサイエンス」など統計関連科目を学び、応用経済学の諸科目を段階的に履修します。こうして経済学を用いた社会分析の具体的手法を学び、複眼的視点をもった論理的・統計的思考力を養います。
- (2) 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、関連する知識と語学力を活用して適切な議論を行うことができるようになるために、必修科目「経済と歴史」で経済への歴史的アプローチを、必修科目「簿記入門」で簿記の基礎を学びます。2年次からは、コース導入科目である「金融論」「財政学」「日本経済史」「開発と貧困の経済学」「気候変動の経済学」等を履修し、世界の経済・社会問題に関連するより高度な知識を学び、それをもとに自ら課題を設定する力を養います。また、必修科目「学術文章作法」（共通科目）、英語（6単位必修）で、言語表現力の基礎を学びます。IP（International Program）では、学術英語を学んだ後、英語で経済学を学び、英語によるコミュニケーション力を養います。さらに、必修科目「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」において、具体的な経済問題・社会問題についてディスカッションを通して学び、討議推進力を養います。さらに、SUCCEED（Soka University Courses for Comprehensive Economics Education）プログラムの科目を履修することにより、世界から集まった留学生とともに英語で、日本・アジアの経済問題・社会問題を学ぶことができます。

- (3) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、また多様性を尊重し、他者と協働しながら、目標を達成することができるようになるために、まず、1年次の必修科目「初年次セミナー」（共通科目）でタイム・マネージメント、グループ学習、アクティブラーニングの基礎を学びます。その後、「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、IP（International Program）、その他の専門科目でグループ学習やアクティブラーニングを行い、自己育成力、対人基礎力、目標達成力を養います。
- (4) 経済問題・社会問題に取り組み、人々の平和と幸福の実現に向けて、経済学を用いて解決策を提案することができるようになるために、必修科目「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で個人やグループでのリサーチを通して、経済・社会問題に取り組みます。また、「社会貢献と経済学」で、経済学がいかにかに社会に貢献し得るのかを実践的に学び、「人間主義経済学」では、人間主義に基づいた新しい経済の在り方を構想することによって、人々の平和と幸福の実現に向けて経済・社会問題の解決に取り組みます。さらに「演習Ⅳ」「卒業論文研究」では、教員の指導のもと、個人で課題を設定して、経済学を用いて、その解決策を提示します。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

創価大学経済学部は、創価大学のアドミッション・ポリシー並びに本学部の理念・目的に基づいて、本学部の教育目標で提示した人材へと育ちゆく資質・能力を備えた学生を広く国内外から、以下のような方法で選抜します。

- (1) 経済学部が、開学以来、掲げてきた人間主義経済の理念に共感し、世界の平和と人類の幸福に貢献し、グローバル社会でリーダーとして活躍する意志をもって本学部での学修を希望する学生。総合型選抜（PASCAL入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）において、面接試験を通してその意志を評価します。
- (2) 問題発見・解決、さらに論理的な思考・判断・表現に必要とされる十分な知識・技能を修得するための基礎学力を有している学生。総合型選抜（PASCAL入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）、一般選抜の大学入学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試《以下（一般選抜）》、そして外国人入試（英語プログラム「SUCCEED = Soka University Courses for Comprehensive Economics Education」を含む）では、とりわけ、基礎的な知識・技能や思考力・判断力・表現力を評価します。
- (3) グローバル社会で活躍するうえで必須となる基礎的な英語能力を有している学生。学校推薦型選抜（公募推薦入試）、一般選抜において英語能力を重視します。特に、一般選抜のうち大学入学共通テスト利用入試、全学統一入試では、英語の得点配分を高くする傾斜配点を行います。また総合型選抜（PASCAL入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）では、各種英語資格試験において一定のスコア基準を満たした者に対して優遇する措置を取ります。
- (4) 現実の経済社会問題に関心を持ち、自ら考え行動することによって問題解決に主体的に取り組むと同時に、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある学生。学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）では、書類審査と面接試験を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、学習意欲を評価します。また総合型選抜（PASCAL入試）では、アクティブラーニングの手法を用いた「グループ・ディスカッション」により、個々人の主体性、多様性、協働性、表現力を評価します。総合型選抜（小論文方式）では「小論文」により、思考力や表現力等を評価します。一般選抜においては、主体性、協働性に関する高等学校等までの取り組みについて出願時に記入を求め、入学後の修学指導等に活用します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ通算 GPA が2以上であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数		
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー		必修科目	2単位	
		学術文章作法		選択必修科目	2単位	
	②大学科目			選択必修科目	4単位	
	④世界市民教育科目			選択必修科目	4単位	
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門		必修科目	2単位	
		⑥人文・社会・健康科目			選択必修科目	2単位
	⑦キャリア教育系科目			選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1	選択必修科目	6単位	「 自由選 「 左記の 「 単位数を 「 超えて 「 修得した 「 単位は 「 」として 「 算入 「 され 「 ます 」	
	第2外国語	※2	選択必修科目	4単位		
経済学科 専門科目 (P.72～74)	選択必修科目 ※3			28単位		
	選択科目			38単位		
選択したコース【▲印】から合計18単位以上を修得すること。						
自由選択 ※4	『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			30単位以上		
合 計						124単位以上

※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目（英語）」(P.56)又は学部学科英語科目(P.74)から6単位修得してください。
経済学科では、卒業に必要な英語6単位は、以下の学部英語科目を履修することによって満たすことができます。

Non-IP 生	Economics English Communication I, II, III
IP 生	Academic Foundations for Economic Majors I, II ;
Pre-IP 生	Global Economy Laboratory; Economics Laboratory A, B

また、IP、Pre-IPを第1 Semesterのみ履修した学生は、Economics English Communicationを履修し、残りの英語単位を修得してください。

※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
 ※3 専門選択必修科目で卒業に必要な単位数(28単位)を超えて修得した場合には専門選択科目として算入されます。
 ※4 自由選択とは『共通科目』『経済学科専門科目』『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。

ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経済学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を40単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を30単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件

■経済学部の基準は以下の通りです。

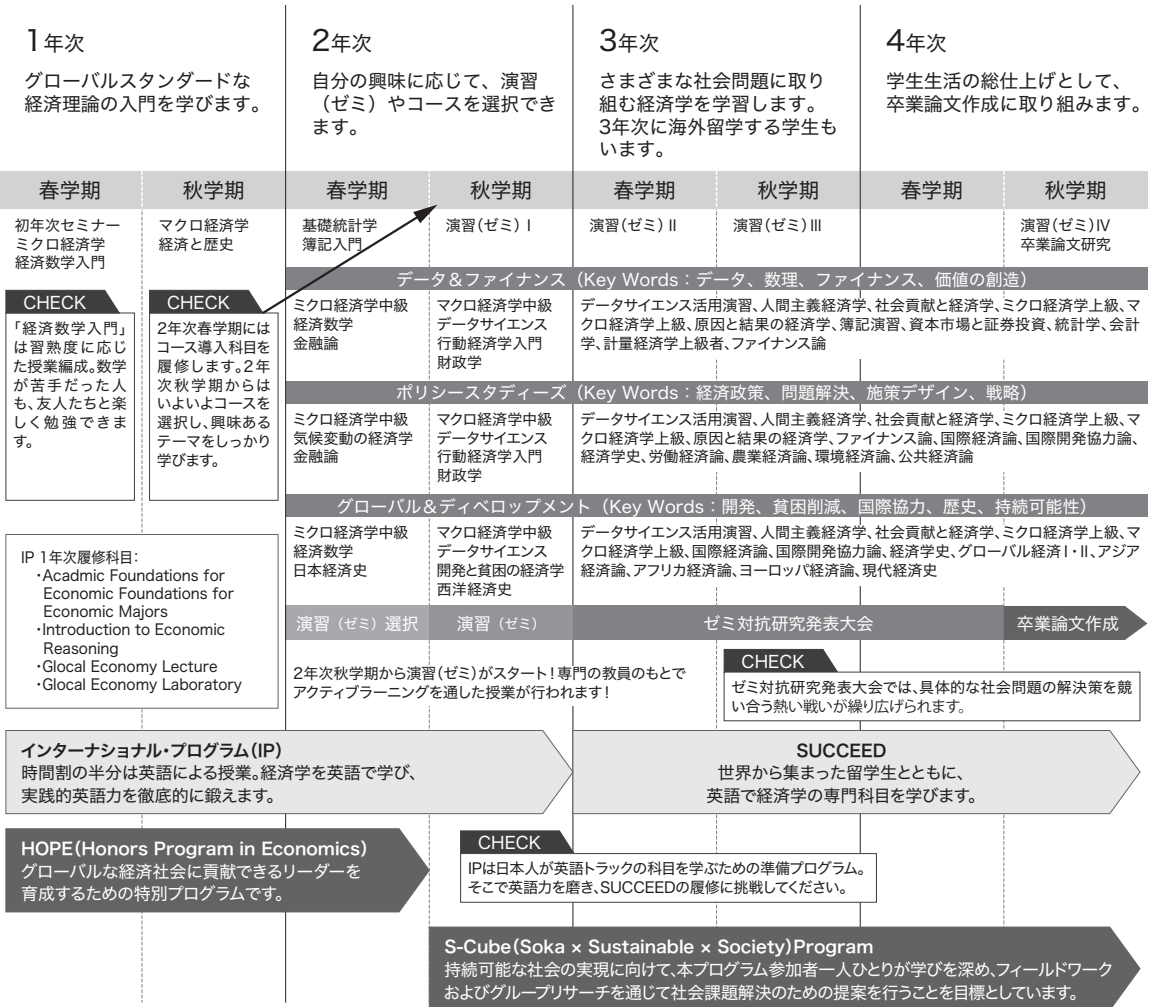
履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	※学期毎の 上限単位数	学期毎の修得 下限単位数	直前 Semester の GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4 Semester 終了 時点の条件
通算 GPA 数値基準							最低修得 単位数
20単位	16単位	3.50	4単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時（在学6セメ又は7セメ終了時）に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 4年間の学び（経済学科専門科目）

経済学部専門科目の4年間の学び



- 経済学部専門科目の4年間の学びをイメージするための図です。共通科目（初年次セミナー以外）は含まれていません。
- IP(International Program)、学部英語科目の履修については、「経済学部での英語教育」(P.66～67)を参照してください。
- 共通科目、IP科目を含めた、具体的な履修科目については、以下に示す履修モデルを参照してください。
- この図には含まれていない専門科目が数多くあります。その他の科目については、専門科目表(P.72～74)で確認してください。
- SUCCEED 科目はこの図に含まれていません。専門科目表(P.72～74)で確認してください。

注1 第1セメスターにIPを履修しない学生は、「簿記入門」を1年次に履修してください。

注2 「簿記演習」「資本市場と証券投資」「グローバル経済Ⅰ・Ⅱ」「データサイエンス活用演習」「労働経済論」「環境経済論」「原因と結果の経済学」は第3・4セメスターから履修可能です。

9. 履修モデル（1・2年次）

履修の仕方は、IP生、Pre-IP生と一般学生で異なります。各セメスター20単位の履修制限内での標準的な履修モデルは以下の通りです。各人の興味に応じて、これ以外の科目を履修することも可能です。

また、IP科目は、レベルによって異なるので、以下のモデルに示した以外の科目の履修が求められることがあります（「10. 学部英語科目とIP, SUCCEED」参照）。

■ 1年次

必修科目（「初年次セミナー」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済と歴史」；一般学生はさらに「簿記入門」）、IP科目若しくは学部英語科目は必ず履修してください。

その他、言語科目（英語以外）、データサイエンス入門、学術文章作法、キャリア教育科目の履修を強く推奨します。

○囲み数字は単位数を表します

第1セメスター	IP生、Pre-IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・ミクロ経済学 ④ ・経済数学入門 ④	・ミクロ経済学 ④ ・経済数学入門 ④ ・簿記入門 ②
専門選択科目	・Introduction to Economic Reasoning ④	
学部学科英語科目	・Academic Foundations for Economic Majors I ②	・Economics English Communication I ②
共通科目	・初年次セミナー ② ・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ②	・初年次セミナー ② ・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ② ・『②大学科目』から1科目 ②
第2セメスター	IP生、Pre-IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・マクロ経済学 ④ ・経済と歴史 ④	・マクロ経済学 ④ ・経済と歴史 ④
専門選択科目	・Global Economy Lecture ②	
学部学科英語科目	・Global Economy Laboratory ② ・Academic Foundations II ②	・Economics English Communication II ②
共通科目	・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・データサイエンス入門 ② ・学術文章作法 I ②	・『言語科目（英語以外）』から1科目 ② ・データサイエンス入門 ② ・学術文章作法 I ② ・『⑧キャリア教育系科目』から1科目 ② ・『④世界市民教育科目』から1科目 ②

■ 2年次

必修科目（「基礎統計学」「演習I」、IP生はさらに「簿記入門」）、IP科目若しくは学部英語科目は、必ず履修してください。また、コース選択を考えて、その導入科目を履修してください。特に「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」の履修を強く推奨します。1年次にIP、Pre-IPで共通科目を十分に履修していない学生は、2つ目のコース導入科目の代わりに、共通科目を履修してください。

○囲み数字は単位数を表します

第3セメスター	IP生	Non-IP生
専門選択必修科目	・基礎統計学 ④ ・簿記入門 ②	・基礎統計学 ④
専門選択科目	・ミクロ経済学中級 ④ ・コース導入科目を1科目 ④ ・Economics Lecture B ④	・ミクロ経済学中級 ④ ・コース導入科目を2科目 ⑧
学部学科英語科目	・Economics Laboratory B ②	・Economics English Communication III ②
共通科目など		・自分の興味のある科目 ②

第4セメスター	IP 生	Non-IP 生
専門選択必修科目	・演習 I ②	・演習 I ②
専門選択科目	・マクロ経済学中級 ④ ・コース導入科目を1科目④	・マクロ経済学中級 ④ ・コース導入科目を2科目⑧
共通科目	・『②大学科目』から1科目② ・『④世界市民教育科目』から1科目②	
共通科目など	・自分の興味のある科目⑥	・自分の興味のある科目 ⑥

10. 学部英語科目と IP, SUCCEED 科目

各学生の希望及び英語のレベルに応じて、以下の英語教育の科目を設けています。

なお、副専攻「English Medium Program (EMP)」の登録をする場合、IP 科目（学部学科英語科目を除く）と SUCCEED 科目は副専攻科目にも算入されます。

(1) International Program (IP)

英語で専門科目の基礎を学ぶと同時に学術的な英語能力とディスカッション能力を養うプログラムです。IP では、各セメスターに6単位の科目を履修し、毎週、授業・授業外を合わせて計約20時間以上の学習時間を必要とします。各授業は、次のページの図に示したように、英語力 (TOEFL-ITP テストのスコア) に応じてクラス分けが行われます。IP の履修を続けるには、セメスターごとに決められた英語力に到達し、さらに、各セメスターで2.70以上（第1セメスターのみ2.30以上）のGPAを取らなくてはなりません。

(2) Pre-IP

IP の履修を目指す1年生のためのプログラムです。第1セメスターに6単位の科目を履修し、学術的な英語力の向上を目指します。

(3) 一般学生

各セメスターに Economics English Communication (2単位) を履修し、総合的な英語力の向上を目指します。

(4) SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education) 科目

英語で経済学を学ぶ科目です。履修するためには、以下の①、②のいずれかの条件を満たす必要があります。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

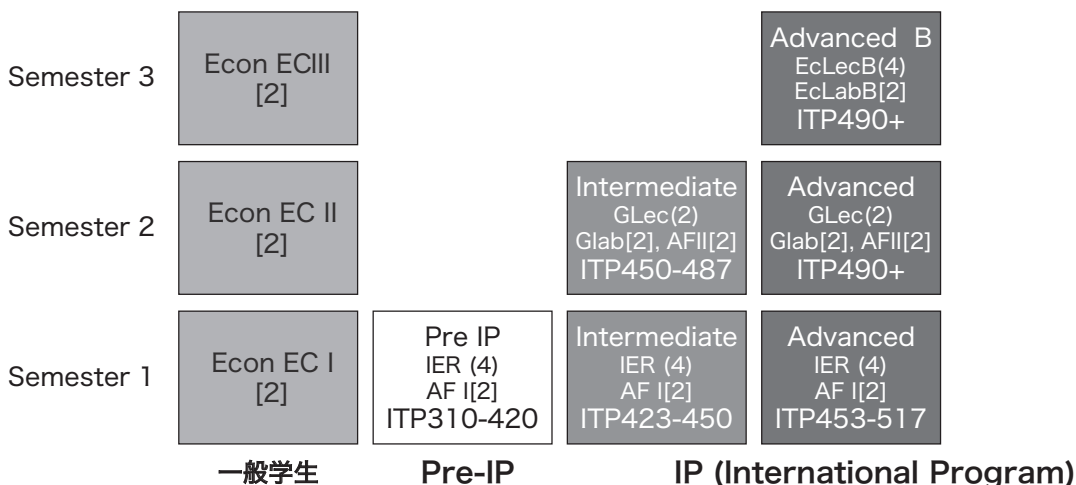
原則として、1クラスあたりの定員を留学生含めて20名とし、これを超過する履修希望者がいた場合は、経済学部生の履修を優先とします。

Semester 5-

SUCCEED
courses
ITP530+

Semester 4

SUCCEED
courses
ITP530+



1 1. 履修のための前提 (prerequisite)

2年次以降に開講される科目の多くは、事前に特定の科目を履修しておくことが求められます。これらの条件は、各科目のシラバスに明記されているので、履修の前に必ず確認するようにしてください。特に、「ミクロ経済学中級」「マクロ経済学中級」は、その履修が、多くの科目で前提とされるので、2年次のうちに履修することが強く推奨されます。

1 2. コース

2年秋学期（第4セメスター）の履修登録で、コースを選択して登録します。選択したコースが指定する▲印の科目群の中から18単位を修得しなければなりません。

■データ&ファイナンス

データ処理能力、統計分析、計量経済学のスキルを習得し、ファイナンス分野や国際ビジネスの舞台において新たな価値を創造しゆく力を養います。

■ポリースタディーズ

ローカル・エコノミー、日本・世界経済が直面する循環型経済社会の構築、新産業の創出、地方創生、AIと雇用問題、食糧の安定的供給、少子高齢化といった諸課題の解決をめざし、有効な経済政策・戦略の立案・デザインができる力を養います。

■グローバル&ディベロップメント

日本を含めた先進経済とアフリカ・アジアなどの新興・開発途上経済の持続可能な発展について、国内外の歴史や文化を通じて考えるとともに、貧困問題や気候変動解決のための国際的な開発協力政策についての学修を通して、グローバルな視点で経済活動を理解し、広い視野と分析力を養います。

■ SUCCEED (Soka University Courses for Comprehensive Economics Education)

英語による講義のみで構成されるコースです。日本人学生も以下の①、②のいずれかの条件を満たせば、このコースの科目を履修できます。

- ① 以下の3つの条件をすべて満たす
 - a) Global Economy Laboratory, Economics Laboratory A, Economics Laboratory B の3科目のうち2科目以上の単位修得
 - b) TOEFL-ITP スコア 530 以上
 - c) 通算 GPA2.70 以上
- ② TOEFL-iBT 79 点以上

■ 選択したコースの変更

第4セメスターで選択したコースを変更する場合は、第5セメスター以降の履修登録時に変更することが可能です。ただし、コースを変更した場合、変更先のコースが指定する科目群から18単位を修得しなければなりません。したがって、安易にコースの変更を行うと卒業に影響がありますので、コースを選択する際は将来の学修の方向性などよく考えて登録するようにしてください。

1 3. 演習 (ゼミナール)

(1) 演習の開講時期

専門演習は、2年秋学期以降に、少人数制（原設定員12名）で開講されます。「演習I」（2年秋学期）「演習II」（3年春学期）「演習III」（3年秋学期）は必修です。「演習IV」は、4年秋学期に選択科目として開講されます。原則として、1人の教員の演習に、「演習I」から「演習IV」まで継続して所属します。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年春学期にガイダンス及び申し込みがあり、選考の上、所属する演習が決定されます。なお、教員が選考資料の1つとして1年次の成績を使用します。

※演習の選択は、3つのコースから選択した専門分野と必ずしも関連している必要はありません。

1 4. S-Cube プログラム (Soka Sustainable Society Program)

(1) プログラムの目的

持続可能な社会を構築する価値創造の人材を育成するプログラムであり、誰一人取り残さない新しい経済・社会システム構築に貢献できる人材を育成すること（SDGs 実現力の習得）を目標としています。

(2) プログラムへの参加要件

本プログラムへの参加要件は下記の通りです。

- ① 募集開始前に開催される説明会へ出席すること。
- ② 第3セメスター終了時の通算 GPA が 2.70 以上であること。
- ③ 英語のスコア (TOEIC, TOEFL いずれでも可) を提出すること。
- ④ 志望理由書を提出すること。

応募者数が定員 (40 名) を超えた場合には、GPA・英語のスコア・志望理由書に基づき選抜を行います。

(3) プログラムの概要

「データ分析」を活用した政策の立案、「フィールドワーク」を通じた現地課題の分析、「行動経済学」による人間行動の理解を通じて、私たちが直面する社会課題解決の政策立案力を養います。

本プログラムは、2年次春学期（第3セメスター）の後半に参加者を募集し、2年次秋学期（第4セメスター）からスタートします。本プログラムと SDGs 副専攻を両立することは可能です。

(4) コース制との関係

第4セメスターの履修時に選択するコースについては、3つの中からどのコースを選択しても構いません。本プログラム参加学生は、自身の興味・関心に即して各コースに配置された S-Cube 関連の専門科目を履修することになります。

(5) プログラムの修了要件

以下の要件を満たすことで、S-Cube プログラムを修了したと見なされます。

- ① S-Cube プログラム関連科目を 18 単位以上修めること。
- ② 卒業時に通算 GPA が 2.70 以上。
- ③ 「S-Cube 演習」「社会貢献と経済学」を履修し、単位を修得すること。

なお必須ではありませんが、「行動経済学入門」「原因と結果の経済学」の履修を強く推奨します。

※本プログラムの詳細は学部 HP に掲載されていますので、そちらを参照してください。

15. 専門科目の認定

(1) 簿記検定試験による単位認定

入学前*または在籍期間中に日本商工会議所主催の「簿記検定 3 級」以上を取得した場合、「簿記入門」(2 単位)の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (Web 上にて発行) と成績証明書原本 (教務課で写しを取った後に本人に返却) を教務課に提出してください。認定成績は R です。経済学部以外の学生については、認定しません。

※「簿記入門」の単位認定と、経営学部で実施している簿記検定による専門科目の単位認定 (P.110) を両方とも認定することはできません。

(2) 経済学検定試験 (ミクロ・マクロ) による単位認定

入学前*または在籍期間中に日本経済学教育協会主催の「経済学検定試験 (ミクロ・マクロ)」を受験し、C 以上の成績を取得した場合、以下の表の基準に従って、「経済特論」(2 単位)の成績を認定します。「経済特論 I~IV」のうち、どの科目で認定されるかは、単位修得状況によります。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (Web 上にて発行) と成績証明書原本 (教務課で写しを取った後に本人に返却) を教務課に提出してください。経済学部以外の学生についても、他学部専門科目「経済特論」として認定されます。

■認定の対象となる成績

主催団体	試験名	取得資格	認定成績	認定単位	備考
日本経済学教育協会	経済学検定試験 (ミクロ・マクロ)	S	A+	2 単位	ERE ミクロ・マクロでの単位認定は一度のみです。一度 ERE ミクロ・マクロで単位認定を受けた後、別の成績で新たに単位を申請することはできません。
		A+	A		
		A	A-		
		B+	B+		
		B	C		
		C	D		

(3) 統計検定による単位認定

対象となるのは、入学前*または在籍期間中に取得した「統計検定 3 級」以上の資格です。認定科目と認定単位・成績は、以下の表の通りです。「経済特論 I~VI」のうち、どの科目で認定されるかは、単位修得状況によります。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (Web 上にて発行) と成績証明書原本 (教務課で写しを取った後に本人に返却) を教務課に提出してください。

■認定の対象となる成績

主催団体	試験名	取得資格	認定成績	認定単位	認定科目	備考
日本統計学会	統計検定	3 級	R	4 単位	基礎統計学	経済学部生のみ申請可
		2 級	R	経済学部生は最大 6 単位、他学部生は 2 単位	基礎統計学の 4 単位と、経済特論 I~VI から 2 単位認定	「基礎統計学」の認定は、経済学部生のみ申請可。 「経済特論」での単位認定は、最大で 4 単位です。一度 2 級で単位認定を受けた後、準 1 級で単位申請をした場合は 2 単位認定されます。経済学部以外の学生についても、他学部専門科目「経済特論」として認定されます。
		準 1 級以上	R	経済学部生は最大 8 単位、他学部生は最大 4 単位	基礎統計学の 4 単位と、経済特論 I~VI から 4 単位認定	

注) 入学前に取得した資格については、入学または再入学の日より6か月以内に単位認定申請をしなければいけません。

(4) IP (International Program) 海外研修プログラム

IP 受講生を対象に、海外大学の協力のもと実施する経済学部独自の短期研修です。このプログラムは、春期休暇中の約2週間、IP 受講生の英語スキル実践の場として、専門的な内容について英語で学ぶだけでなく、グローバルな視点で就業意識を高めることを目的としています。このプログラムを修了すると、経済学部の専門科目「Foreign Studies」の単位(2単位)として認定されます。

このプログラムに参加し、「Foreign Studies」での単位修得を希望する場合は、科目のシラバスをよく読んで、必要な手続きを行ってください。なお、この科目は履修制限の対象外で、P F 評価により評価が行われます。

【履修登録の時期】 プログラム終了直後の学期に履修登録を行ってください。

【募集人数】 20名程度

【応募資格】 経済学部 IP 受講生

【選考方法】 書類選考(詳細については、科目担当教員にお問い合わせください。)

(5) 海外インターンシップ

経済学部では、海外における企業や団体組織での就業体験を行う「海外インターンシップ」科目(International Internship A、International Internship B)を開設しています。これはグローバル社会におけるスキルやコミュニケーション能力を養い、キャリア形成を促進することを目的としています。認定対象となる「海外インターンシップ」は、専門科目としての教育効果が十分に期待できると判断されるものに限ります。

これらの科目での単位修得を希望する場合は、それぞれの科目のシラバスをよく読み、以下の記載に沿って必要な手続きを行ってください。なお、これらの科目は履修制限の対象外で、P F 評価により評価が行われます。

【実習の進め方】

- ① 実習に応募する前にシラバスで確認し、経済学部の科目担当教員に相談のうえ、必要書類を経済学部事務室に提出してください。
- ② 実習終了後に必要書類をそろえて、経済学部事務室に提出してください。
- ③ 詳細については、科目担当教員にお問い合わせください。

【履修登録の時期】

インターンシップ終了直後の学期に履修登録を行ってください。

(6) 留学先で取得した科目の単位

交換留学先の大学、若しくは私費留学で経済学部教授会が適当と認めた大学において修得してきた経済学専門科目の単位は、経済学部教授会の議を経て、創価大学経済学部のカリキュラムや授業時間数に従って、創価大学経済学部の単位として認定されます。

経済学専門科目の単位の認定を希望する学生(他学部生を含む)は、全学共通の海外留学単位認定願(専門科目)・講義内容(教務課窓口で配布)・留学先で発行した成績証明書原本【成績基準を含む】に加え、留学先での講義シラバスを教務課に提出してください。

■専門科目表の見方（経済学科専門科目）

次のページから掲載されている経済学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科 目 名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考	ラーニング・ アウトカムズ 該当項目			
					データ	ポリシー	グローバル	SUC			1	2	3	4
					①	②	③	④			⑤	⑥	⑦	⑧

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科 目 名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥コース	どの科目がコースの指定する科目かを表します。選択したコース列に「▲」が付されている科目を18単位以上修得する必要があります。なお、コース名は以下の略です。 データ：データ&ファイナンス／ポリシー：ポリシースタディーズ／グローバル：グローバル&ディベロップメント／SUC：SUCCEED
⑦他学科履修	経済学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、経済学科生以外は履修できません。
⑧備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的また統計的に理解・分析することができる。 2. 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、関連する知識と語学力を活用して適切な議論を行うことができる。 3. 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、また多様性を尊重し、他者と協働しながら、目標を達成することができる。 4. 経済問題・社会問題に取り組み、人々の平和と幸福の実現に向けて、経済学を用いて解決策を提案することができる。

■経済学部 経済学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	コース				他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ該当項目			
					データ	ポリシー	グローバル	SUC			1	2	3	4
					選択必修科目 28単位以上(各科目領域から指定された単位数をそれぞれ修得すること)									
ミクロ経済学(4単位)														
ECON111	ミクロ経済学	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○		
ECON113	Principles of Microeconomics	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○		
ECON315	ミクロ経済学中級(HP)	60	4	1~	○▲	○▲	○▲		x	注1	◎	○		
マクロ経済学(4単位)														
ECON112	マクロ経済学	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○		
ECON114	Principles of Macroeconomics	60	4	1~	○	○	○	○			◎	○		
ECON316	マクロ経済学中級(HP)	60	4	1~	○▲	○▲	○▲		x	注1	◎	○		
経済学入門(4単位)														
ECON121	経済学入門A	60	4	1~	○	○	○	○			◎			
ECON221	経済学入門B	60	4	1~	○	○	○	○			◎			
INLA221	Calculus	60	4	1~	○	○	○	○		連携(国)	◎			
経済と歴史(4単位)														
ECON151	経済と歴史	60	4	1~	○	○	○	○			○	◎		
ECON152	Economic History	60	4	1~	○	○	○	○		連携(法)	○	◎		
統計(4単位)														
ECON122	基礎統計学	60	4	1~	○	○	○	○			◎			
INLA120	Foundations of Data Science	60	4	1~	○	○	○	○		連携(国・営)	◎			
簿記(2単位)														
ECON131	簿記入門	30	2	1~	○	○	○	○			◎			
ECON132	Introduction to Financial Accounting	30	2	1~	○	○	○	○			◎			
演習Ⅰ(2単位)														
ECON201	演習Ⅰ	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
ECON202	Progressive SeminarⅠ	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
演習Ⅱ(2単位)														
ECON301	演習Ⅱ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
ECON303	Progressive SeminarⅡ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
演習Ⅲ(2単位)														
ECON302	演習Ⅲ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
ECON304	Progressive SeminarⅢ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	◎
選択科目 38単位以上 ※選択したコースの▲印を18単位以上含むこと														
コース導入科目														
ECON311	ミクロ経済学中級	60	4	2~	▲	▲	▲			連携(営)	◎	○		
ECON312	マクロ経済学中級	60	4	2~	▲	▲	▲			連携(営)	◎	○		
ECON313	Intermediate Microeconomics	60	4	2~	▲	▲	▲	▲		連携(国)	◎	○		
ECON314	Intermediate Macroeconomics	60	4	2~	▲	▲	▲	▲		連携(国)	◎	○		
ECON321	経済数学	60	4	2~	▲						◎	○		
ECON322	データサイエンス	30	2	2~	▲	▲	▲				◎	○		
ECON331	金融論	60	4	2~	▲	▲					◎	○		
ECON332	財政学	60	4	2~	▲	▲					◎	○	○	
ECON351	日本経済史	60	4	2~			▲			連携(人)	○	◎		○
ECON361	開発と貧困の経済学	60	4	2~			▲				○	◎		○
ECON371	気候変動の経済学	30	2	2~		▲	▲				◎	○		○
その他の選択科目														
INFO111	微積分学Ⅰ	30	2	1~						連携(情)	◎			
INFO114	微積分学Ⅱ	30	2	1~						連携(情)	◎			
ECON231	資本市場と証券投資	30	2	2~	▲					連携(営)	◎	○		
ECON232	簿記演習	30	2	2~	▲						◎			
ECON261	グローバル経済Ⅰ	30	2	2~			▲				○	◎		
ECON262	グローバル経済Ⅱ	30	2	2~			▲				○	◎		
ECON291	特殊講義A	60	4	1~										
ECON292	経済特論Ⅰ	30	2	1~										
ECON293	経済特論Ⅱ	30	2	1~										
ECON306	S-Cube演習	30	2	3・4	▲	▲	▲		x		◎			○
ECON323	データサイエンス活用演習	30	2	2~	▲	▲	▲				◎			

○選択必修科目 ▲コース選択必修科目 (無印)選択科目

※選択したコースの▲印を18単位以上修得すること。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

※備考の注1 オナース・プログラム(HOPE)学生のみ履修可。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目					
					データ	ポリシー	グローバル	SUC			1	2	3	4		
選択科目 38単位以上(つづき) ※選択したコースの▲印を18単位以上含むこと																
ECON324	統計学	60	4	3・4	▲							◎	○			
ECON333	会計学	60	4	3・4	▲							◎				
ECON341	日本経済論	60	4	2～		▲	▲					◎	◎			
ECON342	労働経済論	60	4	2～		▲						◎			○	
ECON343	環境経済論	60	4	2～		▲				連携(法・共)		◎		○	○	
ECON344	国際経済論	60	4	3・4		▲	▲					◎	○			
ECON345	公共経済論	60	4	3・4		▲						◎		○	○	
ECON346	農業経済論	60	4	3・4		▲						◎	○			
ECON347	行動経済学入門	30	2	2～	▲	▲						◎	○		○	
ECON348	原因と結果の経済学	30	2	2～	▲	▲						◎			○	
ECON349	国際開発協力論	30	2	3・4		▲	▲			連携(法)				○	◎	
ECON352	西洋経済史	60	4	2～		▲	▲			連携(人)		○	◎			
ECON353	経済学史	60	4	3・4		▲	▲					◎	○			
ECON354	現代経済史	60	4	3・4		▲	▲			連携(人)		○	◎			
ECON362	アジア経済論	30	2	3・4			▲					○	◎			
ECON363	ヨーロッパ経済論	30	2	3・4			▲					○	◎			
ECON364	アフリカ経済論	30	2	3・4			▲					○	◎			
ECON381	人間主義経済学	30	2	3・4	▲	▲	▲					○	○		◎	
ECON382	社会貢献と経済学	30	2	3・4	▲	▲	▲		x			○	○		◎	
ECON391	特殊講義B	60	4	2～												
ECON392	経済特論Ⅲ	30	2	2～												
ECON393	経済特論Ⅳ	30	2	2～												
ECON401	演習Ⅳ	30	2	4	▲	▲	▲	▲	x			○	◎	◎	◎	
ECON402	卒業論文研究	-	4	4					x						◎	
ECON403	Progressive Seminar IV	30	2	4	▲	▲	▲	▲	x			○	◎	◎	◎	
ECON404	Capstone Thesis	60	4	4					x						◎	
INFO452	オペレーションズリサーチ	30	2	2～						連携(情)		◎				
LAWP323	環境法	60	4	3・4						連携(営・法)						
LAWP326	社会保障政策論	30	2	3・4						連携(法)						
LAWP340	グローバル企業論	30	2	3・4						連携(法)						
BUSI441	国際経営論	60	4	3・4						連携(営)						
ECON491	特殊講義C	60	4	3・4												
ECON492	特殊講義D	60	4	3・4												
ECON493	経済特論V	30	2	3・4												
ECON494	経済特論VI	30	2	3・4												
ECON511	ミクロ経済学上級	60	4	3・4	▲	▲	▲					◎	○			
ECON512	マクロ経済学上級	60	4	3・4	▲	▲	▲					◎	○			
ECON521	計量経済学上級	60	4	3・4	▲	▲						◎	○			
ECON531	ファイナンス論	60	4	3・4	▲	▲						◎	○			
ECON174	Foreign Studies	30	2	1～	▲	▲	▲	▲	x		[制限外]	◎	○			
ECON273	International Economy and Business I	45	3	1～					x							
ECON274	International Economy and Business II	45	3	1～					x							
ECON275	International Economy and Business III	45	3	1～					x							
ECON276	World Economy I	30	2	2～				▲								
ECON277	World Economy II	30	2	2～				▲								
ECON278	World Economy A	60	4	2～				▲								
ECON279	World Economy B	60	4	2～				▲								
ECON294	International Internship A	120	4	1～				▲	x	[制限外]		◎	○			
ECON295	International Internship B	120	4	1～				▲	x	[制限外]		◎	○			
ECON325	Mathematics for Economics	60	4	2～	▲	▲		▲				◎	○			
ECON334	Principles of Finance	60	4	2～	▲	▲						◎	○			
ECON335	International Finance	30	2	2～	▲	▲	▲	▲				◎	○			
ECON336	Econometrics	60	4	2～	▲	▲	▲	▲				◎	○			
ECON355	Economic Issues of Contemporary Japan	30	2	2～		▲	▲	▲				○	◎			
ECON356	Economic Development of Japan I	30	2	2～		▲	▲	▲		連携(営・法)		○	◎			
ECON357	Economic Development of Japan II	30	2	2～		▲	▲	▲				○	◎			
ECON358	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2～		▲	▲	▲		連携(営・法)		○	◎			
ECON368	Chinese Economy	30	2	2～		▲	▲	▲				○	◎			
ECON369	Indian Economy	30	2	2～		▲	▲	▲				◎	○			
ECON372	Development and Environment	60	4	2～		▲	▲	▲		連携(営)		◎	○		○	

○選択必修科目 ▲コース選択必修科目 (無印)選択科目

※選択したコースの▲印を18単位以上修得すること。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース			他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
					データ	ポリシー	グローバル			SUC	1	2	3	4
選択科目 38単位以上(つづき) ※選択したコースの▲印を18単位以上含むこと														
LAWP234	International Relations	30	2	2~				▲	連携(法・営)					
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2~				▲	連携(法・営)					
LAWP232	Peace Studies	30	2	2~				▲	連携(営・法)					
LAWP233	Asian Studies in International Law Perspectives	30	2	2~				▲	連携(法)					
ECON376	Contemporary Economy and Business I	30	2	2~				▲						
ECON377	Contemporary Economy and Business II	30	2	2~				▲						
ECON378	Contemporary Economy and Business III	30	2	2~				▲						
ECON379	Contemporary Economy and Business IV	30	2	2~				▲						
ECON383	World Economy III	30	2	2~				▲						
ECON384	World Economy IV	30	2	2~				▲						
ECON385	World Economy V	30	2	2~				▲						
ECON386	World Economy VI	30	2	2~				▲						
ECON387	World Economy C	60	4	2~				▲						
ECON388	World Economy D	60	4	2~				▲						
ECON389	World Economy E	60	4	2~				▲						
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2~	▲	▲	▲		連携(営・法)	◎	○			
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	30	2	2~	▲	▲	▲		連携(営・法)	◎	○			
ECON398	International Economy and Business IV	45	3	2~				x						
ECON399	International Economy and Business V	45	3	2~				x						
BUSI221	International Context in Business	60	4	2~				▲	連携(法・営)					
BUSI222	Principles of Marketing	60	4	2~				▲	連携(法・営)					
BUSI224	Financial Management	60	4	2~				▲	連携(法・営)					
BUSI384	Business Ethics	30	2	3・4				▲	連携(営)					
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4				▲	連携(法・営)					
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4				▲	連携(法・営)					
LAWP341	Global Public Policy	30	2	3・4				▲	連携(法)					
INLA381	Development Economics	60	4	2~				▲	連携(法・国)					
INLA481	International Trade	60	4	2~				▲	連携(国)					
ECON481	World Economy VII	30	2	2~				▲						
ECON482	World Economy VIII	30	2	2~				▲						
ECON483	World Economy F	60	4	2~				▲						
ECON484	World Economy G	60	4	2~				▲						
オナーズ・プログラム(HOPE) ※オナーズ学生のみ履修可 ※専門選択科目の単位として算入されます														
ECON203	オナーズ・セミナーⅠ	30	2	1~				x	[制限外]	◎	○			
ECON204	オナーズ・セミナーⅡ	30	2	1~				x	[制限外]	◎	○			
ECON305	オナーズ・セミナーⅢ	30	2	2~				x	[制限外]	◎	○	○		
International Program ※専門選択科目の単位として算入されます														
ECON171	Introduction to Economic Reasoning	60	4	1~				x			◎	○		
ECON172	Global Economy Lecture	30	2	1~	▲	▲	▲	x		○	◎	○		
ECON271	Economics Lecture A	60	4	1~	▲	▲	▲	x		○	◎	○		
ECON272	Economics Lecture B	60	4	1~	▲	▲	▲	x		○	◎	○		
学部学科英語科目 ※この科目は「言語科目(英語)」の単位として取り扱われます														
International Programを履修する経済学部生のための英語科目														
ECON183	Academic Foundations for Economic Majors I	60	2	1~				x			◎	○		
ECON184	Academic Foundations for Economic Majors II	60	2	1~				x			◎	○		
ECON185	Global Economy Laboratory	60	2	1~				x			◎	○		
ECON186	TOEFL iBT Intensive I	30	1	1~				x	[制限外]	◎				
ECON187	TOEFL iBT Intensive II	30	1	1~				x	[制限外]	◎				
ECON282	Economics Laboratory A	60	2	1~				x			◎	○		
ECON283	Economics Laboratory B	60	2	1~				x			◎	○		
ECON181	Economics English Communication I	60	2	1~				x			◎			
ECON182	Economics English Communication II	60	2	1~				x			◎			
ECON281	Economics English Communication III	60	2	2~				x			◎			

○選択必修科目 ▲コース選択必修科目 (無印)選択科目

※選択したコースの▲印を18単位以上修得すること。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、経済学科生以外は履修出来ません。

1. 理念・目的

創価大学法学部は、創立者池田大作先生が示された建学の精神に立脚し、人間主義に基づく法学教育を通じて論理的な思考力と説明力を身につけ、現実の問題の解決を図ることにより、人類の幸福、社会の平和の実現に貢献できる人材を育成することを目的としています。

2. 教育目標

創価大学法学部は、以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 民衆の側に立ち、正義の実現のために行動する健全なリーガルマインドを身につけた人材を育成する。
- (2) 人権を尊重し、平和実現のためにたゆまず努力を続ける人材を世界に輩出する。
- (3) 人間主義を基調とした新たな法文化創造の担い手を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

法学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、以下の能力や学識の修得を求め、学位授与の要件を満たした学生に、学士（法学）を授与します。

(1) 幅広い知識と高度な専門性

わが国の法制度・政治制度の基礎となる価値観や基本原則を正確に理解しており、法律上又は政策上の問題に対して具体的で的確な判断ができる。

(2) 知識を社会に応用する力とコミュニケーション力

社会が直面する法律上又は政策上の課題がいかなる性質のものかを正確に特定・分析し、そしてその解決のためにはいかなる選択肢がありうるのかを見極め、課題解決の方法を考え出し、わかりやすく伝えることができる。

(3) 多様性を受容する力と他者との協働性

英語及び第2外国語を学修し、諸外国の様々な価値観や利害の異なる他者の多様な見解を理解するとともに、意見の異なる他者との議論を通じ、コンセンサスを得るための努力をすることができる。

(4) 統合する力と創造的思考力

身につけた知識を総合的に活用し、社会の中の新たな課題にそれらを適用し、創造的なアイデアを通してその課題を解決する方法を考えることができる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

法学部は、全学、および、本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、人類の幸福、社会の平和の実現に貢献できる人材を育成するために、以下の方針でカリキュラムを編成しています。

(1) 幅広い知識と高度な専門性

4年間の学士課程を通じて、全学共通科目により、法律学・政治学の枠を超えた幅広い知識を身につけるとともに、学部基本科目を設置し、憲法総論・統治機構論、憲法人権論、民法総則、物権法、刑法総論、政治学入門:専門、国際政治学入門、公共政策論の中から10単位以上を履修（選択必修科目）することにより、法学部生として修得すべき基本的な知識を身につけることができますようにします。

法学部は、「リーガル・プロフェッションコース」、「ビジネス法務コース」、「公共政策・行政コース」、「地球平和共生コース」の4コース制を採用し、法曹、企業人、公務員、外交官等のキャリアに必要な高度の専門性を身につけることができますようにします。また、法曹を目指す学生のために、文部科学省から法曹コースの認定を受けたグローバルロイヤーズプログラム（GLP）を設置し、1年次より法曹養成を目標としたカリキュラムを編成しています。

1年次は、必修科目の「法学の基礎とSDGs」により法律学の基礎及び法学部専門科目とSDGsとの関連を学び、「初年次セミナー」により法律上または政策上の課題に関する資料を収集し、それを読解して自ら考え、自身の意見を口頭および文章で表現する基礎力を身につけることができますようにします。1年次秋学

期においては、導入教育から専門教育への橋渡しを目的とした「テーマゼミ」を開講し、学生が専門科目を学ぶに当たって必要となる学問的態度を涵養します。

学生は2年次にコースを選択し、卒業時まで選択したコースの選択必修科目（コース科目）16単位以上を履修して、目指すキャリアに応じた幅広い知識と高度な専門性を養うことができるようにしています。

(2) 知識を社会に应用する力とコミュニケーション力

2年次以降の専門教育においては、講義科目により修得する高度な専門的知識を基礎として、知識を社会に应用する力やコミュニケーション力を身につけます。リーガル・プロフェッションコースでは、憲法等主要7科目の法務演習において事例問題や判例研究を通じて、現実の紛争の問題解決方法を検討し、実際の法の適用や諸制度の運用をめぐる課題に取り組み、応用力を養います。

また、他の各コースでは、「ビジネス&ロー・ワークショップⅠ～Ⅲ」（ビジネス法務コース）、「公共政策ワークショップA・B」（公共政策・行政コース）、「地球平和共生ワークショップ」（地球平和共生コース）において、設定した課題について学生がグループでリサーチし、解決策を考え、プレゼンテーションを行います。これらにより獲得した知識を総合的に活用し、社会の中の課題に適用して課題を解決する方法を考える創造的思考力を育てます。

さらに、「まちづくり八王子フィールドワーク」、「人間の安全保障フィールドワーク」、「地球平和共生フィールドワーク」では、現場の声を聞いて課題を発見し解決する方策を考える力を、各コースのインターンシップでは、実際の職務を学ぶことでより現実的な課題解決方法を考える力を身につけることができます。

これらに加えて、2年秋学期からの専門演習では、意見が対立する課題において、自分の意見の理由を論理的に説明し、多様な意見を調整することができるコミュニケーション力を涵養します。

これらの応用的な科目やグループでの共同作業を行う科目、アクティブラーニングを通じて、知識を社会に应用する力とコミュニケーション力を養います。

(3) 多様性を受容する力と他者との協働性

1、2年次において共通科目としての英語と第2外国語の履修および専門科目としての英語科目を履修することにより、外国の法制度や政治形態を学ぶ基礎的な語学力を身につけることができます。2年次以降においても、英語で行われる専門科目の履修により、語学力だけでなく、英語で専門分野を学修する力を養うと共に、多様な価値観や利害の異なる他者の見解を理解し、他者と議論することでコンセンサスを得るための努力をする協働性を身につけることができます。

あわせて、法学部独自の短期海外研修（「アジア公共経営スタディツアー」）、交換留学制度を設けて、より高度な語学力と専門力、そして国際性、多様性を受容する力と他者との協働性を身につける機会を提供します。

(4) 統合する力と創造的思考力

2、3年次における各種ワークショップ及びフィールドワークでは、設定した課題や現場の声を聞いて発見した課題についてグループでリサーチし、自ら解決策を考えます。これによって獲得した知識を統合する力と、社会の中の新たな課題に知識を適用し、創造的なアイデアを駆使してその課題を解決する創造的思考力を涵養することができます。

また、各コースのインターンシップでは、実際の職務を学ぶことにより、知識と経験を統合する力や創造的思考力を身につけることができます。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

法学部は、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ本学部の教育目標で示した人材へと成長する意欲と資質を備えた学生を以下のように選抜します。具体的には、

- (1) 自己のキャリア形成について強い意識をもち、将来、法曹、企業人、公務員、外交官などの職業を目指し、本学部での学習を希望すること。総合型選抜（PASCAL入試）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、総合型選抜入試（小論文方式）では、そのことを出願資格とし、「面接試験」においてもその意志を評価します。
- (2) 専門力と英語力を身につけて国際的に活躍するために、高等学校までの教育において到達目標とされる基礎学力を習得していること。総合型選抜（PASCAL入試）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、総合型選抜入試（小論文方式）、一般選抜の大学入学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試（以下一般選抜）、外国人入試では、そうした基礎学力、即ち、知識・技能、思考力、判断力等を評価します。
- (3) 基礎的な英語能力を有すること。

本学部の入試において英語能力を重視します。特に一般選抜のうち大学入学共通テスト利用入試、全学統一入試では英語の得点配分を他科目より高く設定します。また、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、一

般選抜では、実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を英語の点数として換算する措置を取ります。

- (4) 論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力を身につけ、主体性を持って多様な人々と協働していく資質と意欲を有すること。総合型選抜（PASCAL 入試）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、総合型選抜入試（小論文方式）においては「書類審査」と「面接試験」を実施し、高等学校等までの取り組みにおける主体性、協働性、学習意欲を評価します。また総合型選抜（PASCAL 入試）では「グループ・ディスカッション」により、論理的思考力、表現力、協働性等を評価します。総合型選抜入試（小論文方式）では、論理的思考力や表現力を評価します。一般選抜においては、主体性、協働性に関する高等学校等までの取り組みについて出願時に記入を求め、入学後の修学指導等に活用します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位
		学術文章作法	選択必修科目	2単位
	②大学科目		選択必修科目	4単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位
		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1	選択必修科目	6単位
	第2外国語	※2	選択必修科目	4単位
法律学科 専門科目 (P.90～92)	選択必修科目	演習Ⅰ～Ⅲまたは Special Seminar for Global Issues Ⅰ～Ⅲ※3(1)		6単位
		法学の基礎とSDGsまたは Introduction to Legal Studies ※3(2)		2単位
		学部基本科目(A群)※3(3)		10単位
	選択科目	50単位		
選択したコースの科目[▲印]を16単位含むこと。また、地球平和共生コースは指定された All English (AE) 科目から7単位以上含むこと。				
自由選択 ※4	『共通科目』『法律学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			30単位以上
合 計				124単位以上

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目（英語）」(P.56)又は学部学科英語科目(P.92)から6単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 法律学科の専門選択必修科目は、以下の通りそれぞれの領域から指定された単位数を修得してください。専門選択必修科目で卒業に必要な単位を超えて修得した場合は専門選択科目の単位として計算されます。
- (1) 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(日本語科目)または Special Seminar for Global Issues Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(英語科目)のどちらか一方の科目で6単位を修得してください。なお、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに加えて、専門選択科目として Special Seminar for Global Issues Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修することができます。
 - (2) 法学の基礎とSDGsまたは Introduction to Legal Studies のどちらかで2単位を修得してください。
 - (3) 学部基本科目(A群):「憲法総論・統治機構論」、「憲法人権論」、「民法総則」、「物権法」、「刑法総論」、「政治学入門:専門」、「国際政治学入門」、「公共政策論」の中から10単位以上を修得してください。
- ※4 自由選択とは『共通科目』『法律学科専門科目』『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
- ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『法律学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、

専門科目の選択科目を52単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を30単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■法学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	※学期毎の 上限単位数	学期毎の修得 下限単位数	直前セメスター のGPA数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準
20 単位	16 単位	3.50	4 単位	可	3.90	3.90	86

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たす必要があります。そして、卒業判定時（6セメ又は7セメ終了時）に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 法学部のキャリア・コース制

(1) コース選択の考え方

- ① 法学部のコースは、将来のキャリアに応じた設定になっています。リーガル・プロフェッションコース、ビジネス法務コース、公共政策・行政コース、地球平和共生コースごとに、将来目指すキャリアを明示しますので、キャリアの志望に応じて選択してください。ただし、地球平和共生コースには、履修科目・TOEIC等の点数の条件があります。
- ② 各コースには、2年春学期から所属することになりますので、1年次において志望するコースを決めてください。
- ③ 各コースにおいて指定されたコース科目を16単位以上修得しなければ卒業することができません。
- ④ 2年秋学期と3年春学期の2回、コースを変更することができます。ただし、地球平和共生コースへ変更する場合、履修科目・TOEIC等の点数の条件があります。コース変更前に修得した単位はそのまま専門科目の単位として扱われますが、変更後のコース科目を16単位以上修得しなければなりません。

(2) 法学部の4コース

① リーガル・プロフェッションコース

【目指す将来の進路】

- ・法科大学院へ進学し法曹（裁判官・検察官・弁護士）を目指す。
- ・司法書士の資格を取得し、庶民に寄り添う専門家として貢献する。
- ・裁判所事務官等の公務員（法律職）として貢献する。

【コースの目的】

このコースは、法律の専門的知識を身につけて社会生活の様々な場面で起こる法的紛争の解決に携わりたいと考える学生のためのコースです。法的紛争の解決には、物事を秩序立てて整理し、理解し、処理する能力が求められます。将来、法科大学院・大学院法学研究科への進学や、法律関係職で活躍したいと考える学生のために、法律学を基礎から体系的に学び、法律職に求められる「思考力」・「分析力」・「説得力」を身につけることを目的としています。

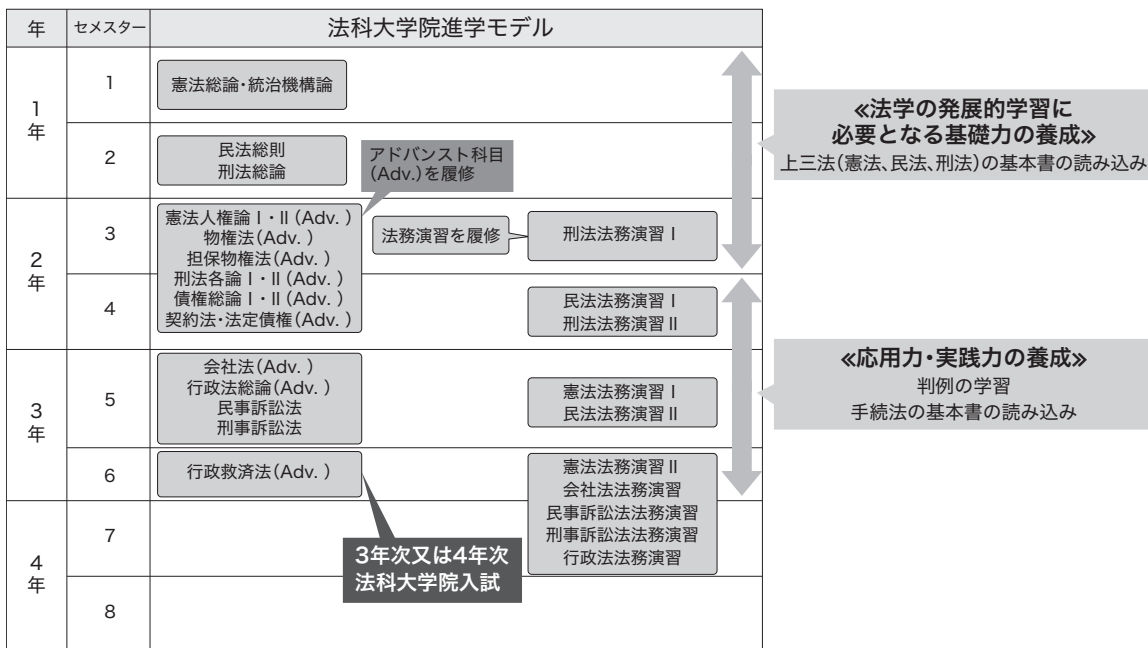
【コースの概要】

法律学の基本的な科目である憲法、民法、刑法、商法、行政法、民事訴訟法、刑事訴訟法の7科目を中心に基礎から体系的に学びます。特に、公法、民事法、刑事法のそれぞれの法領域で、各法制度がどのように関係し、正義の実現が図られているのかを理解し、体系的に整理された基礎知識を修得します。そのうえで、法務演習などで行われる事例問題、判例研究を通じて、現実の紛争に触れて解決方法を検討し、実際の法の適用や諸制度の運用をめぐる課題に取り組み応用力を養います。また、2年次秋学期から始まる専門演習（ゼ

ミ)などの少人数教育による双方向・多方向の学習を通じ、説得力をもって自分の考えを伝える力を身につけることを目指します。

【履修モデル】

リーガル・プロフェッション 法曹コース 履修モデル



② ビジネス法務コース

【目指す将来の進路】

- ・国内外の上場企業をはじめとする優良企業への就職
- ・不動産鑑定士・宅地建物取引士などの不動産のエキスパート
- ・税理士・公認会計士などの税務・財政管理運営のエキスパート
- ・新聞記者やテレビ・雑誌などで活躍するジャーナリスト

【コースの目的】

本コースは、主として企業内法務関連部門のエキスパートになり得ることを目指し、特に、①法的思考に基づく問題処理能力の涵養、②ビジネス・パーソンとしてのコンプライアンス意識の定着と向上、③ビジネス・パーソンとして身につけるべき法的及び経営学的な基礎的・専門的知識の修得に焦点を合わせます。そして、将来的に、例えば、ファイナンシャルプランナーやビジネス文書検定等の検定試験、また税理士、社会保険労務士、ビジネス実務法務検定1級等の資格を取得したいと希望する学生の手助けとなるカリキュラムを展開します。

【コースの概要】

本コースでは、特に4つの柱、①国内外の上場企業を早期段階から目指す学生のためのカリキュラム、②新聞記者やテレビ・雑誌などで活躍するジャーナリストを目指すカリキュラム(ジャーナリスト・プログラム、詳細は後記)、③主として税務・財政管理運営分野の専門知識を身につけて企業内又は自営で就労することを目指す学生のためのカリキュラム、④不動産・建設・金融関係の企業内や自営で就労することを旨とする学生のためのカリキュラムを展開します。

【履修のポイント】

第3セメスターは、ビジネス法務とは何か、社会に出て働くとはどういうことか、など、コース全体を俯瞰することを主たる目標とします。このため、例えば、「ビジネス&ロー・ワークショップⅠ」で、各種法律職の実務家や企業内法務担当者等を招いて、法律の知識が企業及び社会でどのように活用されているかを学びます。第4セメスターからは、ビジネス法務関連科目を本格的に受講することになります。さらに、例

例えば、「ビジネス&ロー・ワークショップⅡ」（野村証券との協同、経営学部との提携プログラム）では、単に法的な視点だけでなく、経営の視点を取り入れた授業を展開します。また、本学経営学部との連携による授業を開始し、適宜経営学部の授業を受講できるように配置します。経営学部からの提供科目には、「企業論」、「経営管理論」、「人的資源管理論」、「会計学」、「多国籍企業論」、「証券市場論」があります。こうした科目の協力を得て、ビジネスに即応する応用的な法的思考力を涵養します。

【履修モデル】

金融関係の就職を目指す学生の履修モデル 必要な資格：ファイナンシャルプランナー

年	セメスター	金融関係の就職を目指す具体的なステップ	
1年	1	法律基礎科目、英語の学習にも力を入れよう。 C:キャリア開発フォーラム	どのような職業があるのか調べて、 具体的にイメージできるようにしよう。
	2	●テーマゼミ(金融関連)・民法総則 C:キャリアデザイン基礎、法律基礎科目、英語の学習にも力を入れよう。	テーマゼミ(金融関連:松田ゼミ)を履修して金融への関心を高めよう。
2年	3	●ビジネス&ロー・ワークショップⅠ・物権法 C:ワールドビジネスフォーラム、B:人的資源管理論、B:会計学	産業各業態の法務担当者や実務家(社労士等)からビジネス法務の現実を幅広く学ぼう。
	4	●野村証券ワークショップ(ビジネス&ロー・ワークショップⅡ)・債権総論 C:トップが語る現代経営、B:経営管理論 ●ビジネス法務インターンシップ	課題解決型の授業でビジネスの実践的な力を身につけよう。
3年	5	●金融ワークショップ(ビジネス&ロー・ワークショップⅢ) B:証券市場論、B:多国籍企業論	金融に必要な具体的な法的資質や経営分析の手法を身につけよう。 債権各論、会社法、国際私法総論も受講しよう
	6	●ビジネス法務インターンシップ・親族相続法、国際私法各論 C:キャリアビジョンⅠ、B:企業論	金融機関にインターンシップに行き、金融実務の現場を確かめよう。
4年	7	エントリーシート、面接等指導	★ビジネス法務コース科目 30単位以上が卒業要件 C:キャリア教育科目、 B:経営連携科目
	8	就職先の決定 C:キャリアビジョンⅡ	

税務・会計の専門家を目指す学生の履修モデル

年	セメスター	税務・会計専門家を目指す具体的なステップ	
1年	1	●日商簿記3級受験	会計・税務と関連する授業
	2	●日商簿記2級受験	
2年	3	8月夏合宿 受験科目を決定	会計と法Ⅰ
	4	1月にも冬合宿	会計と法Ⅱ・演習Ⅰ
3年	5	8月税理士試験(簿記論、財務諸表論)受験	租税法・演習Ⅱ
	6	12月結果発表(会計科目合格)	演習Ⅲ
4年	7	8月税理士試験(税法科目受験)	演習Ⅳ
	8	12月に結果発表(税法科目合格) →大学院、留学、残りの科目の受験等	

法律

③ 公共政策・行政コース

【目指す将来の進路】

- ・地方公務員（都道府県庁・政令指定都市ほか）として、地域の経営に携わる。
- ・国家公務員として、特定の官庁で行政に携り、国の制度設計に携わる。
- ・労働基準監督官、家庭裁判所調査官、国税専門官などの国家公務員として貢献する。
- ・海外及び国内の公共政策大学院に進学する。

【コースの目的】

将来、国家公務員としてさまざまな官庁で国の将来に貢献したり、都道府県庁や政令指定都市、さらには地元の中核市・特例市ほかの市役所において、地方公務員として「まちづくり」のための地域経営に携わってみたいと考える学生のためのコースとなっています。

【コースの概要】

人に尽くす仕事、社会に貢献する仕事、そして未来をつくる仕事が、公共政策／行政のキャリアとしての魅力であり、近年、公務員の進路は大変に人気が高く、就職がとても厳しくなっています。合格するためには、種々の試験・選考を通過しなければなりません。本コースでは、採用試験に合格する力、すなわちいま行政の現場で求められている能力を体系的・系統的に、また効率的に学ぶためのカリキュラムが構成されています。

コース全体は、「理論系科目群」と「実践・フィールドワーク系科目群」で構成されています。学問の最先端の「理論」を学びながら、行政と公共政策の「実践」と結び付けていくことを狙いとしています。

また、本コースでは、「まちづくり」「社会保障」「環境」「グローバル連携」という4つの構成要素からなる複合領域として公共政策／行政を考えていきます。そうした学びが集約された一つのケーススタディーズとして、「八王子」という「まち」を取り上げます。

【履修のポイント】

2年次の初頭に進路仮決めを行い、第3セメスターで基幹科目の「公共政策論」を履修します。コース全体としては、「理論系科目群」と「実践系科目群」に分かれています。

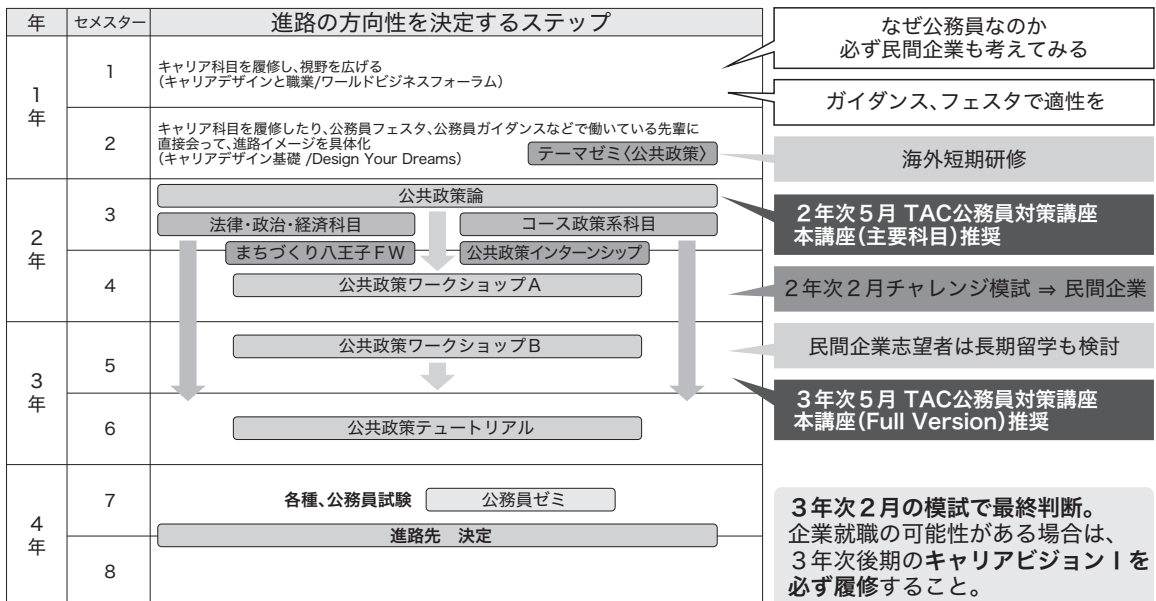
「理論系科目群」は、政治学、行政学などの基幹科目のほか、「まちづくり」、「環境」、「社会保障」、「グローバル協力」の4分野から構成されており、各分野の科目をそれぞれ配当されたセメスターにおいて選択的に履修をします。

「実践系科目群」は、2年次の「まちづくり八王子フィールドワーク」において、公共政策の現場を通して問題関心を涵養します。2年次秋学期からは、「公共政策ワークショップA」（第4セメスター）、「公共政策ワークショップB」（第5セメスター）、「公共政策チュートリアル」（第6セメスター）と一連の科目でセメスターごとにステップアップ方式で公共政策のキャリアを養成していきます。

また、2年次の夏休み、若しくは春休みに官庁の「公共政策インターンシップ」を経験することにより実践力を培います。

【履修モデル】

公共政策・行政コースの履修モデル



④ 地球平和共生コース

【目指す将来の進路】

- ・外交政策の企画・立案や外国政府との交渉等を通じて、国益の実現と国際社会の発展に寄与する外交官
- ・海外大学院への進学を経て国際機関、NGO等で活躍する人材
- ・グローバルビジネスの世界で活躍するビジネス・パーソン

【コースの目的】

「地球平和共生コース」は、平和問題に関する高い専門性と語学力を身につけ、国際社会で活躍・貢献したいと考える学生のためのコースです。

【コースの概要】

「地球平和共生コース」では、入学から卒業までの理論と実践の両面にわたるきめ細かなプログラムとチュートリアルによるサポートを通して、グローバル・キャリアの実現を目指します。

本コースでは、国際社会における「平和」を「人間」の視点からとらえ直し、すべての人が「恐怖」と「欠乏」から免れ、人間の尊厳と人権が保障される世界をどう構築すればよいのかについて学び考えます。そのためのキー・コンセプトとして「人間の安全保障」を掲げ、「平和」、「人権」、「環境」、「開発」の4つを軸とした国際関連諸科目についての専門的知識の修得をはかるとともに、「人間の安全保障論」（2年次春学期）、「地球平和共生ワークショップ」（2年次秋学期）、「人間の安全保障フィールドワーク」（2年次秋学期）、「地球平和共生チュートリアル」（3年次春学期）といった理論と実践を兼ね備えたコア科目群の履修を通して、地球的諸問題解決のためのグローバルな視野と地球市民としての人権感覚を磨いていきます。

そのために、TOEIC等の数値目標を設定し、ALL English (AE) 科目の修得、長期・短期の留学を通して、高い英語コミュニケーション能力を実現します。

【履修のポイント】

- I. 1年次に、本コース志望者のための特別英語対策クラスとして、“AF for Peace, Human Rights & Sustainability (AFPHR) I・II”、“AF for Study Abroad (AFSA) I・II”及び“AF Tutorial (AF Tutorial) I・II”を設けます。この科目を通して、「地球平和共生コース」希望者がコース選択要件に到達できるための英語力のアップをはかるとともに、留学先での授業、及びコース科目としてのAll English科目を受ける際に必要とされるスキルを磨きます。「地球平和共生コース」を考えている人、留学を考えている人は、これら“AF for Peace, Human Rights & Sustainability (AFPHR) I・II”、“AF for Study Abroad (AFSA) I・II”及び“Academic Foundations Tutorial (AF Tutorial) I・II”をセットで履修するようにしてください。

なお、AFPHR I、AFSA I及びAF Tutorial Iを履修するためには、原則として、入学時のCASECのスコアレポートに記載されるTOEIC目安点で400点（CASECでは500点に相当）、もしくは高校時に受けた英検で2級かTOEICで400点以上が求められます。ただし、夏休みまでにこれらの要件を満たせば、秋学期からAFPHR II、AFSA II、AF Tutorial IIを履修することができます。

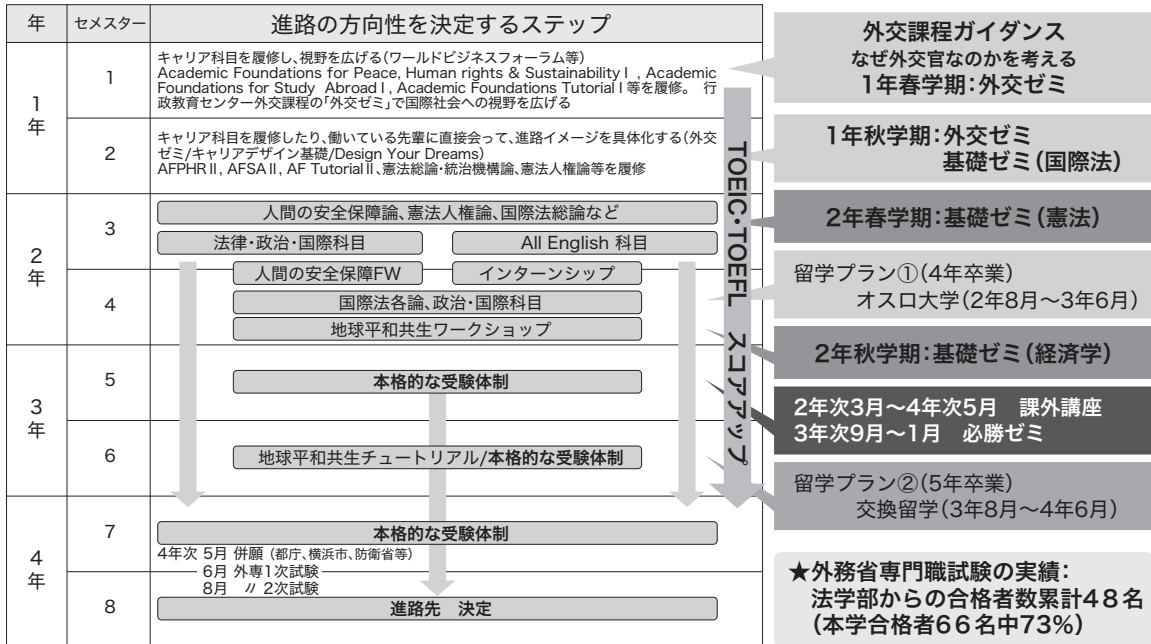
また、AFPHR I、AFSA I、AF Tutorial Iのクラス分けについては、春学期開始時に発表しますので、自分のクラスを確認の上、履修するようにしてください。

- II. 「地球平和共生コース」の履修要件は以下の通りです。
- 1年次にAF for Peace, Human Rights & Sustainability II (AFPHR II)、AF for Study Abroad II (AFSA II)、Academic Foundations Tutorial II (AF Tutorial II)を履修していること（ただし、GCPの学生は除きます）
 - 2年次の履修段階で、TOEIC600点（若しくはTOEFL-ITP503点、iBT62点、IELTS5.0）を取得していること

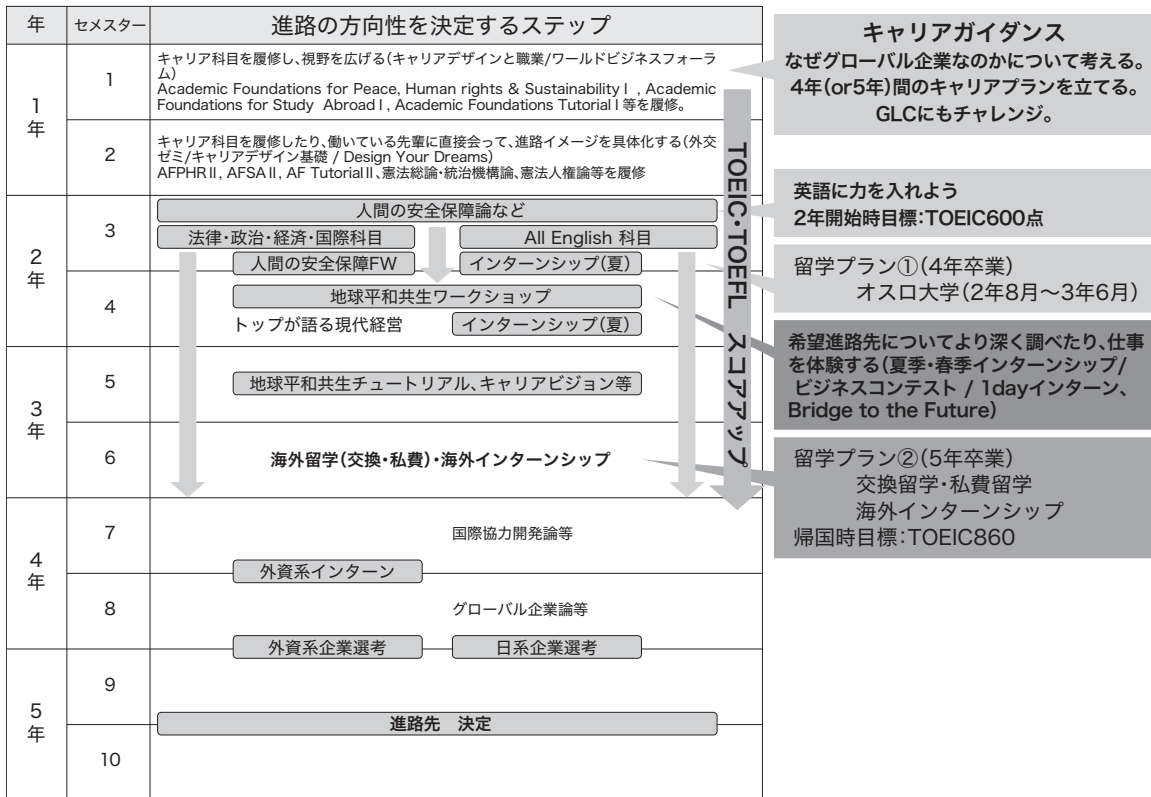
- ※1 ただし、AFPHR II、AFSA II、AF Tutorial IIを履修していなくても、コース選択の時点でTOEIC640点（若しくはTOEFL-ITP520点、iBT68点、IELTS5.0）のスコアがあればコース選択は可能です。
- ※2 また、2年次秋学期開始の時点でTOEIC730点、3年次春学期開始の時点でTOEIC800点あれば、他コースから「地球平和共生コース」へのコース変更は可能です。
- ※3 コースを修了するためには、▲コース科目16単位以上のなかに、AFPHR I、AFSA Iを除く、All English (AE) 科目から7単位以上を修得することが必要となります。
- ※4 2年次から「地球平和共生コース」を考えている学生は、平和問題を学ぶにあたって人権についての知識が基礎となりますので、1年次に「日本国憲法」（共通科目）、「憲法総論・統治機構論」、「憲法人権論」（専門科目）を履修し、憲法への理解を深めておくことを推奨します。

【履修モデル】

外交官志望者の履修モデル



グローバル企業・海外大学院・国連職員志望者の履修モデル



法律

9. 法学部のモジュール制

法学部では現在のコース制に加えて、コース横断的でテーマ・分野ごとに学びを深めるしくみとして、「モジュール」という制度を開設しています。

具体的には、①人権・自由、②エコノミーと法、③社会生活と法、④地方創生・まちづくり、⑤環境・サステナビリティ、⑥国際・外交、⑦アジア公共経営:基幹、⑧アジア公共経営:展開という分野（モジュール）を設定しています。

学生は掘り下げたいテーマ・分野を選択し、卒業までに複数のモジュールの学修を深めることができます。特定のモジュール内に属する10単位を履修すると1モジュール修了となります。

モジュールの科目履修は卒業要件ではありませんので、モジュールを活用した学修は自由選択となります。

モジュール

1 人権・自由	4	5	10	16	憲法総論・統治機構論、憲法人権論、政治学原論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、行政教済法、人間の安全保障論、国際人権法、地球市民社会論、メディア演習Ⅰ・Ⅱ、International Human Rights、Japanese Domestic Politics、Global Issues、憲法人権論Ⅰ（アドバンスト）、憲法人権論Ⅱ（アドバンスト）、刑法各論Ⅰ（アドバンスト）、刑法各論Ⅱ（アドバンスト）、行政教済法（アドバンスト）
2 エコノミーと法	1	9	10	12	商法、会社法概論、知的財産法、国際私法総論、国際私法各論、会計と法Ⅰ、会計と法Ⅱ、租税法、グローバル企業論、企業論、多国籍企業論、証券市場論、会計学、会社法（アドバンスト）
3 社会生活と法	3	5	8		労働法、社会保障法、社会保障政策論、民法総則・物権法・債権総論・債権各論、民事訴訟法、民事教済手続法、親族・相続法、消費者法、法社会学、人的資源管理論、物権法（アドバンスト）、担保物権法（アドバンスト）、債権総論Ⅰ（アドバンスト）、債権総論Ⅱ（アドバンスト）、契約法（アドバンスト）、法定債権（アドバンスト）
4 地方創生・まちづくり	7	11	17		行政法総論、行政学、公共政策論、環境法、社会分析スキル、地方自治論、地域コミュニティ論、地方政治論、地方自治論、まちづくり八王子フィールドワーク、行政法総論（アドバンスト）
5 環境・サステナビリティ	6	13	14	15	環境法、環境政治行政学、水法演習、平和学、惑星政治学、Environmental Law、International Environmental Policy、Peace Studies、環境経済論、環境マネジメント、現代文化人類学
6 国際・外交	10	16	17		国際法総論、国際法各論、国際機構論、国際政治学入門、国際関係史、日本政治外交史、International Relations、Security Studies、Area Studies in International Law Perspectives、Global Issues、Global Public Policy、Japanese Foreign and Security Policy、Border Politics、国際開発協力論
7 アジア公共経営:基幹	10	11	16	17	アジア公共経営入門、アジア公共経営スタディツアー（短期海外研修）、アジア公共経営特論（寄附講座）、アジア法、国際関係史、Asia Studies in International Law Perspective、International Relations、Japanese Foreign and Security Policy
8 アジア公共経営:展開	10	11	16	17	東南アジア研究、アジア都市協力論、国際開発協力論、グローバル企業論（アジア経営論）、日本政治外交史、法史学入門（日本法史）、日本政治思想史、Japanese Domestic Politics、Global Public Policy、Border Politics、Security Studies

10. 演習（ゼミ）・卒業研究の履修

(1) 演習の履修

- ① 演習（ゼミ）は定員制です。2年春学期に演習ガイダンスを行い、その後、学生が演習登録を行います。登録後、各ゼミにおいて選考があります。選考にもれた人は、他のゼミの第2次選考に回ってください。第3次選考まで行います。
- ② 演習Ⅰ（2年秋学期）・演習Ⅱ（3年春学期）・演習Ⅲ（3年秋学期）、またはSpecial Seminar for Global IssuesⅠ・Special Seminar for Global IssuesⅡ・Special Seminar for Global IssuesⅢは、各2単位の選択必修科目です。演習Ⅰ～Ⅲは、同じ教員となります（なお、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに加えて、専門選択科目としてSpecial Seminar for Global IssuesⅠ・Ⅱ・Ⅲを履修することができます）。
- ③ 演習Ⅳ（4年秋学期）は2単位の選択科目です。原則として、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで履修した教員となります。
- ④ 演習Ⅰを登録する時期に留学等で不在となる場合、事前に学部長・副学部長に相談してください。
- ⑤ ダブル・ディグリーコースの学生は、帰国後、学部長・副学部長と相談の上、4年次に演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修します。

(2) 卒業研究の履修

卒業研究（4年秋学期）は2単位の選択科目です。演習Ⅳを履修する教員のもとで卒業論文を書き、その教員が卒業研究の単位を認定します。演習Ⅳを履修しなければ、卒業研究を履修することはできません。卒業論文は、8,000字以上（400字原稿用紙20枚以上）が要件です。

1.1. Global Lawyers Program (法曹コース)

【目指す将来の進路】

弁護士、裁判官、検察官

【プログラムの目的】

Global Lawyers Program (以下「GLP」という)は、弁護士、裁判官、検察官のような法曹(法律家)を目指して、創価大学法科大学院(ロースクール)の既修者コース等に進学することに特化した教育プログラムです。国際的に活躍する法律家に求められる知識と能力を修得することによって、国際的視野に立つて鋭敏な人権感覚をもち、問題解決のために法を活かして行動できる法律家を育成します。

本プログラムは、2020年2月に文部科学省から「法曹コース(連携法曹基礎課程)」と認定されました。「法曹コース(連携法曹基礎課程)」とは、法科大学院と連携して法科大学院既修者コースの教育課程と一貫的に接続する体系的な教育課程を編成し、法曹志望者や法律の学修に関心を有する学生に対して、学部段階からより効果的な教育を行うものです。したがって、GLPは、「法曹コース」として本学法科大学院と連携して、法曹教育を一貫的かつ体系的に行うプログラムです。

【GLPのカリキュラム・ポリシー】

GLPでは、本学法科大学院における教育と円滑に接続するよう体系的かつ段階的にカリキュラムを編成しています。法律を学ぶための基礎力を養う演習科目を1・2年次に配置し、分析力、論理力、法的思考力および表現力を高めます。法律基本科目の講義によって法律主要7科目の基本的知識と体系的な理解を修得するとともに、2年次以降には法理論と実務の架橋として主要法律の法務演習を配置し、法を使う能力を養成します。さらに、プログラムを通じて各セメスターに配当されるGLPチュートリアルでは、学びの進捗状況、早期卒業希望者に対する勉学の習熟度等に関する個人指導を通じて、自己管理能力、強靱な精神力等の法曹になるための資質を養います。

【プログラムの概要】

GLPでは、1セメスターの開始前に学生を選考する1年次選考と、3セメスターの前に選考する2年次選考によって、合計25名程度の学生を選抜します。

本プログラムは、法律家に必要な基礎的能力を修得するために、1セメスターに初年次セミナーを、2・3セメスターにはGLPゼミⅠ・Ⅱを配当し、論理力、分析力、文章力および法的思考力を養成します。GLPインターンシップでは、実務のキャリアを意識づけます。また、GLP English A・Bでは英語力を高めるとともに、地球規模の問題群について法的観点から学ぶことによって、グローバルな視野を培います。語学力を強化したい学生は、より実践的に英語力を磨き、国際的な人権感覚を身につけることができます。

3セメスター以降は、実務家等が担当する各種の法務演習で実践的な法の使い方を学び、演習Ⅰ～Ⅳでは専門分野の法解釈力を修得します。これらの科目を有機的に関連させながら、法曹としての総合力を高めていけるように、4年間にわたるGLPチュートリアルⅠ～Ⅷを通じて、きめ細やかに学びをサポートする教育体制を整えています。

【5年一貫教育(3年早期卒業+本学法科大学院2年)】

法学部を3年で早期卒業し本学法科大学院既修者コースに進学することにより、学部入学から5年目に司法試験を受験することができます。

本プログラムの学生が早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、通算GPA3.90と修得単位数86単位を満たし、かつ、卒業判定時である6セメスター終了時に、通算GPA3.90を満たしたうえで、本プログラムの必修単位60単位および選択必修単位20単位以上の修了要件を含む卒業基準単位数124単位を修得していることが必要となります。

【2年次選考(1年生対象)】

GLPに所属していない1年生で法曹を目指す学生を対象に、3セメスター開始前に若干名の選抜試験を行います。2年次選考の合格者は3セメスターからGLP2年生として合流することになります。

2年次選考でGLPに入った学生は、1年次に配当されているGLP必修科目の履修にもれがないように十分に留意してください。1年次の必修科目を履修していない場合は、2年次以降に履修しなければGLPを修了することができません。

【GLP修了要件】

GLPの修了に必要な要件は、次の通りです。

- (1) 単位数 80単位 (GLP必修科目60単位、GLP選択必修科目の中から20単位以上)
- (2) 通算GPA 2.7以上

【GLP 科目一覧】

学年	学期	GLP必修科目(60単位)		GLP選択必修科目(20単位以上)		GLP選択科目	
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
1年	春学期	憲法総論・統治機構論	4	GLP English A	1		
				GLPチュートリアルⅠ	1		
	秋学期	民法総則	4	GLPゼミⅠ	2	GLPインターンシップA	2
		刑法総論	4	GLP English B	1		
				GLPチュートリアルⅡ	1		
2年	春学期	憲法人権論Ⅰ(アドバンスト)	2	刑法法務演習Ⅰ	2	GLPインターンシップB	2
		物権法(アドバンスト)	2				
		担保物権法(アドバンスト)	2				
		債権総論Ⅰ(アドバンスト)	2				
		刑法各論Ⅰ(アドバンスト)	2				
		GLPゼミⅡ	2				
		商法	2				
			GLPチュートリアルⅢ	1			
	秋学期	憲法人権論Ⅱ(アドバンスト)	2	刑法法務演習Ⅱ	2		
		債権総論Ⅱ(アドバンスト)	2	民法法務演習Ⅰ	2		
		契約法(アドバンスト)	2				
		法定債権(アドバンスト)	2				
		刑法各論Ⅱ(アドバンスト)	2				
		親族・相続法	4				
GLPチュートリアルⅣ		1					
3年	春学期	会社法(アドバンスト)	4	民法法務演習Ⅱ	2	労働法	4
		行政法総論(アドバンスト)	2	憲法法務演習Ⅰ	2	知的財産法	4
		民事訴訟法	4	GLPチュートリアルⅦ	1		
		刑事訴訟法	4				
		GLPチュートリアルⅤ	1				
	秋学期	行政救済法(アドバンスト)	2	憲法法務演習Ⅱ	2	民事救済手続法	4
		GLPチュートリアルⅥ	1	会社法法務演習	2	環境法	4
				民事訴訟法法務演習	2		
				刑事訴訟法法務演習	2		
				行政法法務演習	2		
				GLPチュートリアルⅧ	1		
合計		60		28		20	

* GLP 必修科目は 60 単位、GLP 選択必修科目は 20 単位以上修得してください。

* GLP English A, B、GLP チュートリアルⅠ～Ⅷ、GLP インターンシップ A, B は、履修制限除外科目です。

* 成績優秀者となった場合は、履修制限が 20 単位から 24 単位に緩和されます。

【本学法科大学院への特別選抜】

(1) 一貫型選抜 (早期卒業および4年卒業の双方が対象)

一貫型選抜は、法律科目試験を課さず、書類審査および面接審査によって合否判定が行われます。

出願資格は、入学試験受験年度3月末日までに法学部を卒業し、かつ本プログラムを修了する見込みの者であって、出願時の通算 GPA が 3.8 以上 (早期卒業希望者は 3.9 以上) の学生です。

(2) 開放型選抜

開放型選抜では、書類審査、面接審査および法律科目試験によって、合否判定が行われます。本選抜においては、書類審査中、とくに学部および本プログラムの成績が重視されます。同選抜は、入学試験受験年度3月末日までに法学部を卒業し、かつ本プログラムを修了する見込みの学生が対象となります。

12. ジャーナリスト・プログラム

「ジャーナリスト・プログラム」は、卒業後の進路としてジャーナリストを目指す学生が、基礎的・発展的な能力を身につけられるよう設計されています。

具体的には、1年次で「法学」「憲法総論・統治機構論」「民法総則」「憲法人権論」といった法律の基本科目を学ぶかわら、「共通総合演習A」「共通総合演習B」(プログラムでは「メディア・ゼミⅠ」「メディア・ゼミⅡ」と呼称しています)においてマス・メディアの現場の実状や問題点について学びます。その後、2年次から「行政法総論」「労働法」などの専門科目を学修するとともに、「メディア演習Ⅰ」「メディア演習Ⅱ」(プログラムでは「メディア・ゼミⅢ」「メディア・ゼミⅣ」と呼称しています)「演習(専門ゼミ)」などにおいてジャーナリストの基本となる表現力、取材力などを養成していきます。3年次では、「メディア演習Ⅲ」

「メディア演習Ⅳ」（プログラムでは「メディア・ゼミⅤ」「メディア・ゼミⅥ」と呼称しています）、共通科目の「現代マスコミ論」のほか、他学部専門科目の「マクロ経済学」「ジャーナリズムの社会学」といった法学部以外の授業も履修し、知識・見識の幅を広げていきます。それ以降は、さまざまな選択科目などを学びつつ、マス・メディアへの入社を目指し、実戦力に磨きをかけます。海外の特派員を志望する学生は、国際関係のさまざまな授業、長期・短期の留学を通じて問題意識を深めていきます（推奨する科目については、ガイダンス等で説明します）。

プログラムの担当として、ジャーナリストとしての実務経験を持つ専任教員が指導に当たります。少人数教育を実施する予定ですので、きめ細やかなサポートが期待できます。

【目指す将来の進路】

ジャーナリスト（新聞社・通信社の記者、テレビ局の記者・ディレクター、出版社の編集者など）

【プログラムの目的】

卒業後の進路としてジャーナリストを目指す学生が、基礎的・発展的な能力を身につけられるよう設計する

【コース制との関係】

基本的に「ビジネス法務コース」を選択（他コース希望者は要相談）

【定員】 15名程度

13. 法学部独自の英語・留学プログラム

(1) 法学部の PHR 英語プログラム

法学部の Peace & Human Rights 英語プログラムは、国際的な平和問題、人権問題、環境問題について法と政策の視点から英語で学ぶプログラムです。単に一般的な英語を学ぶのではなく、より専門的な英語によるリーディング、ディスカッション、プレゼンテーション、ライティング能力を身につけて、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指しています。

法学部の英語による科目のうち、1年次の AF for Peace・Human Rights & Sustainability (AFPHR) I・II、AF for Study Abroad (AFSA) I・II 及び AF Tutorial I・II の授業は TOEIC400 点以上のスコアが履修条件になります (AFPHR I、AFSA I 及び AF Tutorial I を履修するためには、原則として、入学時の CASEC のスコアレポートに記載される TOEIC 目安点で 400 点 (CASEC では 500 点に相当)、もしくは高校時に受けた英検で 2 級か TOEIC で 400 点以上が求められます)。また、AFPHR I・II、AFSA I・II 及び AF Tutorial I・II をセットで履修するようにしてください。

(2) 交換留学プログラム (①ノルウェー王国オスロ大学、②英国ウォーリック大学)

本プログラムは、法学部独自の交換留学プログラム (長期) です。交換留学ですので、学費はかかりません。

①ノルウェー王国オスロ大学

オスロ大学では、英語、法律、政治、経済などを選択して学ぶことができます。留学先で取得した単位は、本学の専門科目への読み替えが可能な科目について、本学の単位として認定することができます。

【定員】 2名

【基準】 TOEFL iBT 71 (申込時点で必要)

【期間】 2年次又は3年次の8月から3年次又は4年次の6月まで

②英国ウォーリック大学

ウォーリック大学では、政治、国際関係、公共政策など専門性の高い科目を選択して学ぶことができます。留学先で取得した単位は、本学の専門科目への読み替えが可能な科目について、本学の単位として認定することができます。

【定員】 2名

【基準】 以下のいずれかのスコア満たすこと (スコアは出願時点で必要)

① IELTS 6.5 (各コンポーネントスコア 6.0 以上)

② Pearson PTE 69 (各コンポーネントスコア 59 点以上)

③ TOEFL iBT 92 (リーディング 22 点以上、リスニング 21 点以上、スピーキング 23 点以上、ライティング 21 点以上)

④ Cambridge English Advanced (C1 Advanced) 180 (どのスコアも 170 点未満でないこと)

⑤ Cambridge English Proficiency (C2 Proficiency) 180 (どのスコアも 170 点未満でないこと)

【期間】 2年次又は3年次の9月から3年次又は4年次の6月まで

(3) ダブル・ディグリープログラム（英国バッキンガム大学）

本プログラムでは、1・4年次を創価大学法学部で学び、2・3年次をイギリス、ロンドン郊外のバッキンガム大学法学部又は人文学部国際政治経済学科で学びます。4年で卒業後、創価大学とバッキンガム大学の2つの学士号を取得することができます。

【定員】 1～3名

【基準】 IELTS6.5以上（IELTSのスコアは1年次9月の時点で必要）

【期間】 1年次の1月から3年次の12月まで

(4) 長期留学プログラム（英国バッキンガム大学）

本プログラムは、法学部独自の長期留学プログラムです。バッキンガム大学では、総合教養学科で英語、法律、政治、経済などを学びます。留学先で取得した単位は本学の単位として認定することができます。

【定員】 5名

【基準】 1年次留学 IELTS for UKVI 5.5以上（IELTSのスコアは1年次9月の時点で必要）

2年次留学 IELTS for UKVI 6.0以上（IELTSのスコアは2年次9月の時点で必要）

【期間】 1年次又は2年次の1月から2年次又は3年次の9月まで

(5) アジア公共経営スタディツアー

アジア諸国・地域にて実施する法学部独自の短期研修です。夏季（又は春季）休暇中の短期間、現代アジアの諸問題への関心を深めるとともに、アジア公共経営に関する内容を現地で学びます。

【定員】 20名程度

【基準】 「アジア公共経営入門」を履修済みであること。

募集人数を超える場合には成績（TOEICスコアを含む）、志望動機等を踏まえ選抜します。

【期間】 夏季（又は春季）休暇中の1週間程度。

（但し、諸般の事情により実施できない場合があります。）

14. 「インターンシップ」、「ボランティア」

国内若しくは海外において、インターンシップ又はボランティアを経験し、実社会におけるスキルやコミュニケーション能力などを養い、キャリア形成を促進することを目的とします。

法学部では、以下の通り、インターンシップ又はボランティアに関する科目を開設しています。

- ・GLPインターンシップA、GLPインターンシップB（GLP生のみ履修可）
- ・ビジネス法務インターンシップA、ビジネス法務インターンシップB
- ・公共政策インターンシップA、公共政策インターンシップB
- ・地球平和共生インターンシップA、地球平和共生インターンシップB
- ・地球平和共生ボランティアA、地球平和共生ボランティアB

これらの科目での単位修得を希望する場合は、それぞれの科目のシラバスをよく読み、以下の記載に沿って必要な手続きを行ってください。なお、これらの科目は履修制限の対象外で、PF評価により評価が行われます。

【履修登録の時期】

インターンシップ、ボランティア終了直後の学期に履修登録を行ってください。

【実習の進め方】

- (1) 実習先は、自身でよく調べたうえで決めてください。
- (2) 実習に応募する前に法学部の科目担当教員にご相談ください。
- (3) 実習終了後、2週間以内に必要書類をそろえて、法学部の科目担当教員に提出してください。
- (4) 詳細については、科目担当教員にお問い合わせください。

■法学部 法律学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考	ラーニング・ アウトカムズ 該当項目					
					プロ	ビジ	公共	平和			1	2	3	4		
選択必修科目 1科目2単位																
LAWP201	演習Ⅰ	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
LAWP261	Special Seminar for Global Issues I	30	2	2~	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
選択必修科目 1科目2単位																
LAWP301	演習Ⅱ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
LAWP360	Special Seminar for Global Issues II	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
選択必修科目 1科目2単位																
LAWP302	演習Ⅲ	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
LAWP361	Special Seminar for Global Issues III	30	2	3・4	○	○	○	○	x		○	○	○	○		
選択必修科目 1科目2単位																
LAWP101	法学の基礎とSDG s	30	2	1~	○	○	○	○	x		○					
LAWP102	Introduction to Legal Studies	30	2	1~	○	○	○	▲	x	連携(営)	○					
学部基本科目・選択必修(A群) 10単位																
LAWP103	憲法総論・統治機構論	60	4	1~							○	○				
LAWP104	民法総則	60	4	1~							○	○				
LAWP105	政治学入門:専門	30	2	1~							○			○		
LAWP106	刑法総論	60	4	1~							○	○				
LAWP107	憲法人権論	60	4	1~							○	○				
LAWP108	国際政治学入門	30	2	1~							○			○		
LAWP204	物権法	60	4	2~							○	○		○		
LAWP215	公共政策論	30	2	2~							○	○		○		
学部基本科目・選択必修(B群 EMP生) 10単位																
LAWP231	Global Issues	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP232	Peace Studies	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP234	International Relations	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP237	Security Studies	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP238	Japanese Domestic Politics	30	2	2~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP262	Japanese Foreign and Security Policy	30	2	3~					▲(AE)		○	○		○		
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4					▲(AE)		○	○		○		
選択科目 50単位以上																
LAWP109	法学部生のための論理	30	2	1~						連携(人)				○		
LAWP112	特殊講義Ⅰ	30	2	1~										○		
LAWP113	特殊講義Ⅱ	30	2	1~										○		
LAWP116	Academic Foundations Tutorial I	30	1	1~					▲	x	[制限外]			○		
LAWP117	Academic Foundations Tutorial II	30	1	1~					▲	x	[制限外]			○		
LAWP114	AF for Peace・Human Rights & Sustainability I	60	2	1~					▲	x				○		
LAWP115	AF for Peace・Human Rights & Sustainability II	60	2	1~					▲(AE)	x				○		
LAWP118	Special Topics of Law and Politics A	30	2	1~										○		
LAWP119	Special Topics of Law and Politics B	30	2	1~										○		
LAWP121	地球平和共生インターンシップ A	60	2	1~					▲	x	[制限外]			○		
LAWP122	公共政策インターンシップ A	60	2	1~					▲	x	[制限外]			○		
LAWP125	テーマゼミ	30	2	1~							○	○		○		
LAWP133	AF for Study Abroad I	30	1	1~					▲	x				○		
LAWP134	AF for Study Abroad II	30	1	1~					▲(AE)	x				○		
LAWP135	ファイナンシャルプランナー入門Ⅰ	30	2	1~							○	○		○		
LAWP136	ファイナンシャルプランナー入門Ⅱ	30	2	1~							○	○		○		
LAWP137	法学の基礎知識-理解と応用	30	2	1~							○	○		○		
LAWP203	刑法各論	60	4	2~							○	○		○		
LAWP205	債権総論	60	4	2~							○	○		○		
LAWP304	親族・相続法	60	4	2~							○	○		○		
LAWP206	行政法総論	60	4	2~							○	○		○		
LAWP207	行政救済法	60	4	2~							○	○		○		
LAWP208	民法法務演習Ⅰ(総則・物権)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP254	刑法法務演習Ⅰ(刑法総論)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP263	刑法法務演習Ⅱ(刑法各論)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP413	憲法人権論Ⅰ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP414	憲法人権論Ⅱ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP415	物権法(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP416	担保物権法(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP417	債権総論Ⅰ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP418	債権総論Ⅱ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP419	刑法各論Ⅰ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP420	刑法各論Ⅱ(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP421	契約法(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP422	法定債権(アドバンスト)	30	2	2~						x	○	○		○		
LAWP209	ビジネス&ローワークショップⅠ	30	2	2~							○	○		○		
LAWP210	会計と法Ⅰ	30	2	2~							○	○		○		
LAWP211	会計と法Ⅱ	30	2	2~							○	○		○		
LAWP213	商法	30	2	2~							○	○		○		
LAWP214	労働法	60	4	2~							○	○		○		
LAWP264	データサイエンス実習	30	2	2~							○	○		○		
LAWP258	メディア演習Ⅰ	30	2	2~										○		
LAWP259	メディア演習Ⅱ	30	2	2~										○		
LAWP266	行政学	30	2	2~							○	○		○		
LAWP216	公共経済論:法	60	4	2~							○	○		○		
LAWP218	まちづくり八王子フィールドワーク	30	2	2~							○	○		○		

◎選択必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を16単位以上含むこと

※地球平和共生コースはAll English科目(AE)を7単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考	ラーニング・ アウトカムズ 該当項目			
					プロ	ビジ	公共	平和			1	2	3	4
選択科目	50単位以上 (つづき)													
LAWP220	政治学史	30	2	2~			▲	▲		連携(人)	◎	○		
LAWP267	政治学原論	60	4	2~			▲				◎	○		
LAWP268	地方自治論	30	2	2~			▲				◎	○		
LAWP222	公共政策ワークショップA	30	2	2~			▲		x		◎	○		
LAWP217	社会分析スキル: データサイエンス演習	30	2	2~			▲	▲			◎	○		
LAWP223	国際法総論	60	4	2~		▲		▲			◎	○		
LAWP224	国際法各論	60	4	2~				▲			◎	○		
LAWP225	惑星政治学	30	2	2~				▲			◎	○		
LAWP226	国際人権法	30	2	2~				▲			◎	○		
LAWP227	国際関係史	30	2	2~				▲		連携(人)	◎	○		
LAWP228	人間の安全保障論	30	2	2~				▲			◎	○		
LAWP229	地球平和共生ワークショップ	30	2	2~				▲	x	注1	◎	○		
LAWP230	人間の安全保障フィールドワーク	30	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP269	地球平和共生フィールドワーク	30	2	2~				▲	x	(制限外)21年度生まで適応適用	◎	○		
LAWP241	平和学	30	2	2~				▲			◎	○		
LAWP233	Asian Studies in International Law Perspectives	30	2	2~				▲(AE)		連携(済)	◎	○		
LAWP236	Border Politics	30	2	2~				▲(AE)			◎	○		
LAWP239	American Politics	30	2	2~				▲(AE)			◎	○		
LAWP240	英米法	30	2	2~							◎	○		
LAWP242	法哲学	30	2	2~						連携(人)	◎	○		
LAWP243	法史学入門(西洋法史)	30	2	2~						連携(人)	◎	○		
LAWP244	特殊講義Ⅲ	30	2	2~							◎	○		
LAWP245	特殊講義Ⅳ	30	2	2~							◎	○		
LAWP246	Special Topics of Law and Politics C	30	2	2~							◎	○		
LAWP247	Special Topics of Law and Politics D	30	2	2~							◎	○		
LAWP248	Peace-Human Rights & Sustainability Internship A	60	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP249	Peace-Human Rights & Sustainability Internship B	60	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP250	地球平和共生インターンシップB	60	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP251	公共政策インターンシップB	60	2	2~			▲		x	[制限外]	◎	○		
LAWP252	地球平和共生ボランティアA	60	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP253	地球平和共生ボランティアB	60	2	2~				▲	x	[制限外]	◎	○		
LAWP270	アジア公共経営特論	30	2	2~							◎	○		
LAWP271	アジア公共経営入門	30	2	2~							◎	○		
LAWP272	アジア公共経営スタディツアー	30	2	2~					x	[制限外]	◎	○		
LAWP303	債権各論	60	4	3,4		▲	▲				◎	○		
LAWP305	民事訴訟法	60	4	3,4		▲	▲				◎	○		
LAWP306	民事救済手続法	60	4	3,4		▲	▲				◎	○		
LAWP307	刑事訴訟法	60	4	3,4		▲	▲				◎	○		
LAWP312	憲法法務演習Ⅰ	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP313	憲法法務演習Ⅱ	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP314	民法法務演習Ⅱ(債権)	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP423	会社法(アドバンスト)	60	4	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP424	行政法総論(アドバンスト)	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP425	行政救済法(アドバンスト)	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP401	行政法法務演習	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP402	会社法法務演習	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP403	民事訴訟法法務演習	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP404	刑事訴訟法法務演習	30	2	3,4		▲	▲		x		◎	○		
LAWP309	会社法概論	30	2	3,4		▲					◎	○		
LAWP315	社会保障法	60	4	3,4		▲	▲			連携(営)	◎	○		
LAWP316	知的財産法	60	4	3,4		▲	▲			連携(営)	◎	○		
LAWP317	租税法	60	4	3,4		▲	▲			連携(営)	◎	○		
LAWP318	消費者法	30	2	3,4		▲	▲			連携(営)	◎	○		
LAWP320	ビジネス法務インターンシップA	60	2	3,4		▲	▲		x	[制限外]	◎	○		
LAWP321	ビジネス法務インターンシップB	60	2	3,4		▲	▲		x	[制限外]	◎	○		
LAWP363	メディア演習Ⅲ	30	2	3,4		▲					◎	○		
LAWP364	メディア演習Ⅳ	30	2	3,4		▲					◎	○		
LAWP323	環境法	60	4	3,4			▲	▲		連携(済・営)	◎	○		
LAWP324	地方政治論	30	2	3,4			▲	▲		連携(営)	◎	○		
LAWP325	地域コミュニティ論	30	2	3,4			▲	▲		連携(人)	◎	○		
LAWP326	社会保障政策論	30	2	3,4			▲	▲		連携(済)	◎	○		
LAWP327	環境政治行政学	30	2	3,4			▲	▲			◎	○		
LAWP328	アジア都市協力論	30	2	3,4			▲	▲			◎	○		
LAWP365	東南アジア研究	30	2	3,4							◎	○		
LAWP329	公共政策チュートリアル	30	2	3,4			▲	▲	x		◎	○		
LAWP330	公共政策ワークショップB	30	2	3,4			▲	▲	x		◎	○		
LAWP331	公共政策ボランティア	60	2	3,4			▲	▲		[制限外]	◎	○		
LAWP332	国際私法総論	30	2	3,4		▲		▲			◎	○		
LAWP333	国際私法各論	30	2	3,4		▲		▲			◎	○		
LAWP334	国際機構論	30	2	3,4				▲			◎	○		
LAWP335	E U法	30	2	3,4				▲			◎	○		
LAWP336	日本政治外交史	30	2	3,4			▲	▲		連携(人)	◎	○		
LAWP339	地球市民社会論	30	2	3,4			▲	▲			◎	○		
LAWP340	グローバル企業論	30	2	3,4				▲		連携(済)	◎	○		
LAWP341	Global Public Policy	30	2	3,4				▲(AE)		連携(済)	◎	○		

◎選択必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目

※選択したコースの指定科目(▲印)を16単位以上含むこと

※地球平和共生コースはAll English科目(AE)を7単位以上含むこと。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。

※備考の注1 「地球平和共生ワークショップ」は地球平和共生コースの学生のみ履修可。

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	コース				他学科 履修	備考	ラーニング・ アウトカムズ 該当項目									
					プロ	ビジ	公共	平和			1	2	3	4						
選択科目	50単位以上 (つづき)																			
LAWP344	地球平和共生チュートリアル	30	2	3・4				▲	x			○	○	○	○					
LAWP346	法思想史	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP347	法社会学	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP348	法史学(日本法史)	30	2	3・4						連携(人)		○	○	○	○					
LAWP349	アジア法	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP350	日本政治思想史	30	2	3・4			▲			連携(人)		○	○	○	○					
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4						連携(済・営)		○	○	○	○					
LAWP353	水法演習	30	2	3・4				▲				○	○	○	○					
LAWP354	特殊講義V	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP355	特殊講義VI	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP356	Special Topics of Law and Politics E	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP357	Special Topics of Law and Politics F	30	2	3・4								○	○	○	○					
LAWP407	特殊講義VII	30	2	4								○	○	○	○					
LAWP408	特殊講義VIII	30	2	4								○	○	○	○					
LAWP409	演習IV	30	2	4					x			○	○	○	○					
LAWP410	卒業研究	-	2	4					x			○	○	○	○					
BUSI114	経営管理論	60	4	1~		▲				注2										
BUSI216	人的資源管理論	60	4	2~		▲				連携(営)										
BUSI214	会計学	60	4	2~		▲				連携(営)										
BUSI214	会計学	60	4	2~		▲				連携(営)										
BUSI354	証券市場論	60	4	3・4		▲				連携(営)										
BUSI443	多国籍企業論	60	4	3・4		▲				連携(営)										
BUSI341	企業論	60	4	3・4		▲				連携(営)										
BUSI222	Principles of Marketing	60	4	2~		▲		▲		連携(済・営)										
BUSI253	ビジネス&ローワークショップⅡ	30	2	2~		▲			x			○	○	○	○					
BUSI224	Financial Management	60	4	2~		▲				連携(済・営)										
BUSI221	International Context in Business	60	4	2~		▲				連携(済・営)										
BUSI385	Environmental Management Issues	30	2	3・4		▲				連携(営)										
BUSI348	環境マネジメント	30	2	3・4		▲				連携(営)										
BUSI359	ビジネス&ローワークショップⅢ	30	2	3・4		▲			x			○	○	○	○					
ECON343	環境経済論	60	4	2~		▲		▲		連携(済・共)										
ECON349	国際開発協力論	30	2	3・4		▲		▲		連携(済)										
ECON152	Economic History	60	4	1~		▲				連携(済)										
ECON356	Economic Development of Japan I	30	2	2~		▲				連携(済・営)										
ECON358	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2~		▲				連携(済・営)										
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2~		▲				連携(済・営)										
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	30	2	2~		▲				連携(済・営)										
INLA262	Principles of Sociology	60	4	1~		▲				連携(人・国)										
INLA281	Principles of Economics	60	4	1~		▲				連携(営・国)										
INLA270	Principles of Politics and Globalization	60	4	1~		▲				連携(人・国)										
INLA271	Principles of International Relations	60	4	1~		▲				連携(人・国)										
INLA361	Global Social Policy	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA362	Modern Political Thought	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA462	Global Ethics	60	4	2~		▲				連携(人・国)										
INLA370	Contemporary Political Theory	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA470	Citizenship and Democracy in a Global Age	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA371	Great Power Politics in the World	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA372	International Political Economy	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA373	International Institutions and Global Governance	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA471	International Relations in Asia	60	4	2~		▲				連携(国)										
INLA473	Comparative Politics	60	4	2~		▲				連携(人・国)										
INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	60	4	2~		▲				連携(人・国)										
INLA381	Development Economics	60	4	2~		▲				連携(済・国)										
INLA483	International Business	60	4	2~		▲				連携(営・国)										
INLA383	Marketing	60	4	2~		▲				連携(国)										
HUMS200	現代文化人類学	30	2	2~		▲				連携(人)										
グローバル・ロイヤーズ・プログラム科目 (GLP生のみ履修可) ※専門選択科目の単位として算入されます																				
LAWP126	GLPチュートリアルⅠ	30	1	1~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP127	GLPチュートリアルⅡ	30	1	1~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP255	GLPチュートリアルⅢ	30	1	2~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP256	GLPチュートリアルⅣ	30	1	2~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP358	GLPチュートリアルⅤ	30	1	3・4					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP359	GLPチュートリアルⅥ	30	1	3・4					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP411	GLPチュートリアルⅦ	30	1	3・4					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP412	GLPチュートリアルⅧ	30	1	3・4					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP128	GLPゼミⅠ	30	2	1~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP257	GLPゼミⅡ	30	2	2~					x	[制限外]		○	○	○	○					
LAWP130	GLPインターンシップA	60	2	1~					x	[制限外]									○	
LAWP260	GLPインターンシップB	60	2	2~					x	[制限外]									○	
学部英語科目 (GLP生のみ履修可) ※この科目は言語科目(英語)の単位として算入されます																				
LAWP131	GLP English A	30	1	1~					x	[制限外]									○	
LAWP132	GLP English B	30	1	1~					x	[制限外]									○	

法
律

◎選択必修科目 ▲コース指定科目 (無印)選択科目 (AE) All English科目
 ※選択したコースの指定科目(▲印)を16単位以上含むこと
 ※地球平和共生コースはAll English科目(AE)を7単位以上含むこと。
 ※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。
 ※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。
 ※備考の注1 「地球平和共生ワークショップ」は地球平和共生コースの学生のみ履修可。
 ※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、法律学科生以外は履修できません。

1. 理念・目的

文学部人間学科は、本学の建学の精神と文学部の三指針「生命の尊厳の探究者たれ」「人類を結ぶ世界市民たれ」「人間主義の勝利の指導者たれ」を学部の理念として、各界・各分野で本格的に活躍できる創造的人間の育成を目的としています。

2. 教育目標

本学部の理念・目的を達成するため、本学部は、言語・人文・社会にわたる人間の広範な文化活動を深く学び研究することをとおして、学生が以下のディプロマ・ポリシーに示すような知識と技能、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力、及び世界市民としての資質と自律的学修者の態度を十分に身につけることを教育目標としています。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、以下に示す知識と技能、汎用的能力、及び資質と態度の各ラーニング・アウトカムズを身につけた人に学士（文学）を授与します。

- (1) 人間と社会と文化に関する基礎的教養と専門的學術を修得し、諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価することができる。
- (2) 母語及び外国語を用いて、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションを行うことができる。
- (3) 論理的に思考し、適切な方法で情報の取得と処理を行い、物事の的確な判断ができる。
- (4) 文化の多様性を尊重しつつ、世界市民として、生命の尊厳と平和を志向する。
- (5) 人間主義の社会に向かって、他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮する。
- (6) 基礎的・専門的学知に基づいて、新しい知識と表現を創造することができる。
- (7) 学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図る。

なお、学位授与に求められるラーニング・アウトカムズの修得は、上記7項目の中から履修した各科目において◎と○で重点的に示す項目（専門科目表参照）について、ルーブリック（下記の評価基準表）の評価が一定の評点に達していることをもって認め、当該科目の単位を認定します。

■ラーニング・アウトカムズ（LOs）評価のためのルーブリック表

LOs	4	3	2	1	0
(1)	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を十分に身につけ、関連する事象を精確に理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を十分に身につけ、関連する事象を概ね理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識を身につけ、関連する事象を概ね理解又は鑑賞又は評価できている。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識が不十分であり、関連する事象をあまり理解又は鑑賞又は評価できていない。	当該分野に関する基礎的教養又は/及び専門的知識がほとんど身につけておらず、関連する事象を理解又は鑑賞又は評価できていない。
(2)	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを十分に身につけ、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションができている。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを十分に身につけ、概ね的確で豊かな自己表現とコミュニケーションができている。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルを身につけ、概ね的確な自己表現とコミュニケーションができている。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルが不十分であり、自己表現とコミュニケーションがうまくできていない。	母語又は/及び外国語に関する知識とスキルがほとんど身につけておらず、自己表現とコミュニケーションが不十分である。
(3)	論理的な思考力が十分身につけており、情報の取得と処理の仕方が適切で、物事の判断が大変的確である。	論理的な思考力が身につけており、情報の取得と処理の仕方が概ね適切で、物事の判断が的確である。	論理的な思考力がある程度身につけており、情報の取得と処理の仕方が概ね適切で、物事の判断が概ね的確である。	論理的な思考力が不十分であり、情報の取得と処理の仕方が不適切で、物事の判断力も不十分である。	論理的な思考力が身につけておらず、情報の取得と処理の仕方が不適切で、物事の判断も不適切である。
(4)	文化の多様性や他者の立場を十分に理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度がとてよく身につけている。	文化の多様性や他者の立場を理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度が概ね身につけている。	文化の多様性や他者の立場を概ね理解し尊重して、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度がある程度身につけている。	文化の多様性や他者の立場をあまり理解しておらず、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度が不十分である。	文化の多様性や他者の立場を理解しておらず、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度に乏しい。
(5)	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と積極的に協力して学び、その中で優れたリーダーシップを発揮している。	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と積極的に協力して学び、その中でリーダーシップを発揮している。	皆が分け隔てなく共生できる人間主義の社会を指向し、他者と協力して学んでいるが、リーダーシップを発揮するには至っていない。	人間主義の社会への指向が不十分で、他者と協力して学ぶ姿勢が弱く、リーダーシップを発揮できていない。	人間主義の社会への指向が弱く、他者と協力して学ぶ姿勢に欠け、リーダーシップを発揮できていない。

LOs	4	3	2	1	0
(6)	当該分野における多くの基礎的及び専門的知識を関連づけて、独創的な思考や表現ができています。	当該分野における幾つかの基礎的及び専門的知識を関連づけて、ある程度独創的な思考や表現ができています。	当該分野における幾つかの基礎的及び専門的知識の関連づけはある程度できているが、思考や表現の独創性が不十分である。	当該分野における基礎的及び専門的知識の関連づけが不十分で、思考や表現の独創性がほとんど見られない。	当該分野における基礎的及び専門的知識の関連づけができず、思考や表現の独創性が見られない。
(7)	学ぶことの意味を自分なりに十分理解し、自学自習を非常に積極的に行い、明確な目標をもって自己の成長を図っている。	学ぶことの意味を自分なりに理解し、自学自習を積極的に行い、目標を持って自己の成長を図っている。	学ぶことの意味を自分なりにある程度理解し、自学自習を行い、目標を持って自己の成長を図っている。	学ぶことの意味の理解が不十分であり、自学自習も不十分にしか行わず、目標をもって自己の成長を図る意識が弱い。	学ぶことの意味が理解できておらず、自学自習もほとんど行わず、目標を持って自己の成長を図る意識が欠けている。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部は、全学、および本学部のディプロマ・ポリシーに示された知識と技能、思考力・判断力・表現力等の汎用的能力、及び世界市民としての資質と自律的学修者の態度を十分に身につけ、一人ひとりが将来の夢を実現できるよう、以下の方針によってカリキュラムを編成しています。

- (1) 初年次教育の第1として、1年次春学期に少人数の演習形式で文学部独自の「初年次セミナー」（配置は共通科目：必修）を開講し、基礎的なアカデミック・スキルを身につけていきます。具体的には、大学での学修に不可欠な論理的・批判的思考力を育むとともに、科目ポートフォリオの作成、情報収集の方法、クリティカル・リーディング、クリティカル・シンキング、ディスカッションといったスキルを、実践を通じて獲得していきます。また、各種ガイダンスをとおして大学に慣れ、将来のキャリアを展望しながら、本学部でどのように学んでいくのか、主体的に履修コースを設計できるように指導します。

初年次教育の第2として、1年次秋学期に「人間学」（対応するEMP科目との選択必修）を開講し、本学科の理念と3つの指針を理解し学んでもらうとともに、本学科の多様な学問分野を概観しながら、それらが人間研究という共通の幹あるいは根を持つことを理解し、各専門科目の位置づけの明確化と今後の自身の学びの方向づけを促します。

初年次教育の第3として、本学部で学ぶことのできる多様な学問分野に関する入門科目（イントロダクトリー：選択科目）を13科目開講し、今後のより専門的な自身の学びへの導入としてもらいます。

- (2) 2年次春学期に「文学部の学びとライフデザイン」（対応するEMP科目との選択必修）を開講し、自身の学びの目的をさらに明確にしてもらうとともに、より具体的なライフ・デザインとその実現のための志向性と知識と技能を修得してもらいます。

- (3) 本学部での学びの中で、基礎的な教養とともに、高度の専門的学術を修得できるよう、次の11のメジャーと1専修を設けています。

- ① Philosophy・Anthropology・Peace Studies: Soka AKADEMIA ② 英語文化メジャー
 ③ 国際日本学メジャー ④ 中国・アジア文化メジャー ⑤ ロシア・ヨーロッパ文化メジャー
 ⑥ 哲学・思想文化メジャー ⑦ 歴史・社会文化メジャー ⑧ 言語文化メジャー ⑨ 表現文化メジャー
 ⑩ 社会学・人類学メジャー ⑪ 多文化共生・平和創造メジャー ⑫ 社会福祉専修

これらの各専門分野の科目を、各メジャー・専修が示す履修モデルを参考に選択・学修し、定められた単位数を修得すれば当該メジャー・専修の修了を認定します。

- (4) 在学中を通じてできるだけ体系的な学修ができるよう、各メジャー・専修の専門科目をその専門性の度合いによって「イントロダクトリー」「ベーシック」「アドヴァンスト」の3段階に分けています。そして自分がどのメジャー・専修を専攻するのかを意識しながらその方向づけができるよう、「イントロダクトリー」に加え、「ベーシック」の科目を1年次から開講していきます。また、2年次以降はこれらに加え、「アドヴァンスト」の科目を順次開講していきます。

こうして、共通科目と合わせて、文学、哲学、思想、歴史、言語、社会、文化などの幅広い分野にわたる基礎的教養とそれらの諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価できる専門的学術を修得できるようにしています。

- (5) 本学部のこれまでの言語教育の伝統を活かして、1年次春学期から、日本語と英語だけでなく、中国語、ロシア語などの言語系科目を多く開講し、グローバル化に対応できる適切な自己表現と豊かなコミュニケーション力、異文化理解力を修得できるようにしています。

- (6) 本学部では、2つの専門領域とともに修得したいという学生のために、ダブルメジャー制を採用しています。メジャー登録は、3年次春学期に行います。シングルメジャーを選択する場合には第1メジャーのみ、ダブルメジャーを選択する場合には第1メジャーと第2メジャーを登録します。

- (7) 3年次春学期からは、専攻するメジャー・専修に演習（対応するEMP科目との選択必修）を開講し、より専門性の深い学修と研究に取り組めるようにしています。以後2年間にわたる演習を通じて、ディプロマ・ポリシーに明示したラーニング・アウトカムズのうち(4)(5)(7)の資質や態度を身につけ

- てもらおうと共に、(1)～(3)及び(6)の専門的な知識とスキル、汎用的能力を養成していきます。
- (8) 4年次に卒業研究(対応するEMP科目との選択必修)を設け、これまでの学修で身につけたアカデミック・スキル、基礎的教養、専門的学術、語学力等を総動員して論文等の成果物を完成させ、この過程でそれらの力をさらに磨いていけるようにしています。
 - (9) Philosophy・Anthropology・Peace Studies: Soka AKADEMIAは、本学部のEMPコース(英語による授業だけで卒業できるコース)です。上級レベルの英語力をもつ学生は、このメジャーにおいてより高いレベルの英語コミュニケーション能力と、哲学・人類学・平和学および創価教育の理念と実践に関する専門的知見を学ぶことができますようにしています。
 - (10) 本学部では、演習科目はもちろんのこと、講義科目においてもさまざまなアクティヴ・ラーニングの手法を多く取り入れています。また、単位の実質化の観点からも、1授業科目について、相当する授業外学修時間を確保してもらうよう学修課題を与えています。これらの学修を通して、自らが学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図ることができようようにしています。
 - (11) 1年次の「初年次セミナー(共通科目)」「人間学」、2年次の「文学部の学びとライフデザイン」さらに「イントロダクトリー」をはじめとするさまざまな開講科目において、学部の理念と目的をふまえ、複数の教員によるパネル・ディスカッション形式の授業、学外講師による講演、そして学生同士のディスカッションなどのアクティヴ・ラーニングを積極的に取り入れた授業展開を行います。これによって、履修者が、物事の考え方や文化の多様性を尊重し、世界市民として生命の尊厳と平和を志向する態度を身につけ、さらに人間主義の社会に向かって他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮できるよう養成していきます。
 - (12) 以上の方針に基づいて設置された学部授業科目の一覧表(カリキュラム・マップ)を別に作成しています。これによって、ディプロマ・ポリシーに示された知識と技能、汎用的能力、及び資質と態度を、どの授業科目によって身につけることができるのかをわかりやすく示しています。

5. アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

文学部人間学科は、本学の建学の精神と本学部の理念・目的および教育目標に基づいて、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に示した能力と資質を十分に身につけた人間を養成するため、国内外に広く優秀な入学生を求めます。具体的には、以下のような知識と技能、思考力・判断力・表現力等の能力、そして態度と志向性をもつ人です。

本学部の目的と理念および教育目標を理解し、本学部での学修を希望する人で、

- (1) 勉学に主体的に取り組むことによって、高等学校段階までに達成するよう求められている基礎的な知識、理解力、思考力、文章力、語学力、数的能力等を身につけた人。
- (2) 勉学のほか、資格試験や各種コンクール、クラブ活動やボランティア活動など、学校内外の諸活動に積極的に取り組むチャレンジ精神をもち、一定の成果を上げることのできる目標達成力をもつ人。
- (3) 単に知識が豊富な人ではなく、問題解決への目的観をもって、関心あるテーマにじっくり取り組む意欲と主体性、そのための課題設定力と創造力をもつ人。
- (4) 生命の尊厳と平和を志向する道徳観・倫理観をもって他者と積極的にコミュニケーションを図り、他者の立場を尊重しながら協力して物事を成し遂げようとする人。
- (5) 本学部入学後に、幅広い学問分野と深い専門性を備えた本学部の300科目以上にわたる講義・演習・実習等の授業、および授業外学習等によって、(1)～(4)の能力と資質を、ディプロマ・ポリシーに適うより専門的で高度なものに磨いていける努力の人。

上記の(1)については一般選抜の大学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試(以下一般選抜)における各科目の得点、および総合型選抜(PASCAL入試、小論文方式)、学校推薦型選抜(公募・指定校推薦入試)の書類審査等において評価します。(2)、(3)、(4)については総合型選抜(PASCAL入試、小論文方式)、学校推薦型選抜(公募・指定校推薦入試)の書類審査と面接、加えて総合型選抜(PASCAL入試)のグループ・ディスカッション、総合型選抜(小論文方式)の小論文の考査によって評価します。(5)については、すべての入試において、書類審査・面接・各科目等試験の得点で総合的に評価します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目 ※3	2単位	
		学術文章作法		選択必修科目	
	②大学科目		選択必修科目	4単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位	
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位	
	⑥社会科学系科目		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語 ※1	選択必修科目		6単位	
	第2外国語 ※2	選択必修科目		4単位	
専門科目 (P.102～107)	イントロダクトリー科目	選択必修科目 ※5		2単位	
		選択科目		4単位	
	ベーシック科目	選択必修科目 ※5 ※6		2単位	
		選択科目		2 6単位	
	アドヴァンスト科目	選択必修科目		1 2単位	
		選択科目		1 6単位	
自由選択 ※4	『共通科目』『人間学科専門科目』『他学科専門科目』『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			3 6単位以上	
合 計				1 2 4単位以上	

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(P.56)から6単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 初年次セミナーは共通科目の中の文学部用と指定されたものを履修してください。原則として1年次春学期に履修することになっていますが、休学などの理由で履修できなかった場合は学部事務室に相談してください。
- ※4 『共通科目』、『人間学科専門科目』、『他学科専門科目』、『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『人間学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、ベーシック科目の選択科目を28単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を36単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。
- ※5 専門科目の選択必修科目は、卒業に必要な単位数を超えて修得した場合は自由選択の単位として算入されます。
- ※6 「文学部の学びとライフデザイン」は原則として2年次春学期に履修することになっていますが、休学などの理由で履修できなかった場合は学部事務室に相談してください。
- 注 メジャー及び社会福祉専修の選択については次ページの「8. メジャー・専修の選択について」の記載事項を確認してください。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■文学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	※学期毎の 上限単位数	学期毎の修得 下限単位数	直前セメスター の GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準
24 単位	16 単位	3.50	4 単位	可	文学部は早期卒業の制度はありません		

8. メジャー・専修の選択について

文学部では、学びの中で、基礎的な教養とともに、高度の専門的学術を修得できるよう、11のメジャーと1つの専修を設けています。

(1) メジャー登録

メジャーについては、専門領域を複数修得したいという学生のために、ダブルメジャー制を採用しています。所属する演習（ゼミ）が決定した後、3年次春学期の履修登録の際、自分の演習が属するメジャーの登録を行います。シングルメジャーを選択する場合には第1メジャーのみ、ダブルメジャーを選択する場合には第1メジャーと第2メジャーを登録します。

- ① 第1メジャーは、イントロダクトリーの選択科目から2単位、ベーシックの選択科目から10単位、アドヴァンスト科目から24単位(対応するEMP科目との選択必修科目から12単位、選択科目から12単位)の合計36単位以上を修得すること。なお、アドヴァンスト科目の選択必修科目の内、演習IからIV及び卒業研究I・IIについては、選択したメジャーに所属する教員の担当する科目を修得すること。
- ② 第2メジャーは、イントロダクトリーの選択科目から2単位、ベーシックの選択科目から10単位、アドヴァンスト科目の選択科目12単位、及びベーシック・アドバンストいずれかの選択科目から12単位の合計36単位以上を修得し、卒業時の通算GPA2.7以上であること。

(2) 社会福祉専修の選択

社会福祉専修には定員（20名）があり、選考試験に合格しなければ登録できません。社会福祉専修登録のための選考試験は1年次秋学期に実施する予定です。詳細は、ガイダンスでの説明や学部ホームページなどで確認してください。

9. 演習の履修について

(1) 演習（必修）履修までの流れ

演習履修までの流れは以下のとおりです。

- ① 2年次・春学期ガイダンス＝概要説明と演習ごとの個別ガイダンス
- ② 6月中旬～7月上旬＝個別ガイダンス
- ③ 10月中下旬＝第1次選考
- ④ 11月上旬＝選考結果発表（1次登録確定）
- ⑤ 11月下旬＝第2次選考
- ⑥ 12月上旬＝選考結果発表（2次登録確定）
- ⑦ 1月上旬＝3次選考

※1次登録で演習が決定しない場合は2次登録を行います。2次登録にも漏れた場合は3次登録を行い、そこで最終決定となります。

※上記のスケジュールは変更する場合があります。演習登録についてのガイダンスなどで説明しますので必ず出席して確認してください。

※演習申込み時期、あるいは3年次以降に留学で不在の場合は、事前に学部長若しくは副学部長に相談してください。

※ダブル・ディグリーコースの方は帰国後に演習の申し込みをしてください。詳しくはコースのガイダンスで確認をしてください。

(2) 演習についての注意事項

- ① 演習は定員制です。演習ごとに選考があり、選考に合格しないと履修できません。選考方法等はガイダンスなどでよく確認してください。
- ② 演習の履修時期はⅠ（3年次春学期）・Ⅱ（3年次秋学期）・Ⅲ（4年次春学期）・Ⅳ（4年次秋学期）を原則とし、同じ教員の演習を履修します。演習の履修時期に留学で不在の場合は事前に演習の履修の仕方について演習担当教員とよく相談してください。なお、AKADEMIA メジャーの演習履修の時期はこれと異なりますので、担当教員によく相談してください。
- ③ ダブル・ディグリーコースの方は、4年次に演習Ⅰ～Ⅳ（必修科目）を履修します。詳しくはコースのガイダンスで確認してください。

10. 卒業研究の履修について

卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱは、原則として、演習（Ⅰ～Ⅳ）と同じ教員のもとで行います。

11. 中国語ダブル・ディグリーコース（中国語DD）

- ① 中国語教育の最高峰「北京語言大学」との相互学位認定プログラム協定により、本学と北京語言大学兩大学の学士号が得られる制度です。北京語言大学は、世界共通の中国語検定試験（HSK）を開発した大学で、世界中で使用されている中国語のテキスト監修も行っており、中国の国家重点高等教育機関としても全世界に知られています。
- ② 選抜試験に合格した上でこのコースに参加すると、2年次と3年次の2年間、北京語言大学に留学します。そして4年次は再び創価大学で学び、日中両言語で卒業論文を作成します。北京語言大学の教授が来学して行われる最終試験（口頭試問）に合格すれば、創価大学と北京語言大学の2つの学士号が取得できます。
- ③ 中国語DDの定員は10名で、1年次の秋学期に選抜試験を実施します。選抜などの日程や方法はコースのガイダンスで確認してください。

12. 英語力向上プログラム

- ① 英語ダブル・ディグリーコース（英国バッキンガム大学）（1年生優先）
本コースでは、1・4年次に創価大学文学部で学び、2・3年次にイギリスのバッキンガム大学人文学部で英文学を学びます（Foundation Course + 学位プログラム）。所定の科目を修得することにより、卒業時に創価大学とバッキンガム大学の2つの学士号を取得することができます。（注）このコースに興味がある方は、新学期前3月末に開催される「英語ダブル・ディグリーコースガイダンス」に必ず参加してください。このコースの詳細と応募のための履修方法ならびにIELTSの学習方法について説明をします。

【定員】 1～5名

【基準】 IELTS6.0以上（IELTSのスコアは1年次12月の時点で必要）

【期間】 2年次の4月から3年次の12月まで

- ② 文学部独自の英語プログラム

文学部において提供される多様な英語科目を履修し、自分自身を探索しながら、異なる文化を持つ人たちに向けて自分の思いを英語で表現する方法を学びます。詳細については『文学部での学び』を参照ください。
科目例：English for Humanities AI, AII, English for Humanities BI, BII

- ③ 英語ピア・チュータープログラム（Soka peer Tutoring English Program in Humanities: STEP in Humanities）（1・2年生対象）

本プログラムは、文学部生の英語力向上と、文学部内における学生の交流活動の活発化を目指して、優れた英語力と高い意欲をもつ上級生による1・2年生向けのチューター制度と、これを基礎とする英語学習コミュニティの構築を目指すものです。このプログラムの応募などについては、4月上旬に開催される「STEP in Humanities ガイダンス」にご参加ください。

13. 学部特修プログラム

文学部独自の特修プログラムとして、以下の4つのプログラムを開設しています。詳細は「文学部での学び方」に記載しますので、参照してください。

- ① 日本語教育プログラム
- ② 日本語教育（基礎）プログラム *他学部生にも修了認定を行います。

14. 留学先で取得した科目の単位認定

交換留学・私費留学・DDコースで取得した専門科目の単位は、教授会が認めたときは文学部の専門科目の単位として認定します。認定を希望する学生は、全学共通の海外留学単位認定願いのほか、講義内容を記載したシラバス、講義内容（概要）及び留学先で発行された成績証明書を教務課に提出してください（なお、DDコースの提出書類については、コースのガイダンス等での指示に従ってください）。

15. 履修の流れ

(1) 4年間のカリキュラム

文学部では、学生の皆さんが学びたいことを思う存分に学び、進むべき進路を考え・決定し、そしてそれに必要な力を身につけてもらえるよう、次のようなカリキュラムを組んでいます。

<1年次>

「初年次セミナー」（共通科目：必修）及び「人間学」（EMP科目の「Introduction to Humanities」との選択必修）、そして12の専攻分野（11メジャー・1専修）のイントロダクトリー科目（選択科目）を中心に幅広く学びながら、学問の基本と広い視野を身につけ、進むべき専攻分野を次第に絞りながら、将来の進路を考えます。なお、SOKAジェネリック・スキルテストは2年次の「文学部の学びとライフデザイン」の履修条件になっていますので、必ず受験してください。

<2年次>

専攻分野をさらに絞り込み、「文学部の学びとライフデザイン」（EMP科目の「Academic Foundations for Humanities」との選択必修）及びイントロダクトリー科目に加え、その分野のベーシック科目（選択科目）、さらにはアドヴァンスト科目（選択科目）を学んでいきます。そして秋学期には、3年次以降の専攻分野ごとの演習（ゼミ：対応するゼミごとの選択必修）を選択します（なお、ゼミ選択には成績や面接等による選考があります）。

<3年次>

選択した専攻分野のゼミを中心に、関連する分野のベーシック科目とアドヴァンスト科目を学びながら、自分の進路を明確にしていきます。

<4年次>

ゼミで専攻分野の学びを深めながら、4年間の学生生活の集大成として「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」（共にEMPとの選択必修）に取り組み、就職活動と合わせて、社会で活躍するための最終の準備をします。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
初年次セミナー (共通科目: 必修)	人間学 Introduction to Humanities (選択必修)	文学部の学び とライフデザイン Academic Foundations for Humanities (選択必修)		演習Ⅰ(ゼミ) (選択必修)	演習Ⅱ(ゼミ) (選択必修)	演習Ⅲ(ゼミ) (選択必修)	演習Ⅳ(ゼミ) (選択必修)
イントロダクトリー科目(選択科目: 2 科目 4 単位以上)						卒業研究Ⅰ (選択必修)	卒業研究Ⅱ (選択必修)
ベーシック科目(選択科目: 1 3 科目 2 6 単位以上)							
SOKAジェネリック スキルテスト		アドヴァンスト科目(選択科目: 8 科目 1 6 単位以上)					
社会福祉 専修選考		副専攻登録 (マイナー・EMP 登録)	演習(ゼミ) 事前登録	メジャー登録			卒業研究Ⅲ (論文作成) (選択)
英語・中国DD 選抜試験							
自由選択科目(3 6 単位以上)							

(2) 1 年次の履修の仕方

前のページに示した専門科目の他に、4 年間を通じて学ぶ全学共通の科目(共通科目)があります。それらを合わせた、1 年次の履修の仕方を示します。

<共通科目>

- ① 卒業までに第1 外国語(英語) 6 単位と第2 外国語4 単位(同一言語で)、計 10 単位の修得が必要になりますが、3 年次以降の専門的な学びに要する時間を考え、2 年次終了までにこれらすべての単位を修得することを目指してください。1 年次では、春学期・秋学期の合計で英語4 単位、第2 外国語4 単位の修得を目安に履修することを奨めます。
- ② 卒業までに基礎科目4 単位(初年次セミナー2 単位、学術文章作法2 単位)、大学科目4 単位、世界市民教育科目4 単位、数理・データサイエンス・自然科学2 単位(データサイエンス入門)、社会科学系科目2 単位の修得が必要になりますので、1 年次では各2 単位～4 単位の修得を目安に履修してください。
- ③ 「初年次セミナー」は文学部用のクラスを履修します。1 クラス 17 名前後です。割り当てられたクラスで受講します。

<専門科目>

- ① 選択必修科目の「人間学」は大教室での全体授業です。
- ② イントロダクトリー科目はすべて1 年次から履修できます。選択必修科目以外の全 13 科目の中から卒業までに2 科目4 単位(選択必修科目と合わせ3 科目6 単位)以上の修得が必要になります。また3 年次のメジャー登録には、希望するメジャーのイントロダクトリー科目1 科目2 単位以上を修得している必要がありますので、1 年次では4 単位前後を目安に履修してください。
- ③ ベーシック科目も1 年次から履修できるものがあり、卒業までに26 単位(「文学部の学びとライフデザイン」などの選択必修科目を含む)の修得が必要になります。また、3 年次のメジャー登録には、希望するメジャーのベーシック科目を最低1 科目2 単位修得している必要があります。ベーシック科目は3 年次終了までの修得を目安にしながら、各学年8 単位前後を目安にバランスよく履修してください。
- ④ ダブルメジャーを登録する人は8 (1) メジャー登録の項目を必ず見てください。

<「自由選択」科目>

共通科目と文学部の専門科目に加えて、教職課程などの特設課程の科目や他学部の専門科目も履修することができます。これらは、卒業に必要な単位数以上に修得した文学部の専門科目とともに、「自由選択」科目として最大 36 単位まで卒業単位数に繰り入れることができますので、自分の興味・関心や将来の進路などに応じて履修してください。

<注意事項>

- ・ 科目の履修は、あまり詰め込み過ぎないように、余裕を持たせて行ってください。1つの科目を履修すると、毎回の予習・復習の課題や、何回かのレポート提出など、授業時間に倍する授業外の学修時間が要求されますので、1セメスター 18~20 単位ほどを目安に履修することを奨めます。
- ・ 文学部ホームページに掲載の「文学部での学び方」に、メジャーごとの履修モデルを示していますので、参考にしてください。

■専門科目表の見方（人間学科専門科目）

次のページから掲載されている人間学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	メジャー・専修								他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目										
					A	英語	日本	中国	ロシア	哲学	歴史	言語			表現	社会	多文化	福祉	1	2	3	4	5	6	7
①	②	③	④	⑤	⑥								⑦	⑧	⑨										

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥メジャー・専修	どの科目がメジャー・専修の指定する科目かを表します。メジャー・専修名は以下の略です。 A：Philosophy・Anthropology・Peace Studies: Soka AKADEMIA 英語：英語文化 日本：国際日本学 中国：中国・アジア文化 ロシア：ロシア・ヨーロッパ文化 哲学：哲学・思想文化 歴史：歴史・社会文化 言語：言語文化 表現：表現文化 社会：社会学・人類学 多文化：多文化共生・平和創造 福祉：社会福祉専修
⑦他学科履修	人間学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、人間学科生以外には履修できません。
⑧備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 人間と社会と文化に関する基礎的教養と専門的学術を修得し、諸事象を精確に理解し、鑑賞し、評価することができる。 2. 母語及び外国語を用いて、的確で豊かな自己表現とコミュニケーションを行うことができる。 3. 論理的に思考し、適切な方法で情報の取得と処理を行い、物事の的確な判断ができる。 4. 文化の多様性を尊重しつつ、世界市民として、生命の尊厳と平和を志向する。 5. 人間主義の社会に向かって、他者と協力する姿勢やリーダーシップを発揮する。 6. 基礎的・専門的学知に基づいて、新しい知識と表現を創造することができる。 7. 学ぶことの意味を理解し、自律的学修者として、目標をもって自己の成長を図る。

■文学部 人間学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	メジャー・専修													他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目						
					A	英語	日本	中国	ロシア	哲学	歴史	言語	表現	社会	多文化	福祉	1			2	3	4	5	6	7	
イントロダクトリー科目/選択必修科目 (2単位以上)																										
HUMR100	:人間学	30	2	1~	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		オムニバス		◎	○	○			
HUMR140	:Introduction to Humanities	30	2	1~	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		EMP		◎	○	○			
イントロダクトリー・選択科目 (4単位以上)																										
HUMC100	:表現文化論入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC101	:世界文学への招待	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC102	:哲学・宗教学への招待	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC103	:歴史と社会	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC120	:国際日本学への招待	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC160	:中国・アジア文化入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC180	:ロシア・ヨーロッパ文化入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMI100	:多文化共生と平和創造	30	2	1~														○	◎		○					
HUML100	:言語文化入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC140	:英語文化への招待	30	2	1~														○	◎		○					
HUMS100	:社会・文化研究への招待	30	2	1~														○	◎		○					
HUMW100	:社会福祉入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMI140	:Introduction to Soka Akademia	60	4	1~														○	◎		○					
ベーシック科目/選択必修科目 (2単位以上)																										
HUMR200	:文学部の学びとライフデザイン	30	2	2~	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	x			○	◎			
HUMR240	:Academic Foundations for Humanities	30	2	2~	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲		EMP		○	◎			
ベーシック科目/選択科目 (2.6単位以上)																										
HUMP200	:学部インターンシップA	60	2	2~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	x	[制限外]			◎	○		
HUMP201	:学部インターンシップB	60	2	2~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	x	[制限外]			◎	○		
HUML240	:Developing English for Academic Purposes I	30	2	1~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		Pre-EMP	◎	○	○	○		
HUML241	:Developing English for Academic Purposes II	30	2	1~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		Pre-EMP	◎	○	○	○		
HUMC104	:文芸批評Ⅰ:詩の分析と作詞法	30	2	1~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			◎	○	○	○		
HUMC105	:文芸批評Ⅱ:小説・映画の分析法	30	2	1~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			◎	○	○	○		
HUMC106	:歴史学概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC107	:考古学概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC108	:仏教思想概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC182	:西洋哲学史Ⅰ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC121	:日本古典文学概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC122	:日本近代文学概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC123	:書道Ⅰ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC141	:比較文化Ⅰ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC142	:比較文化Ⅱ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC124	:比較文化史概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC161	:中国社会文化概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC181	:ロシア文学入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC200	:歴史と人間	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC201	:歴史と地域社会	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC202	:心の哲学	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC203	:哲学概論	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC204	:倫理学概論	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC205	:文芸創作Ⅰ	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC206	:文芸創作Ⅱ	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC207	:映画論	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC220	:日本古代・中世史概説	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC221	:日本近世・近現代史概説	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC222	:日本思想史Ⅰ	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC223	:日本古典文学講読	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC224	:日本近代文学講読	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC225	:日本文学史	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC226	:書道Ⅱ	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC208	:地理学Ⅰ:人間	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC209	:地理学Ⅱ:人間	30	2	2~														○	◎		○					
HUMC240	:LiteratureⅠ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC241	:LiteratureⅡ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC242	:英米文学概論Ⅰ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC243	:英米文学概論Ⅱ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC244	:英米文学講読Ⅰ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC245	:英米文学講読Ⅱ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC246	:イギリス古典文学史	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC247	:イギリス近代文学史	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC248	:アメリカ文学史	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC249	:演劇入門	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC250	:Cultural RepresentationⅠ	30	2	1~														○	◎		○					
HUMC251	:Cultural RepresentationⅡ	30	2	1~														○	◎		○					

◎必修科目 ▲選択必修科目 ○メジャー・専修指定選択科目

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、人間学科生以外は履修することができません。

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。

※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。また「オムニバス」は複数教員で担当する授業を指します。

※備考の「EMP」はEMP (English Medium Program) 科目であり、TOEICスコア600点以上の学生の履修を推奨します。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	メジャー・専修										他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目														
					A	英語	日本	中国	ロシア	哲学	歴史	言語	表現	社会			多文化	福祉	1	2	3	4	5	6	7						
ベーシック科目/選択科目 (2.6単位以上) (つづき)																															
HUMC252	Philosophy I: Core Issues in Metaphysics · Epistemology and Ethics	60	4	1~	○	○				○											EMP	○	○	○							
HUMC253	Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism	60	4	1~	○	○				○												EMP	○	○					●		
HUMC254	Anthropological Approach to Contemporary Japan	60	4	1~	○	○	○															EMP	○	○						○	
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	60	4	2~	○	○	○				○											EMP	○	○						○	
HUMC256	Introduction to Peace Studies I	60	4	1~	○	○				○												EMP	○	○	○					○	
HUMC257	Introduction to Peace Studies II	60	4	1~	○	○																EMP	○	○	○					○	
HUMC260	中国文学	30	2	2~						○													○	○							○
HUMC261	東洋史概説	30	2	2~			○			○													○	○							○
HUMC262	中国近現代の歴史と思想	30	2	2~			○			○													○	○							○
HUMC263	東アジアの文化交流	30	2	2~			○			○													○	○							○
HUMC280	ヨーロッパ文学	30	2	2~			○																○	○							○
HUMC281	神話とフォークロア	30	2	1~			○																○	○							○
HUMC282	西洋史概説	30	2	2~			○																○	○							○
HUMC283	ロシアの歴史と文化	30	2	1~			○			○													○	○							○
HUMI200	多文化共生論	30	2	2~			○			○													○	○							○
HUML101	言語学概論 I	30	2	1~			○			○													○	○							○
HUML102	言語学概論 II	30	2	1~			○			○													○	○							○
HUML103	音声学概論	30	2	1~			○																○	○							○
HUML120	社会で通用する日本語	30	2	1~			○																○	○							○
HUML140	英語翻訳入門	30	2	1~			○															x	○	○							○
HUML121	日本語学概論 I	30	2	1~			○																○	○							○
HUML122	日本語学概論 II	30	2	1~			○																○	○							○
HUML123	日本語教育概論 I	30	2	1~			○																○	○							○
HUML124	日本語教育概論 II	30	2	1~			○																○	○							○
HUML141	英語学概論 I	30	2	1~			○																○	○							○
HUML142	英語学概論 II	30	2	1~			○																○	○							○
HUML143	日英語比較概説	30	2	1~			○																○	○							○
HUML144	Oral Communication in English I	30	1	1~			○															x	○	○							○
HUML145	Oral Communication in English II	30	1	1~			○															x	○	○							○
HUML146	英語で日本紹介 I	30	2	1~			○																○	○							○
HUML147	英語で日本紹介 II	30	2	1~			○																○	○							○
HUML148	English for Humanities A I	30	2	1~			○															x	○	○							○
HUML149	English for Humanities A II	30	2	1~			○															x	○	○							○
HUML160	中国語学入門 I	30	2	1~						○													○	○							○
HUML161	中国語学入門 II	30	2	1~						○													○	○							○
HUML162	中国語学概論 I	30	2	1~						○													○	○							○
HUML163	中国語学概論 II	30	2	1~						○													○	○							○
HUML164	中国語コミュニケーション演習初級 I	60	2	1~						○													○	○							○
HUML165	中国語コミュニケーション演習初級 II	60	2	1~						○													○	○							○
HUML166	中国語講読初級 I	30	2	1~						○													○	○							○
HUML167	中国語講読初級 II	30	2	1~						○													○	○							○
HUML180	ロシア語コミュニケーション初級 I	30	1	1~						○													○	○							○
HUML181	ロシア語コミュニケーション初級 II	30	1	1~						○													○	○							○
HUML200	第二言語習得論入門	30	2	2~						○													○	○							○
HUML201	言語コミュニケーション論	30	2	2~						○													○	○							○
HUML202	対照言語学 I	30	2	2~						○													○	○							○
HUML203	対照言語学 II	30	2	2~						○													○	○							○
HUML204	言語類型論	30	2	2~						○													○	○							○
HUML205	心理統計とデータ分析	30	2	2~						○													○	○							○
HUML206	文化記号論	30	2	2~						○													○	○							○
HUML207	認知心理学	30	2	2~						○													○	○							○
HUML220	日本語音声学	30	2	2~						○													○	○							○
HUML221	国語科教育法 I	30	2	2~																		x	○	○							○
HUML222	国語科教育法 II	30	2	2~																		x	○	○							○
HUML242	English for Humanities B I	30	2	1~						○													○	○							○
HUML243	English for Humanities B II	30	2	1~						○													○	○							○
HUML244	現代英文法	30	2	2~																			○	○							○
HUML245	英語音声学	30	2	1~						○													○	○							○
HUML246	日英翻訳演習	30	2	1~						○													○	○							○
HUML247	英語通訳演習 A	30	2	2~						○													○	○							○
HUML248	Academic Writing A	30	2	1~						○												x	○	○							○
HUML249	英語科教育法 I	30	2	2~																			○	○							○
HUML250	英語科教育法 II	30	2	2~																			○	○							○
HUML340	Academic Writing B	30	2	1~						○												x	EMP	○	○						○
HUML260	中国語コミュニケーション演習初中級 I	60	2	2~						○													○	○							○
HUML261	中国語コミュニケーション演習初中級 II	60	2	2~						○													○	○							○
HUML262	中国語文法初中級 I	30	2	2~						○													○	○							○
HUML263	中国語文法初中級 II	30	2	2~						○													○	○							○
HUML264	中国語講読初中級 I	30	2	2~						○													○	○							○
HUML265	中国語講読初中級 II	30	2	2~						○													○	○							○
HUML266	中国語総合初中級 I	30	2	2~						○													○	○							○

○メジャー・専修指定選択科目

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、人間学科生以外は履修することができません。

※備考の「EMP」はEMP (English Medium Program) 科目であり、TOEICスコア600点以上の学生の履修を推奨します。

人
問

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	メジャー・専修									他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目																	
					A	英語	日本	中国	ロシア	哲学	歴史	言語	表現			社会	多文化	福祉	1	2	3	4	5	6	7								
ベーシック科目/選択科目 (26単位以上) (つづき)																																	
HUML267	中国語総合初中級Ⅱ	30	2	2~				○				○											○										
HUML268	中国語作文初中級Ⅰ	30	2	2~				○																○									
HUML269	中国語作文初中級Ⅱ	30	2	2~				○																○									
HUML280	ロシア語文法初級Ⅰ	60	2	1~					○															○									
HUML281	ロシア語文法初級Ⅱ	60	2	1~					○															○									
HUML282	ロシア語文法中級Ⅰ	30	1	2~																				○									
HUML283	ロシア語文法中級Ⅱ	30	1	2~																				○									
HUML284	ロシア語リーディング入門Ⅰ	30	2	2~					○				○											○									
HUML285	ロシア語リーディング入門Ⅱ	30	2	2~					○				○											○									
HUML286	ロシア語ライティング入門Ⅰ	30	2	2~																				○									
HUML287	ロシア語ライティング入門Ⅱ	30	2	2~																				○									
HUML288	ロシア語コミュニケーション中級Ⅰ	30	1	2~																				○									
HUML289	ロシア語コミュニケーション中級Ⅱ	30	1	2~																				○									
HUMP100	ピア・サポート実践Ⅰ	30	2	1~																													
HUMP202	ピア・サポート実践Ⅱ	30	2	2~																													
HUMS101	社会調査の基礎	30	2	1~																													
HUMS102	文化人類学	30	2	1~			○	○	○	○	○	○	○											○									
HUMS103	社会学概論:人間	30	2	1~			○	○																○									
HUMS104	社会学理論と社会システム	30	2	1~																				○									
HUMS105	心理学理論と心理的支援	30	2	1~																				○									
HUMW101	社会福祉調査の基礎	30	2	1~																					○								
HUMS106	法律学概論:人間	30	2	2~																													
HUMS107	政治学概論:人間	30	2	2~																													
HUMS108	国際関係論	30	2	1~			○	○	○																								
HUMS120	国際交流と日本社会	30	2	1~			○	○	○																								
HUMS160	映像から考える中国	30	2	1~					○																								
HUMS180	現代ロシア概論	30	2	1~																													
HUMS200	現代文化人類学	30	2	2~																													
HUMS201	社会学史概説	30	2	2~																													
HUMS202	家族の社会学	30	2	2~																													
HUMS203	地域と都市の社会学	30	2	2~																													
HUMS204	宗教社会学	30	2	2~																													
HUMS205	ジャーナリズムの社会学	30	2	2~																													
HUMS206	現代社会論入門	30	2	2~																													
HUMS207	社会統計学	30	2	2~																													
HUMS260	東アジア現代事情	30	2	2~				○																									
HUMS261	人類学的地域研究(アジア)	30	2	2~				○																									
HUMS281	人類学的地域研究(アフリカ)	30	2	2~																													
HUMS282	人類学的地域研究(ラテンアメリカ)	30	2	2~																													
HUMS208	マンガの社会学	30	2	1~			○																										
HUMW200	社会福祉の原理と政策Ⅰ	30	2	1~																													
HUMW201	社会福祉の原理と政策Ⅱ	30	2	2~																													
HUMW202	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	30	2	3・4																													
HUMW203	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	30	2	3・4																													
HUMW204	児童福祉論Ⅰ	30	2	2~																													
HUMW205	児童福祉論Ⅱ	30	2	2~																													
HUMW206	障害者福祉Ⅰ	30	2	2~																													
HUMW207	障害者福祉Ⅱ	30	2	2~																													
HUMW208	高齢者福祉Ⅰ	30	2	2~																													
HUMW209	高齢者福祉Ⅱ	30	2	2~																													
LAWP109	法学部生のための論理	30	2	1~								○																					
INLA261	Principles of History	60	4	1~			○	○					○																				
INLA260	Principles of Philosophy	60	4	1~			○	○				○																					
INLA262	Principles of Sociology	60	4	1~			○	○																									
INLA270	Principles of Politics and Globalization	60	4	1~			○	○				○																					
INLA271	Principles of International Relations	60	4	1~			○	○				○																					
アドヴァンスト科目/選択必修科目 (12単位)																																	
演習Ⅰ(2単位)																																	
HUMR400	演習Ⅰ	30	2	3・4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	x										
HUMR440	Seminar in HumanitiesⅠ	30	2	2~			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			EMP								
演習Ⅱ(2単位)																																	
HUMR401	演習Ⅱ	30	2	3・4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	x										
HUMR441	Seminar in HumanitiesⅡ	30	2	3・4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			EMP								
演習Ⅲ(2単位)																																	
HUMR402	演習Ⅲ	30	2	4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	x						○	○			
HUMR442	Seminar in HumanitiesⅢ	30	2	3・4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			EMP				○	○			
演習Ⅳ(2単位)																																	
HUMR403	演習Ⅳ	30	2	4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	x						○	○			
HUMR443	Seminar in HumanitiesⅣ	30	2	4			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			EMP				○	○			

▲ 選択必修科目 ○ メジャー・専修指定選択科目

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、人間学科生以外は履修することができません。

※備考の「EMP」はEMP(English Medium Program)科目であり、TOEICスコア600点以上の学生の履修を推奨します。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	メジャー・専修										他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目							
					A	英語	中国	ロシア	哲学	歴史	言語	表現	社会	多文化			福祉	1	2	3	4	5	6	7
アドヴァンスト科目/選択科目 (16単位以上) (つづき)																								
HUMC441	演劇論	30	2	2~		○						○		○					○					
HUML348	Text Studies	30	2	2~		○								○					○					
HUMC480	ロシア文学	30	2	3・4										○					○					
HUMC324	漢文学特講Ⅰ	30	2	3・4		○	○							○					○					
HUMC325	漢文学特講Ⅱ	30	2	3・4		○	○							○					○					
HUMC481	ロシアのフォークロア	30	2	3・4										○					○					
HUMP406	文芸創作演習	30	2	2~										○					○					
HUMP407	演劇表現演習	30	2	2~										○					○					
HUMS300	ジェンダーの社会学	30	2	2~										○					○					
HUMS301	メディア論	30	2	2~										○					○					
HUMS302	教育の社会学	30	2	2~		○								○					○					
HUMS400	歴史の社会学	30	2	2~			○							○					○					
HUMS401	現代宗教の社会学	30	2	2~										○					○					
HUMS402	マンガ・児童文化探究	30	2	2~										○					○					
HUMS403	サーベイ調査演習	30	2	2~										○					○					
HUMS404	フィールド調査実習	30	2	2~										○					○					
HUMC326	ディベート日本学	30	2	2~	○	○													○					
HUMC327	サブカルチャー論	30	2	2~										○					○					
HUMS303	民族誌的研究	30	2	2~										○					○					
HUMS304	ポスト・コロニアル人類学	30	2	2~										○					○					
HUMS305	科学・技術の人類学	30	2	2~										○					○					
HUMS405	平和学	30	2	2~										○					○					
HUMS406	人間の安全保障	30	2	2~										○					○					
HUMS407	国際社会学	30	2	2~		○	○							○					○					
HUMS460	東アジア共同体と安全保障論	30	2	2~			○							○					○					
HUMI400	多文化共生と平和のためのワークショップⅠ	30	2	3・4										○					○					
HUMI401	多文化共生と平和のためのワークショップⅡ	30	2	3・4										○					○					
HUMC464	イスラーム文化論	30	2	2~										○					○					
HUMS461	中国社会問題特講	30	2	2~										○					○					
HUMS360	現代中国論	30	2	2~										○					○					
HUMS480	ロシアの社会	30	2	3・4										○					○					
HUMC360	東洋思想史	30	2	2~		○	○							○					○					
HUMC328	日本思想史Ⅱ	30	2	2~		○								○					○					
HUMC300	論理学	30	2	2~										○					○					
HUMC301	言語哲学	30	2	2~		○								○					○					
HUMC302	宗教学	30	2	2~										○					○					
HUMC303	科学哲学	30	2	2~										○					○					
HUMC381	西洋哲学史Ⅱ	30	2	2~										○					○					
HUMC400	哲学・思想特講A	30	2	2~	○														○					
HUMC401	哲学・思想特講B	30	2	2~	○														○					
HUMC402	美学美術史	30	2	2~										○					○					
HUMC423	民俗学	30	2	2~										○					○					
HUMC482	キリスト教文化史	30	2	2~		○								○					○					
HUMC462	東アジア文化論	30	2	2~										○					○					
HUMC424	古文書学	30	2	2~										○					○					
HUMC463	中央ユーラシアの歴史と文化	30	2	2~										○					○					
HUMC425	パブリック・ヒストリー	30	2	2~										○					○					
HUMC487	東欧の歴史と文化	30	2	2~										○					○					
HUMC304	人文地理学:人間	30	2	2~										○					○					
HUMC305	自然地理学:人間	30	2	2~										○					○					
HUMC306	地誌学:人間	30	2	2~										○					○					
HUMC483	人間学外書講読Ⅰa(ロシア語)	30	2	3・4										○					○					
HUMC484	人間学外書講読Ⅰb(ロシア語)	30	2	3・4										○					○					
HUMC485	人間学外書講読Ⅱa(ロシア語)	30	2	3・4										○					○					
HUMC486	人間学外書講読Ⅱb(ロシア語)	30	2	3・4										○					○					
HUMC342	人間学外書講読Ⅰa(英語)	30	2	2~										○					○					
HUMC343	人間学外書講読Ⅰb(英語)	30	2	2~										○					○					
HUMC344	人間学外書講読Ⅱa(英語)	30	2	2~										○					○					
HUMC345	人間学外書講読Ⅱb(英語)	30	2	2~										○					○					
HUMC382	人間学外書講読Ⅰa(フランス語)	30	2	2~										○					○					
HUMC383	人間学外書講読Ⅰb(フランス語)	30	2	2~										○					○					
HUMC384	人間学外書講読Ⅱa(フランス語)	30	2	2~										○					○					
HUMC385	人間学外書講読Ⅱb(フランス語)	30	2	2~										○					○					
HUMC386	人間学外書講読Ⅰa(ドイツ語)	30	2	2~										○					○					
HUMC387	人間学外書講読Ⅰb(ドイツ語)	30	2	2~										○					○					
HUMC388	人間学外書講読Ⅱa(ドイツ語)	30	2	2~										○					○					
HUMC389	人間学外書講読Ⅱb(ドイツ語)	30	2	2~										○					○					
HUMC390	人間学外書講読Ⅰa(西洋古典語)	30	2	2~										○					○					
HUMC391	人間学外書講読Ⅰb(西洋古典語)	30	2	2~										○					○					

○メジャー・専修指定選択科目

※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、人間学専攻生以外は履修することができません。

※備考の「EMP」はEMP (English Medium Program) 科目であり、TOEICスコア600点以上の学生の履修を推奨します。

1. 理念・目的

経営学部は、建学の精神に基づいて「人間主義経営」の理念を掲げています。人間主義経営とは、生命尊厳の観点から、社会における人間の行動、組織活動をとおして様々な社会的課題に挑戦し、世界と人類の平和に貢献する組織経営です。経営学部は、これに立脚して確固たる目的観、知力・人間力をもつ創造的人間を育成するための規範的・実践的教育と研究を行うことを目的としています。

2. 教育目標

経営学部は以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 人間主義の視点から人類社会に貢献する強い意志をもって社会的な問題を発見・解決する能力を有し、課題への挑戦を不断に行う人材を育成する。
- (2) 社会における問題発見・解決のために必要な専門知識と手法をもち、幅広く奥深い教養を身につけた知力・人間力を有する人材を育成する。
- (3) 英語をはじめとする語学に堪能で、優れたコミュニケーション能力を有し、グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる人材を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

経営学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、次に示すラーニング・アウトカムズを身に付けた学生に学士（経営学）を授与します。

経営学部が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができる。

1. 人間主義経営の理念と社会的責任を理解し、社会で実践できる。
2. 現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを社会に活用できる。

論理的に考え、適切な表現で伝えることができる。

3. 課題解決に必要な情報を収集し、様々な知見を統合しながら、論理的に分析し、発表できる。
4. 日本語および英語の基礎的知識やコミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用できる。

多様性を尊重し、他者と協働することができる。

5. 様々な背景をもった人々や状況を受容する力を持ち、多様化する社会に対応できる。
6. チームで主体的・能動的に活動し、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働できる。

課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができる。

7. 社会に貢献する意志を有し、社会的かかわりの中で、そこにある課題に関心をもち、そこから問題発見し、解決できる。
8. 他者と協働し、論理的に思考しながら、人間主義に基づく価値を創造できる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経営学部は全学および本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針でカリキュラムを編成します。また、学生の教育満足度を高めるため、教育内容及び方法等に関する情報を常に教員間で共有し、教育改善に取り組みます。

- (1) 経営学部が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができるカリキュラム
 - ① 本学部の理念である人間主義経営を学ぶために、初年次セミナー、人間主義経営演習ならびに各専門科目の履修を通して、人間主義の基本的な考え方、行動様式、ならびに経営事象への応用方法などを学び、社会で実践できる能力を養います。
 - ② 学部では履修科目を、1) 国際的なリーダーを養成する科目群（グローバル・ビジネス・リーダー学修コース）、2) 専門性を発揮するリーダーを養成する科目群（プロフェッショナル学修コース）、3) 地域社会の発展に貢献するリーダーを養成する科目群（地方創生ビジネス学修コース）に大別し、順次的・体系

的に配置しています。これにより学生が自ら学修計画を立て、自身の目的・目標に応じて知識やスキルを獲得できる科目群を提供します。

- (2) 論理的に考え、適切な表現で伝えることができるカリキュラム
 - ① 経営現象を理解・分析し、説明する能力を身につけるために、経営管理や経営戦略、マーケティング、人的資源管理、会計・金融、統計学（データ・アナリシス）、経済学などの分野の諸理論、実証方法を、総合的・横断的に学びます。
 - ② グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力を身につけるために、語学に力を入れています。全学的な語学科目に加えて、1・2年次に実践的な英語科目を学部科目として多く履修できるカリキュラムとします。
- (3) 多様性を尊重し、他者と協働することができるカリキュラム
 - ① 英語で開講される専門科目（Global Program 科目）を設置し、日本人学修者に限らず多様な文化背景を持つ外国人留学生にも対応可能なカリキュラムとします。
 - ② 世界市民養成のために、長期／短期海外研修制度（グローバル・ビジネス・スクール留学／グローバル・プログラム・ミッション）を始めとする学部独自の仕組みをつくり、異なる背景を持った海外の学生等と協働することができるプログラムを提供します。
- (4) 課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができるカリキュラム
 - ① 1・2年次に配置された初年次セミナー、人間主義経営演習、ワークショップ科目において、アクティブラーニングの手法により主体的に問題を発見・解決できる能力を身につけられるようにします。
 - ② 3年次以降に配置された演習科目のなかで、人間主義経営を意識しながら、より高度な専門的知識を学び、それを活用して創造的な課題解決力を養います。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

経営学部は、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ本学部の教育目標で示した人材へと成長する資質を備えた学生を以下のように選抜します。

- (1) 経営学部の人間主義経営理念を理解し、広く社会で活躍しようとする目的観に立って本学部での学習を希望すること。総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）では、「面接試験」においてその意志を評価します。
- (2) 問題解決に必要な専門知識と手法を習得するために、高等学校までの教育において到達目標とされる基礎学力を有すること。一般選抜の大学入学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試（以下一般選抜）、外国人入試では、そのような基礎学力、即ち、知識・技能、思考力・判断力等を評価します。グローバルに展開する国際社会を舞台に活躍できる力を身につけるために必要な、基礎的な英語能力を有すること。特に一般選抜のうち大学共通テスト利用入試では英語の得点配分を他科目より高く設定します。また、総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）では実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を優遇する措置をとります。
- (3) 創造力や論理的思考力をもって問題発見・解決に主体的に取り組む資質と意欲を有すること。学校推薦型選抜（公募推薦入試）においては英語以外に、数学、国語も選択できるようにし、数理能力や思考力・判断力・表現力を評価します。また、総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）では、「書類審査」や「グループ・ディスカッション」、「小論文」、「面接試験」によって思考力・判断力・表現力、主体性・協働性などを評価するとともに簿記、情報処理、数学にかかわる資格・スコア等を優遇する措置を取ります。一般選抜においては、主体性、協働性に関する高等学校等までの取り組みについて出願時に記入を求め、入学後の修学指導等に活用します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます
		学術文章作法	選択必修科目	2単位	
	②大学科目		選択必修科目	4単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位	
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位	
	⑥人文・社会・健康科目		選択必修科目	2単位	
	⑦キャリア教育系科目		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1 ※2	選択必修科目	10単位	
経営学科 専門科目 (P.117～119)	必修科目			8単位	
	選択必修科目 ※3	選択必修A群		18単位	
		選択必修B群		16単位	
選択科目			36単位		
自由選択 ※4	『共通科目』『経営学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位			18単位以上	
合 計				124単位以上	

- ※1 第1外国語は、原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目（英語）」(P.56)又は学部学科英語科目(P.119)から10単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語の卒業要件は設定されていませんが、履修することは可能です。第2外国語を修得した場合、その単位は「自由選択」の単位として算入されます。
- ※3 選択必修A群18単位、又はB群16単位を超えて修得した単位数は、選択科目36単位に含めることができます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』、『経営学科専門科目』、『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『経営学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を38単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を18単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■経営学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	学期毎の修得 下限単位数	直前セメスターの GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20単位	16単位	3.50	4単位	可	3.70	3.70	84

早期卒業するためには、4セメスター終了時点で、基準のGPA数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時（6セメスター又は7セメスター終了時）に上記のGPA基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。経営学科では4年次配当の必修科目があるため、早期卒業をするためには、2年次秋学期と3年次春学期で成績優秀者となり、3年次春学期・秋学期に上級年次履修を行って4年次配当の必修科目を履修する必要がありますので注意してください。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターをWebより登録しなければなりません。

8. 3つの学修コース制（履修モデル）

社会とビジネスのニーズに応えられる人材を育成するため、次の3つの学修コース（履修モデル）を設けています。各コースに示されている履修モデルを参考にしつつ、共通科目、専門科目を選択してください。複数のコースを意識して、履修することもできます。

(1) グローバル・ビジネス・リーダー（GBL）学修コース

高い英語力と経営の専門能力を兼ね備えたビジネス・リーダーを養成するコースです。主な進路は、グローバル企業、国際機関、行政機関、国内企業、起業家、国内・海外のMBAなどです。1年次に「経営学原理」を学修するとともに、1～2年次に英語科目を学習してTOEICなどの英語基礎力のレベルを段階的に上げていきます。さらにグローバル・プログラムを履修することにより、国際的に活躍できるリーダーを目指すことができます。

(2) プロフェッショナル（PRO）学修コース

経営の専門能力を兼ね備えた会計・金融、データサイエンスのプロフェッショナル人材を養成するコースです。主な進路は、国内企業です。会計・金融分野に特化して学んだ場合の主な進路は、公認会計士、税理士、国税専門官、銀行、証券会社などです。「株式会社簿記」、「工業簿記」を履修し日商簿記検定2級取得を目指します。データサイエンスを体系的に学ぶこともできます。

(3) 地方創生ビジネス（LOC）学修コース

地方で活躍するために専門知識を持った人材を養成するコースです。主な進路は、事業継承、スタートアップ（起業）、地方銀行・信用金庫、地方中小企業や地方自治体などです。「経営学原理」と「株式会社簿記」を履修し、日商簿記検定3級もしくは2級取得を目指します。八王子市、NPO法人、中小企業等と連携して、実際の課題解決をとおした実践的な学びを大切にしています。

9. 履修モデル

学修コース選択によって、次のような標準的履修モデルに沿って履修してください。

■ 1年次

① グローバル・ビジネス・リーダー（GBL）学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I（春学期）、II（秋学期）を履修し、さらに Business English I（春学期）、II（秋学期）を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナーと選択必修科目の経営学原理を履修してください。秋学期は、コース導入科目である Introduction to Global Business Leadership を履修してください。また、選択必修科目である簿記原理と統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

② プロフェッショナル（PRO）学修コース

英語科目は、Study Skills for Business (SSB) I（春学期）、II（秋学期）を履修し、さらに Business English I（春学期）、II（秋学期）を履修してください。春学期は、必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目を履修してください。また、選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

③ 地方創生ビジネス（LOC）学修コース

英語科目は Study Skills for Business (SSB) I（春学期）、II（秋学期）を履修し、さらに Business English I（春学期）、II（秋学期）を履修してください。春学期は必修科目の初年次セミナー、選択必修科目の簿記原理と経営学原理を履修します。秋学期は、コース導入科目を履修してください。また選択必修科目である統計学を履修します。その他、春秋学期を通じて、共通科目を履修します。

■ 2年次

① グローバル・ビジネス・リーダー（GBL）学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English III を履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習と経済学を履修します。また、2年次でコース推奨科目（選択必修科目）を履修します。グローバル・プログラム（GP）履修者は、グローバル・プログラム科目から優先して履修してください。GP履

修者以外は、選択科目や共通科目を履修してください。また、3・4年次での履修を推奨しているコース強化科目の Global Business Communication I、IIを前倒しで2年次に履修することもできます。

② プロフェッショナル (PRO) 学修コース

英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English IIIを履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目とコース推奨科目を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学、コース強化科目とコース推奨科目を履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

③ 地方創生ビジネス (LOC) 学修コース

ローカルビジネス論、地方創生とビジネス、地方創生ワークショップを履修してください。英語科目は、春学期か秋学期のどちらかで Business English IIIを履修してください。春学期は選択必修科目である人間主義経営演習とコース強化科目とコース推奨科目を履修してください。秋学期は、選択必修科目である経済学、コース強化科目を履修します。春秋学期を通じて、残った選択必修科目や選択科目、共通科目を履修します。

■卒業に必要な英語 10 単位の修得方法

卒業に必要な英語 10 単位は、学部学科英語科目を履修することによって満たすことができます。学部生共通として、英語テストスコアに従ってクラスが割り当てられますので、それに従って履修してください。

■経営学部履修モデル (図)

	グローバル・ビジネス・リーダー (GBL) 学修コース	プロフェッショナル (PRO) 学修コース	地方創生ビジネス (LOC) 学修コース
1 年次 春学期	共通科目 (初年次セミナー、学術文章作法、データサイエンス入門)		
	経営学原理		
	Study Skills for Business (SSB) I		
	Business English I		
	簿記原理		
1 年次 秋学期	統計学		
	Study Skills for Business (SSB) II		
	Business English II		
	選択必修科目 (経営管理論、株式会社簿記、工業簿記 等)		
	Introduction to Global Business Leadership		
簿記原理			
2 年次	経済学		
	人間主義経営演習		
	選択必修科目 (人的資源管理論、経営戦略論、財務管理論、ビジネス・データサイエンス、株式会社簿記、工業簿記 等)		
	Business English III		
	Global Business Communication I・II	選択必修科目 (管理会計基礎、会計学、R プログラミング入門 等)	地方創生とビジネス
	Stakeholder Dialogue		地方創生ビジネス・ワークショップ
	International Context in Business		企業ソーシャルキャピタルと法等
	選択科目 (人間主義経営論 A~D、マーケティング、会社法、サステナビリティ会計、ビジネス&ロー・ワークショップ II・III 等)		
	G P 科目 (グローバルリーダー・ワークショップ I~IV, Project Management I)		

10. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）は必修科目です。以下のことに注意してください。

- ① 演習は定員制で、申し込みと選考があり、そこで所属が決定されます。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期については以下の通りです。

経営学部：演習Ⅰ～Ⅳ（専門必修科目）

演習Ⅰ（3年次春学期）・Ⅱ（3年次秋学期）・Ⅲ（4年次春学期）・Ⅳ（4年次秋学期）

11. 経営学部の英語教育（グローバル・プログラム，GP）

英語専門科目がレベルごとに段階的に設置されています。3つのコース共にグローバル・プログラム科目を取ることができます。

その中核科目である「Global Program Mission」は、学期中に海外の名門大学で経営を英語で学ぶ「グローバル・ビジネス・リーダーシップ研修」と、春季又は夏季休業期間を利用して海外の国際機関や経営大学院、外国企業を訪問し、最前線の専門家から講義など、地球市民としての視野を体感的に学習できる「地球市民としての企業研修」に分かれています。

グローバル・ビジネス・リーダー学修コースの方は、1年次にTOEICスコア最低450点を確保し、2年次以降に「Business English III」などの英語語学科目や「Global Business Communication I・II」などの英語関連の専門科目を継続的に履修し、TOEIC 730点のクリアを目指します。

プロフェッショナル学修コース、地方創生マネジメント学修コースの方も、Global Program Mission や、英語でプロジェクトの運営能力を磨く「Project Management」など、世界に通用する専門家としてGP科目を履修することをお勧めします。

■グローバル・プログラム修了証及びジュニアグローバルリーダー認定書

* 下記の条件を満たすものは、申請に基づき各修了証／認定証を授与します。

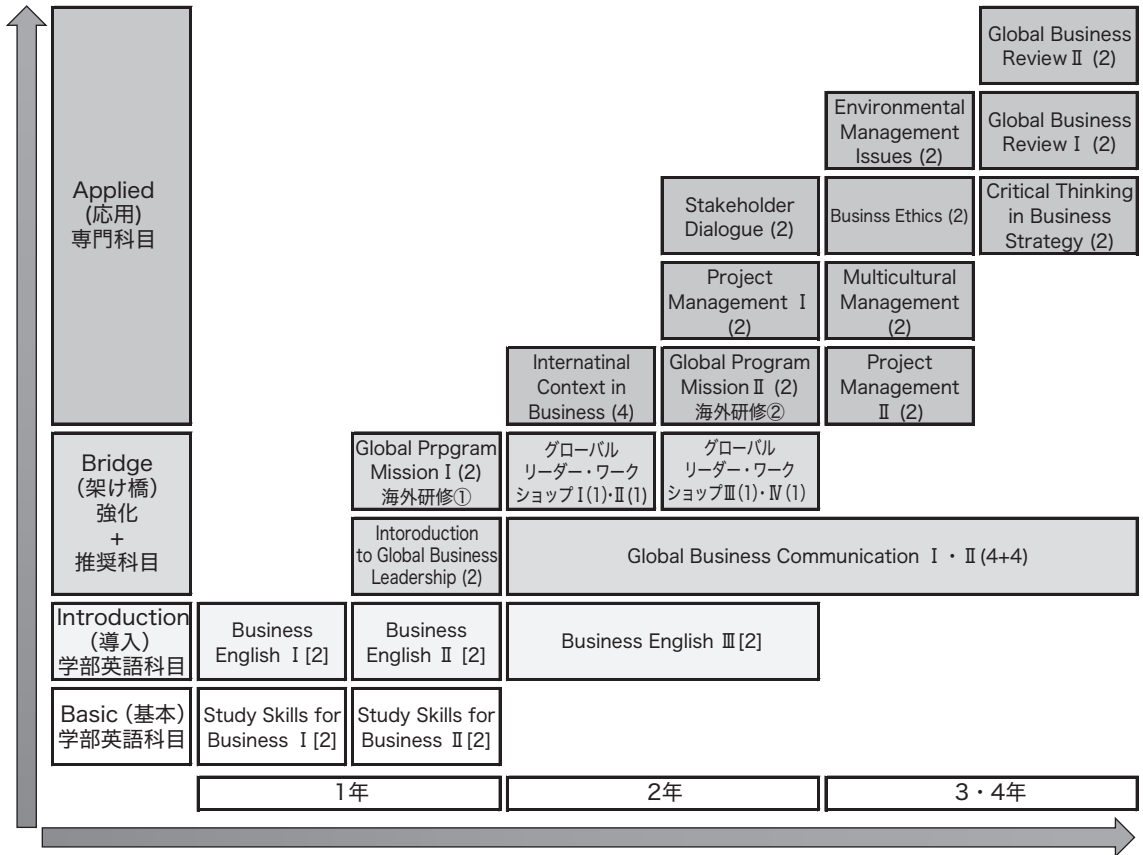
認証時期	最終学期終了時	3年次終了時以降	3年次終了時以降
	グローバル・プログラム修了証	ジュニアグローバルリーダー認定証	グローバルリーダー認定証
TOEIC	—	TOEIC730点以上 (過去1年以内)	TOEIC 800点以上 (過去1年以内)
GPA／成績	—	認定時までの GPA2.8 以上	認定時までの GPA3.2 以上
GP 科目	GP 科目 40 単位以上修了	GP 科目 20 単位以上修了	GP 科目 20 単位以上修了
修了テスト	—	—	修了テスト合格者

注1 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証を授与した者が、グローバル・プログラム修了証を重複して申請しても構いません。

注2 グローバルリーダー認定証又はジュニアグローバルリーダー認定証は、就職活動におけるPRで使用することを想定し、3年次終了時に認定することを基本としますが、就職活動で使用しない場合や、留学により卒業が遅れる等の場合は、3年次終了時以降に認定することも可能です。

注3 TOEIC 以外の英語試験スコアの提出も可能です。審議により各認定基準と同等と判断された場合には、認定証を授与します。

() 専門科目単位数 [] 英語科目単位数
 ※春学期・秋学期は都合により変わる場合があります。



1 2. 専門科目の認定について

経営学部では、下記の通り、経営学部の専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書（Web 上にて発行）と合格証書原本（教務課で写しを取った後に本人へ返却）を教務課に提出してください。その後学部教授会で審議され、認定されます。

(1) 簿記検定

- ① 入学前に日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得している場合、あるいは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定 1 級会計」と「簿記能力検定 1 級工業簿記」の両方を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）を認定します。
- ② 入学後、日本商工会議所主催の「簿記検定 2 級」を取得した場合、経営学部の専門科目「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位を認定します（簿記原理としての単位認定はできませんので、1 年生の間に簿記原理を修得してください）。
- ③ 日本商工会議所主催の「簿記検定 1 級」、若しくは全国経理教育協会主催の「簿記能力検定上級」を取得した場合、経営学部の専門科目「簿記原理」（4 単位）、「株式会社簿記」（2 単位）・「工業簿記」（2 単位）の 2 科目 4 単位、「会計学」（4 単位）のいずれか 4 単位を認定します。

※簿記検定の資格で認められる単位認定は 4 単位を上限とします。

(2) 「海外インターンシップ」「サービスマーケティング」について

経営学部では、海外における企業や団体組織での就業体験を行う「海外インターンシップ」科目、また産学公連携型ワークショップや授業を通して修得した知識を活用して地域社会での社会貢献活動を行う「サービスマーケティング」科目を開設しています。

【単位認定基準】

制度上、4 5時間相当の学修量をもって1単位と定められています。単位認定の時間的な基準は、以下のとおりです。

- ① 実施期間が90時間以上のインターンシップ、社会貢献活動…2単位
- ② 実施期間が180時間以上のインターンシップ、社会貢献活動…4単位
※この4単位は、「Global Business Internship A・B」または「サービ斯拉ーニングA・B」の科目の単位を修得することができます

また、シラバスに記載してある報告書等の作成に必要な時間や事前事後の準備のための時間も学修時間(2単位の場合10時間程度)と見なしますので、必要な書類の提出も単位認定の条件になります。時間配分の詳細についてはシラバスを参照してください。

【認定対象インターンシップ、サービ斯拉ーニングについて】

認定対象となるインターンシップ、サービ斯拉ーニングは、専門科目としての教育効果が十分に期待できると判断されるものに限ります。

- ① 公募型インターンシップ…一般に募集する国外におけるインターンシップ
- ② 経営学部の専門科目と関連した社会貢献活動、もしくはシラバスで指定する内容

これらの科目での単位修得を希望する場合は、それぞれの科目のシラバスをよく読み、以下の記載に沿って必要な手続きを行ってください。なお、これらの科目は認定科目として履修制限の対象外となり、評価はPF評価で行われます。

【履修登録の時期】

インターンシップ、サービ斯拉ーニング終了直後の学期に履修登録を行ってください。

【実習の進め方】

- ① 実習に応募する前にシラバスで確認し、経営学部の科目担当教員にご相談の上、必要な書類を経営学部事務室に提出してください。なお、事前ガイダンスがある場合には必ず参加してください。
- ② 実習終了後、必要な書類をそろえて、経営学部事務室に提出してください。
- ③ 詳細については、科目担当教員にお問い合わせください。

(3) 留学先で取得した科目の単位

留学により外国の大学で経営専門科目を履修し、単位を取得してきた場合、学生の申請に基づき、経営学部教授会で審議され、経営学部専門科目として認定することができます。その際、資料として、全学共通の海外留学単位認定願(専門科目)・講義内容(教務課窓口で配布)・留学先で発行した成績証明書原本【成績基準を含む】に加え、留学先での講義シラバスが必要になりますので、教務課に提出してください。

経営学部グローバル・ビジネススクールプログラムの参加を希望される方は、出発前に履修についてのガイダンスを担当教員から必ず受けるようにしてください。なお、現地で取得した単位は、上記の留学単位と同様に、経営学部教授会で審議され、経営学部専門科目として認定することができます。成績証明書とともに講義シラバスが必要になります。詳しくはGP担当教員の指示に従ってください。

■ 専門科目表の見方（経営学科専門科目）

次のページから掲載されている経営学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	学習コース				他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目								ターム制
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8	
①	②	③	④	⑤	⑥				⑦	⑧	⑨								⑩

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥学修コース	各学修コースが履修を推奨する科目が何かを表します。各学修コース列に導入(▲)、強化(△)、推奨(○)科目の印が付されていますので、選択した学修コースに応じて計画的に履修してください。なお、学修コース名は以下の略です。 GBL：グローバル・ビジネス・リーダー／PRO：プロフェッショナル LOC：地方創成ビジネス／GPET：Global Program English Track（英語で専門科目を学習）
⑦他学科履修	経営学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、経営学科生以外は履修できません。
⑧備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑨ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを現します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 人間主義経営の理念と社会的責任を理解し、社会で実践できる。 2. 現代経営に必要な基礎的知識を有し、経営の仕組みを理解して、その知識やスキルを社会に活用できる。 3. 課題解決に必要な情報を収集し、様々な知見を統合しながら、論理的に分析し、発表できる。 4. 日本語および英語の基礎的知識やコミュニケーション能力を有し、ビジネスや社会で活用できる。 5. 様々な背景をもった人々や状況を受容する力を持ち、多様化する社会に対応できる。 6. チームで主体的・能動的に活動し、世界市民としてグローバルな視野で他者と協働できる。 7. 社会に貢献する意志を有し、社会的かかわりの中で、そこにある課題に関心をもち、そこから問題発見し、解決できる。 8. 他者と協働し、論理的に思考しながら、人間主義に基づく価値を創造できる。
⑩ターム制	ターム制の科目かどうかを表します。

■ 経営学部 経営学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	学習コース				他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目								ターム制
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8	
必修科目 8単位																			
BUSI301	演習 I	30	2	3-4	◎	◎	◎	◎	x			◎	◎	◎	◎				
BUSI302	演習 II	30	2	3-4	◎	◎	◎	◎	x			◎	◎	◎	◎				
BUSI401	演習 III	30	2	4	◎	◎	◎	◎	x			◎	◎	◎	◎				
BUSI402	演習 IV	30	2	4	◎	◎	◎	◎	x			◎	◎	◎	◎				
選択必修科目A群 18単位以上(各科目群から指定された単位数をそれぞれ取得すること)																			
経営学(4単位)																			
BUSI101	経営学原理	60	4	1~	○	○	○		x			◎	◎						
INLA282	Principles of Business	60	4	1~				○		連携(国)									
簿記原理(4単位)																			
BUSI102	簿記原理	60	4	1~	○	○	○		x			◎	◎						
BUSI103	Introduction to Accounting I	30	2	1~				○	x			◎	◎						
BUSI104	Introduction to Accounting II	30	2	1~				○	x			◎	◎						
統計学(4単位)																			
BUSI105	統計学	60	4	1~	○	○	○		x			◎	◎						
INLA120	Foundations of Data Science	60	4	1~				○		連携(国・済)									
経済学(4単位)																			
BUSI201	経済学	60	4	2~	○	○	○		x			◎	◎						
INLA281	Principles of Economics	60	4	1~				○		連携(法・国)									
人間主義経営演習(2単位)																			
BUSI202	人間主義経営演習	30	2	2~	○	○	○		x			◎	◎						
BUSI203	Humanistic Management Workshop	30	2	2~				○				◎	◎						
選択必修科目B群 16単位以上																			
BUSI111	Introduction to Global Business Leadership	30	2	1~	▲			▲	x				◎	◎					
BUSI112	株式会社簿記	30	2	1~		▲	○		x			◎	◎						
BUSI113	工業簿記	30	2	1~		▲			x			◎	◎						
BUSI114	経営管理論	60	4	1~	○	○	▲			連携(法)		◎	◎						
BUSI211	Global Business Communication I	60	4	2~	△			○	x				◎	◎					
BUSI212	Global Business Communication II	60	4	2~	△			○	x				◎	◎					
BUSI213	管理会計基礎	60	4	2~		△						◎	◎						
BUSI214	会計学	60	4	2~		△				連携(法)		◎	◎						
BUSI215	ローカル・ビジネス論	30	2	2~			△					◎	◎						
BUSI216	人的資源管理論	60	4	2~	○	○	○			連携(法)		◎	◎						
BUSI217	財務管理論	60	4	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI218	経営戦略論	60	4	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI219	ビジネス・データサイエンス	60	4	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI220	Rプログラミング入門	30	2	2~		○	○					◎	◎						
BUSI221	International Context in Business	60	4	2~	○			△		連携(済・法)		◎	◎						
BUSI222	Principles of Marketing	60	4	2~	○			△		連携(済・法)		◎	◎						
BUSI223	Stakeholder Dialogue	30	2	2~	○			△				◎	◎						
BUSI224	Financial Management	60	4	2~	○			△		連携(済・法)		◎	◎						
INLA483	International Business	60	4	2~	○			○		連携(法・国)									
選択科目 36単位以上																			
BUSI241	人間主義経営論A	15	1	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI242	人間主義経営論B	15	1	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI243	人間主義経営論C	15	1	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI244	人間主義経営論D	15	1	2~	○	○	○					◎	◎						
BUSI245	マーケティング	30	2	2~								◎	◎						
BUSI246	会社法	60	4	2~															
BUSI247	地方創生とビジネス	30	2	2~			△		x			◎	◎						
BUSI248	地方創生ビジネス・ワークショップ	30	2	2~			△		x			◎	◎						
LAWP218	まちづくり八王子フィールドワーク	30	2	2~			△			連携(法)									
LAWP215	公共政策論	30	2	2~			△			連携(法)									
LAWP324	地方政治論	30	2	3~			△			連携(法)									
BUSI249	プロジェクト・マネジメント論	30	2	2~								◎	◎						
BUSI250	サステナビリティ経営会計	30	2	2~								◎	◎						
ECON231	資本市場と証券投資	30	2	2~						連携(済)		◎	◎						
BUSI251	経営情報論	60	4	2~						連携(共)		◎	◎						
BUSI252	Pythonプログラミング入門	60	4	2~								◎	◎						
INLA220	Programming	60	4	1~				○		連携(国)									
LAWP209	ビジネス&ロー・ワークショップ I	30	2	2~						連携(法)									
BUSI253	ビジネス&ロー・ワークショップ II	30	2	2~					x	連携(法)		◎	◎						
BUSI254	専門基礎演習	30	2	2~					x			◎	◎						
BUSI340	経営組織論	60	4	3-4								◎	◎						
BUSI341	企業論	60	4	3-4						連携(法)		◎	◎						
BUSI342	ベンチャー・ビジネス論	60	4	3-4								◎	◎						
BUSI343	生産管理論	60	4	3-4								◎	◎						

◎必修科目 ▲コース導入科目 △コース強化科目 ○コース推奨科目
 ※備考の「連携~」は、他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。
 ※他学部履修欄に「x」が付いている科目は、経営学部生以外は履修出来ません。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	学習コース				他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目								ターム 制
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8	
選択科目 36単位以上 (つづき)																			
BUSI344	流通論	30	2	3-4								◎				○	○	○	
BUSI345	消費者行動論	30	2	3-4								◎				○	○	○	
BUSI346	サービス・マーケティング	30	2	3-4								◎						○	
BUSI347	経営史	60	4	3-4								○						◎	
BUSI348	環境マネジメント	30	2	3-4								○						◎	
BUSI349	ビジネス統計	30	2	3-4								○◎						○	
BUSI350	AIとビジネス	30	2	3-4								◎						○	
BUSI351	ビジネス・シミュレーション	30	2	3-4								○◎						○	
BUSI352	金融論	60	4	3-4								○						◎	
BUSI353	金融機関論	30	2	3-4								○						◎	
BUSI354	証券市場論	60	4	3-4								◎	○					◎	
BUSI355	企業価値管理会計	60	4	3-4								○						◎	
BUSI356	監査論	30	2	3-4								◎	○					○	
ECON311	ミクロ経済学中級	60	4	2~														◎	
ECON312	マクロ経済学中級	60	4	2~														◎	
BUSI357	労働法	60	4	3-4														◎	
BUSI358	民法	60	4	3-4														◎	
BUSI359	ビジネス&ロー・ワークショップⅢ	30	2	3-4					×			○						◎	
BUSI440	マネジメント・サイエンス	60	4	3-4								○◎						○	
BUSI441	国際経営論	60	4	3-4														◎	
BUSI442	国際地域経営論	30	2	3-4														◎	
BUSI443	多国籍企業論	60	4	3-4														◎	
BUSI444	国際比較経営史	30	2	3-4								○						◎	
LAWP315	社会保障法	60	4	3-4														◎	
LAWP316	知的財産法	60	4	3-4														◎	
LAWP317	租税法	60	4	3-4														◎	
LAWP323	環境法	60	4	3-4														◎	
LAWP318	消費者法	30	2	3-4														◎	
BUSI160	サービス・ラーニングA	15	1	1~					×			◎						○	
BUSI161	サービス・ラーニングB	15	1	1~					×			◎						○	
BUSI162	サービス・ラーニングC	15	1	1~					×			◎						○	
BUSI163	サービス・ラーニングD	15	1	1~					×			◎						○	
BUSI164	Global Business Internship A	30	2	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI165	Global Business Internship B	30	2	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI166	International Business Studies I	45	3	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI167	International Business Studies II	45	3	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI168	International Business Studies III	45	3	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI169	International Business Studies IV	45	3	1~					×			○	◎	○				○	
BUSI191	特殊講義A	30	2	1~														◎	
BUSI192	特殊講義B	30	2	1~														◎	
BUSI193	経営特講A	60	4	1~														◎	
BUSI291	特殊講義C	30	2	2~														◎	
BUSI292	特殊講義D	30	2	2~														◎	
BUSI293	経営特講B	60	4	2~														◎	
BUSI391	特殊講義E	30	2	3-4														◎	
BUSI392	特殊講義F	30	2	3-4														◎	
BUSI393	特殊講義G	30	2	3-4														◎	
BUSI394	特殊講義H	30	2	3-4														◎	
BUSI395	経営特講C	60	4	3-4														◎	
BUSI396	経営特講D	60	4	3-4														◎	
Global Program科目 ※専門選択科目の単位として参入されます																			
BUSI181	Global Program Mission I	30	2	1~														◎	
BUSI182	Global Program Mission II	30	2	1~														◎	
BUSI183	グローバルリーダー・ワークショップI	15	1	1~														◎	
BUSI184	グローバルリーダー・ワークショップII	15	1	1~														◎	
BUSI281	グローバルリーダー・ワークショップIII	15	1	1~														◎	
BUSI282	グローバルリーダー・ワークショップIV	15	1	1~														◎	
BUSI283	Project Management I	30	2	2~								◎						◎	
BUSI284	Project Management II	30	2	3-4								◎						◎	
BUSI285	Japanese Business A	30	2	2~														◎	
BUSI286	Japanese Business B	30	2	2~														◎	
BUSI381	Multicultural Management	30	2	3-4														◎	
BUSI382	Sustainable Business and Management	30	2	3-4								○						◎	
BUSI383	Global Business Review I	30	2	3-4														◎	
BUSI481	Global Business Review II	30	2	3-4														◎	
BUSI384	Business Ethics	30	2	3-4														◎	

◎必修科目 ▲コース導入科目 △コース強化科目 ○コース推奨科目
 ※備考の「連携～」は、他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。
 ※備考の「[制限外]」は履修制限除外科目を表します。
 ※備考の注1 経営学部生がこの科目を履修する場合は、「経済学」の単位を修得済みであること。
 ※他学部履修欄に「×」が付いている科目は、経営学部生以外は履修出来ません。

科目 ナンバリング	科 目 名	授業 時間	単 位	履修 年次	学習コース				他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目								ターム 制
					GBL	PRO	LOC	GPET			1	2	3	4	5	6	7	8	
Global Program科目(つづき) ※専門選択科目の単位として参入されます																			
BUSI385	Environmental Management Issues	30	2	3・4				○		連携(法)			○					◎	○
BUSI386	Critical Thinking in Business Strategy	30	2	3・4				○					○	○					◎
BUSI387	Principles of Consumer Behavior	30	2	3・4				○					◎	○	○				
LAWP102	Introduction to Legal Studies	30	2	1~				○	x	連携(法)									
LAWP234	International Relations	30	2	2~				○		連携(済・法)									
LAWP342	International Human Rights	60	4	3・4				○		連携(済・法)									
LAWP235	International Environmental Policy	30	2	2~				○		連携(済・法)									
LAWP351	Environmental Law	30	2	3・4				○		連携(済・法)									
LAWP232	Peace Studies	30	2	2~				○		連携(済・法)									
ECON356	Economic Development of Japan I	30	2	2~				○		連携(済・法)									
ECON358	Political Economy of Japan and Asia	30	2	2~				○		連携(済・法)									
ECON372	Development and Environment	60	4	2~				○		連携(済)									
ECON396	Business and Japanese People	30	2	2~				○		連携(済・法)									
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	30	2	2~				○		連携(済・法)									
学部学科英語科目 ※言語科目(英語)の単位として算入されます																			
BUSI171	Study Skills for Business I	60	2	1~					x				◎	○	○				
BUSI172	Study Skills for Business II	60	2	1~					x				◎	○	○				
BUSI173	Business English I	60	2	1~					x				◎	○	○				
BUSI174	Business English II	60	2	1~					x				◎	○	○				
BUSI271	Business English III	60	2	2~					x				◎	○	○				

◎必修科目 ▲コース導入科目 △コース強化科目 ○コース推奨科目
 ※備考の「連携～」は、他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先の学科を表します。
 ※備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。
 ※備考の注1 経営学部生がこの科目を履修する場合は、「経済学」の単位を修得済みであること。
 ※他学部履修欄に「x」が付いている科目は、経営学部生以外は履修出来ません。

1. 理念・目的

教育学部は、創価教育の父、牧口常三郎先生の遺志を受け継ぎ、その精神を基盤にして「人間教育とは何か」について探究し、将来のさまざまな場面における問題を、教育学的・心理学的視点から、高度な知識と技術をもって解決できる人間の育成を目指しています。また、教育学科、児童教育学科ともに創価大学のグランドデザインが示す「創造的世界市民」の育成を念頭に、人間主義に基づいた学問研究と教育実践を行います。

2. 教育目標

教育学部は、以下の4項目を教育目標に掲げています。

- (1) 教育学、心理学に関連する諸学問の学修を通して、それを、教育を考えるための糧としていくことができる人間を育成する。
- (2) さまざまな教育の場において、現在どのような問題が起こっているのか、その問題の解決のために何が求められているかを理解し、それを実際に解決できる問題解決能力を身につけた人間を育成する。
- (3) 教育問題を自明のものとして受け止めるのではなく、それらをつねに学問的な検証の対象にしていく態度を身につけた人間を育成する。
- (4) 教育問題を、地域・国・世界というさまざまなレベルで考え、その結果を自分の言葉で語るとともに、社会の様々な領域における活動において活用することができる人間を育成する。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

教育学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、さまざまな地域・社会や組織・集団における事象や課題に対し、以下のラーニング・アウトカムズを身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、GPA 基準を満たした学生に学士（教育学）を授与します。

- (1) 教育学および心理学に関する知識を身につける。
- (2) 自らの考えを適切に表現し、伝えられる。
- (3) 論理的あるいは実践的に課題を考察できる。
- (4) 課題解決に向けて協働して取り組む。
- (5) 課題解決に際し、多様な意見や視点を踏まえ新たな価値創造ができる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育学部は、全学、および本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、教育学および心理学に関する知識を身につけ、論理的あるいは実践的に課題を考察し、課題解決に向けて新たな価値創造ができる学生を以下のカリキュラムを通して育成しています。

教育学部では、学士課程教育機構が提供する共通科目を活用することで、大学が求める学位授与要件の充足に努めています。まず、1年次春学期に開講の教育学部用の「初年次セミナー」を通じ、大学生生活への適応を促し、教育学部生としての帰属意識を高めます。並行して受講が課される「データサイエンス入門」で、来るべき Society 5.0 時代に備えた数値処理の感覚を養います。これを受け、2年次には教育学科では「心理学実験（心理学実験法）」、児童教育学科では「授業改善のためのデータ活用」を設け、継続的な数値能力向上を図ります。また、文章力向上にも力を入れ、1年次秋学期に履修する「学術文章作法Ⅰ」で身につけた作文技能を3年次の卒業研究Ⅰの課題「ジュニアペーパー」で点検します。さらに、学期の最初と最後にリフレクション・アワー（注1）の時間を設けることで、自身の学びについて自己評価を行い、主体的な学習態度を身につけます。加えて、異文化理解の促進を視野に、1・2年次では英語および第二外国語の履修を課し、交換留学をはじめ種々の海外研修を奨励します。

さらに、本学部では1年次の基幹科目を中心に多くの科目でアクティブラーニングの形式を取り入れることで、能動的・主体的に学習に向かう姿勢や課題解決に向けて仲間と協働して取り組む技能・スキルを養います。2年次以降の専門科目では、理論を学ぶとともに、実践的な課題を分析・考察する能力を育成します。

¹ リフレクション・アワーとは、学部教育を通じて達成しようとする学修成果（LOs）の伸長・達成度について学生自身が評価をし、振り返る活動です。

加えて3・4年次の「演習」では、担当教員の専門領域ごとに少人数指導を行い、仲間との学び合いを通して、多様な意見や視点を踏まえ、新たな価値創造を目指します。

(1) 教育学科

教育学科では、教育学的に、あるいは心理学的に教育の諸問題を考え、社会の様々な領域で活躍できる人材の育成を目指します。4年間の学びを通して、教育に関する諸問題の解決に向けた活動を支える知識・技能・態度を育成していきます。本学科では、全員に履修することが期待される基幹科目²と、個々の学生がニーズや興味・関心に応じて履修する選択科目があります。

1年次の基幹科目は「教育原論」「心理学概論」「教職概論」「教育・学校心理学」です。2年次は「学校研究」「教育社会学」「教育哲学」「発達心理学」です。3・4年次は「演習」と「卒業研究」です。これらの科目を通じて、教育に関する諸問題を多面的・多角的に考える基盤を作ります。

基幹科目の学修と並行して、学校教育、国際教育、及び心理学の分野を広く・深く学ぶための複数の科目が、学年進行と内容の深化・発展の度合い³に応じて用意されています。これらは便宜的に学校教育コース、国際教育コース、心理学コースに大別⁴され、学生が履修する際の目安になっています。

- ・学校教育コースの主な科目
「教育方法学」「教育行財政学」「インクルーシブ教育論」など
- ・国際教育コースの主な科目
「平和と教育」「国際理解教育論」「国際開発教育論」など
- ・心理学コースの主な科目
「教育カウンセリング」「臨床心理学概論」「心理学研究法」など

なお、教育学科には公認心理師養成課程があり、「公認心理師の職責」「心理学的支援法」「精神疾患とその治療」などの座学と、「心理演習」「心理実習Ⅰ・Ⅱ」などの演習・実習科目を通して心理の専門職を目指すことができます⁵。教職課程については、中学校教諭「社会」・高等学校教諭「公民」免許課程が置かれています。加えて、他学科科目履修制度を活用し、児童教育学科に開設されている小学校・幼稚園・特別支援学校教諭免許課程及び文学部人間学科に開設されている中学校・高等学校教諭「英語」免許課程を履修することができます。

² 基幹科目には、それが履修できないと卒業できない必修科目と、強く履修が望まれるものの、他の重要な（基幹科目に準ずる）科目で代替の利く選択必修科目があります。

³ 各科目には科目コードがついています。その中で下3桁の数字が履修適正年次や科目の深度（難易度）を表します。これをナンバリングと呼びます。

⁴ コースは3つに分かれますが、科目の履修条件さえ満たせばどのコースの科目でも履修できます。

⁵ 心理専門職を目指す場合、公認心理師・臨床心理士の資格取得が前提になりますが、そのためには大学院（修士課程）での更なる研鑽が必要です。創価大学大学院教育学研究科には両方の資格取得のための課程がありますが、公認心理師課程は大学在籍中（学士課程）から所定の科目を履修せねばなりません。

(2) 児童教育学科

児童教育学科では、児童教育の分野における学識豊かな人材の育成、特に小学校・幼稚園・特別支援学校の教員の養成を目指しています。そのため、学年進行に応じ、教職に必要な専門性を高め、伸ばす科目を配置しています。

まず1年次には必修科目の「教育原論」「心理学概論」により、教育学と心理学の基本的な知識や考え方を修得できるようにしています。以降、選択必修科目の「教育・学校心理学」「学校研究」「教育行財政学」「特別支援教育概論」「カリキュラム論」「教育の方法と技術」「授業改善のためのデータ活用」等により、小学校・幼稚園・特別支援学校の教員としての問題発見・解決能力を養い、幼児・児童・生徒の心理を理解するとともに、学校を取り巻く諸問題を、教育学的・心理学的観点から反省的・分析的に思考し、解決に取り組む力や態度を養います。また「教職概論」では、教員としての倫理性や子どもの成長のために尽くす責任感を身につけます。

児童教育学科には、①小学校教諭免許、②幼稚園教諭免許、③特別支援学校教諭免許、の3つの教職課程が設置されています。それぞれの免許取得に必要な科目が必修・選択科目として開講されています。学生は、

各自が目指す教職に必要な科目を学年進行で履修していきます。加えて、教職課程を目指す学生のためには、「学校体験活動」等教育実習に先立って学校現場を経験する科目が用意され、子どもたちや教員との交流を通して、自らが教員として絶えず成長しようとする態度を身につけることができます。

なお、小学校・幼稚園教諭の教員免許状に加え、他学科科目履修制度を利用し、児童教育学科に在籍しながら中学校教諭免許状（英語・社会）、高等学校教諭免許状（英語・公民）の取得が可能です。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

教育学部は、学部理念・目的に示した能力を持つ人間を育成するため、人間主義に基づいた教育の探究と実践を志し、基礎的な知識・技能および的確な読解力・表現力を土台として、柔軟な思考をもって他者と協力できる学生を求め、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の基準で選考を行います。

- (1) 本学部の理念・目的への理解を基礎とした志望動機、人間主義に基づいた教育を探究しようとする修学意欲については、総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）や学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）、外国人入試において行う書類審査及び面接を通して評価します。
- (2) 大学での学修活動において要求される基礎的な知識・技能については、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、一般選抜の大学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試（以下一般選抜）、外国人入試で行われる書類審査及び学力試験の結果を通して評価します。これらの入試での評価にあたっては、英語力を相対的に重視し、総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）や学校推薦型選抜（公募推薦入試）の書類選考においては、実用英語能力テストの結果に応じて優遇措置を取ります。また公募推薦入試での学力試験においては、英語のほか国語や数学も選択可能とし、幅広い能力を評価できるようにします。
- (3) 教育の理論・実践の探求を目指す上で必要不可欠となる読解力・表現力、柔軟な思考力については、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、一般選抜で行われる学力試験、さらに総合型選抜（PASCAL 入試）のグループ・ディスカッション、総合型選抜（小論文方式）の小論文、外国人入試で行われる小論文審査を通して評価します。
- (4) 他者と協力できる協働性については、総合型選抜（PASCAL 入試）において行うグループ学習を通して評価します。

教 育 学 部 教 育 学 科

1. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	
	共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位
学術文章作法			必修科目	2単位	
②大学科目			選択必修科目	4単位	
④世界市民教育科目			選択必修科目	4単位	
⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目		データサイエンス入門	必修科目	2単位	
			選択必修科目	2単位	
⑥人文・社会・ 健康科目	人文科学系科目	選択必修科目	2単位		
	健康科学系科目				
外国語科目	第1外国語 ※1	選択必修科目	6単位		
	第2外国語 ※2	選択必修科目	4単位		
教育学科 専門科目 (P.127～128)	必修科目			14単位	
	選択必修科目 ※3			18単位	
	選択科目			46単位	
自由選択 ※4	『共通科目』『教育学科専門科目』『他学科専門科目(注)』『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			18単位以上	
合 計				124単位以上	

注：他学科専門科目は最大24単位まで、『専門選択科目』の単位として算入することができます。それ以上修得した場合は『自由選択』の単位として算入されます。

- ※1 第1外国語は原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(P.56)から6単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 選択必修科目で18単位を超えて修得した単位数は、選択科目46単位に含めることができます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』、『教育学科専門科目』、『他学科専門科目』、『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得できる区分です。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『教育学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を50単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を18単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

2. 成績による履修制限緩和措置・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■教育学科の成績による履修制限緩和措置は以下の通りです。

学期毎の 上限単位数	成績による履修制限緩和措置の基準		成績による履修制限緩和措置	
	学期毎の 修得下限単位数	直前セメスターの GPA 数値	追加単位数	上級年次履修
20単位	16単位	2.70	5単位 (計25単位)	不可

■教育学科には、成績優秀者、および、早期卒業の制度はありません。

3. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）の履修にあたっては、以下のことに注意してください。

- ① 演習は、申し込みののちに選考があり、所属が決定されます。
※本人の不注意や指示違反によって選考に漏れたり、選考手続きを行わなかった場合は、次年度に所属ゼミを決定します。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 選考に際し、成績（GPA）が考慮されます。
- ④ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期

演習Ⅰ（専門必修、3年次春学期）・Ⅱ（専門必修、3年次秋学期）・Ⅲ（専門必修、4年次春学期）

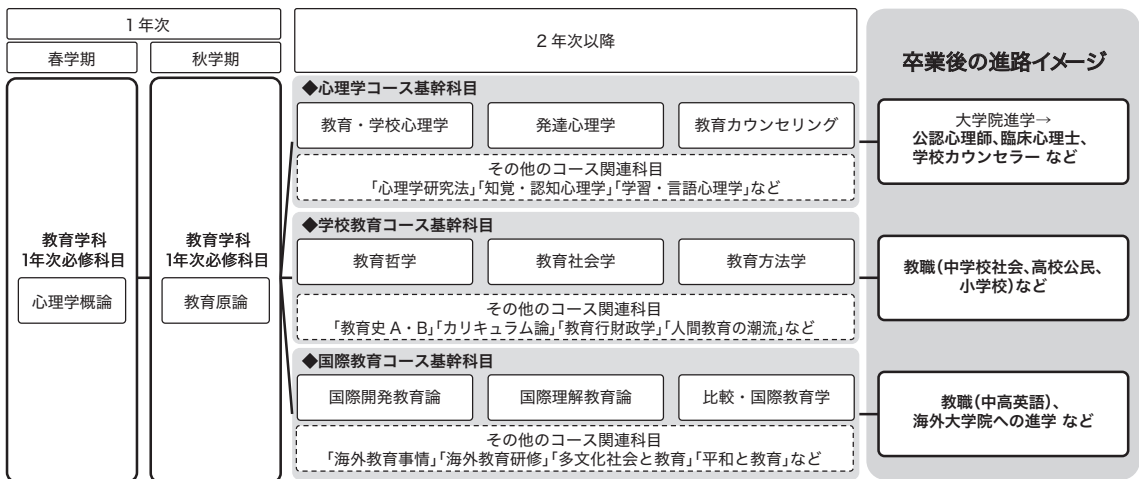
※演習Ⅳは専門選択必修科目で、4年次秋学期に開講します。

4. 履修についてのガイドライン

(1) 4年間のカリキュラム

教育学科の学修は2年次から「ゆるやかなコース」に分かれるように設計されています。「ゆるやか」と表現した理由は、コースの厳格な枠組みがあるわけでも、1つのコースを進めばそれだけで卒業単位を満たせるわけでもないからです。「ゆるやかなコース」とは、教育学科の学生の皆さんが科目選択を一定の方向に自覚的に整えていくための科目の並び方だと考えてください。

「ゆるやかなコース」は3つあります。1つは教育学コース、もう1つは心理学コース、そして最後に国際教育コースです。それぞれに基幹諸科目（主に選択必修科目）が設置されていますが、2年次になってどの基幹諸科目の路線（コース）に入るかについては、1年次の学修のなかで卒業後の進路の希望を踏まえつつ、自覚的に選択してください（下図参照）。



注：卒業後の進路のイメージについて、一般企業や国家・地方公務員志望はもちろんだのコースにも当てはまります。また国際教育コースでなければ留学ができないわけではありません。

教育学科のカリキュラムは、1・2年次の履修のあり方が3・4年次に大きく影響してきます。そこで、主に1・2年次の履修についてのガイドラインを次の3点で示します。

- ① 特に将来の進路との関係でいえば、臨床心理士の資格の取得を希望する者は、その基礎となる科目を選択すること。あるいは教職課程、公認心理師養成課程の登録者については、それぞれに必要な科目

(別掲の関係ページを参照のこと)を選択することが大切です。

- ② 各コースの基幹科目には履修順序があり、計画的に取り組まないと、上級年次で履修できない科目が生じることがあるので、注意してください。
- ③ 3・4年次においての演習(ゼミ)を選ぶかを早いうちから考え、それに役立つ科目を1・2年次で、ある程度選択すべきです。

(2) 1年次の履修の仕方

1年次の段階では共通科目における学修を着実に進めるとともに、以下の点に注意しながら教育学科の専門科目を履修・修得してください。

- ・ 1年次の必修科目で、春学期の「心理学概論」と秋学期の「教育原論」の学修にはとりわけ集中して取り組み、単位を必ず修得してください。これらの単位を修得できなかった場合には、2年次以降の学修の歩みを著しく妨げることになります。1年次、特に春学期の必修科目はきわめて大事であることを忘れないでください。
- ・ 履修要項の専門科目表の「備考」には「注」が示され、当該科目の履修に必要な諸条件が記されています。例えば、「教育・学校心理学」の「注2」は、1年次秋学期の「教育・学校心理学」を履修するには、1年次春学期の「心理学概論」を単位修得済みであるという条件を示しています。また、「発達心理学」に付されている「注3」を見れば、1年次の「発達心理学」を履修するには、「教育・学校心理学」の単位を修得済みでなければならないことが分かります。受講科目を選択・決定する際には、「注」に示されている諸条件を参照することがとても重要です。その重要性を3年次科目の「教育カウンセリング」を例に説明しましょう。この科目は教職課程の選択必修科目ですが、3年次になれば誰でも履修できるわけではありません。「注4」で「発達心理学」の単位を修得済みであることが示されているため、この科目を履修するには、それ以前に、心理学概論→教育・学校心理学→発達心理学、という修得段階を踏まねばなりません。この段階を踏み外すごとに、「教育カウンセリング」の履修セメスターが1年ずつずれ込むことになります。この点は特に注意が必要です。
- ・ 1年次春学期の共通科目の「初年次セミナー」は、高校とは異なる大学での学修活動の目的や意義を明確にし、これに必要な基礎力の形成を目指しています。この授業では、多くのSA (Student Assistant)、つまり学部先輩が、皆さんの学修を支援します。学修の方法や姿勢を先輩から吸収してください。この科目も必修科目ですから、必ず履修し単位を修得してください。なお、秋学期の「スタディー・リーダー基礎」を履修するには、「初年次セミナー」を単位修得済みであることが条件です。
- ・ 教育学コースの選択を考える学生には、2年次の「教育史A」「教育史B」の履修・修得が推奨されます。
- ・ 教職を志望する場合には、教職課程に登録しなければなりません。別冊の『教職課程ガイド』を確認しながら、必要単位の履修漏れがないように注意してください。なお、共通科目のなかでは、日本国憲法、体育(講義と実技)、外国語、データサイエンス入門は教職課程の必修科目です。教員免許状取得のためには必ず修得する必要があります。
- ・ 中高英語、小学校、特別支援学校教員免許状の取得のための単位は、多くが他学科専門科目となり、教育学科の卒業単位にならないことがあります。そのため、中高英語と小学校の教員免許状のどちらかあるいは両方の取得を希望する学生の修得単位数は非常に多くなります(通常の学期中に修得し切れない小学校の教職科目については、通信教育課程の夏期スクーリング(有償)で修得することが可能です。詳しくは教職キャリアセンターに相談してください)。もしもこれらの免許取得を希望する場合には、安易な気持ちで始めることなく、強い決意と継続的な熱意に加え、確かな計画性をもって取り組んでください(もちろん、途中での進路変更もあり得ますし、それは決して悪いことではありません)。
- ・ 中学社会と高校公民の教員免許状の取得のための単位は、教育学科の専門科目であるため、上記の中高英語あるいは小学校の教員免許状の取得と比べれば、時間的な負担はかかりません。ただし、中学社会と高校公民の教員採用の募集数は、他の教科よりも少ないため、合格が困難です。繰り返しになりますが、もしも希望する場合には、安易な気持ちで始めることなく、強い決意と継続的な熱意に加え、確かな計画性をもって取り組んでください(もちろん、途中での進路変更もあり得ます)。
- ・ 2年次以降に置かれた「学校体験活動I～IV」を履修するためには、1) 教職課程に登録済みであること、2) 2年次春学期に置かれた「学校研究」を同時に履修するか、修得済みであること、の2つの条件を満たす必要があります。
- ・ 3・4年次に置かれた「ミュージアム・エデュケーションI・II」を履修するためには、共通科目の「ボランティア入門」の単位を修得しておく必要があります。
- ・ 心理職の国家資格である公認心理師を志望する場合には、公認心理師養成課程に登録しなければなりません。資格試験を受けるためには公認心理師養成課程に登録し、定められた全科目の履修ならびに全ての単位の修得が必要です。課程登録は2年次ですが、1年次から指定科目を履修する必要があります(詳

しくはガイダンスにて)。

- 公認心理師養成課程の指定科目である「人体の構造と機能及び疾病」は文学部の専門科目(科目ナンバリングはHUMW406)として配置されています。そのため、教育学科の専門科目表には記載されていません。

■専門科目表の見方(教育学科専門科目)

次のページから掲載されている教育学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
⋮ ①	⋮ ②	⋮ ③	⋮ ④	⋮ ⑤	⋮ ⑥	⋮ ⑦	⋮ ⑧				

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	教育学科、又は教育学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は教育学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は教育学部生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目(LO)を育成することを重視して開講されているかを表します。◎はとても重視、○は重視することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 教育学および心理学に関する知識を身につける。 2. 自らの考えを適切に表現し、伝えられる。 3. 論理的あるいは実践的に課題を考察できる。 4. 課題解決に向けて協働して取り組む。 5. 課題解決に際し、多様な意見や視点を踏まえ新たな価値創造ができる。

■教育学部 教育学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
必修科目 5科目 14単位											
EDUC100	教育原論	60	4	1~	※		◎	○	○		
EDUC110	心理学概論	60	4	1~	※		◎	○	○		
EDUC330	演習Ⅰ	30	2	3・4	※						
EDUC331	演習Ⅱ	30	2	3・4	※						
EDUC430	演習Ⅲ	30	2	4	※						
選択必修科目 18単位以上											
EDUC140	教職概論	30	2	1~	※		◎	○	○		
EDUC210	教育・学校心理学	30	2	1~	※	注2	◎		○		
EDUC200	学校研究	30	2	2~					◎		○
EDUC211	発達心理学	30	2	2~	※	注3	○	◎	○		
EDUC202	教育哲学	60	3	2~		連携(人)	◎	○	○		
EDUC203	教育社会学	60	3	2~			○		◎		○
EDUC207	国際開発教育論	30	2	2~	x		○			○	◎
EDUC209	国際理解教育論	30	2	2~	x				○	◎	○
EDUC204	カリキュラム論	30	2	3・4	※			○	◎		○
EDUC300	教育方法学	60	3	3・4	x		○	◎	○		
EDUC206	人間教育の潮流	30	2	3・4	x		◎	○	○		
EDUC301	平和と教育	30	2	2	x		◎	○	○		
EDUC208	比較・国際教育学	30	2	3・4	x		◎	○	○		
EDUC310	臨床心理学概論	30	2	3・4	※	注4		○	○		◎
EDUC311	教育カウンセリング	30	2	3・4	※	注4			○	○	◎
EDUC332	卒業研究Ⅰ	-	2	3・4	※						
EDUC431	演習Ⅳ	30	2	4	※						
EDUC432	卒業研究Ⅱ	-	2	4	※	注1・5					
選択科目 46単位以上											
EDUC130	スタディー・リーダー基礎	30	2	1~	※	注6	○				◎
EDUC112	公認心理師の職責	30	2	1~	※		◎	○		○	
EDUC113	心理学研究法	30	2	1~	※		◎	○	○		
EDUC216	健康・医療心理学	30	2	1~	※		◎	○		○	
EDUC150	生涯学習概論	30	2	1~			◎	○	○		
EDUC151	社会教育概論	30	2	1~			◎	○	○		
EDUC149	ICT活用教育の理論と方法Ⅰ	15	1	1~	※		◎		○	○	
PRED180	特別支援教育概論	30	2	1~			◎		○	○	
EDUC102	教育史A	30	2	2~		連携(人)	◎	○	○		
EDUC103	教育史B	30	2	2~		連携(人)	◎	○	○		
EDUC114	心理学統計法	30	2	2~	※		◎	○	○		
EDUC212	心理学実験(心理学実験法)	30	2	2~	※		◎	○	○		
EDUC213	知覚・認知心理学	30	2	2~	※		◎	○	○		
EDUC214	学習・言語心理学	30	2	2~	※		◎	○	○		
EDUC215	神経・生理心理学	30	2	2~	※		◎	○		○	
EDUC217	関係行政論	30	2	2~	※		◎	○	○		
EDUC190	海外教育事情	45	3	2~	※	[制限外]		◎	○	○	
EDUC292	海外教育研修	45	3	2~	※	注8・9・[制限外]		◎	○	◎	
EDUC232	学校体験活動Ⅰ(中)	60	2	2~	x	注7	○	○	◎		
EDUC233	学校体験活動Ⅱ(中)	60	2	2~	x	注7	○		◎		○
EDUC234	学校体験活動Ⅲ(中)	30	1	2~	x	注7			○	○	◎
EDUC235	学校体験活動Ⅳ(中)	30	1	2~	x	注7			○	○	◎
EDUC247	生徒・進路指導論	30	2	2~	※		○		◎	○	
EDUC243	特別活動論	15	1	2~	※			○	○	◎	
EDUC248	教育とキャリア	30	2	2~	※			○	◎	○	
EDUC253	生涯学習支援論Ⅰ	30	2	2~				○	◎	○	
EDUC254	生涯学習支援論Ⅱ	30	2	2~				○	◎	○	
EDUC250	社会教育特講A	30	2	2~					◎	○	○
PRED284	知的障害教育論Ⅰ	30	2	2~	※		◎		○	○	
PRED286	視覚障害・聴覚障害者の心理・生理・病理	30	2	2~	※		◎		○		
PRED383	視覚・聴覚障害教育論	30	2	2~	※		◎		○		
EDUC274	地理学Ⅰ:教育	30	2	2~	x		◎	○	○		
EDUC275	地理学Ⅱ:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC278	地誌学:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC276	人文地理学:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC277	自然地理学:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC175	宗教学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC173	哲学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		

◆備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。 ◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科履修不可を表します。

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注2 「心理学概論」を単位修得済み(同セメスターでの履修可)であること。 注3 「教育・学校心理学」又は児童教育学科の「教育・学校心理学」を単位修得済みであること。

注4 「発達心理学」を単位修得済みであること。 注5 原則としてGPA3.0以上が履修の条件である。

注6 共通科目の「初年次セミナー」を単位修得済みであること。

注7 教職課程に登録した学生のみ履修することができる。また、「学校研究」を履修済み(同セメスターでの履修可)であること。

注8 TOEIC550点以上が履修の条件である。 注9 「教育原論」を単位修得済みであること。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
選択科目 46単位以上 (つづき)											
EDUC174	倫理学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC172	社会学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC170	法律学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC171	政治学概論:教育	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC270	日本史Ⅰ	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC271	日本史Ⅱ	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC272	外国史Ⅰ(西洋史)	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC273	外国史Ⅱ(東洋史)	30	2	2~	x		◎		○		
EDUC390	英語特講A	30	2	2~	※				◎	○	
EDUC391	英語特講B	30	2	2~	※				◎	○	
EDUC304	教育学特講A	30	2	3・4	※				◎	○	
EDUC305	教育学特講B	30	2	3・4			担当教員によって異なるため 指定除外				
EDUC316	心理学特講A	30	2	3・4	※						
EDUC317	心理学特講B	30	2	3・4	※						
EDUC218	感情・人格心理学	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC219	社会・集団・家族心理学	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC220	障害者・障害児心理学	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC221	司法・犯罪心理学	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC313	精神疾患とその治療	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC230	ミュージアム・エデュケーションⅠ	30	2	3・4	※	注11		○	○	◎	
EDUC231	ミュージアム・エデュケーションⅡ	30	2	3・4	※	注1		○	◎	○	
EDUC205	教育行財政学	30	2	3・4	※		◎		○		○
EDUC240	インクルーシブ教育論	15	1	3・4	※			○	◎		○
EDUC241	道徳教育論	30	2	3・4	x		◎		○	○	
EDUC242	総合的な学習の時間の指導論	15	1	3・4	※				○	◎	○
EDUC244	特別活動演習	15	1	3・4	x				○	◎	○
EDUC245	教育の方法と技術	30	2	3・4	※				○	◎	○
EDUC246	ICT活用教育の理論と方法Ⅱ	15	1	3・4	※	注1			○	◎	○
EDUC249	環境教育論	30	2	3・4				◎		○	○
EDUC302	多文化社会と教育	30	2	3・4		連携(人)	◎	○	○		
EDUC303	教育と人生	30	2	3・4		連携(人)	◎	○	○		
PRED281	知的障害者の心理・生理・病理	30	2	3・4	※		◎		○		
PRED287	発達障害者の心理・生理・病理	30	2	3・4	※		◎		○		
EDUC335	教育実習事前指導(中・高)	30	1	3・4	x				○	○	◎
EDUC338	教育実習Ⅰ(中・高)	60	2	3・4	x				○	○	◎
EDUC339	教育実習Ⅱ(中)	60	2	3・4	x				○	○	◎
EDUC354	社会教育特講B	30	2	3・4					◎	○	○
EDUC353	社会教育演習Ⅰ	30	2	3・4				○	◎	○	
EDUC355	社会教育演習Ⅱ	15	1	3・4				○	◎	○	
EDUC356	社会教育経営論Ⅰ	30	2	3・4				○	◎	○	
EDUC357	社会教育経営論Ⅱ	30	2	3・4				○	◎	○	
EDUC358	社会教育実習	30	1	3・4					○	◎	○
EDUC223	産業・組織心理学	30	2	4	※		◎	○	○		
EDUC314	心理学的支援法	30	2	4	※	注12	◎	○	○		
PRED380	知的障害者の心理特論	30	2	4	※		◎		○		
EDUC433	教職実践演習	30	2	4	※				○	○	◎
公認心理師養成課程科目 ※公認心理師養成課程登録者のみ履修可 ※専門選択科目の単位として算入されます											
EDUC222	福祉心理学	30	2	3・4	※		◎	○	○		
EDUC312	心理的アセスメント	30	2	3・4	※	注4	◎	○	○		
EDUC410	心理演習	30	2	4	※				○	○	◎
EDUC411	心理実習Ⅰ	40	1	4	※				○	○	◎
EDUC412	心理実習Ⅱ	40	1	4	※				○	○	◎

◆備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。 ◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表します。

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注4 「発達心理学」又は児童教育学科の「発達心理学」を単位修得済みであること。

注11 共通科目の「ボランティア入門」を単位修得済みであること。 注12 「臨床心理学概論」を単位修得済みであること。

教育学部 児童教育学科

1. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数
共通科目 及び 外国語 (P.56～60)	①基礎科目	初年次セミナー	必修科目	2単位
		学術文章作法	必修科目	2単位
	②大学科目		選択必修科目	4単位
	④世界市民教育科目		選択必修科目	4単位
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位
			選択必修科目	2単位
⑥人文・社会・ 健康科目	人文科学系科目	選択必修科目	2単位	
	健康科学系科目			
外国語科目	第1外国語 ※1	選択必修科目	6単位	
	第2外国語 ※2	選択必修科目	4単位	
児童教育学科 専門科目 (P.133～134)	必修科目			14単位
	選択必修科目 ※3			14単位
	選択科目 ※4			50単位
自由選択 ※4	『共通科目』『児童教育学科専門科目』『他学科専門科目(注)』『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』から自由に選択して修得した単位			18単位以上
合 計				124単位以上
注：他学科専門科目は最大28単位まで、『専門選択科目』の単位として算入することができます。それ以上修得した場合は『自由選択』の単位として算入されます。				

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます

児童教育

- ※1 第1外国語は原則として「英語」とし、共通科目の「③言語科目(英語)」(P.56)から6単位以上修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 専門・選択必修科目で14単位を超えて修得した単位数は、選択科目50単位に含めることができます。
- ※4 専門・選択科目の単位では、教科科目群A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を修得してください。なお、A～Eの各群では、2単位の修得が必須です。
- ※5 自由選択とは『共通科目』『児童教育学科専門科目』『他学科専門科目』『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得できる区分です。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『児童教育学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を54単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を18単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

2. 成績による履修制限緩和措置・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■児童教育学科の成績による履修制限緩和措置は以下の通りです。

学期毎の 上限単位数	成績による履修制限緩和措置の基準		成績による履修制限緩和措置	
	学期毎の 修得下限単位数	直前セメスターの GPA 数値	追加単位数	上級年次履修
20 単位	16 単位	2.70	5 単位 (計 25 単位)	不可

■児童教育学科には、成績優秀者、および、早期卒業の制度はありません。

3. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 演習についての注意事項

専門科目の演習（ゼミ）の履修にあたっては、以下のことに注意してください。

- ① 演習は、申し込みののちに選考があり、所属が決定されます。
※本人の不注意や指示違反によって選考に漏れたり、選考手続きを行わなかった場合は、次年度に所属ゼミを決定します。
- ② 演習ガイダンスが事前に行われますので、必ず参加してください。
- ③ 選考に際し、成績（GPA）が考慮されます。
- ④ 演習は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンス及び申し込み時期

2年次秋学期にガイダンス及び申し込みがあります。

(3) 演習科目名・科目特性・履修時期

演習Ⅰ（専門必修、3年次春学期）・Ⅱ（専門必修、3年次秋学期）・Ⅲ（専門必修、4年次春学期）

※演習Ⅳは専門選択必修科目で、4年次秋学期に開講します。

4. 履修についてのガイドライン

(1) 4年間のカリキュラム

小学校と幼稚園の教員養成を目的とした児童教育学科のカリキュラムには、次の3点の特徴があります。まず1点目は、教育学と心理学に関する基礎的な問題を探究できることです。2点目は、教科内容(国語、社会、算数、理科、英語、音楽、図画工作、体育など)について広く学修を進められるとともに、1つの領域の学修を重点的に深められることです。そして3点目は、学校教育現場や美術館と連携した活動を通して、理論と実践を結びつけながら学修できることです。

- ① 教育学と心理学の基礎的な問題探究には、主に必修の科目として開講される「教育原論」「心理学概論」と、選択必修の科目である「カリキュラム論」「教育・学校心理学」「教育行財政学」「発達心理学」「教育の方法と技術」などが該当します。こうした諸科目は学問に裏づけられた教員に成長しつづけるための基盤となるものです。
- ② 教科内容科目は、専門科目表の教科A群～J群に置かれている科目を指しています。「1. 卒業要件」の説明には、「教科科目群A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を修得してください。なお、A～Eの各群では、2単位の修得が必須です。」とあります。たとえば、算数の授業に強い教員を目指す場合には、教科B群のすべて（4科目6単位）と教科D群の「理科概論」を修得して、算数教育の演習（ゼミ）を履修する、という計画を立てることもできます。国語の授業を得意とする教員、社会の授業を得意とする教員など、学生自身の関心と個性に合わせて重点的な科目選択が可能です。
- ③ 学校教育現場や美術館と連携して実践的な学修を進める科目として、2年次から順次履修可能である「学校体験活動Ⅰ～Ⅳ」と3・4年次から履修できる「ミュージアム・エデュケーションⅠ・Ⅱ」があります。「学校体験活動Ⅰ～Ⅳ」の履修には、1) 教職課程に登録済みであること、2) 2年次春学期に置かれた「学校研究」を同時に履修するか、修得済みであること、の2つの条件があります。その理由は、「学校研究」でのケーススタディや資料調査と、「学校体験活動Ⅰ～Ⅳ」での現場体験を有機的に結びつけ、理論と実践の往還による学修の深化を目指しているためです。「ミュージアム・エデュケーションⅠ・Ⅱ」の履修には、共通科目の「ボランティア入門」を修得済みであることが必要です。その理由は、「ミュージアム・エデュケーションⅠ・Ⅱ」の基礎となる知識を「ボランティア入門」で学ぶためです。

これらを踏まえ、児童教育学科では、1・2年次で、教職に必要な科目を確実に履修することが大切です。専門科目とは別に、1・2年次に開設される共通科目の中で、日本国憲法、体育（講義と実技）、外国語、データサイエンス入門が教職課程の必修科目です。別冊の『教職課程ガイド』を併用し、履修漏れのないようにしてください。なお、教員免許取得のためには、教職課程への登録が必要ですので注意してください。

(2) 1年次の履修の仕方

1年次の段階では共通科目における学修を着実に進めるとともに、以下の点に注意しながら児童教育学科の専門科目を履修してください。

- ・ 1年次の必修科目で、春学期の「教育原論」と秋学期の「心理学概論」の学修にはとりわけ集中して取り組み、単位を必ず修得してください。これらの単位を修得できなかった場合には、2年次以降の学修の歩みを著しく妨げることになります。1年次、特に春学期の必修科目はきわめて大事であることを忘れないでください。
- ・ 2年次の「教育・学校心理学」と秋学期の「発達心理学」を履修するには、「心理学概論」を単位修得済みであることが条件です。
- ・ 「発達心理学」の単位を修得できなかった場合には、3年次にある「教育カウンセリング」を履修できません。「教育カウンセリング」は教職課程で必修の科目ですので、特に注意が必要です。
- ・ 1年次春学期の共通科目の「初年次セミナー」は、高校とは異なる大学での学修活動の目的や意義を明確にし、これに必要な基礎力の形成を目指しています。この授業では、多くのSA (Student Assistant)、つまり学部先輩が、皆さんの学修の支援をするために授業を補助します。学修の方法や姿勢を先輩から吸収してください。この科目も必修科目ですから、必ず履修し単位を落とすことのないように注意してください。なお、秋学期の「スタディー・リーダー基礎」を履修するには、「初年次セミナー」を単位修得済みであることが条件です。
- ・ 1年次の内から、修得単位数に余裕をもった履修を心がけてください。卒業には124単位の修得が必要ですが、それと同じ程度の単位数しか履修登録しなかった結果、1科目落としただけで卒業できなくなるケースが例年見られます。
- ・ 教員を志望する場合には、教職課程に登録しなければなりません。別冊の『教職課程ガイド』を確認しながら、必要単位の履修漏れがないように注意してください。なお、共通科目のなかでは、日本国憲法、体育（講義と実技）、外国語、データサイエンス入門は教職課程の必修科目です。教員免許状取得のためには必ず修得する必要があります。
- ・ 小学校の教員免許状の取得と同時並行で中高英語（あるいは中学社会と高校公民）の教員免許状取得を目指す学生がごくまれに見られます。中高英語（あるいは中学社会と高校公民）のための科目は、多くが他学科専門科目となり、児童教育学科の卒業単位とならない場合があります。その結果、中高英語（中学社会と高校公民）と小学校の教員免許状取得を同時に希望する学生の修得単位数は非常に多くなります（通常の学期中に修得し切れない小学校の教職科目については、通信教育課程の夏期スクーリング（有償）で修得することが可能です。詳しくは教職キャリアセンターに相談してください）。もしも同時取得を希望する場合には、安易な気持ちで始めることなく、強い決意と継続的な熱意に加え、確かな計画性をもって取り組んでください（もちろん途中で進路変更をすることも考えられますし、それは決して悪いことではありません）。
- ・ 教科科目群の科目（A・C・E群ならびにB・D群）の履修に際しては、前のページでも述べたように、自分の関心と個性に合わせて重点化を図る見通しを持ってください。どの教科を得意とする教員として学校教育現場に歩み出すかについて、いつも自覚的であることが大切です。
- ・ 教育学部には特別支援学校教諭免許状の取得のための課程があります。取得のためには小中高いずれかの「基礎免許状」が必要です。免許取得上履修科目として、1年次から履修できる「特別支援教育概論」があります。特別支援学校教諭免許の取得を考えている場合は、修得するようにしてください。同免許課程の履修可能な人数の上限は、児童教育学科と教育学科の学生を合わせて20名です。履修者の登録申し込み（20名を超えた場合は選抜）は、1年次の末頃に行われますので、履修を希望する学生は課程登録に関する情報に注意してください。

■専門科目表の見方（児童教育学科専門科目）

次のページから掲載されている教育学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
⋮ ①	⋮ ②	⋮ ③	⋮ ④	⋮ ⑤	⋮ ⑥	⋮ ⑦	⋮ ⑧				

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	児童教育学科、又は教育学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は児童教育学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は教育学部生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目（LO）を育成することを重視して開講されているかを表します。◎はとても重視、○は重視することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 教育学および心理学に関する知識を身につける。 2. 自らの考えを適切に表現し、伝えられる。 3. 論理的あるいは実践的に課題を考察できる。 4. 課題解決に向けて協働して取り組む。 5. 課題解決に際し、多様な意見や視点を踏まえ新たな価値創造ができる。

■教育学部 児童教育学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目					
							1	2	3	4	5	
必修科目 5科目 14単位												
PRED100	教育原論	60	4	1～	※		○	○	○			
PRED110	心理学概論	60	4	1～	※		○	◎	○			
PRED330	演習 I	30	2	3・4	※							
PRED331	演習 II	30	2	3・4	※							
PRED430	演習 III	30	2	4	※							
選択必修科目 14単位以上												
PRED140	教職概論	30	2	1～	※		○	○	○			
PRED180	特別支援教育概論	30	2	1～	x		○		○			
PRED200	学校研究	30	2	2～	x			○	◎	○		
PRED204	カリキュラム論	30	2	2～	※			○	◎		○	
PRED210	教育・学校心理学	30	2	2～	※	注2	○	◎	○			
PRED211	発達心理学	30	2	2～	※	注2	○	◎	○			
PRED201	授業技術	30	2	3・4	x				◎	○	○	
PRED205	教育行財政学	30	2	3・4	※		○		○		○	
PRED245	教育の方法と技術	30	2	3・4	※				○	◎	○	
PRED337	授業改善のためのデータ活用	30	2	3・4	x				○	○	◎	
PRED332	卒業研究 I	-	2	3・4	※				○	○	◎	
PRED431	演習 IV	30	2	4	※							
PRED432	卒業研究 II	-	2	4	※	注1・注3						
選択科目 50単位以上(教科科目群においては教科科目A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を含むこと)												
PRED130	スタディー・リーダー基礎	30	2	1～	※	注4	○			◎	○	
PRED149	ICT活用教育の理論と方法 I	15	1	1～	※		◎		○	○		
PRED120	保育原理	15	1	1～	x		◎				○	
PRED121	保育内容総論	15	1	1～	x		◎		○			
PRED122	幼児と健康	30	2	1～	x		◎	○	○			
PRED123	幼児と人間関係	30	2	1～	x		◎	○	○			
PRED124	幼児と環境	30	2	1～	x		◎		○			
PRED125	幼児と言葉	30	2	1～	x		◎	○	○			
PRED126	幼児と表現	30	2	1～	x		◎		○	○		
PRED192	海外教育事情	45	3	1～	※	[制限外]		◎	○	○		
PRED194	海外教育研修	45	3	1～	※	注5・6・[制限外]		○	○	◎		
PRED232	学校体験活動 I (幼・小)	60	2	2～	x	注7	○	○	◎			
PRED233	学校体験活動 II (幼・小)	60	2	2～	x	注7		○	◎		○	
PRED234	学校体験活動 III (幼・小)	30	1	2～	x	注7			○	○	◎	
PRED235	学校体験活動 IV (幼・小)	30	1	2～	x	注7			○	○	◎	
PRED250	国語科教育	30	2	2～			○		◎		○	
PRED251	社会科教育	30	2	2～			○		◎	○		
PRED252	算数科教育	30	2	2～			○		◎	○		
PRED253	理科教育	30	2	2～					◎	○	○	
PRED254	音楽科教育	30	2	2～				◎	○			
PRED255	英語科教育	30	2	2～			○	○	○	◎	○	
PRED258	図工科教育	30	2	2～			○		◎		○	
PRED259	体育科教育	30	2	2～					○	◎	○	
PRED220	保育・教育課程論	30	2	2～	x		◎		○		◎	
PRED221	保育方法論	30	2	2～	x		○			○	◎	
PRED320	保育内容(健康)の指導法	30	2	2～	x				○	○	◎	
PRED321	保育内容(人間関係)の指導法	30	2	2～	x				○	○	◎	
PRED322	保育内容(環境)の指導法	30	2	2～	x			○	◎	○		
PRED323	保育内容(言葉)の指導法	30	2	2～	x			○	○	○	◎	
PRED324	保育内容(表現)の指導法	30	2	2～	x			○	◎	○		
PRED325	幼児理解の理論と方法	30	2	2～	x		◎	○			◎	
PRED247	生徒・進路指導論	30	2	2～	※		○		○	◎		
PRED243	特別活動論	15	1	2～	※			○	○	◎		
PRED384	発達障害教育論	30	2	2～	x		◎		○			
PRED248	教育とキャリア	30	2	2～	※			○	◎	○		
PRED241	道徳教育論	30	2	2～	x		◎		○	○		
PRED142	ピアノ基礎	15	1	2～					◎			
PRED326	幼児教育総合演習	30	2	2～	x			○	◎		○	
PRED390	英語特講A	30	2	2～	※				○	◎		
PRED391	英語特講B	30	2	2～	※				○	◎		

◆備考の[制限外]は履修制限除外科目を表します。 ◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表します。

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済み(同セメスターでの履修も可)であること。

注2 「心理学概論」又は教育学科の「心理学概論」を単位修得済み(同セメスターでの履修も可)であること。

注3 原則としてGPA3.0以上が履修の条件である。

注4 共通科目の「初年次セミナー」を単位修得済みであること。

注5 「教育原論」を単位修得済みであること。

注6 TOEIC550点(あるいは相当)以上が履修の条件である。

注7 教職課程に登録した学生のみ履修することができる。また、「学校研究」を履修済み(同セメスターでの履修も可)であること。

児童教育

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学部履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
選択科目 50単位以上(教科科目群においては教科科目A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を含むこと)											
PRED256	生活科教育	30	2	3・4			○			◎	○
PRED257	家庭科教育	30	2	3・4			○		○	◎	○
PRED240	インクルーシブ教育論	15	1	3・4	※		◎		○		
PRED311	教育カウンセリング	30	2	3・4	※	注8			○	○	◎
PRED242	総合的な学習の時間の指導論	15	1	3・4	※				○	◎	○
PRED244	特別活動演習	15	1	3・4					○	◎	○
PRED246	ICT活用教育の理論と方法Ⅱ	15	1	3・4	※	注1			○	◎	○
PRED249	ピアノの弾き歌い	15	1	3・4					◎		
PRED222	幼児と自然体験	30	2	3・4	×				○	○	◎
PRED223	幼児とコミュニケーション	30	2	3・4	×		◎	○		○	
PRED224	幼児と環境構成	30	2	3・4	×		◎			○	○
PRED225	幼児と音楽	30	2	3・4	×		◎			○	○
PRED226	幼児と造形	30	2	3・4	×				◎	○	○
PRED230	ミュージアム・エデュケーションⅠ	30	2	3・4	※	注9		○	○	◎	
PRED231	ミュージアム・エデュケーションⅡ	30	2	3・4	※	注1		○	◎	○	
PRED301	教育学特講A	30	2	3・4	※				○	◎	○
PRED302	教育学特講B	30	2	3・4	※					○	◎
PRED316	心理学特講A	30	2	3・4	※					○	◎
PRED317	心理学特講B	30	2	3・4	※					○	◎
PRED480	特別支援教育特論	30	2	3・4	×		◎		○		
PRED335	教育実習事前指導(幼・小)	30	1	3・4	×				○	○	◎
PRED338	教育実習Ⅰ(幼・小)	60	2	3・4	×				○	○	◎
PRED339	教育実習Ⅱ(幼・小)	60	2	3・4	×				○	○	◎
PRED433	教職実践演習	30	2	4	※				○	○	◎
教科科目群(注10) ※専門選択科目の単位として算入されます											
PRED160	国語概論	30	2	1~	×			○	◎	○	
PRED260	文学・物語	30	2	3・4	×			◎		○	○
PRED361	読解・言語活動	15	1	3・4	×			◎		○	○
PRED261	書写	15	1	3・4	×			◎		○	
PRED161	数学概論	30	2	1~	×			○		◎	○
PRED262	図形	30	2	3・4	×				○	◎	○
PRED263	変化と関係	15	1	3・4	×				○	◎	○
PRED362	データの活用	15	1	3・4	×				○	◎	○
PRED162	社会科学概論	30	2	1~	×				○	○	◎
PRED264	地理	15	1	3・4	×			◎		○	
PRED265	歴史	15	1	3・4	×			◎		○	
PRED266	公民	15	1	3・4	×			◎		○	
PRED163	理科概論	30	2	1~	×			◎		○	○
PRED267	理科演習	30	2	3・4	×			○		◎	○
PRED169	英語概論	30	2	2~	×				◎	○	
PRED268	音声英語研究	15	1	3・4	×				◎	○	
PRED269	記述英語研究	15	1	3・4	×				◎	○	
PRED168	F群 家庭科概論	30	2	3・4	×			◎		○	○
PRED164	G群 生活科概論	30	2	3・4	×			○		◎	○
PRED165	H群 音楽概論	30	2	1~	×				○	○	◎
PRED270	音楽表現・指導技法	30	1	3・4	×				○	○	◎
PRED166	I群 美術概論	30	2	1~	×				○	○	◎
PRED271	平面表現基礎	30	1	3・4	×				○	○	◎
PRED272	立体表現基礎	30	1	3・4	×				○	○	◎
PRED167	J群 体育概論	30	2	1~	×				○	○	◎
PRED273	運動学習と身体表現	30	1	3・4	×				○	◎	○
PRED360	運動技術の探究	30	1	3・4	×				○	◎	○
特別支援免許課程科目 ※特別支援免許課程登録者のみ履修可 ※専門選択科目の単位として算入されます											
PRED284	知的障害教育論Ⅰ	30	2	2~	×			◎		○	○
PRED286	視覚障害・聴覚障害者の心理・生理・病理	30	2	2~	×			◎		○	
PRED383	視覚・聴覚障害教育論	30	2	2~	×			◎		○	
PRED281	知的障害者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED285	知的障害教育論Ⅱ	30	2	3・4	×	注1		◎		○	○
PRED381	肢体不自由教育論	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED382	病弱教育論	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED282	肢体不自由者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED283	病弱者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED287	発達障害者の心理・生理・病理	30	2	3・4	×			◎		○	
PRED380	知的障害者の心理特論	30	2	4	×			◎		○	
PRED434	教育実習(特別支援)	90	3	4	×				○	○	◎

◆他学部履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学部生履修不可を表す。

注1 これらの科目については、前の番号が付いた科目(Ⅱに対してはⅠ、Ⅲに対してはⅡ、Ⅳに対してはⅢ)を単位修得済みであること。

注8 「発達心理学」を単位修得済みであること。

注9 共通科目の「ボランティア入門」を単位修得済みであること。

注10 教科科目群については、A・C・E群から計12単位以上、B・D群から計6単位以上、計18単位以上を修得すること。なお、A~Eの各群では、2単位の修得が必須である。

1. 理念・目的

創価大学の建学の精神を尊重し、人間主義にもとづいた人類の平和と多様な文化の繁栄に資する教育、研究、社会貢献を、工学の分野において実現することを目的としています。

2. 教育目標

理工学部は、地域社会や地球社会の課題と真摯に向き合い、人々の幸福と世界の平和の実現に貢献する「創造的人間」、すなわち、価値創造を実践する理学や工学の知識・技術を駆使して社会に価値を創造する「世界市民」の育成を目指します。そのために、サイエンスとテクノロジーを基盤とするたしかな「知力」、不確かな未来を切り開く「創造性」、価値観や理念などの「多様性」を受容(寛容)しながら他者と「協働する力」を育む教育に取り組みます。

3. ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

理工学部は、次の知識・技能並びに態度を身に付け、所定の在学期間、卒業単位、および GPA 基準を満たした学生に、情報システム工学科では学士(工学)、共生創造理工学科では学士(理工学)を授与します。

- (1) 理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。
- (2) 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。
- (3) 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。
- (4) 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する(チームで仕事をする)ことができる。
- (5) 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

4. カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

理工学部は、全学、および本学部のディプロマポリシーに基づき、そこに定めたラーニングアウトカムズを備えた人材を育成するため、以下の方針でカリキュラムを編成しています。

情報システム工学科では、4つの学びのキーワード「AI(人工知能)・データサイエンス」「数理科学」「ネットワーク・セキュリティ」「VR(仮想現実)・ロボット工学」で示された広い学習範囲をカバーする多様な科目を揃えています。「AI・データサイエンス」では、数理と情報の横断学習により、データサイエンスに基づいて社会現象を分析できる力を養います。「数理科学」では、数学を基礎として情報科学も学び、自然や社会の真理を探究するとともに、論理的思考力や創造力を身に付けます。「ネットワーク・セキュリティ」では、安全・安心なDX推進のため、最先端の科学技術イノベーションにより問題を解決する能力を身に付けます。「VR・ロボット工学」では、VRやAR(拡張現実)などの技術を通して、ロボットを用いてより良い未来を築くことに貢献できる力を養います。

必修科目・選択必修科目・選択科目を各年次にバランスよく配置した自由度の高い充実したカリキュラムには、プロジェクトスタディーズ、アドバンスト・プロジェクトスタディーズ(成績上位層向け)、ケーススタディ、演習、卒業研究など能動学習と課題解決型学習の要素も十分に配置しています。また、1年次の数学系選択必修科目には数学が苦手な学生のための初級科目も用意し、すべての学生が安心して学習できるように配慮しています。さらに、教員(中高数学・高校情報)を目指す人をサポートするための「教員養成プログラム」や、グローバルに活躍できる人材を養成するための「国際技術協力プログラム」も用意しています。

5. アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

- (1) 人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
- (2) 平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
- (3) 進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

また、上記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、及び、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性			卒業に必要な単位数	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されます
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次プロジェクト	必修科目	2単位	
		学術文章作法	選択必修科目	2単位	
	②大学科目			4単位	
	④世界市民教育科目			4単位	
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位	
		⑥人文・社会・ 健康科目	社会科学系科目	選択必修科目	
	人文科学系科目		選択必修科目	2単位	
外国語科目	第1外国語	※1	選択必修科目	6単位	
	第2外国語	※2	選択必修科目	4単位	
情報システム工学科 専門科目 (P.140～141)	必修科目			14単位	
	選択必修科目 ※3	1年次春学期の微積分学		2単位	
		1年次春学期の線型代数学		2単位	
		1年次春学期の数学演習		2単位	
		実験科目		2単位	
選択科目			48単位		
自由選択 ※4	『共通科目』『情報システム工学科専門科目』『他学科専門科目』『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』から自由選択して修得した単位			26単位以上	
合 計				124単位以上	

- ※1 第1外国語は原則として「英語」とし、学部学科英語科目(P.141)を優先に履修して卒業に必要な6単位を修得してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。
- ※3 専門選択必修科目で2単位を超えて修得した単位数は、『専門選択科目』の単位として算入されます。
- ※4 自由選択とは『共通科目』、『情報システム工学科専門科目』、『他学科専門科目』、『教職課程科目(教職課程登録者のみ履修可)』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『情報システム工学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の選択科目を50単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を26単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■情報システム工学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	学期毎の 下限単位数	直前セメスター のGPA数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準 最低修得 単位数	
24単位	16単位	3.30	4単位	可	情報システム工学科は 早期卒業の制度はありません		

8. 履修モデル

下図は、全学共通科目、学科専門科目、自由選択科目を履修していく際のガイドラインです。このモデルを参考に単位を修得してください。

年次	期	共通科目・外国語科目							専門科目					自由選択		
		選択必修科目（「初年次プロジェクト」と「データサイエンス入門」は必修科目）							選択必修							
		①基礎	②大学	第1外国語(英語)	第2外国語(英語以外)	④世界市民教育	⑤数理・データサイエンス・自然	⑥人文・社会・健康	必修	微積分学	線型代数学	数学演習	実験			
1年次	春秋	4		2	2			2		4	2	2	2			
2年次	春		2	2		2									8	6
	秋					2									8	8
3年次	春								2				2		8	6
	秋								2						6	6
4年次	春								2						4	
	秋								2						4	
計		4	4	6	4	4	2	2	2	14	2	2	2	2	48	26

※卒業に必要な共通科目及び外国語科目の単位は、2年次終了までに修得するようにしてください。

独創性の高い発想力で情報社会の最重要課題に挑む

1年春	基礎学問の習得、人間力と汎用的素養の涵養	<p><専門必修科目> 情報システム総論、プログラミング演習Ⅰ</p> <p><専門選択必修科目> 微積分学Ⅰ、線型代数学Ⅰ、数学演習Ⅰ 初級微積分学、初級線型代数学、初級数学演習</p> <p><専門選択科目> 物理学A(基礎力学)</p>	<p><共通科目 ①基礎科目> 初年次プロジェクト(情報) 学術文章作法Ⅰ</p>	<p><共通科目> ②大学科目 ④世界市民教育科目 ⑥人文・社会・健康科目</p>
1年秋		<p><共通必修科目> ⑤データサイエンス入門</p> <p><専門必修科目> プロジェクト・スタディーズ</p>	<p><専門選択科目> 微積分学Ⅱ、線型代数学Ⅱ、数学演習Ⅱ、 論理と集合、プログラミング演習Ⅱ、情報社会論、 電子工学概論、物理学B(基礎電磁気学)、 国際情報技術交流史(国際EP)</p>	<p><外国語科目> 第1外国語(英語) 第2外国語(英語以外)</p>
2年春	専門性の開拓、各専門分野の基礎力強化	<p><専門選択必修科目> 情報工学実験</p>	<p><専門選択科目> 確率統計、解析学概論、代数学概論、 ソフトウェア演習A、データ構造、情報計測工学、 国際情報英書講読(国際EP)、 アドバンスプロジェクト・スタディーズ(成績上位層向け)</p>	
2年秋		<p><専門選択必修科目> 電子工学実験</p>	<p><専門選択科目> 位相数学、幾何学概論、数値解析、微分方程式、情報理論、ソフトウェア演習B、 言語処理アルゴリズム、オペレーティングシステム、オペレーションズリサーチ、 制御工学、計算機アーキテクチャ、デジタル回路基礎論、光エレクトロニクス、 データプロセッシング 国際交流論(国際EP)、国際技術協力論(国際EP)、 Topics in Science and Engineering(国際EP)</p>	
3年春	課題解決力の養成、専門的学問の深化	<p><専門必修科目> ケーススタディⅠ</p> <p><専門選択必修科目> 数理科学実験</p>	<p><専門選択科目> 数理計画法、データサイエンス演習、人工知能、ソフトウェア演習C、 ソフトウェア工学、コンピュータネットワーク論、信号処理、マルチメディア論、 暗号理論、システムバイオロジー、情報と職業、知的財産法概論</p>	
3年秋		<p><専門必修科目> ケーススタディⅡ</p> <p><専門選択必修科目> ネットワーク実験</p>	<p><専門選択科目> 情報セキュリティ論、データベース論、シミュレーション論、 ソフトウェア演習D、ソフトコンピューティング、マルチメディア演習 特別講義、現代数学概説A、現代数学概説B</p>	
4年春	学術研究への入口、各進路	<p><専門必修科目> 演習Ⅰ</p>	<p><専門選択科目> 卒業研究Ⅰ</p>	
4年秋		<p><専門必修科目> 演習Ⅱ</p>	<p><専門選択科目> 卒業研究Ⅱ</p>	

9. ケーススタディの履修について

(1) 注意事項

ケーススタディの各テーマは定員制です。2年次秋学期に事前ガイダンス及び申し込みがあります。

(2) 履修条件について

「ケーススタディⅡ」は「ケーススタディⅠ」を修得してからでないと履修できません。

10. 演習（ゼミ）の履修について

(1) 注意事項

演習は定員制です。また、演習Ⅰ～Ⅱは、同じ教員のもとで行います。

(2) 履修条件について

「演習Ⅱ」は「演習Ⅰ」を修得してからでないと履修できません。

※「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」の単位が修得できなかった場合、卒業が遅れることになります。

(3) 卒業見込証明書について

上記の(2)履修条件があるため、条件を満たさない場合は、演習科目が履修できなくなることから卒業が遅れます。したがって、この場合は卒業見込証明書は発行されません。

11. 卒業研究の履修について

(1) 卒業研究についての注意事項

卒業研究Ⅰ・Ⅱは、原則として、演習Ⅰ・Ⅱと同じ教員のもとで行います。

(2) 履修条件について

① 「卒業研究Ⅰ」は、合計100単位以上修得していないと履修できません。

② 「卒業研究Ⅱ」は、「卒業研究Ⅰ」を修得してからでないと履修できません。

■専門科目表の見方（情報システム工学科専門科目）

次のページから掲載されている情報システム工学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
							1	2	3	4	5
⋮ ①	⋮ ②	⋮ ③	⋮ ④	⋮ ⑤	⋮ ⑥	⋮ ⑦	⋮ ⑧				

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第Ⅲ章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	情報システム工学科、又は理工学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は情報システム工学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は理工学部生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。 2. 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。 3. 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。 4. 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する（チームで仕事をする）ことができる。 5. 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

■理工学部 情報システム工学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目													
							1	2	3	4	5									
必修科目	7科目14単位																			
INFO172	プロジェクト・スタディーズ	30	2	1~	※		○		○	○	○	○								
INFO161	プログラミング演習Ⅰ	30	2	1~	※		○													○
INFO151	情報システム総論	30	2	1~	※		○													
INFO371	ケーススタディⅠ	30	2	3~	※			○	○	○	○	○								
INFO372	ケーススタディⅡ	30	2	3~	※			○	○	○	○	○								
INFO471	演習Ⅰ	30	2	4	※			○	○	○	○	○								
INFO472	演習Ⅱ	30	2	4	※			○	○	○	○	○								
選択必修科目	8単位以上																			
1 年次春学期の微積分学	2 単位																			
INFO117	初級微積分学	30	2	1~			○													
INFO111	微積分学Ⅰ	30	2	1~			○													連携(済)
1 年次春学期の線型代数学	2 単位																			
INFO118	初級線型代数学	30	2	1~			○													
INFO112	線型代数学Ⅰ	30	2	1~			○													
1 年次春学期の数学演習	2 単位																			
INFO119	初級数学演習	30	2	1~			○													
INFO113	数学演習Ⅰ	30	2	1~			○													
実験科目	2 単位																			
INFO462	情報工学実験	60	2	2~	※			○	○	○	○	○								
INFO361	電子工学実験	60	2	2~	※			○	○	○	○	○								
INFO362	数理科学実験	60	2	3~	※			○	○	○	○	○								
INFO461	ネットワーク実験	60	2	3~	※			○	○	○	○	○								
選択科目	48 単位以上																			
SCEN121	物理学A(基礎力学)	30	2	1~			○													
INFO152	情報社会論	30	2	1~			○													
INFO114	微積分学Ⅱ	30	2	1~			○													連携(済)
INFO115	線型代数学Ⅱ	30	2	1~			○													
INFO116	数学演習Ⅱ	30	2	1~			○													
SCEN122	物理学B(基礎電磁気学)	30	2	1~			○	○												
INFO162	プログラミング演習Ⅱ	30	2	1~	※		○													○
INFO133	電子工学概論	30	2	1~	※		○													
INFO213	論理と集合	30	2	1~			○													
SCEN111	国際情報技術交流史	30	2	1~			○													
SCEN211	国際交流論	30	2	2~	x		○		○				○							
INFO211	確率統計	30	2	2~			○		○											
INFO212	解析学概論	30	2	2~			○		○											
INFO252	数値解析	30	2	2~			○		○											
INFO253	データ構造	30	2	2~			○		○											
INFO261	ソフトウェア演習A	30	2	2~	※		○		○											○
INFO254	情報計測工学	30	2	2~	※		○		○											
INFO251	微分方程式	30	2	2~	※		○		○											
INFO214	幾何学概論	30	2	2~	※		○		○											
INFO258	光エレクトロニクス	30	2	2~	※		○		○											
INFO351	言語処理アルゴリズム	30	2	2~			○		○											
INFO262	ソフトウェア演習B	30	2	2~	※		○		○											○
SCEN234	デジタル回路基礎論	30	2	2~			○		○											
INFO257	制御工学	30	2	2~	※		○		○											
INFO354	計算機アーキテクチャ	30	2	2~			○		○											
INFO355	オペレーティングシステム	30	2	2~			○		○											
INFO312	代数学概論	30	2	2~			○		○											
INFO314	位相数学	30	2	2~	※		○		○											
INFO452	オペレーションズリサーチ	30	2	2~			○		○											
INFO255	情報理論	30	2	2~			○		○											
SCEN215	国際情報英書講読	30	2	2~			○		○											○
INFO256	データプロセッシング	30	2	2~			○		○											
SCEN213	Topics in Science and Engineering	30	2	2~			○		○											
SCEN212	国際技術協力論	30	2	2~			○		○											
SCEN214	理工学特別演習	30	2	2~	※		○		○											○
INFO281	数学科教育法Ⅰ	30	2	2~	※		○		○											○
INFO282	数学科教育法Ⅱ	30	2	2~	※		○		○											○
INFO291	情報科教育法Ⅰ	30	2	2~	※		○		○											○
INFO292	情報科教育法Ⅱ	30	2	2~	※		○		○											○
INFO360	数理計画法	30	2	3~			○		○											
INFO413	現代数学概説A	30	2	3~			○		○											
INFO414	現代数学概説B	30	2	3~			○		○											
INFO356	ソフトウェア工学	30	2	3~			○		○											
INFO357	コンピュータネットワーク論	30	2	3~			○		○											
INFO358	シミュレーション論	30	2	3~			○		○											

※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。

◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目					
							1	2	3	4	5	
選択科目 4 8 単位以上 (つづき)												
INFO458	データベース論	30	2	3~				○				
INFO359	人工知能	30	2	3~				○				
INFO421	ソフトコンピューティング	30	2	3~				○				
INFO422	暗号理論	30	2	3~				○				
INFO451	情報セキュリティ論	30	2	3~				○				
INFO454	データサイエンス演習(情報)	30	2	3~	x			○		○	○	
INFO263	ソフトウェア演習C	30	2	3~	※			○	○			○
INFO264	ソフトウェア演習D	30	2	3~	※			○	○	○	○	○
SCEN331	信号理論	30	2	3~				○				
INFO456	マルチメディア論	30	2	3~				○				
INFO457	知的財産法概論	30	2	3~				○				
INFO463	マルチメディア演習	30	2	3~	※			○				○
INFO340	システムバイオロジー	30	2	3~				○				
INFO459	特別講義	30	2	3~	※			○				
INFO391	Academic English for science I	30	2	3~	※			○	○	○		
INFO392	Academic English for science II	30	2	3~	※			○	○	○		
INFO283	数学科教育法Ⅲ	30	2	3~	※			○		○		
INFO284	数学科教育法Ⅳ	30	2	3~	※			○		○		
INFO293	情報と職業	30	2	3~	x			○				
INFO271	アドバンスプロジェクト・スタディーズ	-	2	2	※			○	○	○	○	○
INFO473	卒業研究 I	-	4	4	※			○	○	○	○	○
INFO474	卒業研究 II	-	4	4	※			○	○	○	○	○
学部学科英語科目 ※この科目は言語科目(英語)の単位として算入												
SCEN101	English Communication for Science I	60	2	1~	※			○		○	○	
SCEN102	English Communication for Science II	60	2	1~	※			○		○	○	
INFO103	English for Information Technologies I	30	1	2~	※				○	○	○	
INFO104	English for Information Technologies II	30	1	2~	※				○	○	○	
SCEN201	English for International Technical Cooperation I	30	1	2~	※				○	○	○	
SCEN202	English for International Technical Cooperation II	30	1	2~	※				○	○	○	

◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

1. 理念・目的

創価大学の建学の精神を尊重し、人間主義に基づいた人類の平和と多様な文化の繁栄に資する教育、研究、社会貢献を、理工学の分野において実現することを目的としています。

2. 教育目標

理工学部は、地域社会や地球社会の課題と真摯に向き合い、人々の幸福と世界の平和の実現に貢献する「創造的人間」、すなわち、価値創造を実践する理学や工学の知識・技術を駆使して社会に価値を創造する「世界市民」の育成を目指します。そのために、サイエンスとテクノロジーを基盤とするたしかな「知力」、不確かな未来を切り開く「創造性」、価値観や理念などの「多様性」を受容(寛容)しながら他者と「協働する力」を育む教育に取り組みます。

3. ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

理工学部は、次の知識・技能並びに態度を身に付け、所定の在学期間、卒業単位、および GPA 基準を満たした学生に、情報システム工学科では学士(工学)、共生創造理工学科では学士(理工学)を授与します。

- (1) 理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。
- (2) 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。
- (3) 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。
- (4) 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する(チームで仕事をする)ことができる。
- (5) 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

4. カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

理工学部は、全学、および本学部のディプロマポリシーに基づき、そこに定めたラーニングアウトカムズを備えた人材を育成するため、以下の方針でカリキュラムを編成しています。

共生創造理工学科では、理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付けるため、1年次から2年次において専門導入科目と専門基礎科目を設置しています。これらの科目には、入学までに学習しなかった科目に対応するための各種基礎科目や、専門科目を英語で学びたい学生のための英語クラスを設置することで、分野横断的に幅広い専門基礎力を養います。

2年次秋学期からは、学生の興味に応じて学術分野の選択ができるよう、3つの専門領域である応用化学領域、生命科学領域、環境システム領域から一つを選択します。専門応用科目にある各領域に設置する領域選択必修科目と領域選択科目にて、各専門領域で必要とされる専門知識・技能を身に付けるとともに、選択科目にて他の領域科目を学ぶことで幅広い専門知識・技能を身に付けます。

また、自らの考えを文書や口頭で適切な表現で伝えることができるようになるため、Project-based learning (PBL) 科目を初年度から導入するとともに、多くの専門科目においてアクティブ・ラーニングを導入しています。

専門応用科目にある各種実験科目や専門演習科目も設置しており、その学修を通して、他者とコミュニケーションを取りながら協働できる力を涵養します。

3年次と4年次には、専門演習科目である演習科目・卒業演習科目を設置し、各専門領域で課題となっている問題の原因を論理的に分析することで、課題解決の方法を提案できる力を涵養します。

さらに、学生の進路や興味に応じた科目と、2つの特別教育プログラム (EP) を設置しています。中・高理科教員をめざす学生のために理科教員養成 EP を設置し、創造的教育技術の涵養を図ります。国際貢献をめざす学生のために国際技術協力 EP を設置し、国際感覚を高め専門性の高い英語力を身につけます。また、近年関心が高いデータサイエンスを学ぶために必要な科目や演習科目を設置したほか、情報処理関連の資格取得を目指す科目を設置しています。

5. アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

理工学部では学科を問わず、創価大学の建学の精神を尊重しつつ、理工学の基礎から応用にいたる学問分

野を学ぶ以下のような人材を広く社会に求めます。

- (1) 人間主義を標榜し、社会に必要な科学技術の健全な価値を提示したいと願う人
- (2) 平和の理念に徹し、民衆幸福のため他者へ貢献する世界市民をめざす人
- (3) 進取の気性を持ち、真摯に学問に取り組む労苦を惜しまない人

また、上記の志とともに、高い専門性を獲得する意志が強固であること、及び、大学での学習の基礎となる基礎知識と問題を解く力が求められます。理工学部では専門科目の基礎となる高等学校レベルの数学と理科とともに、新たな知識の吸収と問題の解法や説明に必要な言語の理解と構成の能力を入学の条件とします。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性		卒業に必要な単位数	左記の単位数を超えて修得した単位数は「自由選択」の単位として加算され ます	
共通科目 (P.56～60)	①基礎科目	初年次プロジェクト	2単位		
		学術文章作法	2単位		
	②大学科目		4単位		
	④世界市民教育科目		4単位		
	⑤数理・データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目	2単位	
	⑥人文・社会・ 健康科目	社会科学系科目		2単位	
		人文科学系科目		2単位	
⑦キャリア教育系科目 ※1			2単位		
外国語科目	第1外国語 ※2	選択必修科目	6単位		
	第2外国語 ※3	選択必修科目	4単位		
共生創造理工学科 専門科目 (P.150～151)	専門導入科目	必修科目	4単位		
	専門基礎科目	必修科目	13単位		
		選択必修科目 A 群	4単位		
		選択必修科目 B 群	4単位		
	専門演習科目	必修科目	10単位		
	専門応用科目	領域選択必修科目 ※4			8単位
領域選択科目 ※5		14単位			
選択科目		14単位			
自由選択※6	『共通科目及び外国語』『専門科目』『他学部他学科専門科目』『教職課程科目（教職課程登録者のみ履修可）』から自由に選択して修得した単位		23単位以上		
計			124単位以上		

- ※1 共通科目の「⑦キャリア教育系科目」は、理工学部生用に開講される「キャリアビジョン演習D」を履修してください。
- ※2 第1外国語は原則として「英語」とし、理工学部生のために用意された学部学科英語科目 (P.151) を以下の通り履修します。1年次は「English Communication for Science I・II」を、2年次は「English for Science and Engineering I・II」を履修してください。ただし、国際技術協力 EP 生は2年次に「English for International Technical Cooperation I・II」を履修してください。この科目は国際技術協力 EP 生以外の学生も履修できますが、担当教員の許可が必要です。また、GCP 生はプログラムで指定された英語科目を履修してください。
- ※3 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56～57) から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語（ただし言語演習を除く）で4単位を修得してください。
- ※4 専門応用科目では、各自が申告した領域の領域選択必修科目 [専門科目表：▲印] 8単位の修得が必

要です。なお、領域選択必修科目で8単位を超えて修得した単位は、専門応用科目の領域選択科目の単位として算入されます。

- ※5 専門応用科目では、各自が申告した領域の領域選択科目〔専門科目表:○印〕14単位の修得が必要です。なお、領域選択科目で14単位を超えて修得した単位は、専門応用科目の選択科目の単位として算入されます。
- ※6 自由選択とは『共通科目』、『共生創造理工学科専門科目』、『他学科専門科目』、『教職課程科目（教職課程登録者のみ履修可）』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』、『共生創造理工学科専門科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群や領域の科目の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門応用科目の選択科目を16単位修得した場合に、2単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を23単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■共生創造理工学科の基準は以下の通りです。

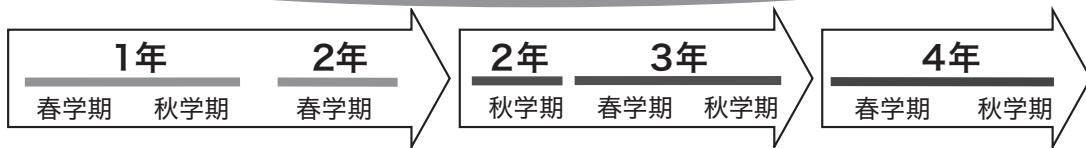
履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準	
	※学期毎の 上限単位数	学期毎の修得 下限単位数	直前セメスター の GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準
24 単位	16 単位	3.30	4 単位	可	共生創造理工学科は 早期卒業の制度はありません	

8. 履修モデル

下表は必要な卒業単位を履修するための一例です。実際の履修科目は各自異なります。「9. 履修相談について」を参考に、専任教員と相談の上、自分で履修計画を作成してください。

授業科目		年次	1年次		2年次		3年次		4年次		科目群 合計単位
		期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
共通科目及び外国語	①基礎科目	初年次プロジェクト	2								2
		学術文章作法	2								2
	②大学科目		2	2							4
	④世界市民教育科目		2		2						4
	⑤数理・データサイエンス・自然科目	データサイエンス入門		2							2
		社会科学系科目				2					2
	⑥人文・社会・健康科目	人文科学系科目			2						2
		⑦キャリア教育系科目					2				2
	第1外国語		2	2	1	1					6
	第2外国語		2	2							4
専門科目	専門導入科目	必修科目		2	2						4
	専門基礎科目	必修科目	5	6	2						13
		選択必修科目 A 群		2	2						4
		選択必修科目 B 群		2	2						4
	専門演習科目	必修科目				2	2	2	2	2	10
	専門応用科目	領域選択必修科目				2	2	2	2		8
領域選択科目					2	4	2	2	2	14	
選択科目							2	2	5	5	14
自由選択			2		2	6	4	5	2	2	23
計			19	20	19	17	14	13	11	11	124

カリキュラム全体像 (卒業単位：124単位)



- ✓ 理工学の基礎構築
- ✓ 「やりたい事」を決める

領域
選択

- ✓ 主領域を選択
- ✓ 他領域との学問融合

- ✓ 専門性の深化
- ✓ 学術研究への一歩

▶ 人間力と汎用的素養の涵養、広い教養と語学力の習得

共通科目

◆ 選択必修30単位

- ・ 初年次プロジェクト ▶ 理工系の学びについて学ぶ
- ・ 学術文章作法 ▶ 学術的文章の日本語表現力を培う
- ・ 大学科目 ▶ 創価教育・人間教育を学ぶ
- ・ 世界市民教育科目 ▶ 世界市民になるために
- ・ データサイエンス入門 ▶ データを活用した社会について学ぶ
- ・ 社会科学系科目 ▶ 人間の社会性を学ぶ
- ・ 人文科学系科目 ▶ 人間の内面性を学ぶ
- ・ キャリア教育系科目 ▶ 自分の将来のために
- ・ 言語科目(第1外国語) ▶ 英語活用力を身につける
- ・ 言語科目(第2外国語) ▶ 第三の文化を知る

1年次：English Communication for Science I, II
2年次：English for Science and Engineering I, II,
English for International Technical
Corporation I, II (国際技術協力EP生用)

1つの言語で修得

▶ 理工系
基礎力の修得

専門基礎

データサイエンス科目(太字)
副専攻との関連科目

◆ 必修13単位

物理学A 生物学A Pythonプログラ
化学A 線型数理 ミング演習
基礎科学実験 初等微積分学

◆ 選択必修A群：2科目選択

物理学B 生物学B
化学B

◆ 選択必修B群(実験科目)：2科目選択

化学実験 物理学実験
生物学実験

◆ 高校数理を確実に大学レベルへ

基礎数学
基礎物理学
基礎化学
基礎生物学

領域を選択する参考に
有機化学、微生物学
生態学、統計学
電磁気学

▶ 専門領域の知識の修得
▶ 専門領域の深化
▶ 他領域との融合

専門応用

領域
選択

応用化学

生命科学

環境システム

◆ 領域選択必修 8単位以上

物理化学、有機化学、分析化学、無機化学、
マテリアルサイエンス実験、物理化学実験
データサイエンス演習Ⅱ(応用化学)

細胞生物学、分子生物学、生化学、微生物学、
分子生物学実験、生化学実験
データサイエンス演習Ⅱ(生命科学)

生態学、地球科学概論、地球化学、
国際技術協力論、地球科学実験、電子工学実験、
電磁気学、ハードウェア基礎論
データサイエンス演習Ⅱ(環境システム)

◆ 領域選択 14単位以上

領域指定科目の中から選択

◆ 選択 14単位以上

領域を超えて幅広い科目を学ぶ

▶ 主体性と
専門性の養成

専門導入

◆ 必修4単位

プロジェクト・スタディーズ
▶ 自己の能動性と協調性への挑戦
先端理工学トピックス
▶ 学術研究の先端を学ぼう

▶ 課題解決力の養成

専門演習

◆ 必修10単位

データサイエンス演習Ⅰ(共生基礎)
▶ 模擬データを用いたデータ分析
演習Ⅰ、Ⅱ

▶ 専門的実践による主体性を磨こう

卒業演習Ⅰ・Ⅱ

▶ 専門分野の理解と深化を

▶ 将来を見据え、自らの興味と目的のために

自由選択

◆ 選択23単位以上

- ・ 専門基礎、応用科目
- ・ 専門関連科目 (国際技術協力論、国際交流論、環境教育論、環境経済学、Academic English for Science I・II)
- ・ 専門学外学修科目 (理工学特別演習、インターンシップ、特別実習、資格認定)
- ・ 他学部専門科目
- ・ 共通科目
- ・ 特設課程科目

9. 履修相談について

- ・ 1年次と2年次においては、毎学期はじめに学年別に学科ガイダンスを行います。履修おける注意点について説明しますので、日程を自ら確認して**必ず**出席してください。
- ・ 履修推奨システムや科目体系図などを利用して履修科目を各自で決めてください。
- ・ 個人の履修相談はアドバイザー教員が行います。1年次と2年次はコンタクトグループの担当教員がアドバイザー教員になります。3年次は「演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次は「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員がアドバイザー教員として履修相談を行います。必要な場合は教務委員が履修相談を行います。

10. 専門領域について

- ・ 2年次秋学期の履修登録時に、応用化学、生命科学、環境システムの3つの専門領域のうち1つを主領域として各自申告します。
- ・ 各専門領域で指定された領域選択必修科目〔専門科目表▲印〕から4科目8単位を修得することにより各自の専門領域が確定します。
- ・ 各専門領域が指定する領域選択必修科目は下表を参照してください。
- ・ 領域選択必修科目の中には2年次春学期から履修する科目があるので注意してください。
- ・ 主領域以外の領域選択必修科目を副領域として8単位修得することにより、2つの専門領域の学修も可能です。

専門領域	学年	春学期	秋学期
応用化学	2	有機化学	物理化学、物理化学実験
	3	マテリアルサイエンス、無機化学、データサイエンス演習Ⅱ（応用化学）	マテリアルサイエンス実験
生命科学	2	統計学	微生物学実験、生化学、分子生物学、細胞生物学
	3	分子生物学実験、生化学実験、データサイエンス演習Ⅱ（生命科学）	
環境システム	2	電磁気学、生態学	電子工学実験、地球科学概論、国際技術協力論
	3	地球科学実験、ハードウェア基礎論、データサイエンス演習Ⅱ（環境システム）	

11. 理工学部 Educational Program (EP) について

中学・高校理科の教員を志望する学生のための理科教員養成EPと、開発途上国などを技術的に支援できる人材を育てることを目的とした国際技術協力EPがあります。EPを修了するためには、卒業要件を満たしつつ、所定の「EP特設カリキュラム」を履修する必要があります。詳しくは理工学部発行の資料を参照してください。

12. 演習の履修について

(1) 履修登録

- ・ 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は3年次の必修科目です。
- ・ 「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は定員制です。履修する学期の直前学期にクラス分けを行います。

(2) 履修条件について

「演習Ⅱ」の履修は「演習Ⅰ」の修得が条件となります。

13. 卒業演習の履修について

(1) 履修登録

- ・ 「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」は必修科目です。「卒業研究Ⅰ」や「卒業研究Ⅱ」を履修しない学生も単位修得が必要です。
- ・ 「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」は定員制です。履修する学期の直前学期に「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」と同時に研究室配属を行います。
- ・ 「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」は原則として同じ教員のもとで履修します。「卒業研究Ⅰ」と「卒業

研究Ⅱ」を履修する学生は、同じ教員のもとで「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」を履修します。

(2) 履修条件

6セメスター在籍していることが条件となります。

(3) 留意事項

「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」の単位修得ができない場合は卒業できません。修得若しくは履修登録していない場合、卒業見込証明書は発行されません。卒業できなかった場合には進路の内定は取り消しになります。

14. 卒業研究の履修について

(1) 履修登録

- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は選択科目です。
- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は定員制です。履修する学期の直前学期に「卒業演習Ⅰ」及び「卒業演習Ⅱ」と同時に研究室配属を行います。
- ・ 「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は原則として同じ教員のもとで履修します。また、「卒業演習Ⅰ」と「卒業演習Ⅱ」も同じ教員のもとで履修します。

(2) 履修条件について

履修するためには以下の条件を満たす必要があります。

- ① 「卒業研究Ⅰ」を履修する学期までに卒業に必要な単位のうち合計100単位以上を修得していること
- ② 「卒業研究Ⅱ」の履修は「卒業研究Ⅰ」を修得していること

■専門科目表の見方（共生創造理工学科専門科目）

次のページから掲載されている共生創造理工学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバ リング	科 目 名	授 業 時 間	単 位	履 修 年 次	領 域			他 学 科 履 修	SDGs	DS	備 考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目				
					応 化	生 命	環 シ					1	2	3	4	5
					①	②	③					④	⑤	⑥	⑦	⑧

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科 目 名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています（ただし卒業研究を除く）。
④単 位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥領 域	どの科目が領域選択必修科目として指定されている科目かを表します。選択した領域列に「▲」が付されている科目を8単位以上、「○」が付されている科目を14単位以上修得する必要があります。なお、領域名は以下の略です。 応化：応用化学／生命：生命科学／環シ：環境システム
⑦他学科履修	共生創造理工学科、又は理工学部生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「※」が付されている科目は共生創造理工学科以外の学生は履修できません。また、「×」が付されている科目は理工学部生以外の履修はできません。
⑧ SDGs	SDGs 副専攻に指定されている科目です。詳しくは「第七章 副専攻制度」を参照してください。
⑨ DS	データサイエンス副専攻に指定されている科目です。詳しくは「第七章 副専攻制度」を参照してください。
⑩備 考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑪ラーニング・アウトカムズ該当項目	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどのラーニング・アウトカムズ該当項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下のラーニング・アウトカムズ該当項目を表します。 1. 理工学分野の基礎的な知識・技能を身に付け、必要とする専門分野の学習に取り組むことができる。 2. 各学科・領域が授ける専門知識・技能を身に付け、専門的課題についての理解や課題解決へ応用できる。 3. 自らの考えを、文書や口頭で適切な表現で伝えることができる。 4. 多様性を尊重し、他者とコミュニケーションを取りながら、協働する（チームで仕事をする）ことができる。 5. 問題の原因を論理的に分析し、そこから課題解決の方法を提案することができる。

■理工学部 共生創造理工学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	領域			他学科 履修	SDGs	DS	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目										
					応化	生命	環シ					1	2	3	4	5						
専門導入科目 (◎必修科目 4単位)																						
SESI102	プロジェクト・スタディーズ	30	2	1~	○	○	○	※							○	○						
SESI200	先端理工学トピックス	30	2	2~	○	○	○					○	○									
専門基礎科目 (◎必修科目 13単位 △選択必修科目 A群B群それぞれ4単位以上)																						
必修科目 (13単位)																						
SESI103	基礎科学実験	30	1	1~	○	○	○	x			ターム制科目	○	○									
SESI111	初等微積分学	30	2	1~	○	○	○					○	○									
SESI113	線型数理	30	2	1~	○	○	○	※		★		○	○									
SCEN121	物理学A(基礎力学)	30	2	1~	○	○	○					○										
SESI141	化学A	30	2	1~	○	○	○					○	○	○								
SESI161	生物学A	30	2	1~	○	○	○					○										
SESI212	Pythonプログラミング演習	30	2	2~	○	○	○	※		★		○	○									
選択必修科目群A (4単位以上)																						
SCEN122	物理学B(基礎電磁気学)	30	2	1~	△	△	△					○	○									
SESI142	化学B	30	2	1~	△	△	△					○	○	○								
SESI162	生物学B	30	2	2~	△	△	△					○	○									
選択必修科目群B (4単位以上)																						
SESI143	化学実験	60	2	1~	△	△	△						○	○	○							
SESI123	物理学実験	60	2	2~	△	△	△					○	○	○	○							
SESI163	生物学実験	60	2	2~	△	△	△					○	○	○								
その他の専門基礎科目 ※自由選択の単位として算入されます																						
SESI110	基礎数学	30	2	1~				x				○										
SESI120	基礎物理学	30	2	1~				x				○	○									
SESI140	基礎化学	30	2	1~				x				○		○								
SESI160	基礎生物学	30	2	1~				x				○	○									
専門演習科目 (◎必修科目 10単位)																						
必修科目 10単位																						
SESI215	データサイエンス演習I(共生基礎)	30	2	2~	○	○	○	※		★		○	○									
SESI302	演習 I	30	2	3・4	○	○	○	※				○	○	○	○							
SESI303	演習 II	30	2	3・4	○	○	○	※				○	○	○	○							
SESI401	卒業演習 I	30	2	4	○	○	○	※				○	○	○	○							
SESI402	卒業演習 II	30	2	4	○	○	○	※				○	○	○	○							
その他の専門演習科目 ※専門選択の単位として算入されます																						
SESI403	卒業研究 I	-	5	4				※				○	○	○	○				○			
SESI404	卒業研究 II	-	5	4				※				○	○	○	○				○			
専門応用科目 (選択科目 36単位以上) ※選択した領域の領域選択必修科目(▲印)を8単位以上、領域選択科目(○印)を14単位以上含むこと。																						
SESI211	統計学	30	2	2~	○	▲	○			★		○	○	○								
SESI104	自然科学史	30	2	2~			○					○	○									
SESI213	アドバンストプログラミング演習	30	2	2~	○	○	○	※		★		○	○									
SESI321	統計熱力学	30	2	3・4	○	○						○	○									
SESI221	量子力学	30	2	2~			○					○	○									
SESI324	微分方程式	30	2	3・4	○							○	○									
SESI222	電磁気学	30	2	2~			▲					○	○									
SESI241	有機化学	30	2	2~	▲	○	○					○	○									
SESI243	分析化学	30	2	2~	○	○	○					○	○									
SESI244	物理化学	30	2	2~	▲	○	○					○	○									
SESI246	物理化学実験	60	2	2~	▲	○		x				○	○	○	○							
SESI341	無機化学	30	2	3・4	▲	○	○					○	○	○								
SESI342	量子化学	30	2	3・4	○	○						○	○									
SESI261	微生物学	30	2	2~		▲	○					○	○									
SESI262	微生物学実験	60	2	2~		▲	○	x				○	○	○	○							
SESI263	分子生物学	30	2	2~		▲	○					○	○									
SESI363	分子生物学実験	60	2	3・4		▲	○	x			ターム制科目	○	○									
SESI264	生化学	30	2	2~	○	▲						○	○									
SESI364	生化学実験	60	2	3・4		▲	x				ターム制科目	○	○	○								
SESI265	生態学	30	2	2~		▲	○					○	○									
SESI267	植物生理生態学	30	2	2~		○			☆			○	○	○								
SESI268	細胞生物学	30	2	2~		▲	○					○	○									
SESI361	発生生物学	30	2	3・4	○							○	○									
SESI362	構造生物学	30	2	3・4	○							○	○									
SESI365	分子細胞生物学	30	2	3・4	○							○	○									
SESI461	代謝生化学	30	2	3・4	○							○	○									
SESI463	酵素化学	30	2	3・4	○				☆			○	○									
SESI464	免疫科学	30	2	3・4	○							○	○									
SESI281	地球科学概論	30	2	2~		▲						○	○									
SESI282	気候学	30	2	2~		○						○	○	○								
SESI381	地球化学	30	2	3・4	○	○	○					○	○									

◎必修科目 △選択必修科目 ▲領域選択必修科目 ○領域選択科目 (無印)選択科目・自由選択科目 ☆SDGs副専攻指定科目 ★データサイエンス副専攻指定科目
◆他学科履修の欄のx印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

共生創造理工

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	領域		他学科 履修	SDGs	DS	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目																
					応化	生命・環シ					1	2	3	4	5												
専門応用科目 (選択科目 3.6単位以上) (つづき) ※選択した領域の領域選択必修科目(▲印)を8単位以上、領域選択科目(○印)を14単位以上含むこと。																											
SESI382	土壌学	30	2	3-4		○		☆				◎	○														
SESI384	地球科学実験	60	2	3-4	▲	○	×					◎	○	○	○												
SESI385	海洋学実習	60	2	3-4		○	×					◎	○	○	◎												
SESI336	光エレクトロニクス	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI331	物性物理概論	30	2	3-4		○	※					◎	○														
SESI333	情報工学実験	60	2	3-4		○	※					◎	○		○												
SESI334	情報計測工学	30	2	3-4		○						◎	○														
SCEN331	信号理論	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI351	マテリアルサイエンス	30	2	3-4	▲							◎	○	○													
SESI352	マテリアルサイエンス実験	60	2	3-4	▲		×					◎	○		○												
SESI353	機器分析学	30	2	3-4	○	○						◎	○														
SESI371	ニューロサイエンス	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI275	データサイエンス演習II(生命科学)	30	2	3-4	○	▲			★			◎	○			○											
SESI472	ナノサイエンス	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI391	エネルギー資源学	30	2	3-4		○						◎	◎														
SESI392	環境科学	30	2	3-4		○			☆			◎	○														
SESI394	環境分析化学実験	30	1	3-4		○	×					◎	○														
SESI395	生態環境工学	30	2	3-4		○			☆			◎	○														
SESI491	環境計量学	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI295	データサイエンス演習II(環境システム)	30	2	3-4		▲			★			◎	◎			○											
SESI332	ハードウェア基礎論	30	2	3-4		▲						◎	○														
SCEN234	デジタル回路基礎論	30	2	2~		○						◎	○														
SESI232	電子工学実験	60	2	2~		▲	※					◎	◎			○											
SESI291	科学技術論	30	2	2~		○						◎	○														
SESI335	制御工学	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI354	食品工学	30	2	3-4		○	○					◎	○														
SESI355	バイオテクノロジー	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI357	反応工学	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI251	化学工学	30	2	2~		○						◎	○														
SESI399	廃棄物処理工学	30	2	3-4		○						◎	○														
SESI235	情報基礎論	30	2	2~		○	○		★			◎	○														
SESI255	データサイエンス演習II(応用化学)	30	2	3-4	▲				★			◎	○			○											
SESI305	Academic English for Science I	30	2	3-4		○	○	※					◎	○	○	○											
SESI306	Academic English for Science II	30	2	3-4		○	○	※					◎	○	○	○											
SCEN213	Topics in Science and Engineering	30	2	2~		○						◎	○														
SCEN212	国際技術協力論	30	2	2~		○	▲					◎	○														
SCEN211	国際交流論	30	2	2~				×					○			○											
SCEN215	国際情報英語講読	30	2	2~									○			○											
SCEN111	国際情報技術交流史	30	2	1~								◎	○			○											
専門関連科目 ※自由選択の単位として算入されます																											
SESI319	特別講義	15	1	3-4								◎	◎			○											
SESI207	環境教育論	30	2	2~								◎	○														
ECON343	環境経済論	60	4	2~								◎	◎														
BUSI251	経営情報論	60	4	2~					★			◎	◎														
専門外学修科目 ※自由選択の単位として算入されます																											
SESI105	理科教職演習 I	30	2	1~			※							○	◎												
SESI300	理科教職演習 II	30	2	3-4			※							○	◎												
SCEN214	理工学特別演習	30	2	2~			※						○	○		○											
SESI201	インターンシップ	60	2	2~			※					◎	○			○											
教職に関する科目 ※この科目は自由選択の単位として算入されず。 ※教職課程登録者のみ履修可																											
SESI208	理科教育法 I	30	2	2~			※					◎	○	○													
SESI209	理科教育法 II	30	2	2~			※					◎	○	○													
SESI308	理科教育法 III	30	2	3-4			※					◎	○	○													
SESI309	理科教育法 IV	30	2	3-4			※					◎	○	○													
学部学科英語科目 ※この科目は言語科目(英語)の単位として算入されます																											
SCEN101	English Communication for Science I	60	2	1~			※																				
SCEN102	English Communication for Science II	60	2	1~			※																				
SESI202	English for Science and Engineering I	30	1	2~			※																				
SESI203	English for Science and Engineering II	30	1	2~			※																				
SCEN201	English for International Technical Cooperation I	30	1	2~			※						○	○	○	○											
SCEN202	English for International Technical Cooperation II	30	1	2~			※						○	○	○	○											

◎必修科目 △選択必修科目 ▲領域選択必修科目 ○領域選択科目 (無印)選択科目・自由選択科目 ☆SDGs副専攻指定科目 ★データサイエンス副専攻指定科目
◆他学科履修の欄の×印は他学部生履修不可、※印は他学科生履修不可を表す。

共生創造理工

1. 理念・目的

創価大学は、豊かな人間性を基盤として、人類が直面する個々の課題に真摯に取り組み、知恵を発揮していく「創造的人間」を育成することを教育理念に掲げています。これに基づき、看護学部は、幅広い教養を基盤として、看護に関わる「知」「技」「人間力」を養い、社会の中で継起する新たな課題・ニーズに対して果敢に挑み、時代の要請に応える看護学を探究するとともに、ヒューマンケアを通じて社会に貢献できる人材の養成を目的とします。

2. 教育目標

看護学部は、「生命の尊厳を基調とし、生命力を引き出す慈愛の看護を実践できる人材の育成」を目指し、以下の3つの教育目標を掲げています。

- (1) 専門職としての看護実践能力を修得し、多職種と協働しながら人々の健康の保持増進に寄与する人材を育成します。
- (2) 生涯にわたる自己教育力を身につけ、看護を探究できる人材を育成します。
- (3) グローバルマインドをもち、様々な健康課題に対して、人々と協同するための基盤的な力を有する人材を育成します。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

創価大学のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学部は以下の能力や学識の修得をもとめ、学位授与の要件を満たす者に、学士（看護学）を授与します。

- (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。
- (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける。
- (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける。
- (4) 複雑に変化し続ける環境に対応し、生涯にわたり専門職として自己を向上させゆく自己教育力を身につける。
- (5) グローバルな視点から人々の健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的な力を身につける。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、看護学部は学部の学位授与方針に適う学生を育成するために、5つの学位授与方針毎に次のとおり、教育課程を編成します。なお、学生の主体的な学修を促すための環境を確保し、能動的な学修を取り入れ、段階的な自己評価を踏まえた学修活動を行う実施方針のもとに、教育活動を行います。

- (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う
 - ① 自他の人間存在への深い理解と洞察力を養うため、共通科目から16単位を必修とする。
 - ② 生命活動のプロセスとメカニズム理解のための看護医科学科目を配置する。
 - ③ 人間生命の哲学的・倫理的意義を考究する科目を配置する。
- (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける
 - ① ヒューマンケアの基盤となるコミュニケーション能力を育成する科目を配置する。
 - ② 人間と生命、健康、生活についての深い洞察力を養い、あらゆる状況にある人々を理解するための科目を配置する。
 - ③ 科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を養うための科目を配置する。
 - ④ 看護理論や看護実践を統合し、看護の価値と専門性を探究する科目を配置する。
- (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける
 - ① 社会保障・医療・看護に係わる法制度並びにその現状と課題を学ぶ科目を配置する。
 - ② 多様な機関及び多職種の役割・機能を理解し、保健医療福祉チームにおける看護活動のあり方を学ぶ科目を配置する。

- (4) 複雑に変化し続ける環境に対応し、生涯にわたり専門職として自己を向上させゆく自己教育力を身につける
- ① 社会の動向と科学技術の発展を踏まえて、必要な情報を適切に収集・活用するための基盤となる能力を養う科目を配置する。
 - ② 主体的に課題を発見し、探究する能力を養うための科目を配置する。
 - ③ 看護学の専門性を高め、自己の将来的なキャリア開発について学ぶための科目を配置する。
- (5) グローバルな視点から人々の様々な健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的能力を身につける
- ① グローバル社会における諸課題に対する関心を促し、異文化との相互理解に必要な多様性を尊重する姿勢を身につけるための科目を配置する。
 - ② グローバルな活動をするための基礎となる英語科目を習熟度別で配置する。
 - ③ 多様な自然・社会・文化的環境の中で生きる人々の生活と健康への理解・関心を促すための科目を配置する。

5. アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、看護学部の特質に従って、次のような学生を受け入れるため、以下のように選抜します。

- (1) 人々の健康の保持・増進のために看護の分野で社会に貢献しようとする学生
- (2) 生命の尊厳を探究し生涯学び続けていこうとする学生
- (3) 適切なコミュニケーションを通じ、良好な人間関係を形成しようとする学生
- (4) 人間の心と体に関心を持ち、科学的に理解しようとする学生
- (5) グローバル化する健康課題に関心を持ち、自発的に課題を探究しようとする学生
- (6) 自己の健康管理を行える学生

面接により、看護の志向性、学習意欲、問題意識・教養度、コミュニケーション能力、身だしなみ・言葉遣い・マナー、誠実さ、健康などの観点から評価します。入学後の講義、演習、実習などでは心身ともに健康で、休まず学業に専念できることが特に重要であることを確認します。

学力試験により、入学後の修学に必要な基礎学力を評価します。

調査書により、学業成績、資格、学内外課外活動、出席状況を評価します。学業成績では主要5教科がバランス良く修学できていることを評価します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性等			卒業必要単位数	
共通科目 ・ 外国語科目 (P.56～60)	①基礎科目 ※1	学術文章作法 I	必修科目	2 単位	左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選 択」の単位として算入され ます
	②大学科目		選択必修科目	2 単位	
	③言語科目 (英語)		選択必修科目	6 単位	
	④世界市民教育科目		選択必修科目	2 単位	
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目 ※2	データサイエンス入門	必修科目	2 単位	
	⑥人文・社会・ 健康科目	社会科学系科目 人文科学系科目 ※3	選択必修科目	2 単位	
看護学科 専門科目 (P.164～165)	看護医科学分野		必修科目	2 6 単位	
	看護基礎分野		必修科目	1 6 単位	
	看護実践分野		必修科目	4 3 単位	
	看護実践応用分野		必修科目	1 8 単位	
自由選択 ※4	『共通科目』『看護学科 専門選択科目』『他学部専門科目』から自由に選択して修得した単位			6 単位以上	
合 計				1 2 5 単位以上	

- ※1 基礎科目は「学術文章作法 I」を履修してください（これ以外の基礎科目は『自由選択』の単位として取り扱われます）。
- ※2 数理・データサイエンス・自然科目は「データサイエンス入門」を履修してください（これ以外の基礎科目は『自由選択』の単位として取り扱われます）。
- ※3 共通科目の⑥人文・社会・健康科目は「社会科学系科目」又は「人文科学系科目」の中から2単位以上を修得してください。
- ※4 自由選択とは『共通科目』『看護学科 専門選択科目』『他学部専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。
ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、共通科目の④世界市民教育科目を6単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます（自由選択を6単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます）。
- ※5 データサイエンス副専攻についてはガイダンスで説明します。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件について

■看護学科の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	学期毎の 下限単位数	直前セメスター の GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準 最低修得 単位数	
25 単位	看護学科には成績優秀者の制度や早期卒業の制度はありません。						

8. 履修についてのガイドライン

4年間の看護学部のカリキュラムの特徴は、必修科目が多いこと、学修の順序性が厳格なこと、そして、病院等での臨地実習が行われることです。そのため、4年間のカリキュラムは固定的で、各年次セメスターに配当された科目を、指定通りに履修、修得しながら、科目を積み上げていくことが重要です。

特に各実習を履修するためには、前提科目が設けられています。そのため、指定通りに、それらの科目を履修、修得しておかなければ、実習に参加することができません。

また、英語と共通科目の計画的な修得も重要です。看護学部では、英語と共通科目で計 16 単位の修得が必修となっています。2 年次以降は、専門科目の学習が本格化しますので、1 年次の内に、どれだけ共通科目を修得できるかがポイントです。特に 3 年次と 4 年次春学期は、長期間、実習に参加するため、その他の科目を履修することが難しくなります。英語については、各セメスター 2 単位を修得し、2 年春学期で卒業単位の修得を完了することを目指してください。

履修の順序性について「1 1. 履修モデル」を参照し、4 年間の履修計画を立て確実に履修することが大切です。

【各年次の履修科目の概要】

- < 1 年次 > 英語 (English I・II)・共通科目・専門科目・基盤看護学実習 I (対象理解)
- < 2 年次 > 英語 (春学期 / English III・Test Preparation TOEIC I)・共通科目 (春学期)・専門科目
人間発達看護学実習・基盤看護学実習 II (看護過程の展開)
- < 3 年次 > 専門科目・分野別実習
- < 4 年次 > 専門科目・分野別実習・看護実践統合実習・卒業研究

(1) 共通科目 ※共通科目一覧表を参照 (P.56~60)

1~2 年次に履修することが望ましい。

- ① 必修科目の 4 単位は、基礎科目から「学術文章作法 I (2 単位)」、数理・データサイエンス・自然科学目から「データサイエンス入門 (2 単位)」を 1 年次春学期に履修します。
- ② 選択必修科目は 12 単位です。
 - ・英語 6 単位は、1 年次春・秋学期及び 2 年次春学期に履修します。
 - ・大学科目から 2 単位、④世界市民教育科目から 2 単位、⑥人文・社会・健康科目は「社会科学系科目」又は「人文科学系科目」から 2 単位を履修します。

(2) 専門科目

① 看護医科学分野

看護医科学分野は、「看護と人間」「健康と社会」の 2 つの内容 (科目群) で構成されています。

「看護と人間」は、看護学の視点を組み込みながら、人間のからだの基礎理解を目指します。それぞれの専門教員が講義を担当します。

「健康と社会」では、健康課題の社会的側面について学びます。健康を維持するために必要な対人コミュニケーションの在り方、健康課題を有する人々を守る社会保障の在り方、生命に関わる倫理と医療の現場における倫理観について学修します。

② 看護基盤分野

看護基盤分野は、1~2 年次に履修する看護の基盤となる科目で、13 科目 (16 単位) 全てが必修科目です。特に、「基盤看護学実習 II (看護過程の展開)」は後続する実習科目の履修条件となります。

③ 看護実践分野

看護実践分野は、「療養生活看護学」「生涯発達看護学」「健康生活看護学」の 3 つの科目群から構成されています。それぞれの講義・演習科目が実習科目の履修条件となります。

④ 看護実践応用分野

この分野では 13 科目 18 単位が必修です。1~4 年次にわたり積み重ねの学修をします。

1 年次春学期に「キャリアデザイン基礎」を履修し、看護学を学ぶ上での基礎的な学修スキルを身につけると同時に、看護や医療・介護・福祉という様々な領域で活躍する人々をゲストスピーカーとして招き、キャリアプラン形成のロールモデルを提供します。

2 年次には「国際保健学」「看護と医療安全」を、3 年次の実習前に「看護管理論」、4 年次には「看護実践統合演習」「災害看護論」を履修します。

また、3 年次春学期の「看護学研究方法論」、4 年次春学期の「卒業研究」の履修を通して、学問としての看護を研究する力を培います。「卒業研究」は必修科目ですが、その後の「卒業論文」は選択科目となります。

⑤ 選択科目

看護学部の選択科目は、国際看護研修及び看護の統合と発展科目から構成されています。

(3) 自由選択

共通科目、専門選択科目、他学部専門科目の中から自由に選択し、6単位を修得してください。

9. 履修条件のある科目

授業内容の理解のため、先行する関連科目の履修が求められる科目があります。下記の履修条件表、専門科目表 (P.164~165) 及びシラバスで、履修条件や推奨科目を確認してください。

科目名		単位修得が必要 または 単位修得見込みの科目
講義演習科目	卒業研究 [必修]	看護学研究方法論
	卒業論文 [選択]	看護学研究方法論、卒業研究
	看護実践統合演習 [必修]	看護実践統合実習
実習科目	人間発達看護学実習 [必修]	基盤看護学実習Ⅰ(対象理解)、生涯発達看護学概論、健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)、健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)
	基盤看護学実習Ⅱ (看護過程の展開) [必修]	看護基礎理論Ⅰ(看護の理解と学修者)、看護基礎理論Ⅱ(看護の機能と理論)、フィジカルアセスメント、看護過程演習Ⅰ(アセスメント)、看護過程演習Ⅱ(計画・実施)、基本看護技術Ⅰ(看護技術の基本)、基本看護技術Ⅱ(活動と清潔)、基本看護技術Ⅲ(食事と排泄)、基本看護技術Ⅳ(臨床看護技術の基本)、基本看護技術Ⅴ(与薬と検査)、基盤看護学実習Ⅰ(対象理解)、構造機能と生活Ⅰ(恒常性維持のための調節機構と生活)、構造機能と生活Ⅱ(日常動作を支える解剖生理と生活)、病態生理総論
	療養生活看護学実習Ⅰ (急性)[必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、療養生活看護学概論、療養生活看護論Ⅰ(急性回復期援助)、療養生活看護論Ⅱ(急性回復期：看護過程・援助技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	療養生活看護学実習Ⅱ (慢性)[必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、療養生活看護学概論、療養生活看護論Ⅲ(慢性期支援)、療養生活看護論Ⅳ(慢性期：看護過程・支援技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	生涯発達看護学実習Ⅰ (子どもと家族の看護) [必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、生涯発達看護学概論、生涯発達看護論Ⅰ(子どもと家族の健康課題)、生涯発達看護論Ⅱ(子どもと家族への援助技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	生涯発達看護学実習Ⅱ (周産期の看護) [必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、生涯発達看護学概論、生涯発達看護論Ⅲ(周産期の母子の健康)、生涯発達看護論Ⅳ(周産期の援助技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	健康生活看護学実習Ⅰ (高齢者の健康) [必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)、健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)、健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)、健康生活看護論Ⅰ(高齢者援助)、健康生活看護論Ⅱ(高齢者看護過程・技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理

看護

実 習 科 目	健康生活看護学実習Ⅱ (心の健康) [必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)、健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)、健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)、健康生活看護学概論Ⅳ(精神看護展開の基礎)、健康生活看護学概論Ⅴ(精神看護の支援技術)、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	健康生活看護学実習Ⅲ (地域在宅生活の健康) [必修]	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)、健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)、健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)、健康生活看護学概論Ⅳ(地域保健活動)、健康生活看護学概論Ⅴ(在宅療養支援)、健康生活看護学概論Ⅵ(訪問看護過程・地域看護技術)、疫学・保健統計、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
	看護実践統合実習 [必修]	療養生活看護学実習Ⅰ(急性)、療養生活看護学実習Ⅱ(慢性)、生涯発達看護学実習Ⅰ(子どもと家族の看護)、生涯発達看護学実習Ⅱ(周産期の看護)、健康生活看護学実習Ⅰ(高齢者の健康)、健康生活看護学実習Ⅱ(心の健康)、健康生活看護学実習Ⅲ(地域在宅生活の健康)

10. 専門科目

専門科目表で、履修単位・履修年次・履修条件等を確認してください。

授業の原則的な時間数は、講義科目では1単位15時間から30時間、演習科目は1単位30時間、実習・研修科目は1単位45時間です。科目により1単位あたりの授業時間数に相違があります。

1.1. 履修モデル

科目区分		年次	
		1年次	2年次
共通科目		必修科目 ・学術文章作法Ⅰ(2) ・データサイエンス入門(2)	選択必修 ・English(2)(2)(2) ・人文科学系科目あるいは社会科学系科目(2) ・世界市民教育科目(2) ・大学科目(2)
専門基礎科目	看護 医科学分野	構造機能と生活Ⅰ(恒常性維持のための調節機構と生活)(1) 構造機能と生活Ⅱ(日常動作を支える解剖生理と生活)(1) 生命科学(1) 病態生理総論(1) 栄養と代謝(2) 薬理の基礎(1) 診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)(1) 健康と生活(2) 看護とコミュニケーション(2) 生命倫理(2)	診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)(1) 診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)(1) 臨床薬理(1) 心理学(2) 診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)(1) 看護と病態生理(2) 社会保障・社会福祉論(2)
	看護 基盤分野	看護基礎理論Ⅰ(看護の理解と学修者)(1) 基本看護技術Ⅰ(看護技術の基本)(1) 看護基礎理論Ⅱ(看護の機能と理論)(2) 基本看護技術Ⅱ(活動と清潔)(1) 基本看護技術Ⅲ(食事と排泄)(1) フィジカルアセスメント(1)	基本看護技術Ⅳ(臨床看護技術の基本)(1) 看護過程演習Ⅰ(アセスメント)(1) 基本看護技術Ⅴ(与薬と検査)(1) 看護過程演習Ⅱ(計画・実施)(1)
	看護 実践分野		療養生活看護学概論(2) 生涯発達看護学概論(2) 健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)(2) 健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)(1) 療養生活看護論Ⅰ(急性回復期援助)(1) 療養生活看護論Ⅲ(慢性期支援)(1) 生涯発達看護論Ⅰ(子どもと家族の健康課題)(2) 健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)(2) 健康生活看護論Ⅰ(高齢者援助)(1) 健康生活看護論Ⅲ(精神看護展開の基礎)(2)
	看護 実践応用 分野	キャリアデザイン基礎(1) 国際看護学(2)	国際保健学(2) 看護と医療安全(1)
	臨地実習	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 基盤看護学実習Ⅰ(対象理解)(1) </div>	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 人間発達看護学 実習(2) </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 基盤看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)(2) </div> </div>
選択科目		1～4年次開講科目 国際看護特講Ⅰ(国際看護・アジア・アフリカ)(1) 国際看護特講Ⅱ(国際看護・欧米)(1) 国際看護研修Ⅰ(看護視察研修・アジア・アフリカ)(1) 国際看護研修Ⅱ(看護視察研修・欧米)(1) 国際看護研修Ⅲ(看護フィールド調査研修・アジア・アフリカ)(2) 国際看護研修Ⅳ(看護フィールド調査研修・欧米)(2)	

看護

3年次	4年次	単位
		16 単位 (必修)
疫学・保健統計(2)		26 単位 (必修)
療養生活看護論Ⅱ(急性回復期:看護過程・援助技術)(1) 療養生活看護論Ⅳ(慢性期:看護過程・支援技術)(1) 生涯発達看護論Ⅱ(子どもと家族への援助技術)(1) 生涯発達看護論Ⅲ(周産期の母子の健康)(1) 健康生活看護論Ⅱ(高齢者看護過程・技術)(1) 健康生活看護論Ⅳ(精神看護の支援技術)(1) 健康生活看護論Ⅴ(地域保健活動)(1) 健康生活看護論Ⅵ(在宅療養支援)(1) 生涯発達看護論Ⅳ(周産期の援助技術)(1) 健康生活看護論Ⅶ(訪問看護過程・地域看護技術)(1)		77 単位 (必修)
看護学研究方法論(1) 看護管理論(2) 看護とキャリアデザイン(1)	卒業研究(2) クリティカルケア論(1) 多職種協働論(1) 災害看護論(1) 看護実践統合演習(1)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 療養生活看護学実習Ⅰ(急性)(3) 療養生活看護学実習Ⅱ(慢性)(3) 生涯発達看護学実習Ⅰ(子どもと家族の看護)(1) 健康生活看護学実習Ⅰ(高齢者の健康)(3) 健康生活看護学実習Ⅱ(心の健康)(2) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 生涯発達看護学実習Ⅱ (周産期の看護)(2) 健康生活看護学実習Ⅲ (地域在宅生活の健康)(2) </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 看護実践統合 実習(2) </div>	
	がん看護論(1) リエゾン精神看護(1) 卒業論文(2) 生活習慣病予防と看護(1) 看護実践と倫理的課題(1) 家族看護論(1)	6 単位 (選択)



()内は単位数を示す

12. カリキュラムマップ

カリキュラムマップは、学年別に関講される授業科目と教育目標、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）の関係を示した表のことで、看護学部では、次のページのように関連付けて授業を行っています。

		カリキュラムマップ			
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	1 年次		2 年次	
		春学期	秋学期	春学期	
(1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う	①自他の人間存在への深い理解と洞察力を養うための共通科目	学術文章作法 I データサイエンス入門			
	②生命活動のプロセスとメカニズム理解のための看護医科学科目	構造機能と生活 I (恒常性維持のための調節機構と生活) 構造機能と生活 II (日常動作を支える解剖生理と生活) 生命科学	病態生理総論 栄養と代謝 薬理の基礎 診断治療 I (主要な疾患の検査と治療)	臨床薬理 診断治療 II (内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療) 診断治療 III (免疫・精神・小児疾患の検査と治療)	
	③人間生命の哲学的・倫理的意義を考究する科目		生命倫理		
(2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける	①ヒューマンケアの基盤となるコミュニケーション能力を育成する科目	看護とコミュニケーション 基盤看護学実習 I (対象理解)			
	②人間と生命、健康、生活についての深い洞察力を養い、あらゆる状況にある人々を理解するための科目	健康と生活 看護基礎理論 I (看護の理解と学修者)	看護基礎理論 II (看護の機能と理論)	心理学 健康生活看護学概論 I (基本的概念)	
	③科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を養うための科目	基本看護技術 I (看護技術の基本)	フィジカルアセスメント 基本看護技術 II (活動と清潔) 基本看護技術 III (食事と排泄)	看護過程演習 I (アセスメント) 基本看護技術 IV (臨床看護技術の基本) 療養生活看護学概論 生涯発達看護学概論	
	④看護理論や看護実践を統合し、看護の価値と専門性を探究する科目				
(3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける	①社会保障・医療・看護に係わる法制度並びにその現状と課題を学ぶ科目			健康生活看護学概論 II (集団・予防)	
	②多様な機関及び多職種役割・機能を理解し、保健医療福祉チームにおける看護活動のあり方を学ぶ科目				
(4) 複雑に変化し続ける環境に対応し、生涯にわたり専門職として自己を向上させゆく自己教育力を身につける	①社会の動向と科学技術の発展を踏まえて、必要な情報を適切に収集・活用するための基盤となる能力を養う科目				
	②主体的に課題を発見し、探究する能力を養うための科目				
	③看護学の専門性を高め、自己の将来的なキャリア開発について学ぶための科目	キャリアデザイン基礎			
(5) グローバルな視点から人々の健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的能力を身につける	①グローバル社会における諸課題に対する関心を促し、異文化との相互理解に必要な多様性を尊重する姿勢を身につけるための科目		国際看護学 国際看護研修 I (看護視察研修・アジア・アフリカ)		
	②グローバルリテラシーの基礎となる英語科目	English I	English II	English III Test Preparation TOEIC I	
	③多様な自然・社会・文化的環境の中で生きる人々の生活と健康への理解・関心を促すための科目			国際保健学	

看護

(看護学部 看護学科)

	2 年次		3 年次		4 年次	
	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	診断治療Ⅳ (感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)					
	人間発達看護学実習					
	看護過程演習Ⅱ (計画・実施)	療養生活看護論Ⅱ (急性回復期:看護過程・援助技術)	療養生活看護学実習Ⅰ (急性)【春・秋学期】	健康生活看護学実習Ⅲ (地域在宅生活の健康)	災害看護論	
	基本看護技術Ⅴ (与薬と検査)	療養生活看護論Ⅳ (慢性期:看護過程・支援技術)	生涯発達看護学実習Ⅰ (子どもと家族の看護)【春・秋学期】	クリティカルケア論		
	基礎看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)	生涯発達看護論Ⅱ (子どもと家族への援助技術)	生涯発達看護学実習Ⅱ (慢性)【春・秋学期】	がん看護論		
	療養生活看護論Ⅰ (急性回復期援助)	生涯発達看護論Ⅲ (周産期の母子の健康)	健康生活看護論Ⅶ (訪問看護過程・地域看護技術)			
	療養生活看護論Ⅲ (慢性期支援)	健康生活看護論Ⅱ (高齢者看護過程・技術)	健康生活看護学実習Ⅰ (高齢者の健康)【春・秋学期】		生活習慣病予防と看護	
	生涯発達看護論Ⅰ (子どもと家族の健康課題)	健康生活看護論Ⅳ (精神看護の支援技術)	健康生活看護学実習Ⅱ (心の健康)【春・秋学期】			
	健康生活看護学概論Ⅲ (地域社会における多様な看護の場)	健康生活看護論Ⅴ (地域保健活動)				
	健康生活看護論Ⅰ (高齢者援助)	健康生活看護論Ⅵ (在宅療養支援)				
	健康生活看護論Ⅲ (精神看護展開の基礎)					
	看護と病態生理		生涯発達看護論Ⅳ (周産期の援助技術)	生涯発達看護学実習Ⅱ (周産期の看護)	看護実践統合実習 看護実践と倫理的課題	
	社会保障・社会福祉論	看護管理論	療養生活看護学実習Ⅱ (慢性)【春・秋学期】			
	看護と医療安全			多職種協働論 リエゾン精神看護	家族看護論	
		疫学・保健統計				
		看護学研究方法論		卒業研究	卒業論文	
			看護とキャリアデザイン		看護実践統合演習	
	国際看護研修Ⅱ (看護視察研修・欧米) 国際看護研修Ⅲ (看護フィールド調査研修・アジア・アフリカ) 国際看護研修Ⅳ (看護フィールド調査研修・欧米) ※長期休暇期間を利用して海外研修を実施					
	国際看護特講 1 (国際看護・アジア・アフリカ)					
	国際看護特講 2 (国際看護・欧米)					

看護師国家試験受験資格

生命の尊厳を基調とし、生命力を引き出す慈愛の看護を実践できる人材

看護

13. 臨地実習について

(1) 臨地実習の基本的な考え方

看護学の学士課程教育では、理論と実践が乖離しないよう、講義、演習、実習の学習内容を関連付けて学ぶことが重要です。実習での学びは、理論を実践場面に具現化・適用化するにとどまらず、看護の場面で生じた出来事や自ら経験したことを看護学として意味づけることに意義があります。単に知識や技術の習得を目指すのではなく、看護現象を科学的に判断し、思考する習慣が身につくように取り組んでください。

また、保健・医療・福祉等の職種で展開されるチーム医療における看護の役割・機能を理解し、具体的な場面を通し、連携と協働の実際を学ぶ機会とします。4年間の臨地実習を通し、専門的援助者としてのケアリング能力を培います。

(2) 4年間の臨地実習科目の構成

実習科目	単位数	時間数	実 習 時 期								
			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
			春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
基盤看護学実習Ⅰ (対象理解)	1	45	○								
人間発達看護学実習	2	90				○					
基盤看護学実習Ⅱ (看護過程の展開)	2	90				○					
療養生活看護学実習Ⅰ (急性)	3	135					○	○			
療養生活看護学実習Ⅱ (慢性)	3	135					○	○			
生涯発達看護学実習Ⅰ (子どもと家族の看護)	1	45					○	○			
健康生活看護学実習Ⅰ (高齢者の健康)	3	135					○	○			
健康生活看護学実習Ⅱ (心の健康)	2	90					○	○			
健康生活看護学実習Ⅲ (地域在宅生活の健康)	2	90							○		
生涯発達看護学実習Ⅱ (周産期の看護)	2	90							○		
看護実践統合実習	2	90									○

(3) 臨地実習科目の履修条件と単位認定

臨地実習科目のなかには、「9. 履修条件のある科目」(P.156~157)で示したとおり、先行する関連科目の履修が求められる科目があります。また、単位認定については、臨地実習科目毎で異なりますので、実習要項(別途配布)にて詳細を説明します。

■専門科目表の見方（看護学科専門科目）

次のページから掲載されている看護学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の 該当コア・コンピテンシー					
							1	2	3	4	5	6
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧					

①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。原則として授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。ただし、実習等の都合により、不定期に授業が開講されることもありますので、注意してください。
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。
⑥他学科履修	看護学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は看護学科生以外の履修はできません。
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。
⑧ディプロマ・ポリシーに記載の該当コア・コンピテンシー(※)	その科目が、ディプロマ・ポリシーで示されたどの学習成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 対象を全人的に捉えるための分析・統合力を活用する基本能力 2. 生命の尊厳を基盤としたヒューマンケアの基本的能力 3. 生命力を引き出す慈愛の看護を科学的根拠に基づき実践する能力 4. 特定の健康課題に対応する創造的な実践能力 5. 多様なケア環境とチーム体制のための人間力を基盤とする実践能力 6. 専門職としてグローバルな視点で生涯にわたり研鑽する能力

表 コア・コンピテンシーとDPの関係

※ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で示されている5項目と学習成果（ラーニングアウトカム）をみるコア・コンピテンシーとの関係性は以下の通りです。

学習成果（ラーニングアウトカム）を みるコア・コンピテンシー	該当するディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
1. 対象を全人的に捉えるための分析・統合力を活用する基本能力	◎ (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける。 ○ (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。 ○ (5) グローバルな視点から人々の健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的能力を身につける。
2. 生命の尊厳を基盤としたヒューマンケアの基本的能力	◎ (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。 ○ (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける。
3. 生命力を引き出す慈愛の看護を科学的根拠に基づき実践する能力	◎ (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける。 ○ (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。
4. 特定の健康課題に対応する創造的な実践能力	◎ (2) 人間を全人的に理解し、科学的根拠に基づき、創造的な看護実践能力を身につける。 ○ (1) 生命の尊厳を探究し、確固たる生死観形成の基礎を培う。 ○ (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける。
5. 多様なケア環境とチーム体制のための人間力を基盤とする実践能力	◎ (3) 看護・保健・医療・福祉の場における協働のための基本的能力を身につける。 ○ (5) グローバルな視点から人々の健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的能力を身につける。
6. 専門職としてグローバルな視点で生涯にわたり研鑽する能力	◎ (4) 複雑に変化し続ける環境に対応し、生涯にわたり専門職として自己を向上させゆく自己教育力を身につける。 ○ (5) グローバルな視点から人々の健康課題を理解し、多様な背景をもつ人々と協同するための基盤的能力を身につける。

■看護学部看護学科 専門科目表 (2024年度入学生用)

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の該当コア・コンピテンシー					
							1	2	3	4	5	6
必修科目 71科目 103単位												
<看護医学分野>26単位												
NURS111	構造機能と生活Ⅰ(恒常性維持のための調節機構と生活)	30	1	1	×	◎	○					
NURS112	構造機能と生活Ⅱ(日常動作を支える解剖生理と生活)	30	1	1	×	◎	○					
NURS113	病態生理総論	15	1	1	×	◎	○					
NURS114	栄養と代謝	30	2	1	×	◎	○			○		
NURS115	薬理の基礎	15	1	1	×	◎	○					
NURS116	臨床薬理	15	1	2	×	◎	○					
NURS117	心理学	30	2	2	×	◎	○	○				
NURS120	診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)	30	1	1	×	◎	○					
NURS121	診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)	30	1	2	×	◎	○					
NURS122	診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)	30	1	2	×	◎	○					
NURS123	診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)	30	1	2	×	◎	○					
NURS124	看護と病態生理	30	2	2	×	◎	○					
NURS110	生命科学	15	1	1	×	◎	○					
NURS100	健康と生活	30	2	1	×	◎	○					
NURS103	社会保障・社会福祉論	30	2	2			◎			○	○	
NURS104	疫学・保健統計	30	2	3	×	○	○					◎
NURS102	生命倫理	30	2	1	×		○					◎
NURS101	看護とコミュニケーション	30	2	1	×		◎			○		
<看護基盤分野>16単位												
NURS200	看護基礎理論Ⅰ(看護の理解と学修者)	15	1	1	×	○	◎	○				
NURS201	看護基礎理論Ⅱ(看護の機能と理論)	30	2	1	×	○	◎	○				
NURS220	フィジカルアセスメント	30	1	1	×	◎	○	○				
NURS215	看護過程演習Ⅰ(アセスメント)	30	1	2	×	◎	○	○				
NURS216	看護過程演習Ⅱ(計画・実施)	15	1	2	×	○	○	◎				
NURS210	基本看護技術Ⅰ(看護技術の基本)	30	1	1	×	○	○	◎				
NURS211	基本看護技術Ⅱ(活動と清潔)	30	1	1	×	○	○	◎				
NURS212	基本看護技術Ⅲ(食事と排泄)	30	1	1	×	○	○	◎				
NURS213	基本看護技術Ⅳ(臨床看護技術の基本)	30	1	2	×	○	○	◎				
NURS214	基本看護技術Ⅴ(与薬と検査)	30	1	2	×	○	○	◎				
NURS280	基盤看護学実習Ⅰ(対象理解)	45	1	1	×		◎	○				○
NURS281	人間発達看護学実習	90	2	2	×	◎	○	○				
NURS282	基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)	90	2	2	×	○	○	◎				
<看護実践分野>43単位												
NURS300	療養生活看護学概論	30	2	2	×	○				◎	○	
NURS301	療養生活看護論Ⅰ(急性回復期援助)	30	1	2	×	○				◎	○	
NURS302	療養生活看護論Ⅱ(急性回復期:看護過程・援助技術)	30	1	3	×	○				◎	○	
NURS303	療養生活看護論Ⅲ(慢性期支援)	30	1	2	×	○				◎	○	
NURS304	療養生活看護論Ⅳ(慢性期:看護過程・支援技術)	30	1	3	×	○				◎	○	
NURS380	療養生活看護学実習Ⅰ(急性)	135	3	3	×	○				◎	○	
NURS381	療養生活看護学実習Ⅱ(慢性)	135	3	3	×	○				◎	○	
NURS310	生涯発達看護学概論	30	2	2	×	○		◎		○		
NURS311	生涯発達看護論Ⅰ(子どもと家族の健康課題)	30	2	2	×		○	○	◎			
NURS312	生涯発達看護論Ⅱ(子どもと家族への援助技術)	15	1	3	×	○		○	◎			
NURS313	生涯発達看護論Ⅲ(周産期の母子の健康)	30	2	3	×	○		○	◎			
NURS314	生涯発達看護論Ⅳ(周産期の援助技術)	15	1	3	×		○	◎				
NURS383	生涯発達看護学実習Ⅰ(子どもと家族の看護)	45	1	3	×		◎	○				
NURS385	生涯発達看護学実習Ⅱ(周産期の看護)	90	2	4	×		○	◎				
NURS320	健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)	30	2	2	×	◎	○					
NURS321	健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)	15	1	2	×	○	○					◎
NURS322	健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)	30	2	2	×			◎	○	○		
NURS323	健康生活看護論Ⅰ(高齢者援助)	15	1	2	×			◎	○	○		
NURS324	健康生活看護論Ⅱ(高齢者看護過程・技術)	30	1	3	×			◎	○	○		
NURS325	健康生活看護論Ⅲ(精神看護展開の基礎)	30	2	2	×			◎	○	○		
NURS326	健康生活看護論Ⅳ(精神看護の支援技術)	15	1	3	×			◎	○	○		
NURS400	健康生活看護論Ⅴ(地域保健活動)	15	1	3	×		○	◎	○			
NURS401	健康生活看護論Ⅵ(在宅療養支援)	15	1	3	×			◎	○	○		
NURS402	健康生活看護論Ⅶ(訪問看護過程・地域看護技術)	15	1	3	×			◎	○	○		
NURS382	健康生活看護学実習Ⅰ(高齢者の健康)	135	3	3	×			◎	○	○		
NURS384	健康生活看護学実習Ⅱ(心の健康)	90	2	3	×			◎	○	○		
NURS480	健康生活看護学実習Ⅲ(地域在宅生活の健康)	90	2	4	×			◎	○	○		

注:当該科目の履修は、「国際看護特講1」「国際看護特講2」「国際看護学」「国際保健学」のいずれか2科目の単位を修得済みあるいは履修中であることを条件とする。

◆看護学部専門科目と該当コアコンピテンシー「最も該当◎」「該当○」「該当△」

1. 対象を全人的に捉えるための分析・統合力を活用する基本能力
2. 生命の尊厳を基盤としたヒューマンケアの基本的能力
3. 生命力を引きだす慈愛の看護を科学的根拠に基づき実践する能力
4. 特定の健康課題に対応する創造的な実践能力
5. 多様なケア環境とチーム体制のための人間力を基盤とする実践能力
6. 専門職としてグローバルな視点で生涯にわたって研鑽する能力

◆他学科履修の欄の×印は他学科履修不可を示す

◆自由選択科目は看護専門科目から3単位以上修得することを推奨する。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ディプロマ・ポリシーに記載の該当コア・コンピテンシー					
							1	2	3	4	5	6
必修科目 71 科目 103 単位 (つづき)												
<看護実践応用分野>18単位												
NURS430	看護実践統合演習	15	1	4	x				○			◎
NURS331	看護学研究方法論	15	1	3	x				○			◎
NURS330	看護と医療安全	15	1	2	x		◎		○	○		
NURS410	看護管理論	30	2	3	x		○			◎	○	
NURS411	災害看護論	15	1	4	x		○		◎	○		
NURS130	キャリアデザイン基礎	30	1	1	x		○			○	◎	
NURS332	看護とキャリアデザイン	15	1	3	x		○				◎	
NURS470	卒業研究	30	2	4	x				○			◎
NURS412	多職種協働論	15	1	4	x	○				◎	○	
NURS413	クリティカルケア論	15	1	4	x	○		◎				○
NURS481	看護実践統合実習	90	2	4	x		○	◎		○		
NURS230	国際看護学	30	2	1	x		○		○			◎
NURS233	国際保健学	30	2	2	x	○	○					◎
<選択科目>※自由選択の単位として算入												
NURS390	国際看護研修Ⅰ(看護視察研修・アジア・アフリカ)	45	1	1~	x	注	○	○				◎
NURS391	国際看護研修Ⅱ(看護視察研修・欧米)	45	1	1~	x	注	○	○				◎
NURS490	国際看護研修Ⅲ(看護フィールド調査研修・アジア・アフリカ)	90	2	1~	x	注	○	○				◎
NURS491	国際看護研修Ⅳ(看護フィールド調査研修・欧米)	90	2	1~	x	注	○	○				◎
NURS231	国際看護特講1(国際看護・アジア・アフリカ)	15	1	1~	x		○	○				◎
NURS232	国際看護特講2(国際看護・欧米)	15	1	1~	x		○	○				◎
NURS471	卒業論文	30	2	4	x				○			◎
NURS420	がん看護論	15	1	4	x				○	◎	○	
NURS421	家族看護論	15	1	4						○	◎	
NURS422	リエゾン精神看護	15	1	4						◎	◎	○
NURS423	生活習慣病予防と看護	15	1	4	x				○	◎		
NURS424	看護実践と倫理的課題	15	1	4	x		○	◎				

注:当該科目の履修は、「国際看護特講1」「国際看護特講2」「国際看護学」「国際保健学」のいずれか2科目の単位を修得済みあるいは履修中であることを条件とする。

◆看護学部専門科目と該当コアコンピテンシー「最も該当◎」「該当○」「該当□」

1. 対象を全人的に捉えるための分析・統合力を活用する基本能力
2. 生命の尊厳を基盤としたヒューマンケアの基本的能力
3. 生命力を引きだす慈愛の看護を科学的根拠に基づき実践する能力
4. 特定の健康課題に対応する創造的な実践能力
5. 多様なケア環境とチーム体制のための人間力を基盤とする実践能力
6. 専門職としてグローバルな視点で生涯にわたり研鑽する能力

◆他学科履修の欄のx印は他学科履修不可を示す

◆自由選択科目は看護専門科目から3単位以上修得することを推奨する。

1. 理念・目的

国際教養学部の理念は、急速に変化しているグローバルな環境にあって、創造的に、人間主義に立脚して様々な挑戦に立ち向かうことができる知識、技能、勇気、慈悲を有する世界市民を育成していくことにある。本目的のために、国際教養学部では、〈歴史・社会・文化〉、〈政治・国際関係〉、〈経済・経営〉の分野の教養教育を英語で行い、多様性豊かな教員、外国人学生との交流、必修の海外留学プログラムを通じて異文化理解力を養成していく。また文化的多様性、生涯学習、主体的な世界市民の精神でアクティブ・ラーニングを実践していく。

2. 教育目標

国際教養学部の理念で述べた知識、技能、姿勢を養成していくために2つの教育目標を設定する。

- (1) 国際教養学部では〈歴史・社会・文化〉、〈政治・国際関係〉、〈経済・経営〉の分野の教養教育を英語によるアクティブ・ラーニングを通じて行っていく。
- (2) 国際教養学部では、文化的に多様性のあるグローバルな環境で、学生が創造的な問題解決能力を開発できるよう教育を行っていく。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

国際教養学部は、全学、および本学部の教育目標に基づき、グローバル社会が直面する諸問題の解決に取り組む人材の育成を目指し、卒業までに以下の能力や学識の修得を求め、学位授与の要件を満たした学生に、学士（国際教養）を授与する。

- (1) 人文・社会科学にわたる基礎的な学術知識を修得し、教員の指導下で研究を行う力
- (2) 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力
- (3) 多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力
- (4) 課題を発見し、解決にむけて取り組む力

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際教養学部は全学、および本学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針でカリキュラムを編成している。

(1) 人文・社会科学にわたる基礎的知識と教員の指導下で研究を行う力

人文・社会科学の各分野の導入レベルから専門性の高い科目まで多様なカリキュラムを提供し、学生の研究力を養成する。さらに、人文・社会科学分野の諸課題の理解に必須な分析力の養成を目的として、質的・量的手法を学ぶ科目を提供する。

(2) グローバル社会で通用する高度な（学術的な）英語運用・コミュニケーション能力

1、2年次に、海外の大学への留学等集中的な英語学習プログラムを設け、2年次末までに学部として卒業時までまでに必須の TOEFL-iBT 80 の英語運用力を養成する。

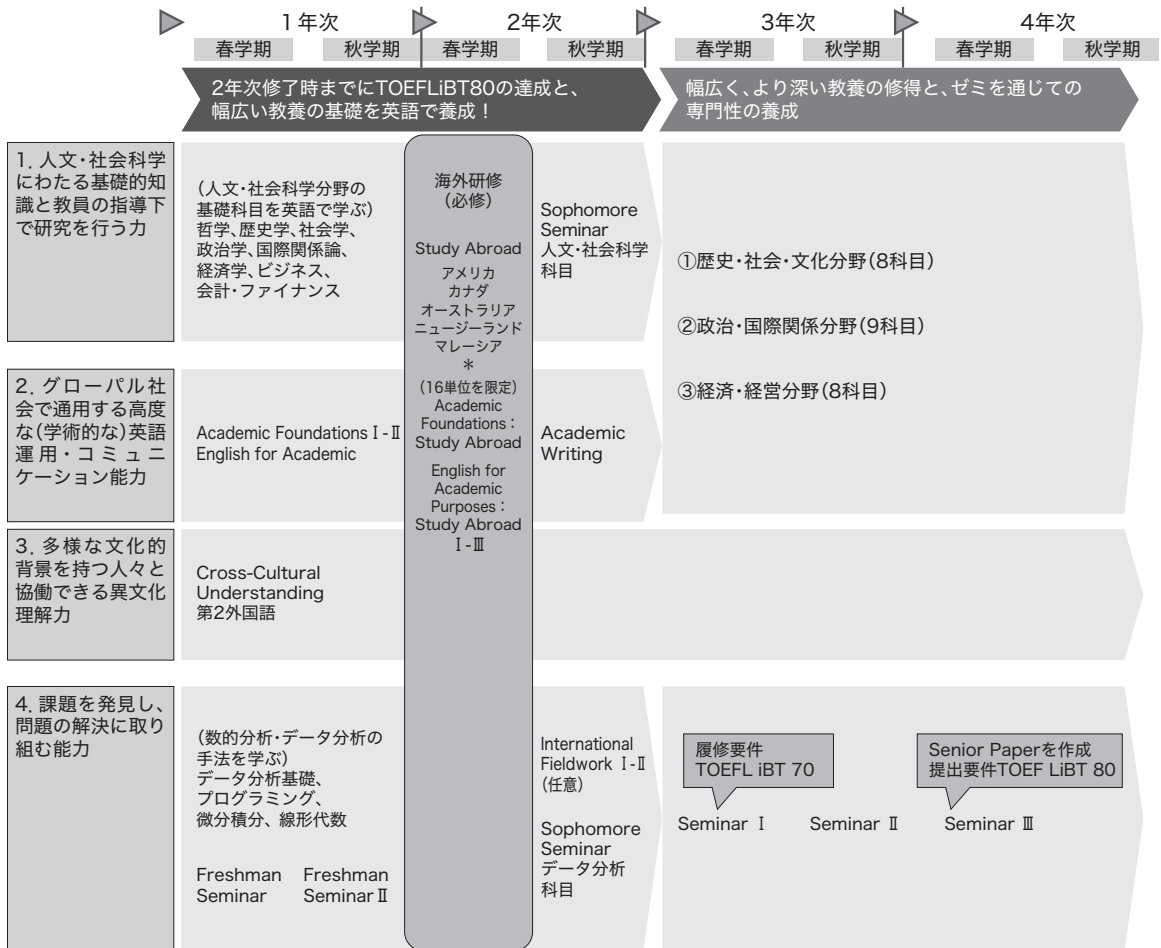
(3) 異文化理解力

国際教養学部のカリキュラムは、異文化理解に関する科目の履修、英語を母語とする環境への留学、第2外国語の学習を通じ、学生が多様な文化を理解し受容する異文化理解力の養成に力点を置く。

(4) 課題を発見し、問題の解決に取り組む能力

1年次の Freshman Seminars から3、4年次の演習 I-III まで、少人数の科目を配置し、課題発見・解決型の授業を行う。

主要な大学共通科目、学部専門科目群は以下のように配置されている。



*海外研修先は 2024 年 4 月現在の予定のため変更となる場合があります。詳細は入学後のガイダンスで必ず確認してください。

5. アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

国際教養学部は以下のような学生を求めている。

- 人文・社会科学の幅広い学問分野の修得を望む、基盤的学力と知的好奇心を有する学生
 学校推薦型選抜（公募推薦入試）、一般選抜の大学共通テスト利用入試、全学統一入試、一般入試（以下一般選抜）、帰国学生入試では学力試験により、また外国人入試では書類審査により、人文社会科学分野の学問修得の基礎となる知識・技能、思考力・判断力等を評価します。
- グローバル社会で通用する高度なコミュニケーション能力の修得に強い意志を有する学生
 一般選抜のうち大学共通テスト利用入試では英語の得点配分を他より高くします。また、一般選抜では実用英語能力の一定レベル以上の資格・スコア等を英語の点数として換算する措置を取ります。総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募・指定校推薦入試）、帰国学生入試では、出願資格として英語能力が設定されています。また、面接の一部を英語で行います。
- 世界各地で生起する諸問題に深い関心を持ち、その解決に挑戦する意欲と実行力を有する学生
 総合型選抜（PASCAL 入試、小論文方式）、学校推薦型選抜（公募推薦入試）、帰国学生入試では、面接と書類審査により、世界の諸問題に取り組む意欲と実行力や、それを支える主体性・多様性・協働性等を評価します。一般選抜においては、主体性、協働性に関する高等学校等までの取り組みについて出願時に記入を求め、入学後の修学指導等に活用します。

6. 卒業要件

●以下の表の通りの単位を修得し、かつ**通算 GPA が2以上**であること。

科目区分	科目特性		卒業に必要な単位数
共通科目 (P.56 ~ 60)	①基礎科目	Freshman Seminar	必修科目 2単位
	②大学科目		選択必修科目 4単位
	⑤数理・ データサイエンス・ 自然科目	データサイエンス入門	必修科目 2単位
外国語科目	第1外国語	※1	選択必修科目 16単位
	第2外国語	※2	選択必修科目 4単位
国際教養学科 専門科目 (P.176 ~ 177)	必修科目	Academic Foundations 科目群	10単位
		Academic Writing	4単位
		Cross-cultural Understanding	4単位
		Seminar I・II・III ※3, Senior Paper ※4	10単位
		Foundations of Data Science	4単位
		Freshman Seminar II	2単位
	選択必修科目	Quantitative & Qualitative Analysis 科目群 ※5	4単位
		Level 100-200 科目群 ※6	16単位
		Level 200 Sophomore Seminar 科目群	4単位
		Level 300-400 科目群 ※6 ※7	20単位
	Level 100-200 科目群、Level 300-400 科目群において、<歴史・社会・文化>、<政治・国際関係>、<経済・経営>の各々の分野から最低1科目4単位を含むこと。		
自由選択 ※8	『共通科目』『国際教養学科専門科目』『他学科専門科目』から自由に選択して修得した単位		18単位以上
合 計			124単位以上

左記の単位数を超えて修得した単位は「自由選択」の単位として算入されません

- ※1 第1外国語は英語とし、卒業に必要な16単位は学部学科英語科目(P.177)を履修して修得してください。特に学部学科英語科目のうち、「English for Academic Purposes I・II」は必修科目として指定されていますので、1年次に必ず履修してください。日本語プログラム履修者は日本語を第1外国語と設定しています。詳細はP.171~172を参照してください。
- ※2 第2外国語は、共通科目の「③言語科目」(P.56~57)から、第1外国語として選択した言語以外の1つの言語(ただし言語演習を除く)で4単位を修得してください。日本語プログラム履修者は英語を第2外国語と設定しています。詳細はP.171~172を参照してください。
- ※3 Seminar 科目群の履修にはTOEFL-iBT 70以上のスコアが必要となります。TOEFL-iBT *MyBest Scores* は使用不可で、IELTS と TOEFL-ITP のスコアも該当しません。
- ※4 Senior Paper の単位取得のためには英語運用能力を証明する TOEFL-iBT 80 (TOEFL-iBT *MyBest Scores* は使用不可)、IELTS 6.5 (全ての項目で6.0を満たしていること) または TOEFL-ITP 550 以上のスコアが必須となります。
- ※5 Quantitative & Qualitative Analysis (QQA) 科目群では、「Foundations of Data Science」を除いて4単位以上を修得する必要があります。
- ※6 Level 100-200 科目群、及び Level 300-400 科目群の単位には、それぞれ<歴史・社会・文化>、<政治・国際関係>、<経済・経営>の各々の分野から最低1科目4単位の取得が必要です。
- ※7 Level 300-400 科目群の履修には TOEFL-iBT 60 (TOEFL-iBT *MyBest Scores* は使用不可) 以上のスコアが必須となります。
- ※8 自由選択とは『共通科目』、『国際教養学科専門科目』、『他学科専門科目』のどの科目でも自由に選択して単位を修得することができます。ただし、『共通科目』のうち卒業基準単位数が定められている科目群の科目と『国際教養学科専門科目』の単位は、各々の卒業に必要な単位数を超えて修得した場合に自由選択の単位となります。例えば、専門科目の Level 100-200 科目群を20単位修得した場合に、4単位が自由選択の単位として計算されます(自由選択を28単位修得済の場合は、卒業基準単位数を超えた単位として計算されます)。

7. 履修制限・成績優秀者・早期卒業に関する条件

■国際教養学部の基準は以下の通りです。

履修上限 単位数	成績優秀者になるための 基準		成績優秀者の 履修制限緩和		早期卒業するための基準		
	学期毎の修得 下限単位数	直前セメスター の GPA 数値	追 加 単位数	上級年 次履修	卒業判定時 通算 GPA 数値基準	在学4セメスター終了時点の条件 通算 GPA 数値基準	最低修得 単位数
20 単位	16 単位 (注)	3.50	4 単位	可	3.70	3.70	80

※海外留学中の2年次春学期は、修得単位数を16単位としたうえで、各留学先の学習状況や留学のレポート提出等をもとに総合評価で判定します。

早期卒業するためには、在学4セメスター終了時点で、基準の通算 GPA 数値と修得単位数を満たし、早期卒業対象者に選ばれる必要があります。そして、卒業判定時（在学6セメスター又は7セメスター終了時）に上記の通算 GPA 基準を満たし、かつ、卒業基準単位を修得する必要があります。

なお、早期卒業対象者は、毎履修登録時に卒業希望セメスターを Web より登録しなければなりません。

8. 入学時から卒業までの学習ステップ

1 年次春学期

必修科目として大学共通科目の6単位【Freshman Seminar (2単位)、English for Academic Purpose I (2単位)、データ・サイエンス入門 (2単位)】、学部専門科目の6単位【Academic Foundations I (2単位)、Cross-Cultural Understanding(4単位)】の計12単位の履修が必要です。残り8単位については、大学共通科目の大学科目(2単位)、第2外国語(2単位)※2や学部専門科目のLevel 100-200の入門科目※6(4単位)等の履修をすることができます。

※¹ 第2外国語の入門科目は春学期から開始されるため、秋学期からの入門レベルの履修はできません。

※² 2024年度春学期では Principles of History, Principles of Sociology, Principles of Accounting and Financial Analysis, Principles of Politics and Globalization が提供されます。履修には TOEFL-iBT60 点程度の英語力が望ましいです。

1 年次秋学期

必修科目として大学共通科目の2単位【English for Academic Purposes II (2単位)】、学部専門科目の10単位【Academic Foundations II(4単位)、Freshman Seminar II(2単位)、Foundations of Data Science(4単位)】の計12単位の履修が必要です。残り8単位については、大学共通科目の大学科目(2単位)、第2外国語(2単位)や学部専門科目群のLevel 100-200の入門科目※6(4単位)、質的・量的分析科目(4単位)等の履修をすることができます。

2 年次春学期

この期間に学部必修である海外留学を実施します。なお詳細は、「10. 必修海外留学について」を参照してください。

2 年次秋学期

必修科目として学部専門科目4単位【Academic Writing (4単位)】の履修が設定されています。3年次から学部専門科目のLevel300-400科目群を履修するため、この学期にLevel 100-200科目群が必要とされる16単位の取得が望ましいです。また Sophomore Seminars (各2単位) が提供されます。希望者を対象に、マレーシア短期研修の事前学習である International Fieldwork が提供されます。またこの学期に3年次春学期から所属するゼミの選考を行います。

3 年次春学期

必修科目として、学部専門科目のSeminar I (2単位) が設定されています。なお大学共通科目として1年次に第2外国語の履修をしていない場合や、4年次に卒業見込み証明書の入手が就活等の理由で必要な場合、3年次春学期からの履修が必要となります。この学期ではLevel 300-400科目群の履修を計画的に進めることが必要となります。

3 年次秋学期

必修科目として、学部専門科目の Seminar II（2 単位）が設定されています。この学期では Level 300-400 科目群の履修を計画的に進めることが必要となります。

4 年次春学期

卒業要件である Seminar III（2 単位）と Senior Paper（4 単位）の提出が必要となります。

4 年次秋学期

卒業要件である 124 単位以上の取得と、卒業に求められている全ての学部専門科目の単位取得が必要となります。

9. 必修海外留学について

(1) 留学先*

- ① オーストラリア：ブリスベン／グリフィス大学（プログラムレベル：ESL）
 - ② オーストラリア：ブリスベン／クイーンズランド工科大学
Diploma Unit プログラム・Degree Unit プログラム（プログラムレベル：Undergraduate）
 - ③ アメリカ合衆国：ロサンゼルス／南カリフォルニア大学（プログラムレベル：ESL）
 - ④ カナダ：ウィニペグ／ウィニペグ大学（プログラムレベル：ESL）
 - ⑤ ニュージーランド：オークランド／オークランド大学（プログラムレベル：ESL）
 - ⑥ マレーシア：クアラルンプール／マラヤ大学（プログラムレベル：Undergraduate）
- * 2024 年 4 月現在の予定。変更となる場合があります。

(2) 単位

1 年次修了後から 2 年次春学期の期間に行われる海外留学では、学部必修科目 Academic Foundations: Study Abroad（2 年次春学期配当・4 単位）、及び学部学科英語科目 English for Academic Purposes: Study Abroad I～III（2 年次春学期配当・各 4 単位：計 12 単位）として、合計 16 単位が認定（PF 評価）されます。

(3) 海外留学前の履修状況についての注意事項

海外留学前の 1 年次に配当されている基礎科目の「初年次セミナー（Freshman Seminar）」、「Freshman Seminar II」、「Academic Foundations I・II」、「English for Academic Purposes I・II」、「Cross Cultural Understanding」は必修科目なので、1 年次に履修してください。本科目の単位を取得できなかった場合には、海外留学帰国以降に再履修となります。

(4) 海外留学までの流れ

日本人学生・帰国学生への海外留学の流れは以下の通りです。各ガイダンスに必ず出席してください。
※社会情勢により、オリエンテーションを含め、留学のスケジュールが変更になることがあります。

- ① 4 月初旬：第 1 回海外留学オリエンテーション
海外留学出発までのスケジュール・留学費用の概要や、パスポート取得に関する説明をします。
- ② 5 月中旬～6 月中旬：第 2 回海外留学オリエンテーション
留学先大学の紹介、寮やホームステイ、留学先での授業の様子など、留学先選考について説明します。
- ③ 9 月上旬：留学先希望届を提出（派遣基準に英語スコアを求めている留学先は英語スコアも提出）
学生は希望する留学先を決定し、留学先希望届を提出します。クイーンズランド工科大学、マラヤ大学は、以下の派遣基準を超えた学生のみ申請できますので、希望者は必ず希望届の提出期限に英語スコアを提出できるよう英語試験を受験してください。なお、既に 1 年以内に自分で同テストを受けていれば、そのスコアをもって代えることができます。
- ④ 9 月中旬：留学先決定通知・第 3 回海外留学オリエンテーション
留学先の選考は、留学先の定員数、英語スコア、海外留学申請書等を総合的に考慮して決定します。決定の発表後、各大学先プログラムへの申込み、寮・ホームステイの申込み、ビザの手続き等詳細なガイダンスを行います。
- ⑤ 10 月～12 月：留学ビザに必要な書類の準備・提出・ビザの受領
- ⑥ 11 月下旬：第 4 回海外留学オリエンテーション
フライト情報、海外旅行保険、危機管理など、留学の出発・滞在について説明します。

⑦ 出発*

留学先により出発時期は異なりますので、オリエンテーションにて説明をします。

※ English Program の外国人留学生については、日本人の学生よりビザの取得に大幅な時間がかかると予想されます。そのため日本人学生とは別スケジュールを組み、上記の「④留学先決定通知」までの行程を春 semester 中に完了させ、ビザ取得に十分な時間を確保します。また、留学先国のビザを取得できなかったことにより生ずる、ビザ申請料、ビザ申請に必要な書類に関わる費用、フライトのキャンセル料は自己負担になります。

■派遣基準が設定されている大学*

大学		派遣基準
クイーンズランド 工科大学	Degree Unit	TOEFL-iBT79 以上 (サブセクション R16 W21 L16 S18 以上) または IELTS6.5 (サブセクション全て 6.0 以上) 成績条件: GPA2.5 以上
	Diploma Unit	TOEFL-iBT56 以上 (サブセクション R10 W15 L10 S14 以上) または IELTS5.5 (サブセクション全て 5.0 以上) 成績条件: GPA2.5 以上
マラヤ大学	Study Abroad Program	TOEFL-iBT61 以上 または IELTS 5.5 成績条件: GPA3.0 以上 面接あり

* 2024 年 4 月現在の予定。変更となる場合があります。詳細は入学後のオリエンテーションで必ず確認してください。

(5) 費用

国際教養学部の学生が創価大学に納める学費には、1 セメスター必修海外留学の往復航空券運賃、留学授業料、海外傷害保険料が含まれています。その他の費用 (ビザ代、寮費・ホームステイ費、現地大学健康保険費、食費、交通費等) はすべて自己負担となり、各学生の生活状況や為替の変動により、必要な費用が増えることがあります。詳細な費用はオリエンテーションで説明がありますので、必ずオリエンテーションに参加をしてください。

10. 日本語プログラムについて

本学部の外国人学生は、国際教養学部の正式なカリキュラムを履修しながら、日本語プログラムを通じて実践的な日本語運用能力を養成することができます。本プログラムは日本にあるグローバル企業での勤務の際に最低限必要となる日本語能力試験 N2 レベルの取得を目指す学生を対象としています。なお日本語プログラムを履修した学生は必修海外留学をせず、当該期間は、本学で日本語履修を行います。

(1) 履修要件

日本語プログラムへの履修登録を希望する外国人学生は入学時前 (3 月末) までに英語能力証明書 [TOEFL-iBT 80 (TOEFL-iBT MyBest Scores は使用不可) 又は IELTS 6.5 (全ての項目で 6.0 を満たしていること) 以上のスコア] が必須となります。

なお、既に N2 もしくはそれ以上の資格を有している学生にとって、本プログラムの履修は推奨しません。

(2) 提供科目

日本語・日本文化教育センターでは日本語プログラム履修生を対象に次のページに示す日本語科目を段階的に提供しています。

(3) 卒業に必要な単位数

日本語プログラムを履修した学生は、日本語を第 1 外国語、英語を第 2 外国語に設定しています。卒業要件としては次ページの日本語科目から合計 16 単位の取得が必要です。英語科目については、学生の TOEFL スコアによって変わります。詳細は 14. 専門科目の単位認定についてを確認してください。

■日本語・日本文化教育センターで提供されている日本語コース

学期	科目名	単位	週あたり コマ	学習時間	科目 レベル	日本語能力試験 レベル
1 年次春学期	E0) 日本語総合入門	10	5	112.5	E0	
1 年次秋学期	E1) 日本語総合 I	10	5	112.5	E1	
春季休業期間 (2 週間)	日本語演習入門・日本語演習 I	4	15	45		N4
2 年次春学期	E2) 日本語総合 II E2) 日本語読解 II E2) 日本語聴解 II E2) 日本語文法 II	16	8	180	E2	N3
2 年次秋学期	E3) 選択科目	4	2	45	E3	
3 年次春学期	E3/E4) 選択科目	4	2	45	E3/E4	
3 年次秋学期	E3/E4) 選択科目	4	2	45	E3/E4	N2

1 1. International Fieldwork I - II について

International Fieldwork は希望者を対象に、2 年次秋学期から春季休業期間に行う国際教養学部独自の短期海外研修です。研修先は民族、宗教など多様性を有しながら社会的安定と持続的経済発展を遂げてきた複合社会マレーシアです。研修参加者は 2 年次秋学期に「International Fieldwork I (2 単位/ABC 評価)」の履修が必須であり、当該地域に関する事前学習とグループ研究の準備を行います。修了者は「International Fieldwork II」としてマレーシア・クアラルンプールでの実地研修を行い、研修の要件を満たした者に 2 単位 (PF 評価) を認定します。

(1) 参加資格

以下の条件をすべて満たしていること。

- ① 心身ともに健康上、問題がないこと
- ② 研修のための十分な費用を用意できること
- ③ 保護者の承諾が得られていること

(2) 研修先及び期間*

研修先：マレーシア (クアラルンプール)：マラヤ大学、マレーシアイスラム国際大学

期 間：春季休業期間のうち 14 日間

* 2024 年 4 月現在の予定。変更となる場合があります。詳細はガイダンスで必ず確認してください。

(3) 単位

2 年次秋学期：International Fieldwork I (2 単位 ABC 評価)

春季休業期間中：International Fieldwork II (2 単位 PF 評価)

(4) 費用

International Fieldwork への参加費用は学費に含まれておらず、自己負担となります。海外渡航費や滞在費、研修費等を含めて、およそ 30 万円前後になる予定です。詳細はガイダンスにて説明します。

(5) 選抜方法

研修参加人数に運営上制限があるため、希望者が多い場合は選抜を行います。

履修希望者は、第 1 回目のガイダンスに必ず参加し、申請書を所定の期日までに提出する必要があります。申請書の内容、GPA、TOEFL-iBT / IELTS のスコアを基に選抜し、結果を掲示します。

1 2. Level 300-400 科目群の履修について

Level 300-400 科目群 (<歴史・社会・文化>、<政治・国際関係>、<経済・経営>の 3 分野) の履修には TOEFL-iBT 60 (TOEFL-iBT MyBest Scores は使用不可) 以上のスコアが必須となります。TOEFL-ITP のスコアは該当しません。また、卒業要件として <歴史・社会・文化>、<政治・国際関係>、<経済・経営>の各々の分野から最低 1 科目 4 単位の取得が必要となります。

1 3. 演習 (Seminar I～Ⅲ) の履修と卒業研究 (Senior Paper) の提出について

演習 (Seminar I～Ⅲ) と Senior Paper は、3 年次以降、1 人の担当教員のもとで専門性を深める重要な科目です。Seminar I - Ⅲ (各 2 単位) と Senior Paper (4 単位) は必修科目 (計 10 単位) として設置され、4 年次の春学期 7 セメスター修了時には Senior Paper (英文で 6,000 語程度の論文) の提出が必要となります。研究計画書の作成、第一次草稿の提出、完成原稿の作成、口頭試問に至るまで、担当教員の指導のもと、段階的かつ計画的に進めていきます。Seminar の履修時と、Seminar Ⅲでの Senior Paper 提出時に、以下の表に示した英語能力を提出する必要があります。

	提出が必要となる英語能力証明書	英語能力証明書の提出期限
Seminar I 履修時	TOEFL-iBT 70 以上 TOFEL-iBT <i>MyBest Scores</i> は使用不可。 IELTS と TOEFL-ITP のスコアは該当しません。	Seminar I 最初の講義日まで
Senior Paper 提出時	TOEFL-iBT 80 以上 TOFEL-iBT <i>MyBest Scores</i> は使用不可。 IELTS 6.5 以上 (全ての項目で 6.0 以上) TOFL-ITP 550 以上	Senior Paper 提出期限日まで

(1) 演習履修についての注意事項

演習の履修について、以下のことに注意してください。

- ① 演習は定員制で、申し込みと選考があり、所属が決定されます。
- ② 演習及び卒業研究は、原則として、同じ教員のもとで行います。

(2) 演習ガイダンスについて

9 月に、2 つのガイダンスがあります。両方のガイダンスに必ず参加してください。

① 全体ガイダンス

全体ガイダンスでは、各演習内容の紹介、定員数、選考スケジュール、各ゼミの個別ガイダンス及び選考日程、演習履修条件、Senior Paper 等、3 年次以降の学びの中心となる演習について詳細に説明しますので、必ず参加してください。

② 個別ガイダンスについて

ポータルサイトに、各ゼミの個別ガイダンスの日程が発表されます。学生のみなさんは、演習事前登録シラバス (ポータルサイト上に公開) を参考にし、日程に沿って希望するゼミの個別ガイダンスに参加してください。

(3) 選考スケジュール

9 月に行われる全体ガイダンスにて詳細を説明します。選考スケジュールは、以下の通りです。

- ① 8 月上旬：演習事前登録シラバス公開
- ② 9 月中旬：全体ガイダンス・個別ガイダンス及び選考日程公開
- ③ 9 月下旬～10 月初旬：個別ガイダンス
- ④ 10 月初旬：第 1 次登録
- ⑤ 10 月下旬：第 1 次選考 (※)

※第 1 次選考から漏れた学生は、11 月以降に第 2 次選考、続いて第 3 次選考を行い、最終的に 2 年次終了時まで演習の所属が決まります。詳細は、全体ガイダンス及び大学ホームページにて説明します。

1 4. 専門科目の単位認定について

国際教養学科では、本人の申請により、下記の通り専門科目の単位を認定します。単位認定を希望する学生は、所定の申請書 (Web 上にて発行) と成績証明書原本 (教務課で写しを取った後に本人に返却) を、指定された受付期間内に教務課に提出してください。なお、この単位認定は、国際教養学科生のみ申請を行うことができます。

■認定の対象となる資格・成績

資格・成績	申請受付時期	認定単位	認定科目
入学時に TOEFL-iBT 80 又は IELTS 6.5 (全ての項目で6.0を満たしていること) 以上 TOEFL-iBT <i>MyBest Scores</i> は使用不可。	入学した最初のセメスターの履修登録期間のみ	4 単位	Academic Foundations: Study Abroad
入学時に TOEFL-iBT 90 又は IELTS 7.0 (全ての項目で6.5を満たしていること) 以上 TOEFL-iBT <i>MyBest Scores</i> は使用不可。		1 2 単位	Academic Foundations I Academic Foundations II English for Academic Purpose II Academic Foundations: Study Abroad
1 年次秋学期開始の時点で TOEFL-iBT 90 又は IELTS 7.0 (全ての項目で6.5を満たしていること) 以上 TOEFL-iBT <i>MyBest Scores</i> は使用不可。	1 年次秋学期の履修登録期間のみ	1 0 単位	Academic Foundations II English for Academic Purpose II Academic Foundations: Study Abroad

1 5. 留学先で取得した単位の認定について

留学により外国の大学で、国際教養学部のカリキュラムに対応した科目を履修し、単位を取得してきた場合、学生の申告に基づき、国際教養学部教授会で審議され、国際教養学部専門科目として単位を認定することができます。

その際、教務課が指定した大学共通の海外留学単位認定願（専門科目）、講義内容説明文の提出とともに、留学先の大学から発行された成績証明書（原本）と講義内容を詳細に示したシラバスも添付資料として提出する必要があります。教務課に上記書類を提出する前に、国際教養学部副学部長（教務担当）に申請科目のシラバスを提出し、申請が可能か確認をしてください。併せて履修要項 P34・35 の海外留学による単位認定についても確認してください。

■専門科目表の見方（国際教養学科専門科目）

次のページから掲載されている国際教養学科専門科目表では、以下の事項が掲載されています。

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目						
							1	2	3	4	5	6	7
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
①科目ナンバリング	授業科目を区分するための記号と番号。アルファベットは科目の特性、数字はレベルを表します。詳しくは「第三章 7. 科目ナンバリング」(P.19)を参照してください。												
②科目名	時間割表などに掲載される科目名称です。												
③授業時間	その科目を修得するために必要な授業時間数を示しています。単位は「時間」です。なお、本学の授業は1時間を45分として開講しています。授業時間が30時間の科目は週1回、60時間の科目は週2回開講されています。												
④単位	その科目を合格することで修得できる単位数です												
⑤履修年次	その科目を何学年次から履修することができるかを表します。												
⑥他学科履修	国際教養学科生以外の学生の履修の可否を表します。この欄に「×」が付されている科目は、国際教養学科生以外には履修できません。												
⑦備考	その科目を履修する際の注意事項や条件、制限事項などが記載されています。												
⑧ラーニング・アウトカムズ該当項目（※）	その科目がディプロマ・ポリシーで示されたどの学修成果項目に該当するかを表します。◎は最も該当、○は該当することを意味します。各番号は以下の学修成果項目を表します。 1. 人文・社会科学の分野での必要な学術知識を得る 2. 量的・質的研究法を身につけ、研究に活用できる 3. 人文・社会科学にわたる知識を基盤として、教員の指導下で研究を行うことができる 4. 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力を身につける 5. 文献講読、論述、討論、プレゼンテーションを通じて、批判的思考を身につける 6. 多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力を身につける 7. 課題を発見し、解決にむけて取り組むことができる												

※ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で示されている4項目と上記のラーニングアウトカムズとの関係性は以下の通りです。

ラーニング・アウトカムズ (LOs)	該当するディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
1. 人文・社会科学の分野での必要な学術知識を得る	(1) 人文・社会科学にわたる基礎的な学術知識を修得し、教員の指導下で研究を行う力
2. 量的・質的研究法を身につけ、研究に活用できる	(1) 人文・社会科学にわたる基礎的な学術知識を修得し、教員の指導下で研究を行う力 (4) 課題を発見し、解決にむけて取り組む力
3. 人文・社会科学にわたる知識を基盤として、教員の指導下で研究を行うことができる。	(1) 人文・社会科学にわたる基礎的な学術知識を修得し、教員の指導下で研究を行う力
4. 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力を身につける	(2) 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力
5. 文献講読、論述、討論、プレゼンテーションを通じて、批判的思考を身につける	(2) 学術的な論述、討論、プレゼンテーションができる高度な英語運用力 (4) 課題を発見し、解決にむけて取り組む力
6. 多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力を身につける	(3) 多様な文化的背景を持つ人々と協働できる異文化理解力
7. 課題を発見し、解決にむけて取り組むことができる	(4) 課題を発見し、解決にむけて取り組む力

■国際教養学部 国際教養学科 専門科目表 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	授業 時間	単位	履修 年次	他学科 履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目						
							1	2	3	4	5	6	7
必修科目 (計34単位)													
INLA101	Academic Foundations I	30	2	1~	x	注1				○	○		
INLA102	Academic Foundations II	60	4	1~	x	注1				○	○		
INLA201	Academic Foundations: Study Abroad	60	4	2~	x	注1				○	○		
INLA150	Cross-cultural Understanding	60	4	1~	x					○		◎	
INLA190	Freshman Seminar II	30	2	1~	x		◎			○	○		
INLA120	Foundations of Data Science	60	4	1~		連携(済・営)		◎		○	○		
INLA202	Academic Writing	60	4	2~	x					◎	○		
INLA390	Seminar I	30	2	3~			◎			○	○		
INLA391	Seminar II	30	2	3~			◎			○	◎		
INLA490	Seminar III	30	2	4~	x		◎			○	◎		
INLA491	Senior Paper	-	4	4~	x		◎			◎	○		
選択必修科目(計44単位以上)													
Quantitative & Qualitative Analysis 科目 4単位以上													
INLA220	Programming	60	4	1~		連携(営)		◎				○	
INLA221	Calculus	60	4	1~		連携(済) 隔年開講		◎		○			
INLA222	Linear Algebra	60	4	1~		隔年開講		◎		○			
INLA223	Qualitative Research Methods	60	4	2~				◎			○	○	
Level 100-200科目 16 単位以上(歴史・社会・文化・政治・国際関係、経済・経営の下科目群から 1 科目 4 単位以上修得すること)													
INLA260	歴史・社会・文化 (4単位)	Principles of Philosophy	60	4	1~		連携(人)	◎			○	○	
INLA261		Principles of History	60	4	1~		連携(人)	◎			○	◎	
INLA262	政治・国際関係 (4単位)	Principles of Sociology	60	4	1~		連携(法・人)	◎			◎	○	
INLA270		Principles of Politics and Globalization	60	4	1~		連携(法・人)	◎			◎	○	
INLA271	経済・経営 (4単位)	Principles of International Relations	60	4	1~		連携(法・人)	◎	◎		◎	○	
INLA280		Principles of Accounting and Financial Analysis	60	4	1~			◎	◎	○			○
INLA281	経済・経営 (4単位)	Principles of Economics	60	4	1~		連携(法,営)	◎				○	○
INLA282		Principles of Business	60	4	1~		連携(営)	◎				○	○
INLA250	International Fieldwork I	30	2	2~	x		◎	◎			◎		
INLA251	International Fieldwork II	30	2	2~	x	(制限外)	◎	◎			◎		
Level 200科目 4 単位以上													
INLA290	Sophomore Seminar: Data Science I	30	2	2~				◎		○	○		
INLA291	Sophomore Seminar: Data Science II	30	2	2~				◎		○	○		
INLA292	Sophomore Seminar: Data Science III	30	2	2~				◎		○	○		
INLA293	Sophomore Seminar: Data Science IV	30	2	2~				◎		○	○		
INLA294	Sophomore Seminar: Data Science V	30	2	2~				◎		○	○		
INLA295	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences I	30	2	2~			◎			○			
INLA296	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences II	30	2	2~				◎		○	◎		
INLA297	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences III	30	2	2~			◎			○	○		
INLA298	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences IV	30	2	2~				◎		◎	○		
Level 300-400科目 20 単位以上(歴史・社会・文化・政治・国際関係、経済・経営の下科目群から 1 科目 4 単位以上修得すること)													
INLA360	歴史・社会・文化 (4単位)	History of Modernization and Empire	60	4	2~			◎		○	◎		
INLA361		Global Social Policy	60	4	2~		連携(法)		◎		◎	○	
INLA362		Modern Political Thought	60	4	2~		連携(法)	◎			○	○	
INLA363		Globalization and Society	60	4	2~		連携(人)	◎			◎	○	
INLA460		Monarchy and Democracy in Modern History	60	4	2~			◎			○	○	
INLA461		Education and International Development	60	4	2~					○	◎	○	
INLA462	Global Ethics	60	4	2~		連携(法・人)	◎			○	○		
INLA463	Sociology of Media and Communication	60	4	2~						◎	○		
INLA370	政治・国際関係 (4単位)	Contemporary Political Theory	60	4	2~		連携(法)	◎			○		
INLA371		Great Power Politics in the World	60	4	2~		連携(法)	◎		○			
INLA372		International Political Economy	60	4	2~		連携(法)	◎			◎	○	
INLA373		International Institutions and Global Governance	60	4	2~		連携(法)	◎				○	
INLA470		Citizenship and Democracy in a Global Age	60	4	2~		連携(法)	◎			○		
INLA471		International Relations in Asia	60	4	2~		連携(法)				○	○	
INLA472		International Bargaining	60	4	2~			◎			○	○	
INLA473		Comparative Politics	60	4	2~		連携(法・人)	◎	◎		○		
INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	60	4	2~		連携(法・人)			○		○	◎	

※備考の注1 入学時、又は秋学期の授業開始時点でTOEFL-iBT又はIELTSの一定スコア以上を取得している場合、申請により該当する科目の単位認定を行います。
 詳しくはP.173~174の「専門科目の単位認定について」を参照してください。
 ※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。
 ※備考の[制限外]は履修制限単位数には含まれない科目であることを表します。
 ※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、国際教養学部生以外は履修出来ません。
 ※他学科履修欄に「x」が付いていない科目は、Level 300-400科目についてはTOEFL-iBT60以上、Seminar IとIIについてはTOEFL-iBT 70点以上の取得が必要です。
 それ以外の「x」が付いていない科目は、特定の英語能力は要求しません。

科目ナンバリング	科目名	授業時間	単位	履修年次	他学科履修	備考	ラーニング・アウトカムズ 該当項目						
							1	2	3	4	5	6	7
Level 300-400 科目 20単位以上(つづき)													
ECON313	Intermediate Microeconomics	60	4	2~		連携(済)	◎	○					
INLA381	Development Economics	60	4	2~		連携(済・法)	○			◎	○		
INLA382	Predictive Analytics with Machine Learning	60	4	2~							◎		
INLA383	Marketing	60	4	2~		連携(法)		○				◎	
ECON314	Intermediate Macroeconomics	60	4	2~		連携(済)	◎	○					
INLA481	International Trade	60	4	2~		連携(済)	◎	○				○	
INLA482	Prescriptive Analytics for Operations Management	60	4	2~			◎			○		○	
INLA483	International Business	60	4	2~		連携(法・営)		○			◎	○	
INLA330	Special Seminar A	60	4	2~									
INLA331	Special Seminar B	60	4	2~									
INLA332	Special Seminar C	60	4	2~									
INLA333	Special Seminar D	60	4	2~									
INLA334	Special Seminar E	60	4	2~									
INLA335	Special Seminar F	60	4	2~									
INLA430	Special Lecture I	30	2	2~									
INLA431	Special Lecture II	30	2	2~									
INLA432	Special Lecture III	30	2	2~									
INLA433	Special Lecture IV	30	2	2~									
INLA434	Special Lecture V	30	2	2~									
INLA435	Special Lecture VI	30	2	2~									
INLA436	Special Lecture VII	30	2	2~									
INLA437	Special Lecture VIII	30	2	2~									
INLA438	Special Lecture IX	30	2	2~									
INLA439	Special Lecture X	30	2	2~									
INLA440	Special Lecture XI	30	2	2~									
INLA441	Special Lecture XII	30	2	2~									
INLA442	Special Lecture XIII	30	2	2~									
INLA443	Special Lecture XIV	30	2	2~									
学部英語科目 16単位 ※日本語プログラムの学生は共通科目の日本語・日本文化科目で16単位以上履修すること(共通科目表参照) ■日本語プログラムの学生はEnglish for Academic Purposes I・IIの修得で第2外国語4単位に算入されます。													
INLA110	English for Academic Purposes I	60	2	1~	x					◎	○		
INLA111	English for Academic Purposes II	60	2	1~	x	注1				◎	○		
INLA112	English for Academic Purposes: Study Abroad I	120	4	2~	x					◎	○		
INLA113	English for Academic Purposes: Study Abroad II	120	4	2~	x					◎	○		
INLA114	English for Academic Purposes: Study Abroad III	120	4	2~	x					◎	○		

※備考の注1 入学時、又は秋学期の授業開始時点でTOEFL-iBT又はIELTSの一定スコア以上を取得している場合、申請により該当する科目の単位認定を行います。
 詳しくはP.173~174の「専門科目の単位認定について」を参照してください。
 ※備考の「連携～」は他学科と連携して開講されることを表します。()内は連携先学科を表します。
 ※他学科履修欄に「x」が付いている科目は、国際教養学部生以外は履修出来ません。
 ※他学科履修欄に「x」が付いていない科目は、Level 300-400科目についてはTOEFL-iBT60以上、Seminar IとIIについてはTOEFL-iBT 70点以上の取得が必要です。
 それ以外の「x」が付いていない科目は、特定の英語能力は要求しません。

第Ⅳ章 副専攻制度

1. 副専攻制度について

副専攻制度は、「幅広い学び」を保証するため、所属学部以外の分野（学部）から一層体系的かつ深く専門領域を学習できるようにした制度です。例えば、法学部の学生は法学部が設置する専門科目を学ぶかわら、経済学部が副専攻科目として設置する専門科目を学び、その上で認定要件（単位数・通算 GPA）を満たしていれば、「主専攻：法学」「副専攻：経済学」として成績証明書及び卒業証明書に記載されます。

(1) 副専攻の開設数

副専攻は学部ごと（文学部はメジャーごと）に開設されており、自分が所属している学部（文学部生は登録したメジャー）以外の学問領域を副専攻として最大3つまで選択することができます。副専攻として履修すべき科目は P.180～193 の副専攻科目表を参照してください。

所 属		申 請 可 能 な 副 専 攻																			
学部	学科	経済学	法学	経営学	教育学	理工学	Philosophy・Anthropology・Peace Studies: SoKa AKADENIA	英語文化	国際日本学	中国・アジア文化	ロシア・ヨーロッパ文化	哲学・思想文化	歴史・社会文化	言語文化	表現文化	社会学・人類学	多文化共生・平和創造	English Medium Program (注)	データサイエンス	SDGs	
経済	経済	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
法	法律	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
文	人間	○	○	○	○	○	選択したメジャー以外の領域のみ選択可												○	○	○
経営	経営	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
教育	教育	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	児童教育	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
理工	情報システム工	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	共生創造理工	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
看護	看護	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国際教養	国際教養	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	

注：各学部の EMP コース所属学生、及び国際教養学部生は English Medium Program を副専攻として申請することはできません

(2) 副専攻の申請について

副専攻は2年次（第3セメスター）以降、履修登録期間に、履修・成績（WEB）内の「副専攻登録」から申請を行うことができます。申請する際は、申請時点で「通算 GPA が 2.70 以上」であることが必要です。

なお、申請を行わない場合は、副専攻の認定要件を満たしていたとしても副専攻を修了したとはみなされません。副専攻を希望する場合は、必ず副専攻の申請を行ってください。

(3) 副専攻として履修する科目の履修登録方法について

副専攻として開講される科目を履修する際は、通常の履修登録と同様に登録を行います。副専攻科目も履修上限単位数に含まれます。履修登録の際は、副専攻科目表や web 時間割を良く確認してください。

(4) 副専攻の認定要件

申請した副専攻を修了するためには、

- ① 申請した副専攻の科目を各副専攻が指定する方法で 24 単位以上修得

② 卒業時に通算 GPA が 2.70 以上
であることが必要です。

2. English Medium Program (EMP) について

English Medium Program (EMP) とは、全ての授業を英語で実施するプログラムの総称です。本来は、経済学科の SUCCEED や経営学科の GPET のように卒業に必要な 124 単位をすべて英語による授業で修得するプログラムを指しますが、これを全学生向けに幅広く英語で専門科目を学習できるようにしたものが副専攻としての English Medium Program です。

英語学修に取り組み、力を伸ばしたい学生には EMP 科目の履修を推奨します。EMP 科目から 24 単位以上を修得し、かつ卒業時の通算 GPA が 2.70 以上であれば EMP を修了したとして成績証明書及び卒業証明書に EMP を修了した旨が記載されます。

申請方法については、他の副専攻と同様です。ただし、EMP 科目の中には、履修条件として TOEFL-iBT スコアなどの条件が課されている場合がありますので、履修登録の際は、シラバスや web 時間割をよく確認してください。

※各学部の EMP コース所属の学生、及び国際教養学部生はこのプログラムに申請することはできません

3. データサイエンス について

データサイエンス学修プログラムとは、超スマート社会 (AI×IoT 社会) の到来が予想される時代にあって、これらの基礎知識となるデータサイエンスについて集中的に学修することを目的としたプログラムです。

副専攻：データサイエンスの科目として指定された科目から 24 単位以上を修得し、かつ卒業時の通算 GPA が 2.70 以上であれば当該プログラムを修了したとして成績証明書及び卒業証明書に副専攻：データサイエンスを修了した旨が記載されます。

申請方法については他の副専攻と同様です。ただし、所属する学部により修得すべき科目が異なります。詳しくは P.192 の副専攻：データサイエンスの科目表を確認してください。

4. SDGs (Sustainable Development Goals ; 持続可能な開発目標) について

SDGs 副専攻は、価値創造を実践する「世界市民」の育成を目指し、人類共通の目標というべき SDGs の基礎知識や考え方について、体系的かつ多角的に学ぶことができるようにすることを目的としています。

SDGs との結びつきが強い指定科目 (共通科目と専門科目) の中から所定の 24 単位を取得した際には、副専攻として認定し、成績証明書及び卒業証明書に「副専攻：SDGs」として記載されます。

なお、SDGs 副専攻の指定科目については、① SDGs との結びつき、② 17 項目のバランス、③ 授業レベルや履修前提条件等の副専攻として適切性、の観点から総合的に考慮し、各学部の専門科目を原則、16 単位を上限として選定しています (EMP 科目は例外としています)。

17 の目標 (GOAL)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさも守ろう |
| 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナースhipで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | |



■副専攻科目表

経済学（2024年度入学生用）

■日本語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位
必修科目 4科目 16単位		
ECON111	ミクロ経済学	4
ECON112	マクロ経済学	4
ECON151	経済と歴史	4
ECON122	基礎統計学	4
選択必修科目 4単位以上		
ECON121	経済数学入門A	4
ECON221	経済数学入門B	4
選択科目 4単位以上		
ECON311	ミクロ経済学中級	4
ECON312	マクロ経済学中級	4
ECON321	経済数学	4
ECON322	データサイエンス	2
ECON323	データサイエンス活用演習	2
ECON331	金融論	4
ECON332	財政学	4
ECON351	日本経済史	4
ECON361	開発と貧困の経済学	4

■英語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位
必修科目 3科目 12単位		
ECON152	Economic History	4
ECON113	Principles of Microeconomics	4
ECON114	Principles of Macroeconomics	4
選択必修科目 4単位以上		
ECON313	Intermediate Microeconomics	4
ECON314	Intermediate Macroeconomics	4
ECON334	Principles of Finance	4
選択科目 8単位以上		
INLA221	Calculus	4
INLA120	Foundations of Data Science	4
ECON276	World Economy I	2
ECON277	World Economy II	2
ECON325	Mathematics for Economics	4
ECON336	Econometrics	4
ECON356	Economic Development of Japan I	2
ECON358	Political Economy of Japan and Asia	2
ECON372	Development and Environment	4
ECON376	Contemporary Economy and Business I	2
ECON377	Contemporary Economy and Business II	2
ECON378	Contemporary Economy and Business III	2
ECON379	Contemporary Economy and Business IV	2
ECON383	World Economy III	2
ECON384	World Economy IV	2
ECON385	World Economy V	2
ECON386	World Economy VI	2

※経済学を副専攻として選択する場合は、日本語、英語のどちらかで24単位以上を修得すること。

※選択必修科目を基準の単位数を超えて修得した場合は、選択科目の単位として算入されます。

法学（2024年度入学生用）

■日本語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択科目 24単位		
LAWP103	憲法総論・統治機構論	4
LAWP104	民法総則	4
LAWP107	憲法人権論	4
LAWP106	刑法総論	4
LAWP203	刑法各論	4
LAWP204	物権法	4
LAWP205	債権総論	4
LAWP206	行政法総論	4
LAWP214	労働法	4
LAWP223	国際法総論	4
LAWP303	債権各論	4
LAWP304	親族・相続法	4
LAWP309	会社法概論	2
LAWP315	社会保障法	4
LAWP316	知的財産法	4
LAWP317	租税法	4
LAWP318	消費者法	2
LAWP323	環境法	4

■英語コース

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択科目 24単位		
LAWP102	Introduction to Legal Studies	2
LAWP231	Global Issues	2
LAWP232	Peace Studies	2
LAWP233	Asian Studies in International Law Perspectives	2
LAWP234	International Relations	2
LAWP235	International Environmental Policy	2
LAWP236	Border Politics	2
LAWP237	Security Studies	2
LAWP238	Japanese Domestic Politics	2
LAWP239	American Politics	2
LAWP341	Global Public Policy	2
LAWP342	International Human Rights	4
LAWP351	Environmental Law	2

※法学を副専攻として選択する場合は、日本語、英語のどちらかで24単位以上を修得すること。

経営学（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択科目 24単位		
BUSI101	経営学原理	4
BUSI102	簿記原理	4
BUSI344	流通論	2
BUSI114	経営管理論	4
BUSI340	経営組織論	4
BUSI216	人的資源管理論	4
BUSI214	会計学	4
BUSI217	財務管理論	4
BUSI354	証券市場論	4
BUSI347	経営史	4
BUSI440	マネジメント・サイエンス	4
BUSI218	経営戦略論	4
BUSI341	企業論	4
BUSI443	多国籍企業論	4
BUSI343	生産管理論	4

教育学（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	科目名	単位
選択必修科目A群 2科目4単位		
GG1101	教育学入門	2
GG0901	心理学入門	2
EDUC100	教育原論	4
選択必修科目B群 2科目4単位		
PRED250	国語科教育	2
PRED251	社会科教育	2
PRED252	算数科教育	2
PRED253	理科教育	2
選択科目 16単位		
EDUC102	教育史A	2
EDUC103	教育史B	2
EDUC150	生涯学習概論	2
PRED180	特別支援教育概論	2
EDUC200	学校研究：教育	2
EDUC208	比較・国際教育学	2
EDUC249	環境教育論	2
EDUC206	人間教育の潮流	2
EDUC301	平和と教育	2
EDUC302	多文化社会と教育	2
EDUC303	教育と人生	2
PRED122	幼児と健康	1
PRED123	幼児と人間関係	1

※選択必修科目A，B群で2科目4単位以上を超えて修得した単位は、
選択科目の単位として集計されます

理工学（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位
選択科目 24単位		
INFO151	情報システム総論	2
INFO152	情報社会論	2
INFO213	論理と集合	2
INFO133	電子工学概論	2
INFO357	コンピュータネットワーク論	2
INFO253	データ構造	2
INFO354	計算機アーキテクチャ	2
INFO355	オペレーティングシステム	2
INFO356	ソフトウェア工学	2
INFO458	データベース論	2
SCEN121	物理学A（基礎力学）	2
SCEN122	物理学B（基礎電磁気学）	2
SESI141	化学A	2
SESI142	化学B	2
SESI161	生物学A	2
SESI162	生物学B	2
SESI336	光エレクトロニクス	2
SESI331	物性物理概論	2
SESI244	物理化学	2
SESI241	有機化学	2
SESI243	分析化学	2
SESI341	無機化学	2
SESI261	微生物学	2
SESI263	分子生物学	2
SESI264	生化学	2
SESI268	細胞生物学	2
SESI215	データサイエンス演習Ⅰ（共生基礎）	2
SESI265	生態学	2
SESI392	環境科学	2
SESI381	地球化学	2

Philosophy · Anthropology · Peace Studies: Soka AKADEMIA (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から4単位					
HUM140	Introduction to Soka Akademia	4			
ベーシック科目から8単位					
HUML240	Developing English for Academic Purposes I	2	HUMC257	Introduction to Peace Studies II	4
HUML241	Developing English for Academic Purposes II	2	HUML340	Academic Writing B	2
HUMC252	Philosophy I: Core Issues in Metaphysics, Epistemology and Ethics	2	INLA261	Principles of History	4
HUMC253	Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism	2	INLA260	Principles of Philosophy	4
HUMC254	Anthropological Approached to Contemporary Japan	2	INLA262	Principles of Sociology	4
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	2	INLA270	Principles of Politics and Globalization	4
HUMC256	Introduction to Peace Studies I	2	INLA271	Principles of International Relations	4
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC443	Value Creating Education for Global Citizenship A	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC444	Value Creating Education for Global Citizenship B	2
HUML345	Translation Practice as Transcultural Communication	2	HUMP440	Seminar in Humanities A	2
HUMC326	ディベート日本学	2	HUMP441	Seminar in Humanities B	2
HUMC400	哲学・思想特講A	2	HUMP442	Seminar in Humanities C	2
HUMC401	哲学・思想特講B	2	HUMP443	Seminar in Humanities D	2
HUMC442	Metaethics	4	INLA363	Globalization and Society	4
HUMS440	Peace Studies Workshop	4	INLA462	Global Ethics	4
HUMS441	Anthropology of Religion and Morality	4	INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	4
HUMI440	Advanced Joint Seminar for AKADEMIA	2	INLA473	Comparative Politics	4

英語文化 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUML100	言語文化入門	2	HUMC140	英語文化への招待	2
ベーシック科目から10単位					
HUML240	Developing English for Academic Purposes I	2	HUML141	英語学概論 I	2
HUML241	Developing English for Academic Purposes II	2	HUML142	英語学概論 II	2
HUMC104	文芸批評 I: 詩の分析と作詞法	2	HUML143	日英比較概説	2
HUMC105	文芸批評 II: 小説・映画の分析法	2	HUML144	Oral Communication in English I	1
HUMC141	比較文化 I	2	HUML145	Oral Communication in English II	1
HUMC142	比較文化 II	2	HUML146	英語で日本紹介 I	2
HUMC201	歴史と地域社会	2	HUML147	英語で日本紹介 II	2
HUMC240	Literature I	2	HUML148	English for Humanities A I	2
HUMC241	Literature II	2	HUML149	English for Humanities A II	2
HUMC242	英米文学概論 I	2	HUML200	第二言語習得論入門	2
HUMC243	英米文学概論 II	2	HUML202	対照言語学 I	2
HUMC244	英米文学講義 I	2	HUML203	対照言語学 II	2
HUMC245	英米文学講義 II	2	HUML204	言語類型論	2
HUMC246	イギリス古典文学史	2	HUML205	心理統計とデータ分析	2
HUMC247	イギリス近代文学史	2	HUML207	認知心理学	2
HUMC248	アメリカ文学史	2	HUML242	English for Humanities B I	2
HUMC249	演劇入門	2	HUML243	English for Humanities B II	2
HUMC250	Cultural Representation I	2	HUML244	現代英文法	2
HUMC251	Cultural Representation II	2	HUML245	英語音声学	2
HUMC252	Philosophy I: Core Issues in Metaphysics, Epistemology and Ethics	4	HUML246	日英翻訳演習	2
HUMC253	Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism	4	HUML247	英語通訳演習 A	2
HUMC254	Anthropological Approached to Contemporary Japan	4	HUML248	Academic Writing A	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4	HUML249	英語科教育法 I	2
HUMC256	Introduction to Peace Studies I	4	HUML250	英語科教育法 II	2
HUMC257	Introduction to Peace Studies II	4	HUML340	Academic Writing B	2
HUMC280	ヨーロッパ文学	2	HUMS102	文化人類学	2
HUMC282	西洋史概説	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUMI200	多文化共生論	2	INLA261	Principles of History	4
HUML101	言語学概論 I	2	INLA260	Principles of Philosophy	4
HUML102	言語学概論 II	2	INLA262	Principles of Sociology	4
HUML103	音声学概論	2	INLA270	Principles of Politics and Globalization	4
HUML140	英語翻訳入門	2	INLA271	Principles of International Relations	4
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC385	人間学外書講読 II b (フランス語)	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC386	人間学外書講読 I a (ドイツ語)	2
HUMC340	中・古期英語史と文化	2	HUMC387	人間学外書講読 I b (ドイツ語)	2
HUMC341	近代英語史と文化	2	HUMC388	人間学外書講読 II a (ドイツ語)	2
HUML341	英語通訳演習 B	2	HUMC389	人間学外書講読 II b (ドイツ語)	2
HUML342	英語翻訳論	2	HUMC390	人間学外書講読 I a (西洋古典語)	2
HUML343	英語特講 A	2	HUMC391	人間学外書講読 I b (西洋古典語)	2
HUML344	英語特講 B	2	HUMC392	人間学外書講読 II a (西洋古典語)	2
HUML345	Translation Practice as Transcultural Communication	2	HUMC393	人間学外書講読 II b (西洋古典語)	2
HUMI300	社会言語学	2	HUMC361	人間学外書講読 I a (オーストラリア語)	2
HUML346	認知言語学	2	HUMC362	人間学外書講読 I b (オーストラリア語)	2
HUML347	日英比較研究	2	HUMC363	人間学外書講読 II a (オーストラリア語)	2
HUML400	第二言語習得論	2	HUMC364	人間学外書講読 II b (オーストラリア語)	2
HUML440	英語科教育法 III	2	HUMC442	Metaethics	4
HUML441	英語科教育法 IV	2	HUMS440	Peace Studies Workshop	4
HUMC440	英米児童文学研究	2	HUMS441	Anthropology of Religion and Morality	4
HUMC441	演劇論	2	HUMI440	Advanced Joint Seminar for AKADEMIA	2
HUML348	Text Studies	2	HUMC443	Value Creating Education for Global Citizenship A	2
HUMS302	教育の社会学	2	HUMC444	Value Creating Education for Global Citizenship B	2
HUMC301	言語哲学	2	HUMP440	Seminar in Humanities A	2
HUMC482	キリスト教文化史	2	HUMP441	Seminar in Humanities B	2
HUMC342	人間学外書講読 I a (英語)	2	HUMP442	Seminar in Humanities C	2
HUMC343	人間学外書講読 I b (英語)	2	HUMP443	Seminar in Humanities D	2
HUMC344	人間学外書講読 II a (英語)	2	INLA363	Globalization and Society	4
HUMC345	人間学外書講読 II b (英語)	2	INLA462	Global Ethics	4
HUMC382	人間学外書講読 I a (フランス語)	2	INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	4
HUMC383	人間学外書講読 I b (フランス語)	2	INLA473	Comparative Politics	4
HUMC384	人間学外書講読 II a (フランス語)	2			

国際日本語 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC120	国際日本語への招待	2	HUML100	言語文化入門	2
ベーシック科目から10単位					
HUMC106	歴史学概論	2	HUMC261	東洋史概説	2
HUMC107	考古学概論	2	HUML101	言語学概論Ⅰ	2
HUMC108	仏教思想概論	2	HUML102	言語学概論Ⅱ	2
HUMC182	西洋哲学史Ⅰ	2	HUML120	社会で通用する日本語	2
HUMC121	日本古典文学概論	2	HUML121	日本語学概論Ⅰ	2
HUMC122	日本近代文学概論	2	HUML122	日本語学概論Ⅱ	2
HUMC123	書道Ⅰ	2	HUML143	日英語比較概説	2
HUMC141	比較文化Ⅰ	2	HUML146	英語で日本紹介Ⅰ	2
HUMC142	比較文化Ⅱ	2	HUML147	英語で日本紹介Ⅱ	2
HUMC124	比較文化史概論	2	HUML201	言語コミュニケーション論	2
HUMC203	哲学概論	2	HUML202	対照言語学Ⅰ	2
HUMC204	倫理学概論	2	HUML203	対照言語学Ⅱ	2
HUMC220	日本古代・中世史概説	2	HUML220	日本語音声学	2
HUMC221	日本近世・近現代史概説	2	HUML246	日英翻訳演習	2
HUMC222	日本思想史Ⅰ	2	HUML247	英語通訳演習A	2
HUMC223	日本古典文学講読	2	HUMS102	文化人類学	2
HUMC224	日本近代文学講読	2	HUMS103	社会学概論：人間	2
HUMC225	日本文学史	2	HUMS108	国際関係論	2
HUMC226	書道Ⅱ	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUMC254	Anthropological Approach to Contemporary Japan	4	HUMS208	マンガの社会学	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4			
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC324	漢文学特講Ⅰ	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC325	漢文学特講Ⅱ	2
HUML341	英語通訳演習B	2	HUMS400	歴史の社会学	2
HUML300	社会言語学	2	HUMS402	マンガ・児童文化探究	2
HUML320	現代日本語文法A	2	HUMC326	ディベート日本語	2
HUML321	現代日本語文法B	2	HUMC327	サブカルチャー論	2
HUML326	日本語の表現	2	HUMS407	国際社会論	2
HUML347	日英語比較研究	2	HUMC360	東洋思想史	2
HUML329	日本語の語彙・表記	2	HUMC328	日本思想史Ⅱ	2
HUML421	多言語社会と言語政策	2	HUMC423	民俗学	2
HUML424	日本語学特講A	2	HUMC424	古文書学	2
HUML425	日本語学特講B	2	HUMC425	パブリック・ヒストリー	2
HUMC320	日本古典文学作家作品論A	2	EDUC102	教育史A	2
HUMC321	日本古典文学作家作品論B	2	LAWP348	法社会学(日本法史)	2
HUMC322	日本近代文学作家作品論A	2	LAWP336	日本政治外交史	2
HUMC323	日本近代文学作家作品論B	2	LAWP350	日本政治思想史	2
HUMC420	日本文学特講A	2	LAWP325	地域コミュニティ論	2
HUMC421	日本文学特講B	2	ECON351	日本経済史	4
HUMC422	日本文学特講C	2			

中国・アジア文化 (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC160	中国・アジア文化入門	2	HUML100	言語文化入門	2
HUMI100	多文化共生と平和創造	2			
ベーシック科目から10単位					
HUMC107	考古学概論	2	HUML167	中国語読初級Ⅱ	2
HUMC108	仏教思想概論	2	HUML260	中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ	2
HUMC123	書道Ⅰ	2	HUML261	中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ	2
HUMC161	中国社会学文化概論	2	HUML262	中国語文法初級Ⅰ	2
HUMC200	歴史と人間	2	HUML263	中国語文法初級Ⅱ	2
HUMC226	書道Ⅱ	2	HUML264	中国語読初級Ⅰ	2
HUMC260	中国文学	2	HUML265	中国語読初級Ⅱ	2
HUMC261	東洋史概説	2	HUML266	中国語総合初級Ⅰ	2
HUMC262	中国近現代の歴史と思想	2	HUML267	中国語総合初級Ⅱ	2
HUMC263	東アジアの文化交流	2	HUML268	中国語作文初級Ⅰ	2
HUMI200	多文化共生論	2	HUML269	中国語作文初級Ⅱ	2
HUML160	中国語学入門Ⅰ	2	HUMS102	文化人類学	2
HUML161	中国語学入門Ⅱ	2	HUMS103	社会学概論：人間	2
HUML162	中国語学概論Ⅰ	2	HUMS108	国際関係論	2
HUML163	中国語学概論Ⅱ	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUML164	中国語コミュニケーション演習初級Ⅰ	2	HUMS160	映像から考える中国	2
HUML165	中国語コミュニケーション演習初級Ⅱ	2	HUMS260	東アジア現代事情	2
HUML166	中国語読初級Ⅰ	2	HUMS261	人類学的地域研究(アジア)	2
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUML473	翻訳演習(中日)B	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUML360	中国語文法研究A	2
HUML460	中国語学不上級A	2	HUML361	中国語文法研究B	2
HUML461	中国語学不上級B	2	HUMC324	漢文学特講Ⅰ	2
HUML462	中国語作文不上級A	2	HUMC325	漢文学特講Ⅱ	2
HUML463	中国語作文不上級B	2	HUMS407	国際社会論	2
HUML464	中国語コミュニケーション演習中上級A	2	HUMS460	東アジア共同体と安全保障論	2
HUML465	中国語コミュニケーション演習中上級B	2	HUMI401	多文化共生と平和のためのワークショップⅡ	2
HUML466	通訳演習(日中)A	2	HUMC464	イスラム文化論	2
HUML467	通訳演習(日中)B	2	HUMS461	中国社会学問題特講	2
HUML468	通訳演習(中日)A	2	HUMS360	現代中国論	2
HUML469	通訳演習(中日)B	2	HUMS360	東洋思想史	2
HUML470	翻訳演習(日中)A	2	HUMC462	東アジア文化論	2
HUML471	翻訳演習(日中)B	2	HUMC463	中央ユーラシアの歴史と文化	2
HUML472	翻訳演習(中日)A	2			

ロシア・ヨーロッパ文化 (2024 年度入学生用)

ナンバリング	授業科目	単位	ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC180	ロシア・ヨーロッパ文化入門	2	HUML100	言語文化入門	2
HUM100	多文化共生と平和創造	2			
ベーシック科目から10単位					
HUMC106	歴史学概論	2	HUML201	言語コミュニケーション論	2
HUMC182	西洋哲学史 I	2	HUML206	文化記号論	2
HUMC181	ロシア文学入門	2	HUML280	ロシア語文法初級 I	2
HUMC201	歴史と地域社会	2	HUML281	ロシア語文法初級 II	2
HUMC203	哲学概論	2	HUML282	ロシア語文法中級 I	1
HUMC204	倫理学概論	2	HUML283	ロシア語文法中級 II	1
HUMC250	Cultural Representation I	2	HUML284	ロシア語リーディング入門 I	2
HUMC251	Cultural Representation II	2	HUML285	ロシア語リーディング入門 II	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4	HUML286	ロシア語リーディング入門 I	2
HUMC256	Introduction to Peace Studies I	4	HUML287	ロシア語リーディング入門 II	2
HUMC257	Introduction to Peace Studies II	4	HUML288	ロシア語コミュニケーション中級 I	1
HUMC280	ヨーロッパ文学	2	HUML289	ロシア語コミュニケーション中級 II	1
HUMC281	神話とフォークロア	2	HUMS108	国際関係論	2
HUMC282	西洋史概論	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUMC283	ロシアの歴史と文化	2	HUMS180	現代ロシア概論	2
HUM200	多文化共生論	2	INLA270	Principles of Politics and Globalization	4
HUML180	ロシア語コミュニケーション初級 I	1	INLA271	Principles of International Relations	4
HUML181	ロシア語コミュニケーション初級 II	1			
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC487	東欧の歴史と文化	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC483	人間学外書講読 I a (ロシア語)	2
HUML346	認知英語学	2	HUMC484	人間学外書講読 I b (ロシア語)	2
HUML347	日英語比較研究	2	HUMC485	人間学外書講読 II a (ロシア語)	2
HUML400	第二言語習得論	2	HUMC486	人間学外書講読 II b (ロシア語)	2
HUML421	多言語社会と言語政策	2	HUMC342	人間学外書講読 I a (英語)	2
HUML480	ロシア語文法上級 A	2	HUMC343	人間学外書講読 I b (英語)	2
HUML481	ロシア語文法上級 B	2	HUMC344	人間学外書講読 II a (英語)	2
HUML482	ロシア語コミュニケーション上級 A	1	HUMC345	人間学外書講読 II b (英語)	2
HUML483	ロシア語コミュニケーション上級 B	1	HUMC382	人間学外書講読 I a (フランス語)	2
HUML484	ロシア語ライティング上級 A	2	HUMC383	人間学外書講読 I b (フランス語)	2
HUML485	ロシア語ライティング上級 B	2	HUMC384	人間学外書講読 II a (フランス語)	2
HUML486	メディアのロシア語	2	HUMC385	人間学外書講読 II b (フランス語)	2
HUML380	ロシア語学 A	2	HUMC386	人間学外書講読 I a (ドイツ語)	2
HUML381	ロシア語学 B	2	HUMC387	人間学外書講読 I b (ドイツ語)	2
HUMC440	英米児童文学研究	2	HUMC388	人間学外書講読 II a (ドイツ語)	2
HUMC441	演劇論	2	HUMC389	人間学外書講読 II b (ドイツ語)	2
HUMC480	ロシア文学	2	HUMC390	人間学外書講読 I a (西洋古典語)	2
HUMC481	ロシアのフォークロア	2	HUMC391	人間学外書講読 I b (西洋古典語)	2
HUMS405	平和学	2	HUMC392	人間学外書講読 II a (西洋古典語)	2
HUMS407	国際社会論	2	HUMC393	人間学外書講読 II b (西洋古典語)	2
HUMC464	イスラーム文化論	2	HUMC361	人間学外書講読 I a (サンスクリット語)	2
HUMS480	ロシアの社会	2	HUMC362	人間学外書講読 I b (サンスクリット語)	2
HUMC381	西洋哲学史 II	2	HUMC363	人間学外書講読 II a (サンスクリット語)	2
HUMC402	美学美術史	2	HUMC364	人間学外書講読 II b (サンスクリット語)	2
HUMC482	キリスト教文化史	2	HUMS440	Peace Studies Workshop	4
HUMC463	中央ユーラシアの歴史と文化	2	INLA462	Global Ethics	4

哲学・思想文化 (2024 年度入学生用)

ナンバリング	授業科目	単位	ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC102	哲学・宗教学への招待	2	HUMI140	Introduction to Soka Akademia	4
ベーシック科目から10単位					
HUMC108	仏教思想概論	2	HUML101	言語学概論 I	2
HUMC182	西洋哲学史 I	2	HUML102	言語学概論 II	2
HUMC141	比較文化 I	2	HUML206	文化記号論	2
HUMC142	比較文化 II	2	HUML207	認知心理学	2
HUMC124	比較文化史概論	2	HUMS102	文化人類学	2
HUMC202	心の哲学	2	HUMS104	社会理論と社会システム	2
HUMC203	哲学概論	2	HUMS105	心理学理論と心理的支援	2
HUMC204	倫理学概論	2	HUMS106	法律学概論: 人間	2
HUMC222	日本思想史 I	2	HUMS107	政治学概論: 人間	2
HUMC252	Philosophy I: Core Issues in Metaphysics, Epistemology, and Ethics	4	HUMS204	宗教社会学	2
HUMC253	Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism	4	LAWP109	法学部生のための論理	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4	INLA260	Principles of Philosophy	4
HUMC281	神話とフォークロア	2			
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC342	人間学外書講読 I a (英語)	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC343	人間学外書講読 I b (英語)	2
HUML345	Translation Practice as Transcultural Communication	2	HUMC344	人間学外書講読 II a (英語)	2
HUMC324	漢文学特講 I	2	HUMC345	人間学外書講読 II b (英語)	2
HUMC325	漢文学特講 II	2	HUMC382	人間学外書講読 I a (フランス語)	2
HUMS301	メディア論	2	HUMC383	人間学外書講読 I b (フランス語)	2
HUMS401	現代宗教の社会学	2	HUMC384	人間学外書講読 II a (フランス語)	2
HUMC327	サブカルチャー論	2	HUMC385	人間学外書講読 II b (フランス語)	2
HUMS304	ポスト・コロニアル人類学	2	HUMC386	人間学外書講読 I a (ドイツ語)	2
HUMS305	科学・技術の人類学	2	HUMC387	人間学外書講読 I b (ドイツ語)	2
HUMS405	平和学	2	HUMC388	人間学外書講読 II a (ドイツ語)	2
HUMS406	人間の安全保障	2	HUMC389	人間学外書講読 II b (ドイツ語)	2
HUMI400	多文化共生と平和のためのワークショップ I	2	HUMC390	人間学外書講読 I a (西洋古典語)	2
HUMC464	イスラーム文化論	2	HUMC391	人間学外書講読 I b (西洋古典語)	2
HUMC360	東洋思想史	2	HUMC392	人間学外書講読 II a (西洋古典語)	2
HUMC328	日本思想史 II	2	HUMC393	人間学外書講読 II b (西洋古典語)	2
HUMC300	論理学	2	HUMC361	人間学外書講読 I a (サンスクリット語)	2
HUMC301	言語哲学	2	HUMC362	人間学外書講読 I b (サンスクリット語)	2
HUMC302	宗教学	2	HUMC363	人間学外書講読 II a (サンスクリット語)	2
HUMC303	科学哲学	2	HUMC364	人間学外書講読 II b (サンスクリット語)	2
HUMC381	西洋哲学史 II	2	HUMC442	Metaethics	2
HUMC400	哲学・思想特講 A	2	HUMI440	Advanced Joint Seminar for AKADEMIA	2
HUMC401	哲学・思想特講 B	2	HUMC443	Value Creating Education for Global Citizenship A	2
HUMC402	美学美術史	2	HUMC444	Value Creating Education for Global Citizenship B	2
HUMC423	民俗学	2	INLA462	Global Ethics	4
HUMC482	キリスト教文化史	2	EDUC102	教育史 A	2
HUMC462	東アジア文化論	2	EDUC103	教育史 B	2
HUMC483	人間学外書講読 I a (ロシア語)	2	EDUC202	教育哲学	2
HUMC484	人間学外書講読 I b (ロシア語)	2	LAWP220	政治学史	2
HUMC485	人間学外書講読 II a (ロシア語)	2	LAWP242	法哲学	2
HUMC486	人間学外書講読 II b (ロシア語)	2	LAWP350	日本政治思想史	2

歴史・社会文化（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC103	歴史と社会	2	HUMI100	多文化共生と平和創造	2
ベーシック科目から10単位					
HUMC106	歴史学概論	2	HUMC260	中国文学	2
HUMC107	考古学概論	2	HUMC261	東洋史概説	2
HUMC182	西洋哲学史Ⅰ	2	HUMC262	中国近現代の歴史と思想	2
HUMC124	比較文化史概論	2	HUMC263	東アジアの文化交流	2
HUMC200	歴史と人間	2	HUMC281	神話とフォークロア	2
HUMC201	歴史と地域社会	2	HUMC282	西洋史概説	2
HUMC220	日本古代・中世史概説	2	HUMC283	ロシアの歴史と文化	2
HUMC221	日本近世・近現代史概説	2	HUMI200	多文化共生論	2
HUMC222	日本思想史Ⅰ	2	HUMS102	文化人類学	2
HUMC225	日本文学史	2	HUMS103	社会学概論：人間	2
HUMC208	地理学Ⅰ：人間	2	HUMS200	現代文化人類学	2
HUMC209	地理学Ⅱ：人間	2	INLA261	Principles of History	4
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC343	人間学外書講読Ⅰb（英語）	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC344	人間学外書講読Ⅱa（英語）	2
HUMC340	中・古期英語史と文化	2	HUMC345	人間学外書講読Ⅱb（英語）	2
HUMC341	近代英語史と文化	2	HUMC382	人間学外書講読Ⅰa（フランス語）	2
HUMC481	ロシアのフォークロア	2	HUMC383	人間学外書講読Ⅰb（フランス語）	2
HUMS300	ジェンダーの社会学	2	HUMC384	人間学外書講読Ⅱa（フランス語）	2
HUMS301	メディア論	2	HUMC385	人間学外書講読Ⅱb（フランス語）	2
HUMS400	歴史の社会学	2	HUMC386	人間学外書講読Ⅰa（ドイツ語）	2
HUMS401	現代宗教の社会学	2	HUMC387	人間学外書講読Ⅰb（ドイツ語）	2
HUMS402	マンガ・児童文化探究	2	HUMC388	人間学外書講読Ⅱa（ドイツ語）	2
HUMC327	サブカルチャー論	2	HUMC389	人間学外書講読Ⅱb（ドイツ語）	2
HUMC464	イスラーム文化論	2	HUMC390	人間学外書講読Ⅰa（西洋古典語）	2
HUMC360	東洋思想史	2	HUMC391	人間学外書講読Ⅰb（西洋古典語）	2
HUMC328	日本思想史Ⅱ	2	HUMC392	人間学外書講読Ⅱa（西洋古典語）	2
HUMC381	西洋哲学史Ⅱ	2	HUMC393	人間学外書講読Ⅱb（西洋古典語）	2
HUMC402	美学美術史	2	HUMC361	人間学外書講読Ⅰa（サンスクリット語）	2
HUMC423	民俗学	2	HUMC362	人間学外書講読Ⅰb（サンスクリット語）	2
HUMC482	キリスト教文化史	2	HUMC363	人間学外書講読Ⅱa（サンスクリット語）	2
HUMC462	東アジア文化論	2	HUMC364	人間学外書講読Ⅱb（サンスクリット語）	2
HUMC424	古文書学	2	EDUC102	教育史A	2
HUMC463	中央ユーラシアの歴史と文化	2	EDUC103	教育史B	2
HUMC425	パブリック・ヒストリー	2	LAWP220	政治学史	2
HUMC487	東欧の歴史と文化	2	LAWP227	国際関係史	2
HUMC304	人文地理学：人間	2	LAWP243	法史学入門（西洋法史）	2
HUMC305	自然地理学：人間	2	LAWP348	法史学（日本法史）	2
HUMC306	地誌学：人間	2	LAWP336	日本政治外交史	2
HUMC483	人間学外書講読Ⅰa（ロシア語）	2	LAWP350	日本政治思想史	2
HUMC484	人間学外書講読Ⅰb（ロシア語）	2	ECON351	日本経済史	4
HUMC485	人間学外書講読Ⅱa（ロシア語）	2	ECON352	西洋経済史	4
HUMC486	人間学外書講読Ⅱb（ロシア語）	2	ECON354	現代経済史	4
HUMC342	人間学外書講読Ⅰa（英語）	2			

言語文化（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUML100	言語文化入門	2	HUMC140	英語文化への招待	2
ベーシック科目から10単位					
HUML101	言語学概論Ⅰ	2	HUML207	認知心理学	2
HUML102	言語学概論Ⅱ	2	HUML220	日本語音声学	2
HUML103	音声学概論	2	HUML221	国語科教育法Ⅰ	2
HUML120	社会で通用する日本語	2	HUML222	国語科教育法Ⅱ	2
HUML140	英語翻訳入門	2	HUML242	English for Humanities BⅠ	2
HUML121	日本語学概論Ⅰ	2	HUML243	English for Humanities BⅡ	2
HUML122	日本語学概論Ⅱ	2	HUML244	現代英文法	2
HUML123	日本語教育概論Ⅰ	2	HUML245	英語音声学	2
HUML124	日本語教育概論Ⅱ	2	HUML246	日英翻訳演習	2
HUML141	英語学概論Ⅰ	2	HUML247	英語通訳演習A	2
HUML142	英語学概論Ⅱ	2	HUML249	英語科教育法Ⅰ	2
HUML143	日英語比較概説	2	HUML250	英語科教育法Ⅱ	2
HUML146	英語で日本紹介Ⅰ	2	HUML262	中国語文法初中級Ⅰ	2
HUML147	英語で日本紹介Ⅱ	2	HUML263	中国語文法初中級Ⅱ	2
HUML148	English for Humanities AⅠ	2	HUML266	中国語総合初中級Ⅰ	2
HUML149	English for Humanities AⅡ	2	HUML267	中国語総合初中級Ⅱ	2
HUML160	中国語学入門Ⅰ	2	HUML280	ロシア語文法初級Ⅰ	2
HUML161	中国語学入門Ⅱ	2	HUML281	ロシア語文法初級Ⅱ	2
HUML162	中国語学概論Ⅰ	2	HUML282	ロシア語文法中級Ⅰ	1
HUML163	中国語学概論Ⅱ	2	HUML283	ロシア語文法中級Ⅱ	1
HUML200	第二言語習得論入門	2	HUML284	ロシア語リーディング入門Ⅰ	2
HUML201	言語コミュニケーション論	2	HUML285	ロシア語リーディング入門Ⅱ	2
HUML202	対照言語学Ⅰ	2	HUML286	ロシア語ライティング入門Ⅰ	2
HUML203	対照言語学Ⅱ	2	HUML287	ロシア語ライティング入門Ⅱ	2
HUML204	言語類型論	2	HUMS101	社会調査の基礎	2
HUML205	心理統計とデータ分析	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUML206	文化記号論	2			
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUML420	年少者日本語教育	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUML421	多言語社会と言語政策	2
HUMC340	中・古期英語史と文化	2	HUML422	日本語教育実習	2
HUMC341	近代英語史と文化	2	HUML423	日本語教授法演習	2
HUML341	英語通訳演習B	2	HUML424	日本語学特講A	2
HUML342	英語翻訳論	2	HUML425	日本語学特講B	2
HUML343	英語特講A	2	HUML440	英語科教育法Ⅲ	2
HUML344	英語特講B	2	HUML441	英語科教育法Ⅳ	2
HUML345	Translation Practice as Transcultural Communication	2	HUML442	国語科教育法Ⅲ	2
HUML300	社会言語学	2	HUML443	国語科教育法Ⅳ	2
HUML320	現代日本語文法A	2	HUML460	中国語学上中級A	2
HUML321	現代日本語文法B	2	HUML461	中国語学上中級B	2
HUML322	日本語教材研究Ⅰ	2	HUML360	中国語文法研究A	2
HUML323	日本語教材研究Ⅱ	2	HUML361	中国語文法研究B	2
HUML324	日本語教授法Ⅰ	2	HUML480	ロシア語文法上級A	2
HUML325	日本語教授法Ⅱ	2	HUML481	ロシア語文法上級B	2
HUML326	日本語の表現	2	HUML484	ロシア語ライティング上級A	2
HUML346	認知英語学	2	HUML485	ロシア語ライティング上級B	2
HUML347	日英語比較研究	2	HUML380	ロシア語学A	2
HUML329	日本語の語彙・表記	2	HUML381	ロシア語学B	2
HUML400	第二言語習得論	2	HUMC424	古文書学	2

表現文化（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC100	表現文化論入門	2	HUMC101	世界文学への招待	2
ベーシック科目から10単位					
HUMC104	文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法	2	HUMC281	神話とフォークロア	2
HUMC105	文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法	2	HUML121	日本語学概論Ⅰ	2
HUMC121	日本古典文学概論	2	HUML122	日本語学概論Ⅱ	2
HUMC122	日本近代文学概論	2	HUML123	日本語教育概論Ⅰ	2
HUMC123	書道Ⅰ	2	HUML124	日本語教育概論Ⅱ	2
HUMC141	比較文化Ⅰ	2	HUML141	英語学概論Ⅰ	2
HUMC142	比較文化Ⅱ	2	HUML142	英語学概論Ⅱ	2
HUMC124	比較文化史概論	2	HUML143	日英語比較概説	2
HUMC181	ロシア文学入門	2	HUML144	Oral Communication in EnglishⅠ	1
HUMC205	文芸創作Ⅰ	2	HUML145	Oral Communication in EnglishⅡ	1
HUMC206	文芸創作Ⅱ	2	HUML148	English for Humanities AⅠ	2
HUMC207	映画論	2	HUML149	English for Humanities AⅡ	2
HUMC220	日本古代・中世史概説	2	HUML166	中国語講読初級Ⅰ	2
HUMC223	日本古典文学講読	2	HUML167	中国語講読初級Ⅱ	2
HUMC224	日本近代文学講読	2	HUML201	言語コミュニケーション論	2
HUMC225	日本文学史	2	HUML206	文化記号論	2
HUMC226	書道Ⅱ	2	HUML221	国語科教育法Ⅰ	2
HUMC240	LiteratureⅠ	2	HUML222	国語科教育法Ⅱ	2
HUMC241	LiteratureⅡ	2	HUML242	English for Humanities BⅠ	2
HUMC242	英米文学概論Ⅰ	2	HUML243	English for Humanities BⅡ	2
HUMC243	英米文学概論Ⅱ	2	HUML244	現代英文法	2
HUMC244	英米文学講読Ⅰ	2	HUML248	Academic Writing A	2
HUMC245	英米文学講読Ⅱ	2	HUML249	英語科教育法Ⅰ	2
HUMC246	イギリス古典文学史	2	HUML250	英語科教育法Ⅱ	2
HUMC247	イギリス近代文学史	2	HUML340	Academic Writing B	2
HUMC248	アメリカ文学史	2	HUML262	中国語文法初級Ⅰ	2
HUMC249	演劇入門	2	HUML263	中国語文法初級Ⅱ	2
HUMC250	Cultural RepresentationⅠ	2	HUML264	中国語講読初級Ⅰ	2
HUMC251	Cultural RepresentationⅡ	2	HUML265	中国語講読初級Ⅱ	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4	HUML284	ロシア語リーディング入門Ⅰ	2
HUMC256	Introduction to Peace StudiesⅠ	4	HUML285	ロシア語リーディング入門Ⅱ	2
HUMC257	Introduction to Peace StudiesⅡ	4	HUML286	ロシア語ライティング入門Ⅰ	2
HUMC260	中国文学	2	HUML287	ロシア語ライティング入門Ⅱ	2
HUMC280	ヨーロッパ文学	2	HUMS205	ジャーナリズムの社会学	2
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMC402	美学美術史	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMC483	人間学外書講読Ⅰa（ロシア語）	2
HUML341	英語通訳演習B	2	HUMC484	人間学外書講読Ⅰb（ロシア語）	2
HUML326	日本語の表現	2	HUMC485	人間学外書講読Ⅱa（ロシア語）	2
HUML440	英語科教育法Ⅲ	2	HUMC486	人間学外書講読Ⅱb（ロシア語）	2
HUML441	英語科教育法Ⅳ	2	HUMC342	人間学外書講読Ⅰa（英語）	2
HUML380	ロシア語学A	2	HUMC343	人間学外書講読Ⅰb（英語）	2
HUML381	ロシア語学B	2	HUMC344	人間学外書講読Ⅱa（英語）	2
HUMC320	日本古典文学作家作品論A	2	HUMC345	人間学外書講読Ⅱb（英語）	2
HUMC321	日本古典文学作家作品論B	2	HUMC382	人間学外書講読Ⅰa（フランス語）	2
HUMC322	日本近代文学作家作品論A	2	HUMC383	人間学外書講読Ⅰb（フランス語）	2
HUMC323	日本近代文学作家作品論B	2	HUMC384	人間学外書講読Ⅱa（フランス語）	2
HUMC420	日本文学特講A	2	HUMC385	人間学外書講読Ⅱb（フランス語）	2
HUMC421	日本文学特講B	2	HUMC386	人間学外書講読Ⅰa（ドイツ語）	2
HUMC422	日本文学特講C	2	HUMC387	人間学外書講読Ⅰb（ドイツ語）	2
HUMC440	英米児童文学研究	2	HUMC388	人間学外書講読Ⅱa（ドイツ語）	2
HUMC441	演劇論	2	HUMC389	人間学外書講読Ⅱb（ドイツ語）	2
HUML348	Text Studies	2	HUMC390	人間学外書講読Ⅰa（西洋古典語）	2
HUMC480	ロシア文学	2	HUMC391	人間学外書講読Ⅰb（西洋古典語）	2
HUMC324	漢文学特講Ⅰ	2	HUMC392	人間学外書講読Ⅱa（西洋古典語）	2
HUMC325	漢文学特講Ⅱ	2	HUMC393	人間学外書講読Ⅱb（西洋古典語）	2
HUMC405	文芸創作演習	2	HUMC361	人間学外書講読Ⅰa（サンスクリット語）	2
HUMP407	演劇表現演習	2	HUMC362	人間学外書講読Ⅰb（サンスクリット語）	2
HUMS300	ジェンダーの社会学	2	HUMC363	人間学外書講読Ⅱa（サンスクリット語）	2
HUMC327	サブカルチャー論	2	HUMC364	人間学外書講読Ⅱb（サンスクリット語）	2
HUMC464	イスラーム文化論	2	HUMS440	Peace Studies Workshop	4

社会学・人類学（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMS100	社会・文化研究への招待	2	HUMW100	社会福祉入門	2
ベーシック科目から10単位					
HUMC161	中国社会文化概論	2	HUMS106	法律学概論：人間	2
HUMC200	歴史と人間	2	HUMS107	政治学概論：人間	2
HUMC203	哲学概論	2	HUMS108	国際関係論	2
HUMC221	日本近世・近現代史概説	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUMC254	Anthropological Approached to Contemporary Japan	4	HUMS160	映像から考える中国	2
HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4	HUMS180	現代ロシア概論	2
HUMC256	Introduction to Peace Studies I	4	HUMS200	現代文化人類学	2
HUMC257	Introduction to Peace Studies II	4	HUMS201	社会学史概説	2
HUMC262	中国近現代の歴史と思想	2	HUMS202	家族の社会学	2
HUMC263	東アジアの文化交流	2	HUMS203	地域と都市の社会学	2
HUMC281	神話とフォークロア	2	HUMS204	宗教社会学	2
HUMC283	ロシアの歴史と文化	2	HUMS205	ジャーナリズムの社会学	2
HUMI200	多文化共生論	2	HUMS206	現代社会論入門	2
HUML206	文化記号論	2	HUMS207	社会統計学	2
HUML207	認知心理学	2	HUMS260	東アジア現代事情	2
HUMP100	ピア・サポート実践 I	2	HUMS261	人類学的地域研究（アジア）	2
HUMP202	ピア・サポート実践 II	2	HUMS281	人類学的地域研究（アフリカ）	2
HUMS101	社会調査の基礎	2	HUMS282	人類学的地域研究（ラテンアメリカ）	2
HUMS102	文化人類学	2	HUMS208	マンガの社会学	2
HUMS103	社会学概論：人間	2	HUMW200	社会福祉の原理と政策 I	2
HUMS104	社会理論と社会システム	2	HUMW201	社会福祉の原理と政策 II	2
HUMS105	心理学理論と心理的支援	2	INLA262	Principles of Sociology	4
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMS407	国際社会論	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMS460	東アジア共同体と安全保障論	2
HUMC481	ロシアのフォークロア	2	HUMI400	多文化共生と平和のためのワークショップ I	2
HUMS300	ジェンダーの社会学	2	HUMI401	多文化共生と平和のためのワークショップ II	2
HUMS301	メディア論	2	HUMC464	イスラーム文化論	2
HUMS302	教育の社会学	2	HUMS461	中国社会問題特講	2
HUMS400	歴史の社会学	2	HUMS360	現代中国論	2
HUMS401	現代宗教の社会学	2	HUMS480	ロシアの社会	2
HUMS402	マンガ・児童文化探究	2	HUMC302	宗教学	2
HUMS403	サーベイ調査演習	2	HUMC303	科学哲学	2
HUMS404	フィールド調査実習	2	HUMC423	民俗学	2
HUMC327	サブカルチャー論	2	HUMC482	キリスト教文化史	2
HUMS303	民族誌的研究	2	HUMC462	東アジア文化論	2
HUMS304	ポスト・コロニアル人類学	2	HUMC425	パブリック・ヒストリー	2
HUMS305	科学・技術の人類学	2	HUMC487	東欧の歴史と文化	2
HUMS405	平和学	2	HUMS440	Peace Studies Workshop	4
HUMS406	人間の安全保障	2	HUMS441	Anthropology of Religion and Morality	4

多文化共生・平和創造（2024年度入学生用）

科目 ナンバリング	授業科目	単位	科目 ナンバリング	授業科目	単位
イントロダクトリー科目から2単位					
HUMC100	表現文化論入門	2	HUMI100	多文化共生と平和創造	2
HUMC101	世界文学への招待	2	HUML100	言語文化入門	2
HUMC102	哲学・宗教学への招待	2	HUMC140	英語文化への招待	2
HUMC103	歴史と社会	2	HUMS100	社会・文化研究への招待	2
HUMC120	国際日本学への招待	2	HUMW100	社会福祉入門	2
HUMC160	中国・アジア文化入門	2	HUMI140	Introduction to Soka Akademia	4
HUMC180	ロシア・ヨーロッパ文化入門	2			
ベーシック科目から10単位					
HUMC104	文芸批評Ⅰ：詩の分析と作詞法	2	HUML243	English for Humanities BⅡ	2
HUMC105	文芸批評Ⅱ：小説・映画の分析法	2	HUMP100	ピア・サポート実践Ⅰ	2
HUMC106	歴史学概論	2	HUMP202	ピア・サポート実践Ⅱ	2
HUMC141	比較文化Ⅰ	2	HUMS101	社会調査の基礎	2
HUMC142	比較文化Ⅱ	2	HUMS102	文化人類学	2
HUMC124	比較文化史概論	2	HUMS103	社会学概論：人間	2
HUMC200	歴史と人間	2	HUMS108	国際関係論	2
HUMC201	歴史と地域社会	2	HUMS120	国際交流と日本社会	2
HUMC202	心の哲学	2	HUMS160	映像から考える中国	2
HUMC204	倫理学概論	2	HUMS180	現代ロシア概論	2
HUMC222	日本思想Ⅰ	2	HUMS200	現代文化人類学	2
HUMC243	英米文学概論Ⅱ	2	HUMS204	宗教社会学	2
HUMC260	中国文学	2	HUMS206	現代社会論入門	2
HUMC261	東洋史概説	2	HUMS260	東アジア現代事情	2
HUMC262	中国近現代の歴史と思想	2	HUMS261	人類学的地域研究（アジア）	2
HUMC263	東アジアの文化交流	2	HUMS281	人類学的地域研究（アフリカ）	2
HUMC281	神話とフォークロア	2	HUMS282	人類学的地域研究（ラテンアメリカ）	2
HUMC282	西洋史概説	2	HUMS208	マンガの社会学	2
HUMC283	ロシアの歴史と文化	2	HUMW202	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2
HUMI200	多文化共生論	2	HUMW203	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2
HUML123	日本語教育概論Ⅰ	2	HUMW204	児童福祉論Ⅰ	2
HUML124	日本語教育概論Ⅱ	2	HUMW205	児童福祉論Ⅱ	2
HUML143	日英語比較概説	2	HUMW206	障害者福祉Ⅰ	2
HUML148	English for Humanities AⅠ	2	HUMW207	障害者福祉Ⅱ	2
HUML149	English for Humanities AⅡ	2	HUMW208	高齢者福祉Ⅰ	2
HUML206	文化記号論	2	HUMW209	高齢者福祉Ⅱ	2
HUML242	English for Humanities BⅠ	2			
アドヴァンスト科目から12単位					
HUMI300	Special Lecture A	2	HUMS461	中国社会問題特講	2
HUMI301	Special Lecture B	2	HUMS360	現代中国論	2
HUML300	社会言語学	2	HUMS480	ロシアの社会	2
HUML347	日英語比較研究	2	HUMC360	東洋思想史	2
HUML421	多言語社会と言語政策	2	HUMC328	日本思想史Ⅱ	2
HUMC441	演劇論	2	HUMC302	宗教学	2
HUMC481	ロシアのフォークロア	2	HUMC303	科学哲学	2
HUMS300	ジェンダーの社会学	2	HUMC381	西洋哲学史Ⅱ	2
HUMS301	メディア論	2	HUMC402	美学美術史	2
HUMS302	教育の社会学	2	HUMC423	民俗学	2
HUMS400	歴史の社会学	2	HUMC482	キリスト教文化史	2
HUMS401	現代宗教の社会学	2	HUMC462	東アジア文化論	2
HUMS403	サーベイ調査演習	2	HUMC463	中央ユーラシアの歴史と文化	2
HUMS404	フィールド調査実習	2	HUMC425	パブリック・ヒストリー	2
HUMC326	ディベート日本語	2	HUMC487	東欧の歴史と文化	2
HUMC327	サブカルチャー論	2	HUMW400	社会保障Ⅰ	2
HUMS303	民族誌的研究	2	HUMW401	社会保障Ⅱ	2
HUMS304	ポスト・コロナリアル人類学	2	HUMW402	福祉サービスの組織と経営	2
HUMS305	科学・技術の人類学	2	HUMW403	貧困に対する支援	2
HUMS405	平和学	2	HUMW404	保健医療と福祉	2
HUMS406	人間の安全保障	2	HUMW405	権利擁護を支える法制度	2
HUMS407	国際社会論	2	HUMW406	人体の構造と機能及び疾病	2
HUMS460	東アジア共同体と安全保障論	2	HUMW407	刑事司法と福祉	2
HUMI400	多文化共生と平和のためのワークショップⅠ	2	EDUC202	教育哲学	3
HUMI401	多文化共生と平和のためのワークショップⅡ	2	EDUC302	多文化社会と教育	2
HUMC464	イスラーム文化論	2	EDUC303	教育と人生	2

English Medium Program (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
ECON113	Principles of Microeconomics	4	LAWP233	Asian Studies in International Law Perspectives	2
ECON114	Principles of Macroeconomics	4	LAWP234	International Relations	2
ECON132	Introduction to Financial Accounting	2	LAWP235	International Environmental Policy	2
ECON152	Economic History	4	LAWP236	Border Politics	2
ECON171	Introduction to Economic Reasoning	4	LAWP237	Security Studies	2
ECON172	Global Economy Lecture	2	LAWP238	Japanese Domestic Politics	2
ECON202	Progressive Seminar I	2	LAWP239	American Politics	2
ECON271	Economics Lecture A	4	LAWP246	Special Topics of Law and Politics C	2
ECON272	Economics Lecture B	4	LAWP262	Japanese Foreign and Security Policy	2
ECON276	World Economy I	2	LAWP248	Peace・Human Rights & Sustainability Internship A	2
ECON277	World Economy II	2	LAWP249	Peace・Human Rights & Sustainability Internship B	2
ECON278	World Economy A	4	LAWP341	Global Public Policy	2
ECON279	World Economy B	4	LAWP342	International Human Rights	4
ECON294	International Internship A	4	LAWP351	Environmental Law	2
ECON295	International Internship B	4	LAWP356	Special Topics of Law and Politics E	2
ECON303	Progressive Seminar II	2	LAWP357	Special Topics of Law and Politics F	2
ECON304	Progressive Seminar III	2	HUML340	Academic Writing B	2
ECON313	Intermediate Microeconomics	4	HUML345	Translation Practice as Transcultural Communication	2
ECON314	Intermediate Macroeconomics	4	HUML348	Text Studies	2
ECON325	Mathematics for Economics	4	HUMR140	Introduction to Humanities	2
ECON334	Principles of Finance	4	HUMR240	Academic Foundations for Humanities	2
ECON335	International Finance	2	HUMI140	Introduction to Soka Akademia	4
ECON336	Econometrics	4	HUMI300	Special Lecture A	2
ECON355	Economic Issues of Contemporary Japan	2	HUMI301	Special Lecture B	2
ECON356	Economic Development of Japan I	2	HUMI440	Advanced Joint Seminar for AKADEMIA	2
ECON357	Economic Development of Japan II	2	HUMC240	Literature I	2
ECON358	Political Economy of Japan and Asia	2	HUMC241	Literature II	2
ECON368	Chinese Economy	2	HUMC250	Cultural Representation I	2
ECON369	Indian Economy	2	HUMC251	Cultural Representation II	2
ECON372	Development and Environment	4	HUMC252	Philosophy I: Core Issues in Metaphysics・Epistemology and Ethics	4
ECON376	Contemporary Economy and Business I	2	HUMC253	Philosophy II: Contemporary Philosophy and Buddhism	4
ECON377	Contemporary Economy and Business II	2	HUMC254	Anthropological Approached to Contemporary Japan	4
ECON378	Contemporary Economy and Business III	2	HUMC255	Comparative Culture: Anthropology	4
ECON379	Contemporary Economy and Business IV	2	HUMC256	Introduction to Peace Studies I	4
ECON383	World Economy III	2	HUMC257	Introduction to Peace Studies II	4
ECON384	World Economy IV	2	HUMC442	Metaethics	4
ECON385	World Economy V	2	HUMP440	Seminar in Humanities A	2
ECON386	World Economy VI	2	HUMP441	Seminar in Humanities B	2
ECON387	World Economy C	4	HUMP442	Seminar in Humanities C	2
ECON388	World Economy D	4	HUMP443	Seminar in Humanities D	2
ECON389	World Economy E	4	HUMS440	Peace Studies Workshop	4
ECON396	Business and Japanese People	2	HUMS441	Anthropology of Religion and Morality	4
ECON397	Human Resources Management in Japan and Asia	2	BUSI103	Introduction to Accounting I	2
ECON403	Progressive Seminar IV	2	BUSI104	Introduction to Accounting II	2
ECON481	World Economy VII	2	BUSI203	Humanistic Management Workshop	2
ECON482	World Economy VIII	2	BUSI222	Principles of Marketing	4
ECON483	World Economy F	4	BUSI211	Global Business Communication I	4
ECON484	World Economy G	4	BUSI212	Global Business Communication II	4
ECON273	International Economy and Business I	3	BUSI223	Stakeholder Dialogue	2
ECON274	International Economy and Business II	3	BUSI221	International Context in Business	4
ECON275	International Economy and Business III	3	BUSI224	Financial Management	4
ECON398	International Economy and Business IV	3	BUSI283	Project Management I	2
ECON399	International Economy and Business V	3	BUSI285	Japanese Business A	2
LAWP102	Introduction to Legal Studies	2	BUSI284	Project Management II	2
LAWP114	AF for Peace・Human Rights & Sustainability I	2	BUSI381	Multicultural Management	2
LAWP115	AF for Peace・Human Rights & Sustainability II	2	BUSI382	Global Business Review I	2
LAWP118	Special Topics of Law and Politics A	2	BUSI481	Global Business Review II	2
LAWP119	Special Topics of Law and Politics B	2	BUSI383	Business Ethics	2
LAWP133	AF for Study Abroad I	1	BUSI384	Environmental Management Issues	2
LAWP134	AF for Study Abroad II	1	BUSI385	Critical Thinking in Business Strategy	2
LAWP231	Global Issues	2	INLA120	Foundations of Data Science	4
LAWP232	Peace Studies	2	INLA220	Programming	4

English Medium Program (2024 年度入学生用) ※つづき

科目 ナンバリング	科目名	単位	科目 ナンバリング	科目名	単位
INLA221	Calculus	4	INLA372	International Political Economy	4
INLA222	Linear Algebra	4	INLA373	International Institutions and Global Governance	4
INLA223	Qualitative Research Methods	4	INLA381	Development Economics	4
INLA260	Principles of Philosophy	4	INLA382	Predictive Analytics with Machine Learning	4
INLA261	Principles of History	4	INLA383	Marketing	4
INLA262	Principles of Sociology	4	INLA390	Seminar I	2
INLA270	Principles of Politics and Globalization	4	INLA391	Seminar II	2
INLA271	Principles of International Relations	4	INLA430	Special Lecture I	2
INLA280	Principles of Accounting and Financial Analysis	4	INLA431	Special Lecture II	2
INLA281	Principles of Economics	4	INLA432	Special Lecture III	2
INLA282	Principles of Business	4	INLA433	Special Lecture IV	2
INLA290	Sophomore Seminar: Data Science I	2	INLA434	Special Lecture V	2
INLA291	Sophomore Seminar: Data Science II	2	INLA435	Special Lecture VI	2
INLA292	Sophomore Seminar: Data Science III	2	INLA436	Special Lecture VII	2
INLA293	Sophomore Seminar: Data Science IV	2	INLA437	Special Lecture VIII	2
INLA294	Sophomore Seminar: Data Science V	2	INLA438	Special Lecture IX	2
INLA295	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences I	2	INLA439	Special Lecture X	2
INLA296	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences II	2	INLA440	Special Lecture XI	2
INLA297	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences III	2	INLA441	Special Lecture XII	2
INLA298	Sophomore Seminar: Humanities & Social Sciences IV	2	INLA460	Monarchy and Democracy in Modern History	4
INLA330	Special Seminar A	4	INLA461	Education and International Development	4
INLA331	Special Seminar B	4	INLA462	Global Ethics	4
INLA332	Special Seminar C	4	INLA463	Sociology of Media and Communication	4
INLA333	Special Seminar D	4	INLA470	Citizenship and Democracy in a Global Age	4
INLA334	Special Seminar E	4	INLA471	International Relations in Asia	4
INLA335	Special Seminar F	4	INLA472	International Bargaining	4
INLA360	History of Modernization and Empire	4	INLA473	Comparative Politics	4
INLA361	Global Social Policy	4	INLA474	Nonprofit Organizations and Public Sector	4
INLA362	Modern Political Thought	4	INLA481	International Trade	4
INLA363	Globalization and Society	4	INLA482	Prescriptive Analytics for Operations Management	4
INLA370	Contemporary Political Theory	4	INLA483	International Business	4
INLA371	Great Power Politics in the World	4			

データサイエンス (2024 年度入学生用)

科目 ナンバリング	科目名	科目 所属	単 位	学科											備考			
				経済	法律	人間	経営	教育	児教	情報	共生	看護	国際					
必修科目 8 単位 (法律・国際教養学科のみ 6 単位)																		
GMDN108	データサイエンス入門	共通	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
GMDN109	A I 基礎	共通	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ECON322	データサイエンス	経済	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
BUSI218	ビジネス・データサイエンス	経営	4				○											
ECON323	データサイエンス活用演習	経済	2	○														
HUMS403	サーベイ調査演習	人間	2			○												
EDUC212	心理学実験	教育	2					○										
PRED337	授業改善のためのデータ活用	児教	2						○									
INFO454	データサイエンス演習 (情報)	情報	2							○								
SESI215	データサイエンス演習 I (共生基礎)	共生	2									○						
NURS104	疫学・保健統計	看護	2										○					
選択必修科目 2 単位 (法律・国際教養学科のみ)																		
LAWP217	社会分析スキル: データサイエンス演習	法律	2		▲													
LAWP264	データサイエンス実習	法律	2		▲													
INLA290	Sophomore Seminars: Data Science I	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	
INLA291	Sophomore Seminars: Data Science II	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	
INLA292	Sophomore Seminars: Data Science III	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	
INLA293	Sophomore Seminars: Data Science IV	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	
選択必修科目 16 単位																		
基礎統計学科目 (注)																		
GMDN103	統計学入門 I	共通	2			○			○	○								
GMDN104	統計学入門 II	共通	2			○			○	○								
ECON122	基礎統計学	経済	4	○														
HUMS213	社会統計学	人間	2				○											
BUSI141	統計学: 経営	経営	4					○										
INFO211	確率統計	情報	2								○							
SESI211	統計学: 理工	共生	2										○					
INLA120	Foundations of Data Science	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
基礎プログラミング科目 (注)																		
GMDN113	プログラミング	共通	2	○	○	○	○	○	○	○				○			Python	
BUSI252	Python プログラミング入門	経営	4	○	○	○	○	○	○	○				○			Python	
INFO161	プログラミング演習 I	情報	2							○							Python	
SESI212	Python プログラミング演習	共生	2										○				Python	
INLA220	Programming	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Python	
データサイエンス系科目																		
GMDN111	情報科学	共通	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
GMDN202	データサイエンス演習 A	共通	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
GMDN203	データサイエンス演習 B	共通	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
SESI275	データサイエンス演習 II (生命科学)	共生	2											○				
SESI295	データサイエンス演習 II (環境システム)	共生	2											○				
SESI255	データサイエンス演習 II (応用化学)	共生	2											○				
BUSI351	AI とビジネス	経営	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
BUSI251	経営情報論	経営	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
SESI235	情報基礎論	共生	2											○				
INFO162	プログラミング演習 II	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	C	
SESI213	アドバンスドプログラミング演習	共生	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ECON321	経済数学	経済	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INFO112	線形代数学 I	情報	2								○							
SESI113	線形数理	共生	2											○				
INFO253	データ構造	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INFO261	ソフトウェア演習 A	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INFO262	ソフトウェア演習 B	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ECON323	統計学: 経済	経済	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INFO359	人工知能	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INFO458	データベース論	情報	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INLA221	Calculus	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Biennial	
INLA222	Linear Algebra	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Biennial	
INLA294	Sophomore Seminars: Data Science V	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	AI in Conflict, Cooperation	
INLA382	Predictive Analytics with Machine Learning	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INLA482	Prescriptive Analytics for Operations Management	国際	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
INLA390	Seminar I	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	Problem Solving with AI	
INLA391	Seminar II	国際	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	AI Planning and Decision Making	

◎必修科目 ▲選択必修科目 ○選択科目
 ※必修科目は、自分の所属する学科欄に◎がついている科目すべてを単位修得すること。
 ※選択必修科目のある学科は、▲の中から基準の単位数を修得すること。基準の単位数を超えて修得した場合、選択科目の単位として算入されます。
 ※「Sophomore Seminars: Data Science I~IV」は、国際教養学科以外の学生が単位修得した場合、選択科目の単位として算入されます。
 ※選択科目は自分の所属する学科欄に○がついている科目のみ副専攻の単位として算入されますので注意してください。
 ※理工学部以外の学生は、基礎統計学・基礎プログラミング科目または共通科目として開講されている科目を先に履修することを推奨します。

副専攻制度

第四章 特設課程

本学では特設課程として「教職課程」「社会教育主事課程」を設置しています。

1. 教職課程（文・教育・理工学部のみ）

教職課程を受講するためには、課程に登録し、課程費を納める必要があります。希望される方は、特設課程のガイダンスの説明に従って手続きをしてください。

教員となるためには、教育職員免許法に基づき、教育職員免許状（以下「教員免許状」という）を取得しなければなりません。教員免許状は、文部科学省より課程認定を受けた大学で所定の単位を修得した者に対し、各都道府県の教育委員会が授与するものです。したがって、皆さんが教員免許状を取得するためには、卒業に必要な科目以外に相当数の教職課程科目の単位を修得しなければなりません。また、教職課程は、教員の養成を前提とし教職に就く意志のある者を対象に開設しております。教職に就く意志がなく資格さえ取ればよいといった安易な姿勢で教員免許状の取得を目指さないように強く望みます。

教職課程への登録は、2年次秋学期ガイダンス（2年次9月）までです。それ以降の教職課程の登録はできませんのでご注意ください。なお、教職課程では、教科及び教職に関する科目の一部を「特設課程科目」として履修します。特設課程科目は、自分が登録している免許課程の科目のみ履修できます。修得すべき最低単位数などの詳細は教職キャリアセンターで配布される「教職課程ガイド」を参照してください。

【本学で取得できる教員免許状の種類と教科】

学部	学科	教員免許状の種類と教科
文学部	人間学科	中学校1種「国語」「社会」「英語」 高等学校1種「国語」「地理歴史」「公民」「英語」
理工学部	情報システム工学科	中学校1種「数学」／高等学校1種「数学」「情報」
	共生創造理工学科	中学校1種「理科」／高等学校1種「理科」
教育学部	教育学科	中学校1種「社会」／高等学校1種「公民」
	児童教育学科	幼稚園1種／小学校1種／特別支援学校1種（知・肢・病）

■特設課程科目【教職課程／教科及び教職に関する科目（中・高）】

科目ナンバリング	科目コード	科目名	授業時間	単位	履修年次	人間学科						情報システム工学科		共生創造理工学科		教育学科	
						中1			高1			中1	高1	中1	高1	中1	高1
						社会	英語	国語	地歴	公民	英語	国語	数学	数学	情報	理科	理科
TETC151	1K0010	教育原論：教職	30	2	1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC150	1K0000	教職概論：教職	30	2	1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC252	1K1410	教育行政論：教職	30	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC253	1K1380	教育・学校心理学：教職	30	2	1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC310	1K1430	インクルーシブ教育論：教職	15	1	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC200	1K1350	カリキュラム論：教職	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC255	1K1240	道徳教育論：教職	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC311	1K1340	総合的な学習の時間の指導論：教職	15	1	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC257	1K1400	特別活動論：教職	15	1	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC251	1K1420	教育の方法と技術：教職	30	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC152	1K1360	ICT活用教育の理論と方法Ⅰ：教職	15	1	1～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC258	1K1370	ICT活用教育の理論と方法Ⅱ：教職	15	1	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC254	1K0370	生徒・進路指導論：教職	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC250	1K1390	教育カウンセリング：教職	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC350	1K1450	教育実習事前指導（中・高）	30	1	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC351	1K1460	教育実習Ⅰ（中・高）	60	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC352	1K1470	教育実習Ⅱ（中）	60	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC353	1K1480	学校体験活動Ⅰ（中）	60	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC354	1K1490	学校体験活動Ⅱ（中）	60	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC355	1K1500	学校体験活動Ⅲ（中）	30	1	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC356	1K1510	学校体験活動Ⅳ（中）	30	1	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC450	1K1440	教職実践演習：教職	30	2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC260	1K0060	社会科教育法Ⅰ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC261	1K0070	社会科教育法Ⅱ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC360	1K0080	社会科教育法Ⅲ	30	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC361	1K1270	社会科教育法Ⅳ	30	2	3～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC264	1K1280	地理歴史科教育法Ⅰ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC265	1K1290	地理歴史科教育法Ⅱ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC266	1K1300	公民科教育法Ⅰ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TETC267	1K1310	公民科教育法Ⅱ	30	2	2～	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注 教育学科生は、自学科専門科目から修得する必要があります。詳しくは「教職課程ガイド」を参照してください。

※英語、国語、数学、情報、理科の指導法に関する科目は、文学部又は理工学部の専門科目から修得します。

※教科及び教科の指導法に関する科目のうち、「教科に関する専門的事項」は、各学科専門科目から修得します。

2. 社会教育主事課程（経済・看護・国際教養学部は除く）

社会教育主事は青年教育、婦人教育、成人教育などの社会教育活動について、指導・助言を行う教育専門職員です。その身分は教育公務員であり、教育委員会によって任命されます。現在、社会教育法により、「都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に、社会教育主事を置く」ことになっています。

また、社会教育主事の資格を有する者が、公民館、青年の家など、社会教育施設の職員として、専門的な活動を行うことも少なくありません。

社会教育主事になるためには、いくつかの基礎資格が必要です。本学の社会教育主事課程は、「大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、且つ、大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者で、1年以上社会教育主事補等の職にあった者」とする社会教育法の規定が該当します。換言すれば、大学において文部科学省令で定めた「社会教育に関する科目の単位」を修得している者は、社会教育主事補等の職について1年以上たてば、社会教育主事になる資格を得ることができます。

社会教育主事課程の詳細は、教職キャリアセンター（教育学部棟1階）にお問い合わせください。なお、申し込みを1年次に行う必要があります。

第Ⅸ章 各種システムの利用について

1. 学内のICT環境（パソコン教室・プリンタの利用）

(1) パソコン設置場所について

学内でパソコンを使用できる場所、及び開室時間は以下の通りです。なお、授業でパソコン教室を使用する場合もありますので、注意してください。また、長期休業期間中など、開室時間や利用できる場所が変更となる場合があります。パソコン教室の開館時間は、ポータルサイト内、又はIT Support Desk ホームページ (<https://itsupport.soka.ac.jp/>) に掲載されています。

建物名	教室名	開室時間（通常授業期間）
中央教育棟	AW202 (SPACe 内)	SPACe の開館時間に準じます
	AW201、AE252、AE253、AE255、AE257、AE258、AE259、AE260、AE354、AE355	平日…9:00～20:30 土曜日…AE257 教室のみ利用可 (9:00～17:00) 日・祝日…閉室
教育学部棟	B201	平日 9:00～19:30 のみ ※土・日・祝日は閉室
本部棟	M101	平日 9:00～18:00 のみ ※土・日・祝日は閉室
理工学部棟	E307 教室 ※原則として理工学部生のみ利用可	平日…9:00～20:30 土曜日…9:00～12:00 日・祝日…閉室
図書館	中央図書館 フレイザー図書館（理工学部棟内） 白樺図書館（看護学部棟内）	図書館のホームページで確認してください。

※上記の教室は授業で使用することがあります。授業時はその教室は使用できませんのでご注意ください。

(2) プリンタの使用について（印刷サービス）

パソコン教室にはレーザープリンタを設置しており、学内のパソコンからこれらのプリンタを使用して印刷を行うことができます。なお、学生1人が無料で印刷を行うことができる枚数は以下の通りです。

無料で印刷が可能な枚数を使い切ってしまった場合は、証明書自動発行機で「追加印刷申請書」を購入し、中央教育棟にあるAE254 コンサルテーションルームにて手続きを行うことで印刷可能枚数を追加することができます。

印刷可能枚数	入学時に 800 ポイントが付与されます ※白黒印刷では1枚につき1ポイント、カラー印刷では1枚につき3ポイント消費します。すべて白黒片面印刷で使用了場合は、在籍中に800枚印刷することができます。印刷可能枚数の残数は、パソコン教室に設置しているパソコン上で確認することができます
印刷可能枚数の追加	証明書自動発行機で「追加印刷申請書(1,000円)」を購入し、AE254 コンサルテーションルームに提出することで、100ポイント追加することができます。なお、追加印刷申請書を購入する際は学生証が必要です。

※カラー印刷を行うことができるのは、AE252 教室、AE257 教室、E307 教室のみです。

※両面印刷を行った際は、1ページにつき1ポイント（1枚で2ポイント）消費します。

※個人が所有するスマートフォンやタブレットから、パソコン教室に設置しているプリンタへ直接印刷を行うこともできます。詳しくはIT Support Desk のホームページを参照してください。なお、この場合も、通常と同様にポイントを消費することとなりますので注意してください。

2. ユーザ ID について

創価大学のコンピュータ施設や各種 WEB サービスを利用するためには、学生個人に付与されたユーザ ID とパスワードが必要です。ユーザ ID は以下のように設定されています。

【ユーザ ID】 e + 学籍番号（例：e2401000）

- ・ 大学が付与するメールアドレスは、ユーザ ID@soka-u.jp（例：e2401000@soka-u.jp）となります。このメールアドレスは、後述する Google Workspace サービスやメールアドレスを ID として使用するアプリケーションにログインする際に使用しますので、併せて覚えておきましょう。
- ・ 大学が付与するアカウントは、在籍期間中のみ利用できます（卒業・退学後は削除されます）。
- ・ 転学部・転学科や再入学により学籍番号が変わった際は、このユーザ ID も新しい学籍番号のものに変更されます。

3. パスワードについて

(1) パソコンや各種 WEB サービスで利用するパスワード

学内に設置されているパソコン、学内無線 LAN、ポータルサイトなどの web サービス、大学が提供しているメールサービスにログインする際に使用するパスワードは各自で設定したものを使用します。各種インターネットサービスに大学のメールアドレスを登録する必要がある場合は大学のパスワードとは違うものを指定してください。大学のパスワードを変更する場合は以下の手順で行います。

■パスワード変更手順

- ① ポータルサイトにログインし、左側メニューの「個人」→「ツール・リンク集」をクリック
- ② 学内情報サービス欄の「パスワード変更」をクリックし、画面の案内に従ってパスワードを設定

The screenshot shows the portal site interface. On the left, the '個人' (Personal) menu is expanded, and 'ツール・リンク集' (Tools & Links) is selected. The main content area displays a 'ツール・リンク集' (Tools & Links) section with various service categories. Under the '学内情報サービス' (Institutional Information Services) category, the 'パスワード変更' (Change Password) link is highlighted with a red box. A red arrow points from the '個人' menu to this link.

(2) 証明書自動発行機を利用する際のパスワード

証明書自動発行機を使用する際は、入学手続き時の「学籍番号決定通知」に記載されている4桁の暗証番号を使用します。この暗証番号を変更することはできません。なお、この4桁の暗証番号は、ポータルサイト内で確認することができます。

■暗証番号の確認方法

- ① ポータルサイトにログインし、メニューの個人の中にある「個人環境設定」をクリック
- ② 画面上部の「自動証明書発行機用 暗証番号」欄に暗証番号が表示されます

4. 学内無線 LAN の利用について

本学の学生は、大学が提供する学内無線 LAN (SSID : SOKAWiFi (*)) を経由し、インターネットを利用することができます。学内無線 LAN に接続するためには、ユーザ ID とパスワードを毎日入力する必要があります。

なお、本学の学内無線 LAN は、学習に必要なインターネット環境を提供することを目的として設置しているものです。皆が快適に利用できるよう、学習とは無関係な目的（学習とは無関係の動画をインターネットで視聴する、等）で学内無線 LAN を利用することは控えてください。

* SSID は変更する場合があります。変更の際は、ポータルサイトのお知らせや IT Support Desk ホームページ (<https://itsupport.soka.ac.jp/>) で案内します。

5. Google Workspace サービスについて

本学では、学生用のメール及び個人用のデータを保存するフォルダを、Google 社が提供する「Google Workspace for Education」を通じて提供しています。提供されている具体的なサービスは以下の通りです。これらの機能は、在籍期間中のみ使用できます。

特にメールについては、教員や事務局からの連絡に用いられていますので、1日1回はメールを確認するようにしましょう（スマートフォンを使用している方は、Gmail アプリなどを使用すると便利です）。

■ Google Workspace で利用できるサービス

メール (Gmail)	メールアドレス (ユーザ ID @soka-u.jp)
個人フォルダ (Google ドライブ)	soka-u.jp 以外の人とはファイル共有できません。
カレンダー	soka-u.jp の人同士でカレンダーが共有できます。
ビデオ通話・チャット (Google Meet)	グループでビデオ通話やチャットができます。 soka-u.jp 以外の人とも利用可能です。
メーリングリスト機能 (Google グループ)	自由にメーリングリストを作成できます。 soka-u.jp 以外のアドレスも登録できます。
ホームページ機能 (Google サイト)	本機能の利用は申請制です。次のアドレスから申請してください。 http://goo.gl/forms/jkDcNIUbfJ (アクセス時にログインを求められる事があります) 作成したサイトには soka-u.jp のアカウントを持っている人しかアクセスできません。

■ Google Workspace サービスの利用方法

Google Workspace サービスを利用する際は、以下のサイトにアクセスし、ログインします。ログインする際のアカウント名とパスワードは以下の通りです。ログイン後、メール一覧の画面が表示されれば、Google Workspace が利用可能な状態です。各サービスの詳細な利用方法については、IT Support Desk ホームページ (<https://itsupport.soka.ac.jp/>) を参照してください。

- Google Workspace サイト : <http://mail.soka-u.jp>
- アカウント名 : メールアドレス (ユーザ ID @soka-u.jp)
- パスワード : ポータルサイトなどにログインする際に使用するもの

6. 学習支援ポータルサイト「PLAS」について

学習支援ポータルサイト「PLAS」とは、授業や学生生活に関する情報、授業課題の提出やイベント等の申し込みなど、学生生活を送る上で必要な情報や機能を集約した WEB サービスです。このポータルサイト「PLAS」は学生生活の中で日常的に使用しますので、ブラウザのブックマーク機能などにより簡単にアクセスできるようにしておくことをおすすめします。

(1) 学習支援ポータルサイト「PLAS」へのアクセス方法

学習支援ポータルサイト「PLAS」へは、創価大学のホームページ（<https://www.soka.ac.jp/>）、又は以下の URL をブラウザに入力することでアクセスできます。

<https://plas.soka.ac.jp/> パソコン、スマートフォンどちらでもアクセス可能です。

※ポータルサイトへアクセスする際は以下のブラウザを使用してください（これ以外のブラウザは動作保障していません）

- ・ Microsoft Edge
- ・ Google Chrome
- ・ Safari
- ・ Firefox

ポータルサイトへアクセスすると、下図のようなログイン画面が表示されます。自分のユーザ ID（e + 学籍番号）とパスワードを入力し、「ログイン」をクリック（タップ）します。

■学習支援ポータルサイト「PLAS」ログイン画面

この欄にユーザ ID とパスワードを入力しログインをクリックすることで PLAS が提供する各種サービスを利用できます

表示言語を「日本語⇄英語」と切り替えることができます

「Google Workspace」へはここからアクセスすることができます

重要なお知らせがこちらに掲載されますので必ず確認してください

利用上の注意

- ご使用のブラウザについて
ご使用のブラウザ等の環境により、正しく表示されない可能性があります。その場合、別のブラウザアプリをお試しください。
- 二重ログインの禁止
ポータルサイトは、複数ウィンドウや複数タブで同時にログインし操作すると、一方の操作によって生成されるブラウザ内部の保持情報の影響により、他方が誤動作する可能性があります。上記の理由により、複数のウィンドウや複数のタブによる二重ログインはしないで下さい。
- 操作についての注意
「進む」・「戻る」ボタンは使用しないで下さい。
- ポータルサイト利用停止時間のお知らせ
ポータルサイトでは、毎日午前 1 時～午前 4 時にかけてデータ更新処理を行っているため、その時間帯は利用できません。ご了承ください。
- 自動強制ログアウトについて
ポータルログイン後、同じ画面のまま一定時間そのままにしておくと、自動的に強制ログアウトします。

■スマートフォンでアクセスした場合の画面

スマートフォンでアクセスした場合のログイン画面は右図の通りです。パソコンと同様、ユーザ ID、パスワードを入力し、「ログイン」をタップすることでパソコンと同様のサービスを利用することができます。

この欄にユーザ ID とパスワードを入力しログインをクリックすることで PLAS が提供する各種サービスを利用できます

ユーザ名

パスワード

ログイン

通教 学光ポータルはコチラ

(2) 学習支援ポータルサイト「PLAS」の利用方法

ポータルサイト「PLAS」にログインすると、下図のような画面が表示されます。

① 使用頻度の高い利用メニュー

日常的に使用頻度の高い機能については、このエリアにメニューとして表示されています。特に「履修・成績システム」は、セメスターごとの履修登録や成績確認等で必ず必要となる機能です。また、「履修授業一覧」は、授業教材や授業課題の提出等、日常的に利用する機会が多い学習支援の機能ですので、必ず目を通しておいってください。

② 利用メニュー

画面の左側には、ポータルサイト「PLAS」で利用できる各種サービスの一覧が表示されています。それぞれのサービスの概要は次のページの通りです。

③ 新着情報

このエリアには、学生の皆さんに関わる様々なお知らせや連絡事項が表示されています。特に「お知らせ」「個人宛連絡」「教員からの講義連絡」については日々更新されていきますので、最低1日1回は確認してください。また、時期により、バナー表示で重要なお知らせが掲載される場合もあります。

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| ・重要なお知らせ | 全学的に周知される重要な連絡事項を確認できます。 |
| ・ピックアップ | 後で確認するためにピックアップした連絡内容を一覧で確認できます。 |
| ・お知らせ | 学生生活に関する学内向けのお知らせをカテゴリー別に確認できます。 |
| ・個人宛連絡 | 各窓口からのお呼び出し等、学生個人宛の連絡事項を確認できます。 |
| ・休講・補講・教室変更 | 履修授業の休講・補講・教室変更の情報を確認できます。 |
| ・授業フォーラム | 履修授業で実施されている授業フォーラムの発言状況を確認できます。 |
| ・講義連絡 | 履修授業の担当教員からの講義連絡を確認できます。 |
| ・図書館利用情報 | 図書の貸出・延滞情報等、現在の図書館利用状況を確認できます。 |

■学習支援ポータルサイト「PLAS」の主なサービス

メニュー名	機能	
教えて SOBIT	ポータル内のメニュー検索や教室の場所を案内します。	
ログアウト	ポータルサイトからログアウトします。	
各施設の開館時間	学内施設の開館スケジュールを確認できます。	
お問い合わせ	学生生活における様々な質問について、このお問い合わせフォームからオンラインにて行うことができます。	
授業課題	学習支援機能を使って出された課題情報を確認できます。	
オンライン授業	現在履修している授業で、本日開催されるオンライン授業を確認できます。	
オンライン試験	現在履修している授業で、オンラインで実施される定期試験の情報を確認できます。	
履修授業一覧	現在履修している授業の一覧が表示されます。また、科目名をクリックすることで、各授業の学習支援機能を利用できます。	
履修・成績システム	住所変更、履修登録、成績確認、単位認定申請などを行うことができます。	
個人メニュー	シャトルバス予約	新宿一大学間のシャトルバスの予約ができます。
	学内募集情報一覧	現在募集が行われている学内イベント情報の一覧の確認と申し込みを行うことができます。
	アンケート一覧	ポータルサイトを通じて行われるアンケートの一覧と回答状況を確認できます。
	ツール・リンク集	学内サービスやサイトへのリンクが掲載されています。
	個人環境設定	携帯電話番号、携帯メールアドレスの登録と転送設定、暗証番号の確認、ポータルサイトのデザインの変更を行うことができます。
学習支援メニュー	シラバス検索	授業のシラバスを検索できます。
	web 時間割	時間割表や時間割の変更情報を確認できます。
	授業実施計画	年間の学事日程を確認できます。
	履修要項	入学時に配布された履修要項を閲覧できます。
	定期試験情報	現在履修登録している授業の学期末定期試験情報を確認できます。
	授業アンケート回答	授業中に実施される授業アンケートの回答を行えます。
	授業アンケート結果	履修した授業の授業アンケート結果及び担当教員からのコメントを確認できます。なお、履修授業以外のアンケート結果はシラバスで閲覧可能です。
	出席状況照会	現在履修登録している授業の出席状況を確認できます。
	教員出講表示	教員が大学に出講しているかを確認できます。
	オフィスアワー検索	教員のオフィスアワーを検索することができます。
	学生ポートフォリオ	自分の学生生活における目標や活動内容を記録し、振り返りやレビューを受けることができます。
	コラボテスト	作問演習を通じ、学生間あるいは、教員と学生がお互いに協調学習を進めるシステムです。
	科目ガイダンス映像	事前に収録された科目のガイダンス映像を閲覧できます。
情報リンク	WEB メールサービス	大学が付与している G-mail を利用できます。
	教員紹介・教員メール	専任教員のメールアドレスを確認することができます。
	キャンパスマップ	学内の各建物の場所を案内します。
	創立者の語らい	大学が提供する「創立者の語らい」デジタル版の閲覧方法を確認することができます。
	創立の精神を学ぶ	大学が提供する「創立の精神を学ぶ」デジタル版の閲覧方法を確認することができます。
	学生生活ハンドブック	創大生として知っておくべき情報をまとめた「学生生活ハンドブック」を閲覧できます。
	学生生活ポリシー	創大生が学生生活を送る上で気を付けていただきたい内容を「学生生活ポリシー」としてまとめています。
各種申請関係	現在ポータルで受け付けている各種申請の一覧が表示されます。	
マニュアル	ポータルサイトなどの利用方法に関するマニュアルを閲覧できます。	

教えて SOBIT!!

履修登録、AB101 など

探したいメニューや教室の場所をご案内します。

☞ ログアウト

各施設の開館時間

お問い合わせ

検温記録システム

授業課題

オンライン授業

オンライン試験

🔍 履修授業一覧 (学習支援機能) >

📊 履修・成績システム >

メニュー表示履歴 >

個人 ^

シャトルバス予約 >

学内募集情報一覧 >

アンケート一覧 >

ツール・リンク集 >

個人環境設定 >

学習支援 ^

シラバス検索 >

web時間割 >

授業実施計画 >

履修要項 >

定期試験情報 >

授業アンケート回答 >

授業アンケート結果 >

出席状況照会 >

教員出講表示 >

オフィスアワー検索 >

学生ポートフォリオ >

コラボテスト >

科目ガイダンス映像 >

情報リンク ^

WEBメールサービス >

教員紹介・教員メール >

キャンパスマップ >

食堂の混雑状況 >

創立者の語らい >

創立の精神を学ぶ >

学生生活ハンドブック >

学生生活ポリシー >

各種申請関係 ^

公欠申請 >

合理的配慮申請 >

各種申請書類 (学生課) >

マニュアル ^

ポータルサイト機能概要 >

ポータル利用マニュアル >

web時間割マニュアル >

履修成績システム >

シャトルバス予約方法 >

各種システムの
利用について

7. 履修・成績システム [通称：Campus Square] について

ポータルサイト「PLAS」で「履修・成績システム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。ここで提供される機能は以下の通りです。なお、各メニュー項目の具体的な使用方法はポータルサイト「PLAS」に掲載されているマニュアルを参照してください。

CAMPUSSQUARE

HOME

学生情報

WEB時間割

履修

成績

介護等体験

健康管理

就職・キャリアカ
テ

お知らせ

[15] 各事務室からのお知らせ/Announcement from the office

- 学部生の方へ / To Undergraduate Students
- 大学院（経済学・法学・文学・国際平和学研究科）の方へ / To Students in Graduate School of Economics, Law, Letters, and International Peace Studies
- 大学院（工学研究科）の方へ
- 法科大学院生の方へ

2024年4月1日 教務課/短大事務室/学事第2課(大学院係)/理工学部事務室/法科大学院事務室

■履修・成績システム [Campus Square] で提供される機能

タブ項目	メニュー項目	説明
HOME	お知らせ	履修に関するお知らせを確認することができます。
学生情報	学生情報参照 学生住所変更	自分の学生情報を閲覧することができます。 学生、保証人、学費納付者の住所、電話番号の変更を行います。
WEB 時間割	WEB 時間割	時間割を確認することができます。
履修	履修登録	履修登録・修正・取消を行います。
	履修状況照会	履修登録した科目と単位修得状況を確認できます。
	取得予定教員免許状申請	申請した教員免許状の種類を確認できます（教職課程登録者のみ）。
	副専攻登録	副専攻の登録を行います。
	メジャー登録	メジャーの登録を行います（文学部生のみ）。
	卒業希望セメスター登録	卒業を希望するセメスターの登録を行います（早期卒業対象者のみ）。
	演習申請	ガイダンス参照
演習申請		所属を希望するゼミの登録を行います。
演習申請照会		申請したゼミとその選考結果を確認することができます。
成績	履修状況照会	履修登録した科目と単位修得状況を確認できます。
	成績状況照会	これまでの成績評価と単位修得状況を確認できます。
	成績評価に関する質問票	成績に関する質問票の提出を行うことができます。
	単位認定申請	検定試験単位認定申請
放送大学出願申請		放送大学の授業履修の出願を行うことができます。
単位認定申請管理		自分が行った単位認定申請の一覧を確認することができます。
介護等体験	介護等体験不可日登録	介護等体験に参加できない日程の登録を行います（教職課程登録者のみ）。
	介護等体験日程確認	介護等体験の日程を確認することができます（教職課程登録者のみ）。
健康管理	健康診断結果参照	大学で受診した最新の健康診断の結果を確認することができます。
就職・ キャリアカルテ	進路希望入力	希望する進路や、これまで取得した資格などの情報を登録することができます。

8. 出席状況の確認方法について

「第Ⅲ章 3. 授業の出席と公欠制度」(P.15~17)に記載されている通り、創価大学では、授業の出席を学生証によって記録しています。記録された情報は、ポータルサイト「PLAS」内の「出席状況照会」および「出席確認システム」で確認することができます。

■出席状況照会について

出席状況照会では、出席状況の概要を確認することができます。ポータルサイト「PLAS」にログインして「出席状況照会」をクリックします。ここでは、以下の情報を確認することができます。

- ① 当該セメスターの出席状況
- ② 授業単位の出席状況
- ③ 最新1週間の出席状況
- ④ 過去セメスターの出席状況

各コマは授業の出席状況に応じて色で表現されており、当該セメスターの出席状況の全体感を知ることができます。また、各コマをクリックすることで、各授業の詳細な出席状況も確認できます。

なお、この情報は前日までの出席記録をもとに集計されています。当日の情報や出席時刻・欠席率など、更に詳しい情報については、次項の出席確認システムをご利用ください。



■出席確認システムでの確認方法

出席確認システムでは、当該年度の詳細な出席記録を確認できます。出席状況照会の画面から「出席確認システム」をクリックし、出席確認システムを表示します。以下の手順で詳細な出席記録を確認できます。

- ① 左側の学生用メニューにある「授業・出席情報一覧」をクリックします。
- ② 上段の「期間」「授業科目名」「表示種別」を選択し、「表示」をクリックします。
※表示種別では、「履修科目のみ」を選択すると履修登録をした授業のみ、「未履修者科目を含む」を選択すると、履修登録の有無に関わらず、学生証をタッチした授業すべてが表示されます
- ③ 下段にそれぞれの授業の出席記録が表示されます。なお、下段の「表示区分」で、学期を指定して表示を絞り込むことも可能です。また、授業科目名をクリックすると、その授業の学生証をタッチした時刻などの詳細を確認することができます。
- ④ 閲覧を終了するときは、右上の「ログアウト」をクリックしてからブラウザを閉じてください。

2023/02/21 現在の出席状況です。表示区分: [赤字]

授業科目名	回数		欠席率 (%)		内訳												
	出席	欠席	遅刻	公欠	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月2-実習日本学への招待-湧山 慧二	13	2	0	87	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
月3-人間教育論:創価教育学講座,創価教育論-堀坂 祐希	13	2	0	87	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
火1本2-現代経済史-西田 裕史	26	4	0	87	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

③出席記録が一覧で表示されます

■出席確認システムに関する注意事項

- ・履修情報は、履修登録を行った翌日に出席確認システムへ反映されます。したがって、履修登録直後は履修情報が出席確認システムへは反映されませんので注意してください。
- ・遅刻として記録される時間は、授業担当教員が任意に設定することができるため、授業により異なります。なお、初期設定は「授業開始 15 分後から 15 分間」です。
- ・誤って別の教室（授業）で学生証をタッチしてしまった場合は、改めて正しい教室（授業）でリーダーに学生証をタッチしてください。
- ・公欠は、授業担当教員に公欠願を提出した後、教員がその公欠情報を出席確認システムに入力します。各教員が公欠情報を入力した段階で「公」と表示されます。教員が公欠を入力したタイミングにより、欠席回数のお知らせメールが先に送信されることがありますのでご了承ください。
- ・**学生証を忘れた場合は、授業開始前に授業担当教員に申し出てください。**授業終了後に申し出た場合は原則として「欠席」として扱われますので、注意してください。

9. 学生ポートフォリオについて

「学生ポートフォリオ」は、創価大学に集った学生が教員や学生同士のつながりを通して、充実した学生生活を送ることができるよう開発された新しい取り組みです。

このシステムを使って、学習・生活についての目標を具体的に設定し、さらにその達成状況を週間・月間・ Semesterごとに振り返ることで、より良い学習習慣と PDCA (Plan, Do, Check, Act) のリズムを身につけることができます。

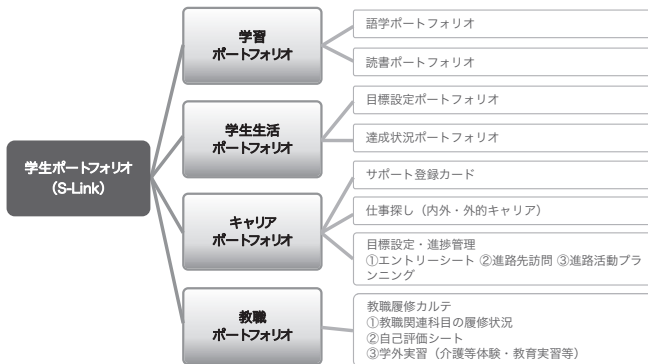
またこのシステムの特徴として、自身の記録に対して教員からのフィードバックや学生同士のグループによる意見交換が行われます。教員や学生同士のつながりを活かしながら、自身の学習・生活スタイルを発見してください。

■学生ポートフォリオの主な機能

- (1) 学習ポートフォリオ
語学学習の履歴、読書履歴を記録し、振り返ることで、自身の学習習慣を身につけることができます。
- (2) 学生生活ポートフォリオ
目標設定として、学生生活4年間とSemester単位の目標を設定し、それを達成するための1週間の生活リズムを計画していきます。また、達成状況として、1週間の活動記録、1ヶ月の活動記録、Semester目標に対しての振り返りを行っていきます。
- (3) キャリアポートフォリオ
キャリア開発をサポートするための情報として、サポート登録カードやエントリーシートの登録を行います。そして、進路実現をサポートするための進路計画を設定していきます。



詳しくは「学生ポートフォリオ」のサイト内にマニュアルが用意されていますのでご利用ください。



第X章 学内の学習支援施設について

1. 中央図書館

(1) 図書館の利用について

① 開館日程

基本的な開館時間は下記の通りです。開館日程については図書館のホームページで確認してください。

期間	曜日	開館時間
授業期間中	平日	8:30～21:00
	土曜日	9:00～21:00
	日曜日	10:00～17:00

※天候による影響や感染症対策等のため臨時休館する場合があります。

その際は図書館ホームページなどでお知らせします

② 入館方法

図書館に入館する際は学生証が必要です。図書館入館ゲートのカード読み取り機に学生証をかざすことで入館することができます。

③ カウンターでのサービス

■サービスカウンター

図書の貸出・返却、貸出申請した予約図書、短大図書の受け取り、レファレンスサービス（質問相談）ができる総合受付カウンターです。また、ノートパソコン、個人閲覧室、ラーニング・commonsなどの機器や施設の利用申込みも受け付けています。

■書庫利用カウンター

書庫への入庫（入庫資格がある方のみ）、書庫内資料の出庫依頼を行うカウンターです。その他、視聴覚資料（CD・DVD）の館内閲覧や4階の視聴覚コーナーの利用申請、学習用ヘッドホン、電子辞書の館内貸出を行っています。

④ 資料を探す

本学に所蔵する資料は、図書館ホームページで検索することができます。資料には請求記号（分類番号000～999 + 著者名アルファベット）が付与されており、図書館の書架にはその順番で資料が並べられています。これ以外に、各コーナーに配架している資料もありますので、資料を探す際は、請求記号と配架場所を確認してください。

⑤ 書庫資料（閉架）について

書庫にある資料は、出庫依頼をすることで館内閲覧や貸出をすることができます。書庫に入庫するためには、書庫利用講習会を受講する必要があります。この講習会の日程は図書館のホームページに掲載しています。なお、出庫依頼は蔵書検索結果の画面から行うことができます。

⑥ 資料の貸出予約について

貸出中の資料は、蔵書検索詳細結果の画面から予約を行うことができます。予約した資料が貸出可能になりましたら、大学が付与するメールアドレス宛にお知らせします。なお、予約資料の取り置き期間は1週間です。

⑦ 貸出について

サービスカウンターで資料と学生証を提出してください。カウンター右の自動貸出機も利用できます。ただし、延滞している資料がある場合は新たな貸出を行うことができませんので注意してください。

■貸出冊数と貸出期間

貸出冊数	20冊まで
貸出期間	2週間

※貸出冊数は中央図書館、理工学部フレイザー図書館、看護学部白樺図書館、短大香峯図書館の合計冊数です。

※CDは3点まで1週間借りることができます。CDも貸出上限冊数の中に含まれます。CDの返却は必ずカウンターで行ってください。

※夏休み、春休み期間は「長期貸出」を実施します。日程や貸出期間などは図書館ホームページ等でお知らせします。

■更新について

貸出図書の返却期限を延長することができます。申請は、図書館のホームページ、又はポータルサイト内の「My Library」から行うことができます。申請は必ず返却期限日までに行ってください。

なお、以下の場合は貸出期間を延長することができません。

- ・他に延滞している資料がある、又は延滞罰則期間中
- ・延長を希望する図書に予約がかかっている場合
- ・CD
- ・語学学習用の雑誌
- ・短大所蔵の図書
- ・限度回数以上の更新申請

更新回数	3回まで
更新後の貸出期間	更新した日から2週間

■以下の資料は借りることができません

- ・禁帯出マークのある図書
- ・新聞・雑誌
- ・参考書・統計資料・法律資料
- ・DVD・ビデオ
- ・池田文庫
- ・創立者著作コレクション



禁帯出



参考書



創立者著作コレクション

⑧ 返却について

サービスカウンターに返却期限日までに返却してください。また、学内4か所（中央図書館入口、中央教育棟1階南側入口、本部棟4階東側入口、理工学部E棟入口）に設置している返却ポストを利用することもできます。返却ポストに投入した場合は、平日の翌開館日に返却手続きを行いますのでご注意ください。

なお、CDについては破損の恐れがあるため、必ずサービスカウンターに返却してください。

⑨ 延滞罰則について

貸出図書を延滞している場合は、図書の館外貸出、更新貸出、予約申請、短大図書の貸出申請ができません。また、以下の罰則及びサービスの制限（禁止）があります。

延滞日数	8日以上31日以内	32日以上
貸出禁止期間	7日間	31日間

8日以上延滞図書がある場合は、上記の制限に加えて以下のサービス利用が制限（禁止）されます。すべての延滞図書が返却された時点で、以下の制限（禁止）が解除されます。

- 図書の購入依頼申請
- 書庫内資料の館内閲覧
- 中央図書館書庫への入庫
- ミーティングスポット・個人閲覧室の利用申込
- 視聴覚資料の館内閲覧
- ノートパソコンや電子辞書の館内貸出
- 他大学図書館の利用申請
- 図書館が主催する各種ガイダンスの受講

⑩ 資料の弁償について

図書を紛失・破損・汚損した場合は、次のいずれかの方法で弁償をしていただきます。サービスカウンターで手続きしてください。

■現金での弁償

図書の価格が2,000円未満の場合は2,000円、それ以上の価格は1,000円未満を切り上げた金額となります。

■現物での弁償

現物で弁償する場合は、紛失・破損した図書と同じ図書をお持ちください。

⑪ 購入希望図書の申請

「創価大学図書館図書選書方針」に基づき、教育・研究・学習上必要な図書で所蔵がない場合に、年間推薦限度額の範囲内で購入を希望する図書を申請できるサービスです。購入が見送られる場合もありますのでご了承ください。利用できるようになった時点で、メールにてお知らせします。なお、雑誌と視聴覚資料など対象外の資料があります。詳しくは図書館のホームページで確認してください。

(2) 図書館でのマナー

- ・ ラーニング・コモンズ、ブラウジングルーム以外ではお静かに、私語はお控えください。
- ・ 指定場所以外での飲食は厳禁です。
- ・ 盗難防止のため、貴重品は必ず携行してください。
- ・ 館内での携帯電話の通話はブラウジングルーム以外では禁止です。電源を切るかマナーモードに設定し、他の利用者の迷惑にならないようにしてください。
- ・ 図書への書き込み、アンダーラインはしないでください。
- ・ 資料や備品は大切に扱ってください。汚損・破損等については弁償していただくこととなります。
- ・ 貸出手続きをしていない資料を館外へ持ち出すことはできません。カウンターで必ず貸出手続きをしてください。
- ・ 試験期間等の混雑時にパソコンを利用する際は、学習のための利用を優先してください。

(3) My Library について

「My Library」とは、図書館の利用状況などを確認・変更することができる個人ページです。My LibraryのユーザID及びパスワードは、ポータルサイトで利用するものと同一です。My Libraryでは、以下のサービスを利用することができます。

- ・ 貸出・予約状況
- ・ 希望資料申請
- ・ 新着資料通知登録
- ・ 貸出履歴
- ・ 雑誌検索
- ・ 他大学の訪問利用申請

(4) 図書館が行う学習支援サービス

① レポート相談

1階ラーニング・コモンズで、SPACE日本語ライティングセンターのスタッフがレポートの書き方等についてサポートします。

日時は図書館ホームページをご確認ください。

② 調べものの相談

必要な文献や情報を手に入れることができるよう支援するサービスです。1階のレファレンスカウンターでお問い合わせください。

③ 他大学図書館からの資料取り寄せ

本学に所蔵していない資料は、他機関から借用又は複写したものを取り寄せることができます。また、それを所蔵する他機関の図書館を直接訪問し、利用することもできます。詳しくはサービスカウンターまでお問い合わせください。

④ データベースの利用

約 70 種類の契約データベースにアクセスできます。学内のネットワークに接続されたパソコンで、図書館のホームページの「データベース」から利用できます。

⑤ 各種ガイダンス

中央図書館では、さまざまなガイダンスや講習会を開催しています。詳しい日程などはポータルサイトや図書館ホームページを通じてお知らせします。

■ SOKA BOOK WAVE（全学図書運動）

SOKA BOOK WAVE (SBW) とは、創立者池田大作先生が提唱される「活字文化復興」を実現するため、創価大学・創価女子短期大学から「読書の波を起こそう！」との学生の熱意で始まった本学独自の全学読書運動です。SPACE や図書館、SBW が開催する各種講座に参加したり、図書の感想文や書評を提出し、承認されると SBW のポイントを獲得できます。ポイントをためると図書カードと交換することができます。

また、学内外講師を招いての講演会や読書イベント、大学祭期間に開催する読書展など、1 年を通じて様々な企画を行っています。

この SBW への参加を希望する場合は、SBW のホームページでユーザ登録を行ってください。

■ SOKA BOOK WAVE ホームページ <http://lib.soka.ac.jp/sbw/>

(5) 分館について

学内には、中央図書館以外にも図書館があります。利用方法は以下の通りです。開館時間は図書館ホームページでご確認ください。

※法科大学院図書室は法科大学院生専用のため、学部生が利用することはできません。

① 理工学部フレイザー図書館

直接図書館へ行って利用することができます。図書の貸出・返却などの基本的なサービスは中央図書館と同じです。

② 看護学部白樺図書館

直接図書館へ行って利用することができます。なお、看護学部以外の学生は開館カレンダーを確認の上、スタッフ在籍の時間帯にご来館ください。図書の貸出・返却などの基本的なサービスは中央図書館と同じです。

③ 短大香峯図書館

中央図書館を通じて 5 冊まで、2 週間借りることができます。ただし、参考書・雑誌・視聴覚資料は借りることができません。

申請は、蔵書検索結果の画面から行います。中央図書館カウンターでの取り置きは、指定した貸出希望日の午後のみです。申請時に注意事項を必ず確認してください。

なお、短大所蔵図書は宅配及び更新貸出はできません。

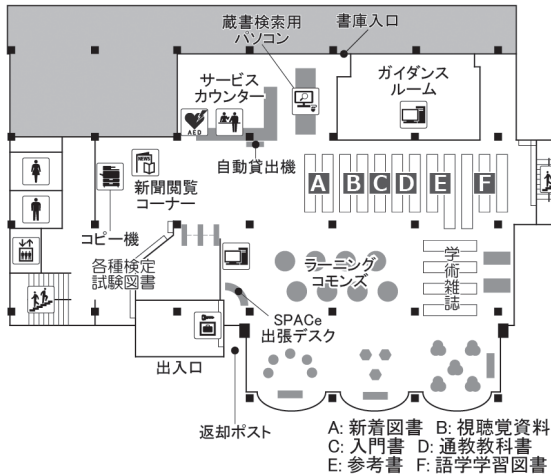
※学部生は、直接香峯図書館に行って利用することはできません。

(6) 中央図書館 館内案内図

■ 1階

各種カウンター、ガイダンスルーム、パソコン46台が設置されています。

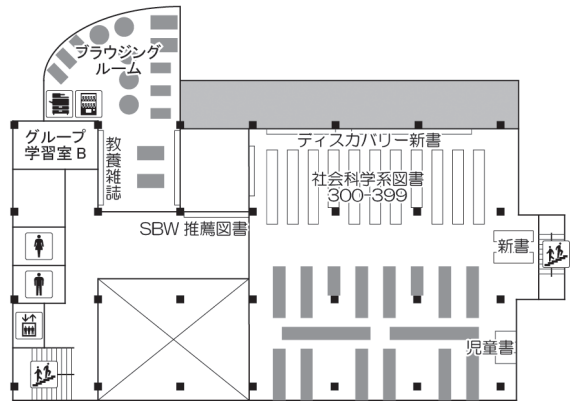
資料は各種試験図書、視聴覚資料、学術雑誌等が備え付けられています。



■ 2階

ブラウジングルーム内には、CD試聴機・教養雑誌・自販機が設置されています。

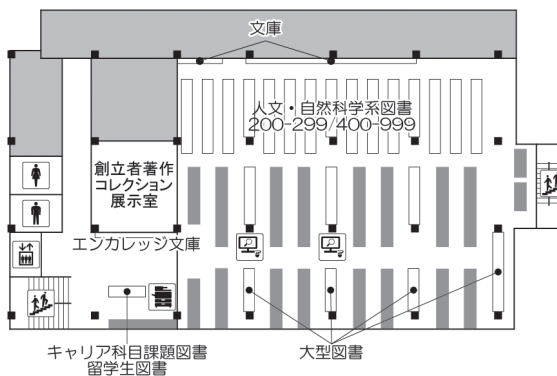
閲覧室内は、社会科学関係図書・新書・児童図書等が設置されています。



■ 3階

閲覧室には人文・自然科学系図書、大型図書、文庫コーナーを設置しています。

また、「創作者著作コレクション展示室」も3階に設置されています。

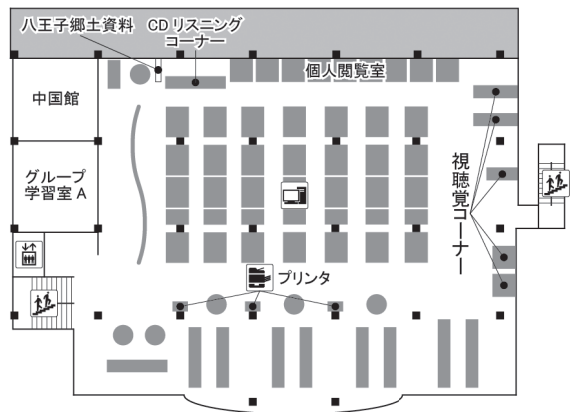


■ 4階

高い天井、開放感あふれる閲覧室です。

ここは主にパソコンや視聴覚資料を利用する場所です。

個人閲覧室があります。



2. ラーニング・コモンズ『SPACE』 / WLC Self-Access Center

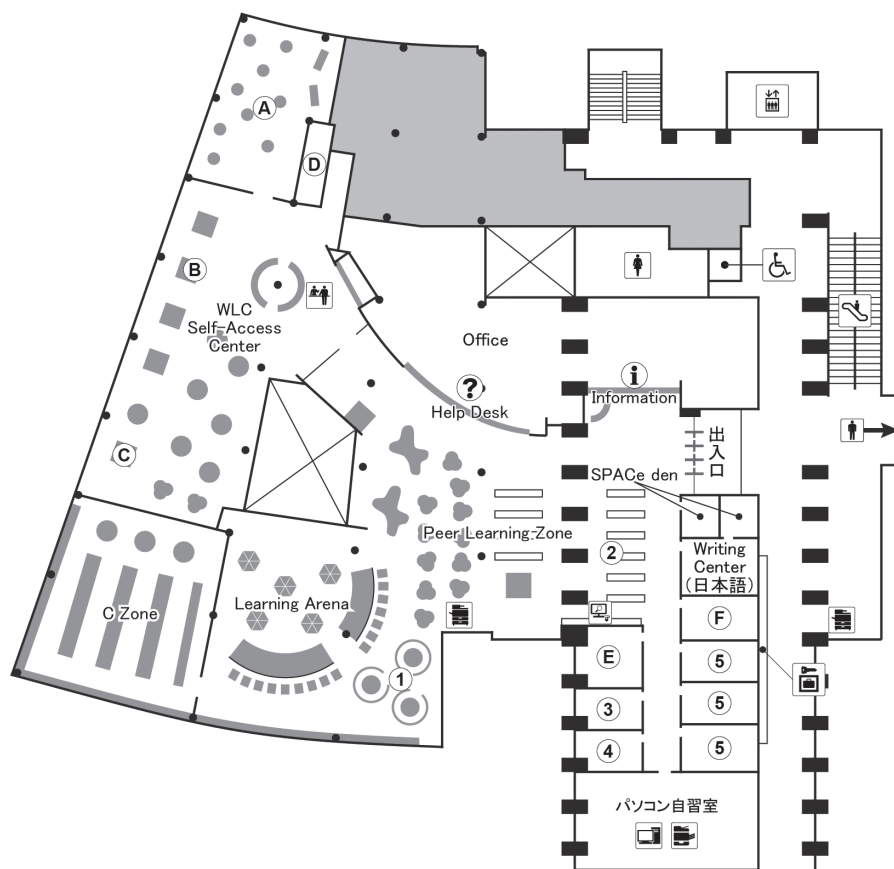
(1) 『SPACE』とは

SPACEは、学部生や院生、留学生、教職員が各自の考えや経験をいかし、互いの学びをサポートしあう場所です。また、みなさんが仲間とともに、自由な発想で利用できる空間でもあります。

人は新しい情報に出会うとアイデアをひらめきます。そのアイデアを、人は友達との会話や書籍などでより深くし、ひとつのカタチにしてさまざまな人に発信します。SPACEは、この「クリエイティビティのリンク」活動を活発にするだけでなく、学習を身近にする場ときっかけをつくります。そして、アクティブな学びに導くことで、みなさんの可能性を引き出したいと考えます。

SPACEのサポート体制は、人・施設・コンテンツ面と多岐にわたります。学部生、院生、留学生、教職員…さまざまな立場の人がここではみなさんの仲間です。わからないことがあれば気軽に尋ねることができ、時には未知の世界にも踏み込むことができます。プレゼンのためのツール、書籍やメディアなども充実。みなさんの好奇心と積極性を360°バックアップします。

■ SPACE 案内 MAP



Peer Learning Zone		WLC Self-Access Center	
①	Booth 1-3	A	Chit Chat Club
②	Reading Area	B	English Forum
③	Viewing Room	C	Global Village / Nihon-go Dojo
④	和	D	English Advising Corner
⑤	Seminar Room 1-3	E	Speaking Test Preparation Center
		F	Writing Development Desk

(2) 開館時間

平日	土曜日	長期休業期間中
9:00～20:30	9:00～17:00	9:00～17:00 ※平日のみ

※ SPACe 内の各種施設、サービスは、施設により受付時間が異なります。詳しくは SPACe、又は WLC のホームページを参照してください。

※ 入学試験等の実施により、臨時に休館する場合があります。

(3) 利用方法

SPACe に入館する際は学生証が必要です。入口にゲートがありますので、ゲートのカード読み取り機に学生証をかざすことで入館することができます。

なお、施設により、予約が必要な施設や、予約が優先される施設があります。

■ 予約が必要な施設

- ・ 1週間前から予約可能な施設…Chit Chat Club、English Forum、Global Village、Nihongo Dojo
 - ・ 2週間前から予約可能な施設…Speaking Test Preparation Center、English Advising Corner、Writing Development Desk
- ※ ポータルサイト『PLAS』のツール・リンク集の中の「SPACe 学習支援サービス」又は「WLC サービス」から予約することができます。

■ 予約ができる施設

- Seminar Room 1-3、Booth 1-3、Viewing Room、和
- ※ Information カウンターで2週間前より予約を受け付けています
 - ※ 予約は3名以上の利用で可能です。
 - ※ 1グループ1日最大3時間(30分単位)利用することができます
 - ※ 予約がなく空いているときは自由に使用できます

■ 備品の貸し出しについて

Information カウンターで「プロジェクター」「ホワイトボード」「ノートパソコン」の貸し出しを行っています。希望する方は、Information カウンターで使用当日に利用手続きを行ってください。

(4) 施設・サービス紹介

① Learning Arena

少人数のアクティブ・ラーニングからグループディスカッション、大勢に向けたプレゼンまで、さまざまな使い方ができるスペースです。コロシアムを思わせる円形スペースでは、学習スペースとしてはもちろん学び関連の企画やイベントでの利用も大歓迎です。2つの壁面にはプロジェクター投影もできる大きなホワイトボードを設置しているので、教員の研究トーク会やオリジナルのプレゼン大会など、あなたのアイデアを存分に発揮してみてください。

また、不定期で学習セミナーなどを開催しています。セミナーの詳しいスケジュールはポータルサイトを通じてお知らせします。

② Peer Learning Zone

ゼミやグループで学習したり、自習したりすることができるスペースです。Peer Learning Zone には、大小さまざまな形状のテーブルが配置されたオープンスペースのほか、参考書などが配架されている Reading Area、予約制で利用できる Booth (3か所)、Seminar Room (3室)、和 (1室/畳敷きの視聴覚ルーム)、Viewing Room (1室) があります。Peer Learning Zone のオリジナルテーブルで課題に取り組むもよし、Booth でグループディスカッションをするもよし。自由な発想で利用でき、使う人に適度な集中力と開放感を与えるさまざまなスペースが揃っています。

③ WLC Self-Access Center

創価大学の語学学習の目標は「その国の文化を理解し、使える語学を身につける」ことにあります。SPACe には、その実践的な学習をバックアップする場として、WLC Self-Access Center を設置しています。英語をはじめ幅広い語学に関わるスペースでは、留学生と交流できるイベントなどがたくさん開催されています。

施設・サービス	予約	内容
Chit Chat Club	要	初級英会話を実践するプログラムです。1回45分間、海外からの留学生、留学経験者が楽しく英会話をサポートします。
English Forum	要	社会や国際問題などの身近な話題について1時間、英語でのディスカッションを行います。自分の意見を英語で述べるなど、より高度な表現力を身につけることができます。
Global Village	要	英語以外の言語（中国語、韓国語、ロシア語など、最大10言語）を使用し、言語や文化を学ぶことができるプログラムです。各国の留学生と楽しく学び、視野を広げることができます。語学学習や文化交流に興味があれば、レベルを問わず、だれでも参加することができます。
Writing Development Desk	要	学術的な英文の書き方について、25分間、個別でアドバイスを受けることができます。アドバイスは日本語、英語の両方で受けることができます。
Nihongo Dojo	要	留学生向けの初級～中級日本語会話プログラムです。1回45分間、日本人学生と楽しく日本語を練習することができます。
English Advising Corner	要	英語の自主学習方法や学習計画の立て方、WLC施設の活用法、TOEFLやTOEICなどの試験勉強方法やスコアアップについて、1回35分間、個別で相談することができます。
Speaking Test Preparation Center	要	TOEFL iBTやIELTSで出題されるスピーキングテストの練習をすることができます。1回につき25分間利用することができます。インストラクターが回答についてのフィードバックやメモを取る、考えを整理するなどのスピーキングの準備をするためのアドバイスを受けることができます。
Reading Area	不要	SPACe 入口の Reading Area には、語学学習教材も配架されています。様々な外国語の本、教材、CD、DVD、英字新聞を使って自主学習をすることができます。
CALL 教室 (PC 自習室、AE255)	不要	パソコンにインストールされているソフトを使って自主学習をすることができます。また、マイク付きヘッドホンを使うことで、「声を出す」学習をすることもできます。

※ WLC Self-Access Center が提供する施設やサービスの詳細については、WLC のホームページを参照してください。

④ Help Desk

履修の組み方、留学相談、タイムマネジメントなどの大学生活におけるさまざまな悩みを HELPDASK の学生スタッフに相談することができます。

⑤ 日本語ライティングセンター

大学の多くの授業では、レポートの課題が出ます。日本語ライティングセンターでは、その課題に対して、答えを教えるのではなく、学生自身が問題を発見し、改善できるようにサポートします。

⑥ オアシスプログラム

心理的・対人援助の専門性を有する担当者が、学生の支援ニーズにそったサポートを行い、定期的な面談を通して、学生の学習意欲と自己管理能力の向上を促します。面談を希望される場合はアドバイザー（または初年次セミナー、ゼミ）の先生にオアシスプログラムの紹介をご相談ください。

⑦ 調べごと相談（レファレンス・サービス）

参考文献検索・所蔵調査、データベース利用案内、調べごと相談など、専門スタッフがレファレンスサービスを行います。

◆ 規 程

○ 創価大学学則（抜粋）

※学則全文は創価大学ホームページで確認することができます

(目的)

第1条 本学は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、全人的な人間形成をはかるとともに、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

(自己点検・評価)

第1条の2 本学は、前条の目的を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の自己点検及び評価の項目、実施体制等については別に定める。

3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

(情報の積極的な提供)

第1条の3 本学は、本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

(名称)

第2条 本学は、創価大学と称する。

(所在地)

第3条 本学は、東京都八王子市丹木町1丁目236番地にこれを置く。

(学部・学科、収容定員及び学部の目的)

第4条 本学の学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

		入学定員	3年時編入学定員	収容定員
(1) 経済学部	経済学科	190名	18名	796名
(2) 法学部	法律学科	240名	8名	976名
(3) 文学部	人間学科	350名	40名	1,480名
(4) 経営学部	経営学科	190名	26名	812名
(5) 教育学部	教育学科	80名	—	320名
	児童教育学科	100名	—	400名
(6) 理工学部	情報システム工学科	90名	—	360名
	共生創造理工学科	90名	—	360名
(7) 看護学部	看護学科	80名	—	320名
(8) 国際教養学部	国際教養学科	90名	—	360名

2 各学部の人材養成の目的は、別表第1の定めるとおりである。

第4条の2～4 (略)

(修業年限)

第5条 本学の標準修業年限は、4年（通算8学期）とする。ただし、休学期間はこれに算入しない。

2 学生が本学に入学する前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得している場合は、修得した科目及び単位数並びにその修得に要した期間を勘案して、前項の修業年限に含めることがある。

3 学生は、8年（通算16学期）を超えて在学することができない。

(学年及び学期)

第6条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。但し、秋学期に入学した場合の学年は、毎年9月16日に始まり翌年9月15日に終わる。

2 学年を次の2学期に分ける。但し、教育上必要な場合、春学期及び秋学期の開始日及び終了日を変更することができる。

(1) 春学期 4月1日から9月15日まで

(2) 秋学期 9月16日から翌年3月31日まで

3 前項に定める各学期は、セメスターとし前半及び後半に分けることができる。2つに分けた各期間をタームとする。

4 教育上必要があるときは、夏季休業及び春季休業の期間に特別学期を設けることができる。その各期間をショートタームとする。

(授業期間)

第7条 1年間の授業を行う期間は、35週の期間にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、十分に教育効果を上げることができるよう、8週又は15週にわたる期間を単位として行うこ

とを原則とする。

(休業日)

第8条 定期休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
 - (3) 本学創立記念日 4月2日
 - (4) 夏季休業 8月1日から9月10日まで
 - (5) 冬季休業 12月25日から翌年1月5日まで
 - (6) 春季休業 翌年2月10日から3月31日まで
- 2 前項各号の休業日を変更し、又は休業日に授業を行い、若しくは臨時に休業日を設けることがある。

(教育課程の編成)

第9条 本学は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

- 2 授業科目を、共通科目及び専門科目に分ける。
- 3 本学において授業する科目及び単位数は、別表第2から別表第12のとおりである。
- 4 前項に定めるもののほか、必要に応じて特定の科目を授業することがある。

(学士課程教育機構)

第9条の2 本学に、共通科目の運営を担い、学士課程教育の質向上を図るための組織として、創価大学学士課程教育機構(以下、「教育機構」という)を置く。

- 2 教育機構に運営委員会を置く。
- 3 教育機構の組織及び運営に関する規程は別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第9条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を行う。

(授業計画の明示及び履修登録)

第10条 本学は、学生に対し、毎年春学期の授業開始前に、春学期及び秋学期に開講する各科目の担当者、授業の方法や内容、年間の授業計画及びその他の必要な事項を明示する。

- 2 学生は毎学期の初めに、所定の期日までに履修しようとする科目を届け出なければならない。なお、期日を過ぎて届け出ない場合は退学を命ずることがある。

(卒業に必要な単位数)

第11条 卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。

学部	学科	専門科目			共通科目			自由 選択	総計	
		必修	選択 必修	選択	外国語	必修	選択 必修			選択
経済	経済	—	28	38	10	4	14	—	30	124
法	法律	—	18	50	10	4	12	—	30	124
文	人間	—	16	46	10	4	12	—	36	124
経営	経営	8	34	36	10	4	14	—	18	124
教育	教育	14	18	46	10	4	14	—	18	124
	児童教育	14	14	50	10	4	14	—	18	124
理工	情報システム工	14	8	48	10	4	14	—	26	124
	共生創造理工	27	8	36	10	4	16	—	23	124
看護	看護	103	—	—	6	4	6	—	6	125
国際教養	国際教養	34	44	—	20	4	4	—	18	124

- 2 学生は、他の学部・学科に属する科目を履修することができる(特定の科目を除く)。履修して修得した単位は、自由選択の一部又は全部として算入される。なお、自由選択には、教職に関する専門科目の修得単位並びに卒業に必要な単位数を超えて修得した専門科目と共通科目の単位数が算入される。

3 学生が、本学への入学前又は入学後に、次の各号により修得した単位等を、教育上有益と認めるときは、本学において修得したものとみなし、単位を認定することがある。

- (1) 大学又は短期大学で履修した授業科目について修得した単位
- (2) 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関に留学し、そこで履修した授業科目について修得した単位又は成果
- (3) 短期大学又は高等専門学校専攻科における学修
- (4) その他文部科学大臣が別に定める学修

- 4 前項により認定する単位数は、編入学・転入学等の場合を除き、合わせて60単位を超えないものとする。

5 第3項に定める単位認定の手続き等詳細は別に定める。

(履修の要件・方法)

第11条の2 前条に係る履修方法の詳細は、別に定める。

- 2 入学後4年間(通算8学期)を経過して(休学期間を除く)、合計40単位を修得していない場合は退学を命ずることがある。
- 3 学生が各学期にわたって適切に授業科目を履修するため、教職に関する専門科目をはじめ特設課程に設置する科目等を除き、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は別に定める。
- 4 直前の学期に、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生の履修制限の緩和については、別に定める。

第11条の3～6 (略)

(単位)

第12条 1単位の授業科目は、授業及び授業時間外の学修を合わせて45時間を必要とする内容をもって構成することを標準とし、各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間から45時間の授業をもって1単位とする。但し、看護学部看護学科専門科目の実験、実習及び実技科目については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めるものとする。

(授業の方法)

第12条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(メディアを利用して行う授業)

第12条の3 前条第2項に定める多様なメディアを高度に利用して行う授業は、パーソナル・コンピュータその他双方向の通信手段によって行う。

2 前項の授業を実施する授業科目については、別に定める。

(単位の認定)

第13条 履修した科目の単位認定は、原則として、試験その他適切な方法により、学修の成果を評価して行う。

(試験の方法)

第14条 試験の方法は、筆記試験、口述試験、論文試験、実技試験又は実習試験の5種とする。

- 2 定期試験(中間試験、学期末試験、ターム末試験)は、タームの終了時又は学期末に行う。また、定期試験以外に臨時の試験を行うことができる。
- 3 やむをえない事由のため、定期の試験を受けることができなかった者については、追試験を行うことがある。

(受験科目の届出)

第15条 学生は、履修登録した科目について、試験を受けることができる。

(成績評価)

第16条 成績評価は、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、E+及びEの12級に分ち、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、及びDを合格とし、E+及びEを不合格とする。ただし、教授会が認めた特定の科目については、PとFの2級に分ち、Pを合格とし、Fを不合格とする。

- 2 試験に合格した者には、所定の単位を認定する。ただし、学費未納の者には単位を認定しないことがある。
- 3 第11条第3項により単位を認定する科目の成績評価は、Rとする。
- 4 成績評価を保留する場合は、I評価とする。これについては別に定める。

(卒業)

第17条 本学に8セメスター以上在学して、第11条に規定する単位を修得し、かつ創価大学履修規程に定める基準を満たした者には、卒業を認める。

- 2 前項にかかわらず、本学に6セメスター以上在学した者で、第11条に規定する単位を優秀な成績で修得し、かつ創価大学履修規程に定める基準を満たした者には、卒業を認めることがある。
- 3 前2項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第12条の2第2項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定する。

(学位の授与)

第18条 前条により卒業した者には、学士の学位を授与する。

(入学の時期)

第19条 入学の時期は、学期の始めとする。

第 20 条～第 21 条（略）

（保証人）

第 22 条 入学を許可された者が提出する在学保証書の保証人は 1 名とし、親権者若しくはそれに準ずる者とする。

2 保証人が姓名を変え、又は転居したときは、速やかにその旨を届け出なければならない。

3 死亡、転居その他の事由により保証人がその資格を失ったときは、直ちに保証人を別に定め、改めて在学保証書を提出しなければならない。

（休学）

第 23 条 休学しようとする者は、所定の手続を経て、許可を受けなければならない。

2 休学の期間が満了した時点で、復学となる。

（休学の期間）

第 24 条 休学の期間は、1 学期又は 1 年間（2 学期）とする。なお、やむをえない事由があるときは、期間の延長を許可することがある。ただし、引続き 2 年を超えることはできない。また、通算 4 年（8 学期）を超えてはならない。

（退学）

第 25 条 退学しようとする者は、所定の手続を経て、許可を受けなければならない。

2 退学しようとする学期の学費が未納の場合は、第 42 条第 2 項を準用する。

3 再入学は、学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することがある。

（転入学・編入学）

第 26 条 本学に転入学又は編入学を願い出た者については、選考のうえ、相当年次に入学を許可することがある。

2 本学に転入学できる者は、大学（外国の大学又はこれに相当する高等教育機関を含む）を卒業した者、退学した者又は一定期間在学した者とする。

3 本学に編入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

（1）短期大学（外国の短期大学及び、我が国における、外国の短期大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（短期大学相当）日本校）を含む。）、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

（2）専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 132 条の規定により大学に編入学することができる者

（3）高等学校等の専攻科の課程を修了した者のうち学校教育法第 58 条の 2 の規定により大学に編入学することができる者

（4）学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）附則第 7 条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者

（転学部・転学科）

第 27 条 転学部・転学科は、春学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することがある。転学部・転学科については別に定める。

（転籍）

第 27 条の 2 通信課程から通学課程への転籍は、春学期の始めに限り、願い出により、選考のうえ許可することがある。通信課程から通学課程への転籍については別に定める。

（転学）

第 28 条 他の大学に転学を志望する者は、所定の手続を経て、その許可を願い出なければならない。

（留学）

第 28 条の 2 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関において修学することを志望する者は、許可を得て留学することができる。

2 前項の留学の期間は、第 17 条に定める在学年数に含めることができる。

3 留学に関する学内手続その他については、別に定める。

第 29 条～第 39 条（略）

（学費）

第 40 条 学費とは、入学金、授業料、実習費、在籍料をいう。

2 本学の検定料及び学費は、別表第 18 のとおりとする。

3 在学中学費について変更のあった場合には、改定された金額を納付しなければならない。

4 学費は、学期の始めに納めなければならない。ただし、学費の延納を願い出た者については、許可することがある。

5 休学中の学費は、別表第 18 に定める金額とする。

（給付又は免除）

第 41 条 学業優秀な者に対しては、奨学金等を給付又は学費の全額若しくは一部を免除することがある。詳細は別に定める。

- 2 経済的事由その他やむをえない事情があると認められた者に対しては、奨学金等を給付又は学費の全額若しくは一部を免除若しくはその徴収を猶予することがある。詳細は別に定める。

(学費未納退学)

第42条 当該学期の学費を納付しない者は、退学を命じる。

- 2 前項により退学を命じられた者については、当該学期の単位認定は行なわない。また当該学期は在学期間に算入しない。

(退学等の授業料)

第43条 学期の中途において退学した者又は停学若しくは退学を命ぜられた者は、別に定める場合を除き、その学期の学費を納めなければならない。

(返還)

第44条 いったん納めた学費は、いかなる事由があっても返還しない。

(授賞)

第45条 人物、学業ともに優秀な者には、所定の手続を経て、表彰することができる。

(懲戒)

第46条 本学の諸規則に違背し、若しくは秩序を乱し、又は学生の本分に反する行為があったときは、所定の手続を経て懲戒する。

2 懲戒は、その情状によって戒告、停学及び退学の3種とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生につきこれを行うことができる。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (3) 正当な理由なくして、出席常でない者

第47条以降、附則及び別表 (略)

○ 創価大学履修規程 (抜粋)

(目的)

第1条 この規程は、創価大学学則第11条、第11条の2、第16条および第17条の規定に基づき、履修方法等に関して必要な事項を定める。

(履修登録の手続)

第2条 授業科目の単位を修得するためには、各学期の履修登録期間内に、履修を希望する科目を登録しなければならない。

2 履修登録の結果は、学生本人が確認しなければならない。

(履修登録の修正)

第3条 前条の規定により履修登録した授業科目(以下、履修科目という。)の変更を希望する場合は、各学期の履修登録修正期間内に、変更を希望する科目を登録しなければならない。

2 前項に定める履修登録の修正結果については、学生本人が確認しなければならない。

(履修科目の取消し)

第4条 履修科目は、定められた期間内に、所定の手続により、履修登録を取消することができる。

2 履修取消しのできる期間は、春学期・秋学期ともに中間試験期間の最終日までとする。

3 履修取消期間を過ぎた場合及びターム科目は、履修科目の取消しはできない。ただし、学生が所属する学部の学部長が正当な理由があると認めた場合は、履修科目の取消しを認める。

4 履修科目の取消しは、学生本人が行わなければならない。

(履修登録単位数の上限)

第5条 学則第11条の2第3項による各学期に履修登録ができる単位数の上限は、別表第1のとおりとする。

2 特設課程科目は、教育学部を除き、履修制限の対象としない。特設課程以外で履修制限の対象としない科目は、別表第1のとおりとする。

3 ショートタームに実施する科目は、履修制限の対象から外することができる。

(授業科目の再履修)

第6条 授業科目の再履修は、単位を修得した場合を含めてすべての科目について認める。ただし、定員制の科目など学部教授会または学士課程教育機構運営委員会が必要と認めた科目については、合格科目の再履修を制限することがある。またP評価及びR評価の合格科目は再履修をすることはできない。

2 再履修する授業科目の成績評価は、再履修して修得する成績評価が最終の評価となる。単位を修得した授業科目を再履修して、単位が未修得になった場合は、過去に修得した単位は取り消す。

(成績評価及びGPA)

第7条 学業成績を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。

2 GPAは、学生の各履修科目の成績評点に、その科目の単位数を掛けた数値の合計を、履修科目の総単位数で除して算出し、小数点以下第3位以下は切り捨てる。

3 学則第16条に基づき、成績評価に対する成績評点及び評価換算基準は、次の表のとおりとする。

成績評価	成績評点	評価換算基準	単位認定可否	内容	
A+	4.0	100点～95点	合格	特に優れている	
A	4.0	94点～90点		優れている	
A-	3.7	89点～85点		良好	
B+	3.3	84点～80点			
B	3.0	79点～75点		科目の要求を一応満たしている	
B-	2.7	75点～70点			
C+	2.3	69点～65点			
C	2.0	64点～60点			
D+	1.7	59点～55点		望ましい水準には不十分だが不合格ではない	
D	1.3	54点～50点			
E+	1.0	49点～45点	不合格		
E	0	44点以下		合格の水準を満たさない	
N	0	評価不能			
P	—	合格	合格		
F	—	不合格	不合格		
R	—	認定	合格		
I	—	評価保留	—		

備考 授業時数の3分の1を超えて欠席した場合はN評価とする。また、定期試験を受けなかった、レポートを提出しなかったなど成績評価をすることが不可能な場合はN評価を付けることができるものとする。

4 学則第16条に定めるP及びFの成績評価は、科目毎に設けられる合格基準に達した場合をPとし、達しなかった場合はFとする。

5 学則第16条に定めるRの成績評価は、本学以外で修得した単位を、本学において修得したものとみなし、単位を認定する場合の評価とする。

6 学則第16条に定めるI(インコンプリート)の成績評価は、授業期間中の履修取消期間以降において、学生が病気、ケガ、災害、留学(本学が正式に派遣等を行う場合に限り)または、教務部長が認めるやむをえない事情により、単位修得条件のいずれかの点を満たすことができない状況になった時に、学生からの申請等により、授業担当教員が学期末まで成績評価の確定を保留する場合の評価とする。

7 I評価については、以下のとおり運用を行う。

(1) 学生は前項の事由により、履修の継続が難しい状況になった場合で、それまでの出席が3分の2を超えている場合は、教務課に理由を示す証拠書類等を提出し、許可を受けてインコンプリート申請書を受け取る。

(2) 学生は申請書を原則最終授業までに授業担当教員に提出し相談する。授業担当教員は当該学生の学習状況等を考慮して対応を判断するものとする。

(3) 成績保留を行うことを決めた授業担当教員は、当該学生に対し単位修得のために必要な課題等(課題、試験など)の措置を講じ、学生は指定された期限までに与えられた課題等を行わなければならない。

(4) 成績保留を行った授業担当教員は、当該学期末(卒業にかかわる場合は卒業判定前)までに「最終評価届」を教務課に提出するものとする。なお、学期末までに提出がなかった場合は、I評価を抹消し、NまたはF評価に変更する。

(5) 第1号、第2号及び前項にかかわらず、学生からの申請等がない場合でも、授業担当教員、学部長または学士課程機構長からの申請により教務部長がやむを得ない事情があると認めた場合は、授業担当教員は成績保留を行うことができるものとする。

(6) 第4号にかかわらず、教務部長がやむを得ない事情があると認めた場合は、「最終評価届」の提出期限を学期末を超えて延長することができるものとする。

8 P、F、I及びR評価については、GPAの算出対象としない。

9 再履修する授業科目のGPAの計算は、再履修して修得した成績(成績評価と単位数)で計算する。再履修前の成績(成績評価と単位数)は、GPAの計算に含めない。

10 成績評価については、A+評価の上限を全履修者の5%程度とし、A+評価、A評価及びA-評価の合計の上限は、全履修者の25%程度とする。但し、専門科目については、各学部教授会で検討し、全学教務委員会の審議により、共通科目については、学士課程教育機構運営委員会の審議により、認められた授業科目はこの限りでない。

11 前号但し書きの授業科目を除き、全履修者の成績評価の割合を、A+評価10%以上またはA+評価からA-評価35%以上とする場合、授業担当教員は、理由を専門科目は学部長を経て学部教授会及び全学教務委員会に、共通科目は学士課程機構長を経て、学士課程教育機構運営委員会に報告しなければならない。ただし、履修者が20名以下の科目は免除する。

- 12 前号において報告を除外された科目についても、授業担当教員は、厳格かつ適正な成績評価に努めなければならない。
- 13 学長、副学長、学部長、副学部長、学士課程教育機構長及び教務部長は、著しく評価が高いまたは著しく評価が低い成績評価が継続している科目については、授業担当教員に理由の説明を求め、改善の必要があると判断した場合は、改善を求めることができる。

(成績通知)

- 第8条** 成績通知書には、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、E+、E、I、N、P、FまたはRの評価を記載する。
- 2 本学以外で使用するために発行される成績証明書には、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、D+、D、PまたはRの評価を記載する。

(成績優秀者)

- 第9条** 学則第11条の2第4項に定める学生(成績優秀者)については、学部・学科の定めるところにより修得単位数とGPAにより決定し、その基準は、別表第1のとおりとする。なお、休学後に復学した場合については、休学する直前の学期の成績を基準とする。
- 2 成績優秀者の履修制限緩和については、別表第1のとおりとする。

(学業指導及び退学勧告)

- 第10条** 毎学期、成績評価が決定した時点で当該学期のGPAが2未満の場合は、指導教員による面談を行い、指導教員は学部長に指導報告書を提出する。
- 2 GPAが2期連続して2未満の場合は、保護者に通知する。前項に定める指導教員による面談等を行うほか、保護者の希望があれば指導教員は面談を行う。
- 3 GPAが3期連続して2未満の場合または累計で4期以上2未満の場合は、学部長が面接を行い、教授会の議を経て退学勧告を行う。ただし、学部長が面接し、学業継続の可能性があると認められる場合は、教授会の議を経て退学勧告を保留することができる。
- 4 前3項の場合において、学部長は、学生の特別の事情を考慮し、相当と認めるときは、学業指導及び退学勧告の対象から外することができる。

(卒業に必要な単位数)

- 第11条** 学則第11条に定める以外の卒業に必要な単位数は、以下に定める他、別表第2及び別表第3のとおりとする。
- (1) 経済学部経済学科の学生は、選択したコースのコース指定科目から18単位以上の単位を修得しなければならない。また、選択必修科目は、9つの各科目群から学則別表3で定める単位数を修得しなければならない。
- (2) 経営学部経営学科の選択必修A群は、5つの各科目群から学則別表第6で定める単位数を修得しなければならない。
- (3) 法学部法律学科の学生は、次の通り単位を修得しなければならない。
- ① 選択したコースのコース指定科目から16単位以上の単位を修得しなければならない。但し、地球平和共生コースについては、学則別表第4に定めるALL English科目を7単位以上含まなければならない。
- ② 学部基本科目については、A群から10単位修得しなければならない。但しEMP生は、B群から10単位修得しなければならない。
- ③ 選択必修科目は4つの各科目群から学則別表第4に定める単位数を修得しなければならない。なお、演習科目については、日本語科目または英語科目のどちらか一方の科目で6単位修得しなければならない。
- (4) 文学部人間学科の学生は、アドヴァンスト科目選択必修科目について、6つの各科目群から学則別表第5で指定された単位数を修得しなければならない。
- (5) 教育学部教育学科の専門選択科目には、他学科の専門科目が24単位まで算入される。児童教育学科の専門選択科目には、他学科の専門科目が28単位まで算入される。
- (6) 教育学部児童教育学科の学生は、専門選択科目50単位の内、教科A・C・E群の3つの科目群から12単位以上、教科B・D群の2つの科目群から6単位以上の計18単位以上をAからE群の5つの各科目群から2単位以上を含んで修得しなければならない。
- (7) 国際教養学部国際教養学科の学生は、選択必修科目44単位以上の修得については、次の通り指定された単位数を含んで修得しなければならない。
- ① Quantitative & Qualitative Analysis 科目4単位以上。
- ② Level 100-200 科目16単位以上については、「歴史・社会・文化科目群」、「政治・国際関係科目群」、「経済・経営科目群」の3つの科目群から各4単位計12単位を含むこと。
- ③ Level 200 科目4単位以上。
- ④ Level 300-400 科目20単位以上については、「歴史・社会・文化科目群」、「政治・国際関係科目群」、「経済・経営科目群」の3つの科目群から各4単位計12単位を含むこと。
- (8) 理工学部情報システム工学科の学生は、選択必修科目は、4つの各科目群から学則別表9で定める単位数を修得しなければならない。
- (9) 理工学部共生創造理工学科の学生は、学則別表に定める専門導入科目から必修4単位、専門基礎科目から必修13単位、選択必修科目A群から4単位、B群から4単位、専門演習科目から必修10単位、専門応用科目36単位修得しなければならない。但し、専門応用科目は、学則別表第10に定める3つの領域から1つの領域を選択し、選択した領域の領域選択必修科目8単位、領域選択科目14単位を含んで修得しなければならない。

(卒業の認定)

- 第12条** 卒業の認定は、次の各号に掲げる要件のすべてに該当する場合に行う。
- (1) 本学に8セメスター以上在学していること。

- (2) 本学において定められた教育課程を修了し、学則第 11 条および前条に規定する単位を修得していること。
- (3) 在学期間における通算 G P A が 2 以上であること。
- 2 前項にかかわらず、本学に 6 セメスター以上在学した者で、学則第 11 条及び前条に規定する単位を優秀な成績で修得したと認められる場合には、卒業を認めることがある。
- 3 第 1 項第 3 号の要件のみを満たしていない者で、特別の事情があると認められる場合には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定することがある。
- 4 第 1 項により卒業を認定された者は、卒業を保留することはできない。但し、9 月入学生（9 月再入学生を除く）で、春学期履修登録後、9 月卒業見込み許可者が、9 月卒業ではなく 3 月卒業を希望する場合は、9 月卒業延期希望申請書に理由を記載し提出する。学長が申請書の理由を、やむを得ない内容であると認めた場合は、翌セメスターの 3 月卒業を認め、9 月卒業の延期を許可する。卒業延期許可学生の秋学期学籍上の身分は、在学とする。
- 5 前項但し書きにより卒業延期を許可された者が、春学期の成績発表後、第 1 項のすべての要件を満たせなかった場合は、許可した卒業延期を取り消す。

(早期卒業)

第 13 条 前条第 2 項で規定する早期卒業は、在学 6 セメスターまたは在学 7 セメスターで卒業することを表す。

- 2 早期卒業は、学部・学科が定めるところにより、修得単位数と G P A により決定し、その基準については、別表第 1 のとおりとする。
- 3 早期卒業対象者（早期卒業の基準を満たし、早期卒業の対象者に選ばれた者をいう。以下同じ。）で早期卒業を希望するものは、定められた学期の履修登録時に卒業を希望する学期に登録しなければならない。
- 4 早期卒業対象者で、早期卒業を希望しない場合は、卒業とはならない。
- 5 別表第 1 に定める、第 4 セメスター時の早期卒業基準について、修得単位数のみが基準を満たさず、卒業判定時にすべての早期卒業基準を満たした学生が早期卒業を希望する場合は、第 2 項にかかわらず、当該学生の所属学部長の具申により、学長は早期卒業を承認することができる。
- 6 編入学生及び転学部・転学科した学生は、早期卒業対象者になることはできない。

(履修の要件・方法)

第 14 条 学則第 11 条の 2 による履修方法の詳細は、以下のとおりとする。

- (1) 法学部の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
卒業研究	演習Ⅳ（同時履修可）

- (2) 経営学部の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
ミクロ経済学中級、マクロ経済学中級	経済学

- (3) 教育学部教育学科の「卒業研究Ⅱ」の履修要件は、通算 G P A が 3 以上であること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
海外教育研修	教育原論
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
スタディー・リーダー基礎	初年次セミナー（共通科目）
教育・学校心理学	心理学概論（同時履修可）
発達心理学	教育・学校心理学または児童教育学科の教育心理学
I C T 活用教育の理論と方法Ⅱ	I C T 活用教育の理論と方法Ⅰ
ミュージアム・エデュケーションⅠ	ボランティア入門（共通科目）
ミュージアム・エデュケーションⅡ	ミュージアム・エデュケーションⅠ
教育カウンセリング	発達心理学
学校体験活動Ⅰ（中）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅱ（中）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅲ（中）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅳ（中）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅰ～Ⅳ（中）	教職課程に登録していること

心理学実験（心理学実験法） 知覚・認知心理学 学習・言語心理学 神経・生理心理学 関係行政論 感情・人格心理学 社会・集団・家族心理学 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント 福祉心理学 司法・犯罪心理学 精神疾患とその治療 心理学的支援法 産業・組織心理学 心理演習 心理実習Ⅰ 心理実習Ⅱ	公認心理師養成課程に登録していること
臨床心理学概論	発達心理学
心理的アセスメント	発達心理学または児童教育学科の発達心理学
心理学的支援法	臨床心理学概論
社会教育実習 社会教育演習Ⅰ 社会教育演習Ⅱ	社会教育主事課程に登録していること

(4) 教育学部児童教育学科の「卒業研究Ⅱ」の履修要件は、通算GPAが3以上であること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得等が必要な科目
海外教育研修	教育原論
卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
学校・教育心理学 発達心理学	心理学概論（同時履修可）または教育学科の心理学概論（同時履修可）
ICT活用教育の理論と方法Ⅱ	ICT活用教育の理論と方法Ⅰ
スタディー・リーダー基礎	初年次セミナー（共通科目）
教育カウンセリング	発達心理学
ミュージアム・エデュケーションⅠ	ボランティア入門（共通科目）
知的障害教育Ⅰ 視覚障害・聴覚障害者の心理・生理・病理 視覚・聴覚障害教育論 知的障害者の心理・生理・病理 知的障害教育論Ⅱ 肢体不自由教育論 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 発達障害者の心理・生理・病理 知的障害者の心理特論 教育実習（特別支援）	特別支援免許課程に登録していること
知的障害教育論Ⅱ	知的障害教育論Ⅰ
ミュージアム・エデュケーションⅡ	ミュージアム・エデュケーションⅠ
学校体験活動Ⅰ（幼・小）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅱ（幼・小）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅲ（幼・小）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅳ（幼・小）	学校研究（履修済みまたは同時履修可）
学校体験活動Ⅰ～Ⅳ（幼・小）	教職課程に登録していること

(5) 理工学部情報システム工学科および理工学部共生創造理工学科の「卒業研究Ⅰ」の履修要件は、卒業に必要な単位のうち合計100単位以上を修得していること。それ以外に履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

学科	履修条件がある科目	修得が必要な科目
情報システム工	演習Ⅱ	演習Ⅰ（同時履修可）
	ケーススタディⅡ	ケーススタディⅠ
	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
共生創造理工	演習Ⅱ	演習Ⅰ
	卒業演習Ⅱ	卒業演習Ⅰ（同時履修可）
	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ

(6) 看護学部看護学科の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得または同時履修が必要な科目
卒業研究	看護学研究方法論
卒業論文	看護学研究方法論、卒業研究
看護実践統合演習	看護実践統合実習
人間発達看護学実習	基盤看護学実習Ⅰ（対象理解）、生涯発達看護学概論、健康生活看護学概論Ⅰ（基本的概念）、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）
基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）	看護基礎理論Ⅰ（看護の理解と学修者）、看護基礎理論Ⅱ（看護の機能と理論）、フィジカルアセスメント、看護過程演習Ⅰ（アセスメント）、看護過程演習Ⅱ（計画・実施）、基本看護技術Ⅰ（看護技術の基本）、基本看護技術Ⅱ（活動と清潔）、基本看護技術Ⅲ（食事と排泄）、基本看護技術Ⅳ（臨床看護技術の基本）、基本看護技術Ⅴ（与薬と検査）、基盤看護学実習Ⅰ（対象理解）、構造機能と生活Ⅰ（恒常性維持のための調節機構と生活）、構造機能と生活Ⅱ（日常動作を支える解剖生理と生活）、病態生理総論
療養生活看護学実習Ⅰ（急性）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、療養生活看護学概論、療養生活看護論Ⅰ（急性回復期援助）、療養生活看護論Ⅱ（急性回復期：看護過程・援助技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理
療養生活看護学実習Ⅱ（慢性）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、療養生活看護学概論、療養生活看護論Ⅲ（慢性期支援）、療養生活看護論Ⅳ（慢性期：看護過程・支援技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理
健康生活看護学実習Ⅰ（高齢者の健康）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、健康生活看護学概論Ⅰ（基本的概念）、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な看護の場）、健康生活看護論Ⅰ（高齢者援助）、健康生活看護論Ⅱ（高齢者看護過程・技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理
生涯発達看護学実習Ⅰ（子どもと家族の看護）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、生涯発達看護学概論、生涯発達看護論Ⅰ（子どもと家族の健康課題）、生涯発達看護論Ⅱ（子どもと家族への援助技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理
健康生活看護学実習Ⅱ（心の健康）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、健康生活看護学概論Ⅰ（基本的概念）、健康生活看護学概論Ⅱ（集団・予防）、健康生活看護学概論Ⅲ（地域社会における多様な看護の場）、健康生活看護論Ⅲ（精神看護展開の基礎）、健康生活看護論Ⅳ（精神看護の支援技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理
生涯発達看護学実習Ⅱ（周産期の看護）	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）、生涯発達看護学概論、生涯発達看護論Ⅲ（周産期の母子の健康）、生涯発達看護論Ⅳ（周産期の援助技術）、診断治療Ⅰ（主要な疾患の検査と治療）、診断治療Ⅱ（内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療）、診断治療Ⅲ（免疫・精神・小児疾患の検査と治療）、診断治療Ⅳ（感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療）、看護と病態生理

健康生活看護学実習Ⅲ (地域在宅生活の健康)	人間発達看護学実習、基盤看護学実習Ⅱ(看護過程の展開)、健康生活看護学概論Ⅰ(基本的概念)、健康生活看護学概論Ⅱ(集団・予防)、健康生活看護学概論Ⅲ(地域社会における多様な看護の場)、健康生活看護学Ⅴ(地域保健活動)、健康生活看護学Ⅵ(在宅療養支援)、健康生活看護学Ⅶ(訪問看護過程・地域看護技術)、疫学・保健統計、診断治療Ⅰ(主要な疾患の検査と治療)、診断治療Ⅱ(内分泌・血液・運動機能疾患の検査と治療)、診断治療Ⅲ(免疫・精神・小児疾患の検査と治療)、診断治療Ⅳ(感覚器・神経・筋肉の疾患・生殖器疾患の検査と治療)、看護と病態生理
看護実践統合実習	療養生活看護学実習Ⅰ(急性)、療養生活看護学実習Ⅱ(慢性)、生涯発達看護学実習Ⅰ(子どもと家族の看護)、生涯発達看護学実習Ⅱ(周産期の看護)、健康生活看護学実習Ⅰ(高齢者の健康)、健康生活看護学実習Ⅱ(心の健康)、健康生活看護学実習Ⅲ(地域在宅生活の健康)

(7) 文学部の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	修得が必要な科目
多文化社会と教育、教育と人生	教育哲学

(8) 共通科目の履修条件のある科目については次の表のとおりとする。

履修条件がある科目	履修が必要な科目
ボランティア実習Ⅰ、ボランティア実習Ⅱ	ボランティア入門(同時履修可)

(主専攻)

第15条 学則第17条により卒業が認定された者は、学位規則に定める専攻分野を主専攻とし、本学の成績証明書および卒業証明書に記載する。

2 文学部生がメジャー修了または専修に所属し、卒業が認定された場合は、前項に加えメジャー名または専修名を主専攻に付記する。

(副専攻制度)

第16条 副専攻については、2年次以降の履修登録時に通算GPA 2.7以上の学生が申請できる。

2 副専攻は以下のとおりとする。

- | | |
|---|-----------------------------|
| (1) 経済学 | (11) 哲学・思想文化 |
| (2) 経営学 | (12) 歴史・社会文化 |
| (3) 法学 | (13) 言語文化 |
| (4) 教育学 | (14) 表現文化 |
| (5) 理工学 | (15) 社会学・人類学 |
| (6) Philosophy・Anthropology・Peace Studies : Soka AKADEMIA | (16) 多文化共生・平和創造 |
| (7) 英語文化 | (17) English Medium Program |
| (8) 国際日本学 | (18) データサイエンス |
| (9) 中国・アジア文化 | (19) SDGs |
| (10) ロシア・ヨーロッパ文化 | |

3 副専攻は、各学部等が指定した科目群から24単位以上修得し、かつ卒業時の通算GPA 2.7以上の時認定する。副専攻が認定された場合は、本学の成績証明書および卒業証明書に副専攻名を記載する。

4 前項に定める各学部等が指定する科目群一覧は、別途履修要項等に記載する。

(文学部人間学科メジャー及び専修)

第17条 文学部人間学科にメジャー及び専修を置く。メジャー及び専修の修了は、メジャー及び専修指定科目の内以下の単位の修得を要件とする。

(1) 第1メジャーは、イントロダクトリー科目の選択科目2単位、ベーシック科目の選択科目10単位、アドヴァンスト科目の選択必修科目12単位、選択科目12単位の計24単位の合計36単位。なお、アドヴァンスト科目の選択必修科目の内、演習ⅠからⅣ及び卒業研究Ⅰ・Ⅱについては、選択したメジャーに所属する教員の担当する科目を修得すること。

(2) 第2メジャーは、イントロダクトリー科目の選択科目2単位、ベーシック科目の選択科目10単位、アドヴァンスト科目の選択科目12単位及びベーシック・アドヴァンストいずれかの選択科目から12単位の合計36単位を修得し、かつ卒業時の通算GPA 2.7以上であること。

(3) 各メジャー及び専修修了に必要な科目一覧は、別途履修要項等に記載する。

2 開設するメジャーは、以下のとおりとする。

- Philosophy・Anthropology・Peace Studies : Soka AKADEMIA
- 英語文化
- 国際日本学
- 中国・アジア文化
- ロシア・ヨーロッパ文化
- 哲学・思想文化

- (7) 歴史・社会文化
 - (8) 言語文化
 - (9) 表現文化
 - (10) 社会学・人類学
 - (11) 多文化共生・平和創造
- 3 開設する専修は、以下のとおりとする。
- (1) 社会福祉専修

(法学部法律学科グローバル・ロイヤーズ・プログラム)

第18条 法学部法律学科における「グローバル・ロイヤーズ・プログラム」(以下、G L Pという)は、本学大学院法務研究科と法学部の連携プログラムとして位置づけ、以下の要件を満たした場合にその修了を認定する。

- (1) G L P指定科目の必修科目 60 単位、選択必修科目 20 単位以上の合計 80 単位以上修得
 - (2) 卒業時の通算G P Aが2.7 以上
- 2 G L P指定科目については、別途履修要項等に記載する。

附則 (略)

別表第1 (第5条、第9条、第13条関係)

学部	学科	履修上限 単位数 ※学期毎 の上限単 位数	成績優秀者になる ための基準		成績優秀者の履 修制限緩和		早期卒業するための基準等			
			学期毎の 修得下限 単位数	直前セ メス ターの G P A 数値	追加単 位数	上級 年次 履修	早期卒業 制度の 有 (○) 無 (×)	卒業判定 通算G P A数値 基準	4セメスター終了時 点の条件	
									通算G P A数値 基準	最低修得 単位数
経済	経済	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.7	3.7	84
法	法律	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.9	3.9	86
文	人間	24 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	×	—	—	—
経営	経営	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.7	3.7	84
教育	教育	20 単位	—	—	—	—	×	—	—	—
	児童教育	20 単位	—	—	—	—	×	—	—	—
理工	情報システム工	24 単位	16 単位	3.3	4 単位	可	×	—	—	—
	共生創造理工	24 単位	16 単位	3.3	4 単位	可	×	—	—	—
看護	看護	25 単位	—	—	—	—	×	—	—	—
国際教養	国際教養	20 単位	16 単位	3.5	4 単位	可	○	3.7	3.7	80

成績による履修制限緩和措置

学部	学科	学期毎の上限単位数	学期毎の 修得下限単位数	直前セメスターの G P A 数値	追加単位数	上級年次履修
教育	教育	20 単位	16 単位	2.7	5 単位	不可
	児童教育	20 単位	16 単位	2.7	5 単位	不可

履修制限除外科目一覧

学部・学科等	除外科目
共通科目	インターンシップ I、インターンシップ II、インターンシップ III、インターンシップ IV、国際ボランティア実習、ボランティア実習 I、ボランティア実習 II、海外インターンシップ I、海外インターンシップ II、海外インターンシップ III、海外インターンシップ IV、G C P チュートリアル I、G C P チュートリアル II、G C P チュートリアル III、G C P チュートリアル IV、プログラムゼミ I、プログラムゼミ II、プログラムゼミ III、プログラムゼミ IV、EAP for Global Citizenship I、EAP for Global Citizenship II、EAP for Global Citizenship III、EAP for Global Citizenship IV、Academic Foundations for Global Citizenship I、Academic Foundations for Global Citizenship II、Academic Foundations for Global Citizenship IV、社会システム・ソリューション I、社会システム・ソリューション II、English Summer Intensive、TOEFL iBT Summer Intensive、IELTS Summer Intensive、English Winter Intensive、TOEFL iBT Winter Intensive、IELTS Winter Intensive、海外研修・実習科目群科目

経済	経済	Foreign Studies、International Internship A、International Internship B、オナーズ・セミナーⅠ、オナーズ・セミナーⅡ、オナーズ・セミナーⅢ
法	法律	Academic Foundations TutorialⅠ、Academic Foundations TutorialⅡ、地球平和共生インターンシップA、公共政策インターンシップA、まちづくり八王子フィールドワーク、人間の安全保障フィールドワーク、地球平和共生フィールドワーク、Peace・Human Rights & Sustainability Internship A、Peace・Human Rights & Sustainability Internship B、地球平和共生インターンシップB、公共政策インターンシップB、地球平和共生ボランティアA、地球平和共生ボランティアB、アジア公共経営スタディツアー、ビジネス法務インターンシップA、ビジネス法務インターンシップB、公共政策ボランティア、GLPチュートリアルⅠ、GLPチュートリアルⅡ、GLPチュートリアルⅢ、GLPチュートリアルⅣ、GLPチュートリアルⅤ、GLPチュートリアルⅥ、GLPチュートリアルⅦ、GLPチュートリアルⅧ、GLPインターンシップA、GLPインターンシップB、GLP English A、GLP English B
文	人間	学部インターンシップA、学部インターンシップB
経営	経営	サービス・ラーニングA、サービス・ラーニングB、サービス・ラーニングC、サービス・ラーニングD、Global Business Internship A、Global Business Internship B、International Business StudiesⅠ、International Business StudiesⅡ、International Business StudiesⅢ、International Business StudiesⅣ
教育	教育	海外教育事情、海外教育研修
	児童教育	海外教育事情、海外教育研修
理工	情報システム工	理工学特別演習
	共生創造理工	海洋学実習、特別講義、インターンシップ、理科教職演習Ⅰ、理科教職演習Ⅱ、理工学特別演習
看護	看護	国際看護研修
国際教養	国際教養	International FieldworkⅡ

別表第2 (第11条関係)

学部	学科	共通科目及び外国語科目										計
		選択必修						第1外国語	第2外国語	小計	選択 共通科目 の他の科目群	
		基礎科目	大学科目	世界市民教育科目	数理・データサイエンス・自然科目	共通科目の指定科目群						
経済	経済	4	4	4	2	人文・社会・健康科目	2	6	4	28	-	28
						キャリア教育系科目	2					
法	法律	4	4	4	4	-		6	4	26	-	26
経営	経営	4	4	4	2	人文・社会・健康科目	2	10	-	28	-	28
						キャリア教育系科目	2					
教育	教育	4	4	4	4	人文科学系科目または健康科学系科目	2	6	4	28	-	28
	児童教育	4	4	4	4	人文科学系科目または健康科学系科目	2	6	4	28	-	28
文	人間	4	4	4	2	社会科学系科目	2	6	4	26	-	26
理工	情報システム	4	4	4	2	人文科学系科目	2	6	4	28	-	28
						社会科学系科目	2					
	共生創造理工	4	4	4	2	人文科学系科目	2	6	4	30	-	30
						社会科学系科目	2					
キャリア教育系科目	2											
看護	看護	2	2	2	2	人文科学系科目または社会科学系科目	2	6	-	16	-	16
国際教養	国際教養	2	4	-	2	-		16	4	28	-	28

【共通科目・外国語科目】

※第1外国語は原則として英語とし、共通科目の③言語科目（英語）または学部学科英語科目から修得しなければならない。ただし、外国人留学生等については、別に定める創価大学外国人留学生等の履修の特例に関する細則により、英語以外の言語を第1外国語とすることができる。

※第2外国語は、共通科目の③言語科目（外国人留学生等については、③言語科目及び⑩日本語・日本文化科目）から第1外国語として選択した言語以外の1言語で卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

※経済学部、経営学部及び文学部は、基礎科目については、「初年次セミナー」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ」の内1科目2単位の計4単位を、数理・データサイエンス・自然科学目については、「データサイエンス入門」2単位を修得しなければならない。法学部、教育学部は、基礎科目については、「初年次セミナー」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ」の内1科目2単位の計4単位を、数理・データサイエンス・自然科学目については、「データサイエンス入門」2単位を含む計4単位を修得しなければならない。理工学部は、基礎科目については、「初年次プロジェクト」2単位、「学術文章作法Ⅰ・Ⅱ」の内1科目2単位の計4単位を、数理・データサイエンス・自然科学目については、「データサイエンス入門」2単位を修得しなければならない。看護学部は、基礎科目については、「学術文章作法Ⅰ」2単位を、数理・データサイエンス・自然科学目については、「データサイエンス入門」2単位を修得しなければならない。

※経済学部、経営学部は、人文・社会・健康科目から2単位、キャリア教育系科目から2単位の計4単位を、教育学部は、人文科学系科目または健康科学系科目から2単位を、文学部は、社会科学系科目から2単位を、理工学部情報システム工学科は人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位の計4単位を、理工学部共生創造理工学科は人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、キャリア教育系科目から2単位の計6単位を、看護学部は人文科学系科目または社会科学系科目から2単位を修得しなければならない。

別表第3（第11条関係）【専門科目・自由選択科目】

学部	学科	専門科目				自由選択	計	総計		
		必修	選択必修	選択	小計					
経済	経済	—	28	38	66	30	96	124		
法	法律	—	演習等科目	8	50	68	30	98	124	
			基本科目	10						
文	人間	—	イントロダクトリー科目	2	イントロダクトリー科目	4	62	36	98	124
			ベーシック科目	2	ベーシック科目	26				
			アドヴァンスト科目	12	アドヴァンスト科目	16				
経営	経営	8	A群	18	36	78	18	96	124	
			B群	16						
教育	教育	14	18	46	78	18	96	124		
	児童教育	14	14	50	78	18	96	124		
理工	情報システム工	14	8	48	70	26	96	124		
	共生創造理工	27	A群	4	36	71	23	94	124	
			B群	4						
看護	看護	103	—	—	103	6	109	125		

国際教養	国際教養	34	Quantitative & Qualitative Analysis 科目	4	—	78	18	96	124
			Level 100 - 200 科目	16					
			Level 200 科目	4					
			Level 300 - 400 科目	20					

○ 創価大学公欠の取扱いに関する内規

(公欠理由)

第1条 授業を次の理由で欠席するものは、公認欠席（以下、公欠という）とし、創価大学履修規程第7条3の備考に定める授業の欠席時数から除外することができる。

- (1) 教育実習（教育実習・観察教育実習）及び教員免許取得に必要な介護等体験に参加する場合
 - (2) 看護学部における臨地実習及び研修に参加する場合
 - (3) 文学部における社会福祉専修専用の実習に参加する場合
 - (4) 演習・共通演習で行う実習又は研修に参加する場合
 - (5) 就職採用試験・公務員試験を受ける場合（ただし、会社訪問は含まない）
 - (6) 教員採用試験を受ける場合
 - (7) 学部・学科・専攻が実施するクラス研修旅行に参加する場合
 - (8) 本学公式行事に学生代表として参加する場合
 - (9) スポーツ公式試合に参加する場合
 - (10) 忌引の場合
 - (11) 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」の施行に伴い、この法律に基づいて公判への参加等の役割を担う場合
 - (12) 感染症による出席停止措置を受ける場合
 - (13) 公認心理師養成課程の心理実習に参加する場合
 - (14) その他教務部長が正当な理由であると認めた場合
- 2 前項（1）の適用は、教育実習については、教育実習校から文書で正式回答のあった教育実習の期間を公欠として認める。教育実習前後の期間並びに教育実習のための事前打ち合わせ及び実習校確保のための事前活動については、公欠を認めない。教育職員免許取得に必要な介護等体験については、介護等体験のために必要な7日間のみ公欠を認める。介護等体験前後の期間並びに事前打ち合わせ及び事前活動については、公欠を認めない。公欠の申請には、「学校または、施設の長」の証明のある「介護体験証明書」の提示が必要である。
- 3 第1項（1）の適用で、特設課程の授業に関連したその他の実習における公欠の取り扱いについては、教育実習等の場合に準じる。
- 4 第1項（5）の適用は、インターンシップ及び仕事体験等、採用や選考を伴う説明会、面接試験・筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会等に参加する場合は、公欠として認める。ただし、参加を証明する書類等で、理由が確認できる場合とする。
- 5 第1項（6）の適用は、原則として就職活動のための公欠の取り扱いに準じる。公欠の申請には「教員採用試験受験票」などの試験日が明記された教育委員会発行の書類の提示が必要である。原則として当該試験日のみ公欠を認める。ただし、複数の教員採用試験を受験する場合は、その移動に必要な時間を考慮することができる。第1次試験、第2次試験ともに同様の扱いとする。
- 6 第1項（9）の適用は、本学学友会の体育会系クラブ所属の学生が公式試合に正選手・準選手・大会役員として参加する場合とする。この場合の公式試合とは、都大会以上の試合及び当該クラブが所属するリーグ又は団体が実施する公式の団体戦並びに個人戦を総称する。
- 7 第1項（11）の適用は、裁判員候補者として裁判所に行く場合を含む。
- 8 第1項（12）の適用は、「創価大学感染症による出席停止の取扱いに関する内規」の適用を受ける場合とする。
- 9 第1項（3）及び（13）の適用は、各施設での実習日当日のみを公欠として認める。
- 10 第1項（14）の適用は、本学を代表してインターゼミナール大会に参加する場合、文芸局・学術局系クラブ所属の学生が公演・スピーチコンテスト等に参加する場合、政府等公的機関が実施する行事に参加する場合、学術団体が主催する学会等において発表者として参加する場合及び国家試験を受験する場合など、教務部長が教育上公欠が妥当であると判断した場合とする。

(公欠の証明)

第2条 公欠の証明は、次の部課が担当し、公欠願いに許可を与える。

- (1) 前条第1項(1)及び(6)の公欠の証明は、教職キャリアセンター
- (2) 前条第1項(2)の公欠の証明は、看護学部事務室
- (3) 前条第1項(3)の公欠の証明は、学事第2課文学部事務室
- (4) 前条第1項(4)(10)(11)(12)及び(14)の公欠の証明は、教務課
- (5) 前条第1項(5)の公欠の証明は、キャリアセンター
- (6) 前条第1項(7)の公欠の証明は、当該学部等の研修の責任者
- (7) 前条第1項(8)及び(9)の公欠の証明は、学生部学生課
- (8) 理工学部生に係る前条第1項(4)及び(10)の公欠の証明については、理工学部事務室
- (9) 前条第1項(13)の公欠の証明は、教育学部事務室

(手続き)

第3条 公欠の手続は、原則として公欠の扱いを希望する学生本人が、ポータルサイトから、公欠願の申請登録を行わなければならない。公欠願が許可された場合は、許可部課より授業担当教員に送るものとする。

- 2 第1条第1項(4)の場合、実施する教員は計画書及び公欠に該当する学生の一覧を教務課に提出し、許可を受けるものとする。
- 3 第1条第1項(9)の場合、クラブは公欠に該当する学生の一覧を学生課に提出するものとする。
- 4 第1条第1項(10)(11)及び(14)の場合、会葬礼状・診断書等相応の証明書類を申請時に添付するものとする。
- 5 第1条第1項(12)の場合は、別に定める。

(提出期限)

第4条 公欠願の申請は、公欠願の対象となる授業科目の最終授業までに申請登録しなければならない。

- 2 前項にかかわらず第1条第1項(10)及び(12)の理由で、最終授業日が公欠対象となる場合は、最終授業日より1週間申請期間を延長するものとする。

(忌引の日数)

第5条 第1条第1項(10)の適用は、父母(養父母)の場合7日間まで、祖父母(曾祖父母含む)・兄弟姉妹の場合3日間までとし、往復にかかる日数と土曜・日曜・祭日を含む。

(公欠回数制限)

第6条 第1条第1項(5)(6)(8)及び(9)の適用は、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は4回以内、週に1回の授業を実施する場合は2回以内とする。ただし、教務部長が認めた場合はこの限りではない。

- 2 第1条第1項(12)の適用は、同一科目について週に2回の授業を実施する場合は10回以内、週に1回の授業を実施する場合は5回以内とする。ただし、教務部長が認めた場合はこの限りではない。

(公欠となった授業の取り扱い)

第7条 学生は、公欠の扱いとなった授業について、担当教員の指示に従い、自己学習、課題の提出、補習授業の受講等により、その授業の学習を補うものとする。

○ 創価大学定期試験実施に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、創価大学学則第13条乃至第15条に基づき、定期試験の実施に関する事項を定める。

(定期試験)

第2条 定期試験(以下「試験」という。)は、学期末の定められた期間に行う。

- 2 試験は、すべての授業科目を対象とし、その実施計画を公示する。
- 3 実施計画は「定期試験時間割」を掲載した小冊子を配布することで公表する。

(試験の方法)

第3条 試験の方法は、筆記試験、口述試験又はレポート試験とする。

- 2 筆記試験の時間は原則として60分とする。

(実施本部)

第4条 試験期間中は、試験の円滑かつ公正な運営を図るため、実施本部を設置し、実施本部長及び副本部長を置く。

- 2 実施本部長には学長、副本部長には教務部長及び教務部副部長をあて、試験の運営を統括する。

(試験の監督)

第5条 試験実施に際しては、各試験場に1名の監督員及び受験者数に応じて相当数の監督補助を置く。

- 2 監督員及び監督補助(以下「監督者」という。)は、原則として教員が担当し、当該科目の担当教員を監督員とする。監督補助は大学院生が担当する場合もある。
- 3 監督者は、試験を公正に実施するものとする。
- 4 担当教員が止むを得ない事情により監督できない場合には、他の教員が監督員を代行する。

5 監督者の担当する回数については、教授・准教授・講師・助教ともに原則として最低2回は担当する。ただし、定期試験時間割の曜日時限によっては変更する場合もある。

(受験資格)

第6条 学生は、履修登録した授業科目についてのみ、その試験を受けることができる。

2 前項の規定にかかわらず、試験場で学生証を提示しないときは、受験資格を失う。なお、学生証を忘れてきた場合、学生は受験許可証の発行を受けることができる。ただし、受験許可証の発行は、所定の手数料を納めなければならない。

(受験者の義務)

第7条 受験者は、次の各号を守らなければならない。

- (1) 指定された日時・試験場で受験する。
 - (2) 監督者の指示に従う。
 - (3) 試験中は学生証を机上通路側に置く。
 - (4) 不正を行わない。
 - (5) 試験中に退室してはならない。
 - (6) 答案用紙に学籍番号及び氏名を記入する。
 - (7) 退室に際しては、答案用紙を監督者に提出する。
- 2 前項第2号及び第4号に違反した者の取扱については、別に定める。

(無効答案)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、答案を無効とする。

- (1) 第6条に定める受験資格を有しないとき。
- (2) 第7条第1項第1号、第6号及び第7号の義務を怠ったとき。

(予備日)

第9条 台風又は降雪等により試験を実施できない場合は、予備日に行う。

(追試験)

第10条 追試験の実施に関しては、この細則の第7条を適用する。

(事務)

第11条 この細則に関する事務は、教務課が担当する。

○ 創価大学追試験実施についての事務取扱内規

(趣旨)

第1条 この内規は、定期試験実施に関する細則第10条に基づき、追試験の実施に関する事項を定める。

(受験資格)

第2条 定期試験を次の理由で欠席した者のうち、証明書類等で理由が確認できる者。

理由	証明書類
国家試験・教員採用試験・地方公務員試験	受験票等証明するもの
就職試験（セミナーは除く）	〃
スポーツ全国選手権大会出場	学生課の証明書
本人の傷病	医師の診断書
忌引（2親等以内の親族）	会葬礼状等
電車・バス等の事故・積雪等による遅延	遅延証明書
交通事故・災害（火災等）	事故証明書、罹災証明書
本学の授業として開講している実習に参加した場合	実習への参加を示す証明書
その他教務部長が正当な理由であると認めた場合	

* 忌引の相当期間については、両親（養父母）の場合は7日間、祖父母・兄弟については3日間とする。それ以外の2親等以内の親族の場合は、その都度、判断をする。

* 本人の傷病を証明する診断書については、病院等の公共施設が発行する診断書に限る。受験できなかった定期試験日における傷病の状況が明記されている診断書に限る。なお、本学の保健センターの診断書は認められない。

* 就職試験（セミナーは除く）については、採用や選考を伴う説明会、面接試験・筆記試験などの採用試験、内定式や就職に必要な研修会・セミナー等に参加する場合は、キャリアセンターが受験資格を認めるかどうかの判断を行う。

(追試験の受験申込み)

第3条 追試験の受験申込みは「追試験受験許可願」の用紙に必要な事項を記入の上、教務課（理工学部生は理工学部事務室へ、看護学部生は看護学部事務室へ提出することも可）に提出しなければならない。なお、提出の際は、上記の指定された証明書等を添付しなければならない。

2 受験の申し込み手続きは原則として受験者本人（以下、「本人」と呼称）が行うものとする。本人が種々の事情により申込みの手続きが取れない場合、代理人が申し込みの手続きを行うことを認める。代理人については、本人の意思を託された者であれば誰でも構わない。ただし、代理人が申請した結果、本人に不利益が生じた場合、その責任は本人が負うものとする。

3 ただし、指定された期間内に受験の申し込みをしなかった者は、受験資格を失う。

(受験科目数)

第4条 受験資格者の受験できる科目数は、制限しない。

(試験除外科目)

第5条 定期試験期間以外に実施する授業内試験及びレポート試験の追試は行わない。

(受験許可)

第6条 追試験の受験の許可については、本人から提出された「追試験受験許可願」に基づき教務部長が許可・不許可を判断する。受験許可者については、掲示で通知をするが、郵送により通知を受け取ることも可能とする。ただし、郵送で通知を受ける場合の郵送料は、申請者本人の負担とする。

2 出席日数が授業実施日数の3分の2に不足している場合は、追試験の受験を許可しないことがある。

(出題方法)

第7条 追試験の試験問題は、担当者が出題する。ただし、担当者に支障がある場合は、当該教授会または学士課程教育機構運営委員会が判断した上で処置する。

(成績評価)

第8条 追試験の成績評価は担当する教員が行う。

(追々試)

第9条 追試験の追試験は、行わない。

(実施大綱)

第10条 追試験の実施大綱は、各学期末定期試験で配布する小冊子に明記して通知する。

(受験許可者・時間割発表)

第11条 受験許可者及び追試験の実施時間割の発表は、掲示板に掲示しかつホームページ上に掲載する方法を以て行う。その発表日時は、前項の小冊子に明記する。

(受験料)

第12条 追試験の受験料は徴収しない。

(学生証提示の義務)

第13条 追試験を受験するものは、必ず学生証の提示を行うものとする。なお、学生証を忘れてきた場合は、受験許可証の発行を受けることができる。ただし、受験許可証の発行は、所定の手数料を納めなければならない。

○ 創価大学定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規

(趣旨)

第1条 この内規は定期試験実施に関する細則第7条第2項に基づき不正行為者の取扱いに関する事項を定める。

(不正行為の確認)

第2条 監督員及び監督補助（以下「監督者」という。）が不正とみなされる行為を発見した場合は、速やかに当該学生の解答用紙を回収し、新たな解答用紙を渡して、試験を続行させる。なお、不正行為に関係する証拠物があった場合は、直ちに回収する。

2 試験終了後、本部長又はそれに代わる者は、監督員とともに当該学生に対し不正行為の事実確認を行う。

3 実施本部は、不正行為の事実が確認された場合、「定期試験不正行為報告書」を作成し、学生部委員会へ報告する。

(懲戒)

第3条 不正行為者に対する懲戒は、創価大学学則第46条に基づき次のとおりとする。

- (1) 戒告
- (2) 停学

(3) 退学

(処分の事由)

第4条 処分の事由は、次のとおりとする。

(1) 戒告

- ア あらかじめ机等へ書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだ者
- イ あらかじめ書き込みをされた六法全書・辞書等を持ち込んだ者
- ウ 参照不許可の教科書、参考書、ノート等を参照した者
- エ 許可なく携帯電話・電子機器等を使用、または参照した者
- オ 解答用紙のすり替えをした者
- カ 言語、動作等をもって受験者相互に連絡した者
- キ 他の学生答案を見て、答案を作成した者
- ク 許可なくみだりに席を離れた者、その他監督者の指示に反する行為をした者
- ケ その他不正な手段を用いて受験した者

(2) 停学

- ア 身替わり受験を依頼した者、又は身替わり受験をした者
- イ 他人の答案を作成した者、不正に作成された答案を提出した者、及びそれらの行為をさせた者
- ウ 過去に戒告処分を受けた者で、再び不正行為をした者
- エ その他重大な不正行為をした者

(3) 退学

過去に停学処分を受けた者で、再び不正行為をした者

(単位認定の取扱い)

第5条 不正行為者の単位認定についての取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 戒告処分を受けた者 当該学期の全履修科目につき単位を認定しない。
- (2) 停学処分を受けた者 当該年度の全履修科目につき単位を認定しない。
- (3) 退学処分を受けた者 当該年度の全履修科目につき単位を認定しない。

(処分の手続)

第6条 処分の手続については、「学生の懲戒処分の手続に関する細則」(細則第8号)に準じてこれを行う。

2 当該教授会は、処分内容等について議事録に記載する。

(公示)

第7条 不正行為者に関する学内の公示は、次のとおりとする。

- (1) 学内の公示は、処分内容及び当該学生の学籍番号のみとする。
- (2) 学内の公示期間は、処分決定後2週間とする。

(保証人への通知)

第8条 不正行為者の処分内容については、処分決定後にこれを保証人に通知する。

(停学期間の取扱い)

第9条 この処分による停学期間は在学期間とみなし、学生の身分を継続するために行う諸手続については、これを認める。

(準用)

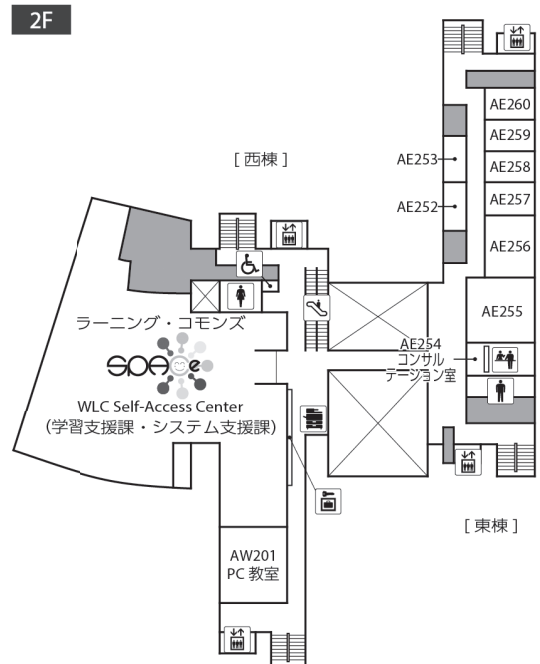
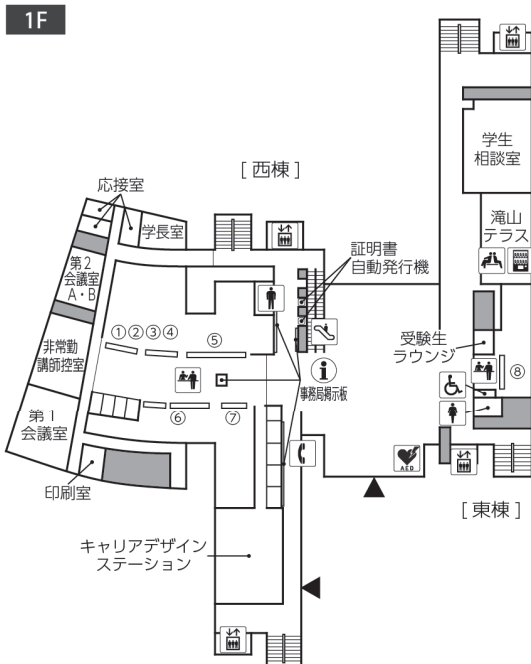
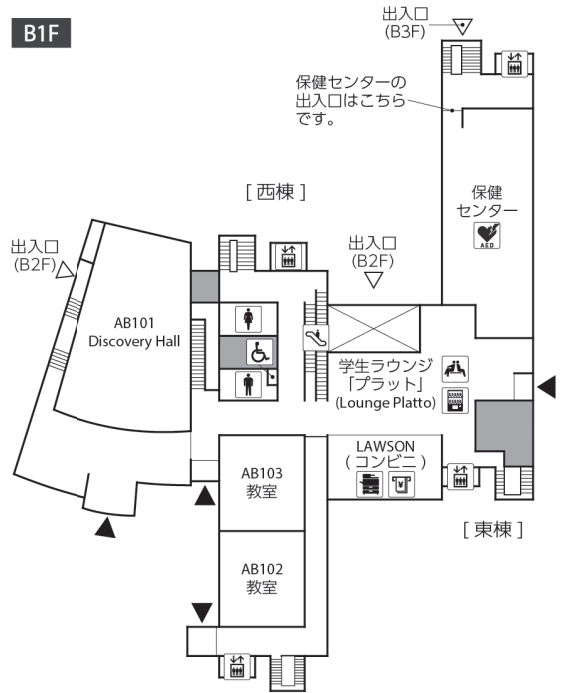
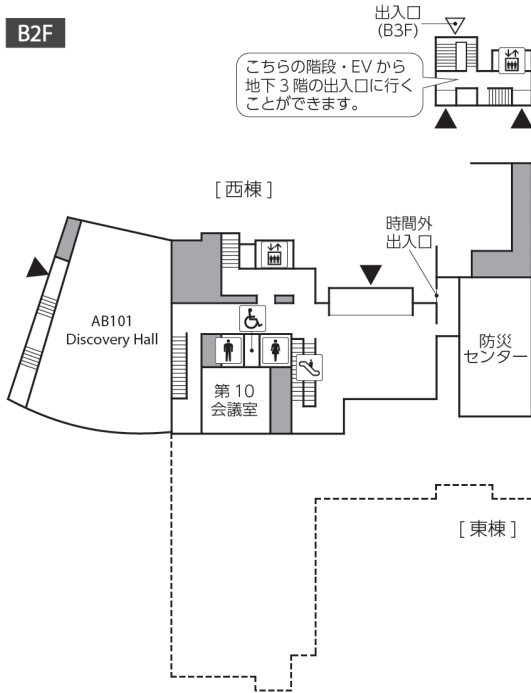
第10条 追試験及び臨時試験における不正行為者の取扱いに関しては、この内規を準用する。

(事務)

第11条 この内規に関する事務は、教務課が担当する。

◆ 教室配置図・キャンパスマップ

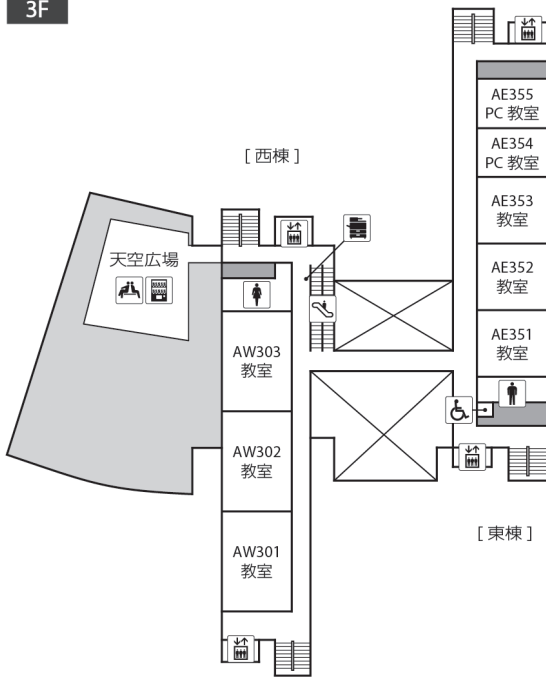
○ 中央教育棟 [Global Square] (AB/AC/AE/AE)



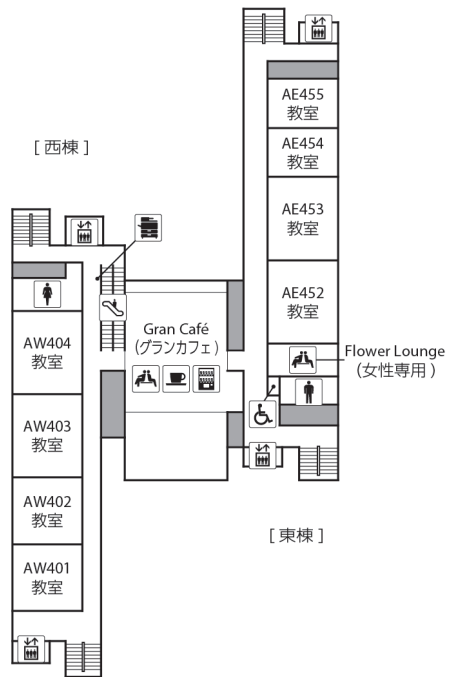
- ① 学事第1課
- ② 文系大学院事務室
- ③ 学部事務室 (経済・経営・文・国際教養)
- ④ 研究支援課
- ⑤ 教務課
- ⑥ 学生課
- ⑦ キャリアセンター (キャリア・就職支援課)
- ⑧ アドミッションズセンター (入試事務室)

部屋名	タイプ
AE252 - 253	PC教室
AE255	CALL教室
AE256	グループ学習室
AE257 - 260	PC教室

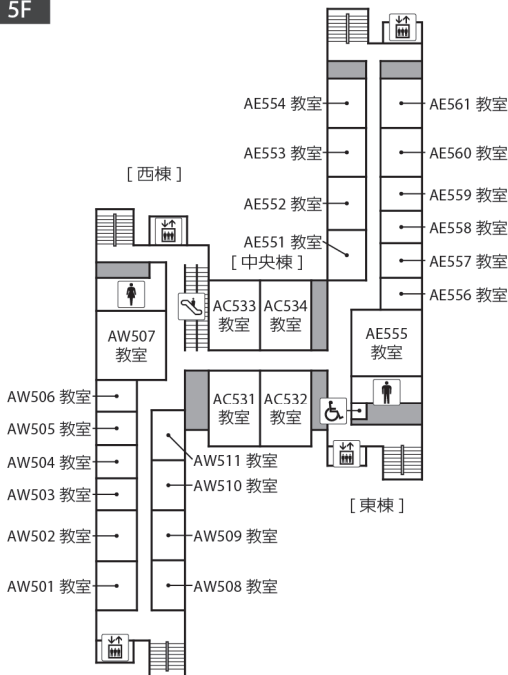
3F



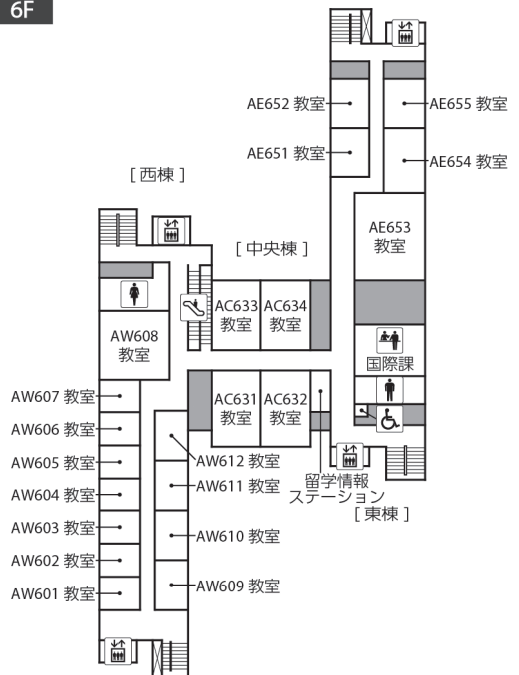
4F



5F

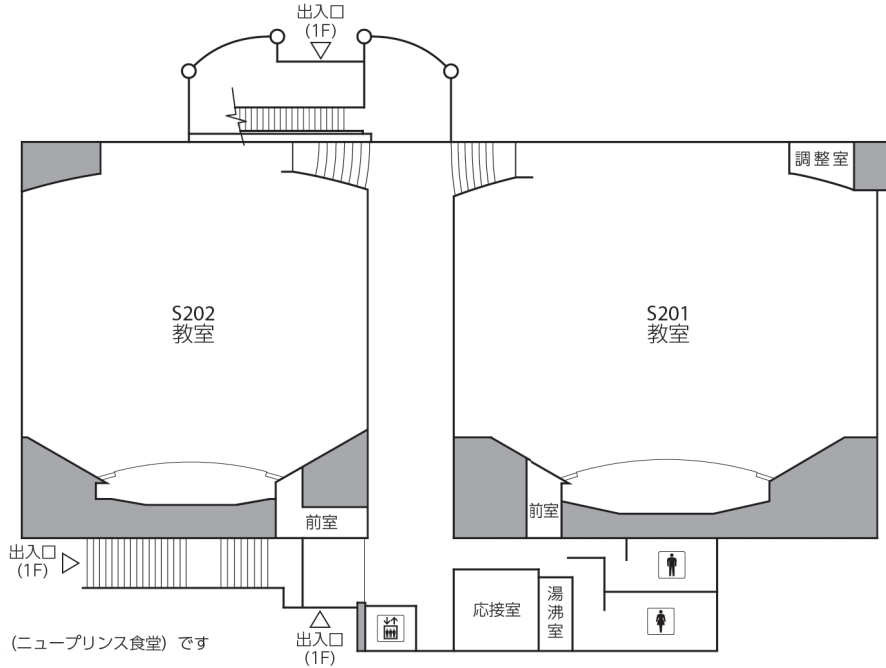


6F



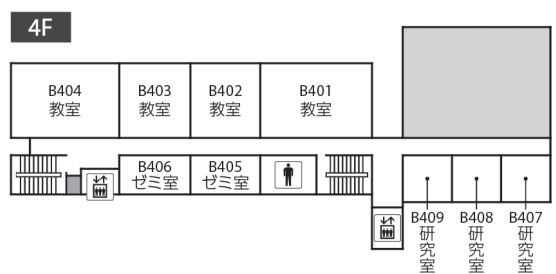
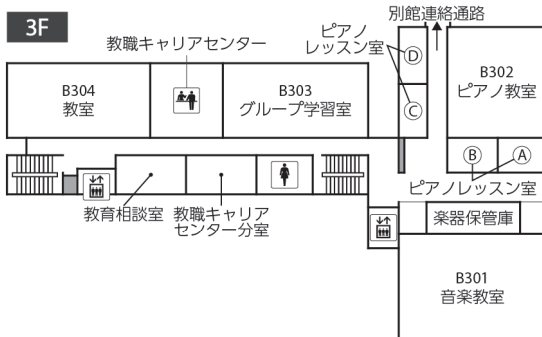
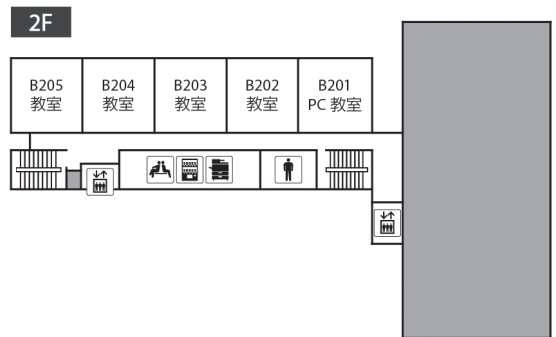
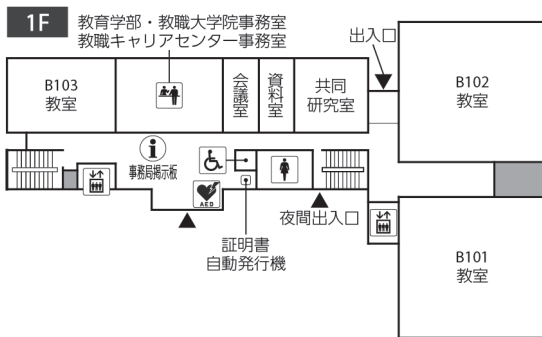
○ 大教室棟（S棟）

2F



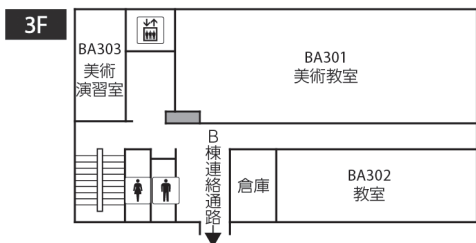
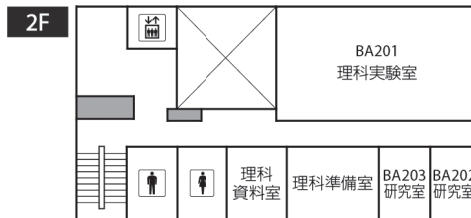
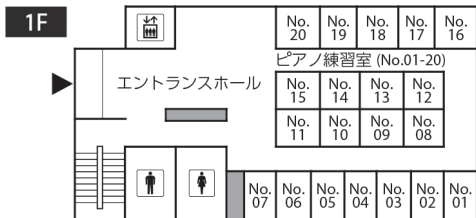
※ 1階は食堂（ニュープリンス食堂）です

○ 教育学部棟（B棟）

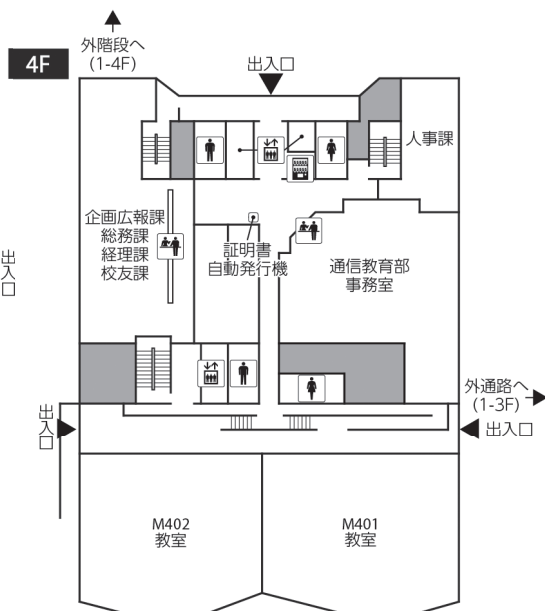
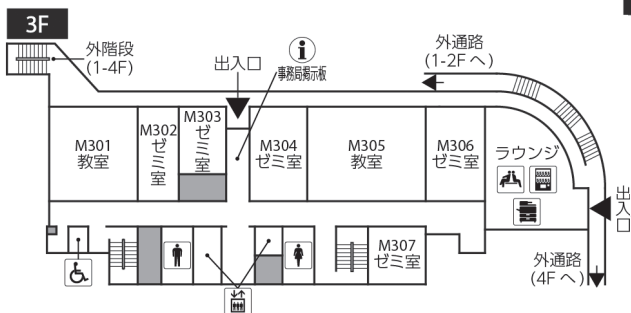
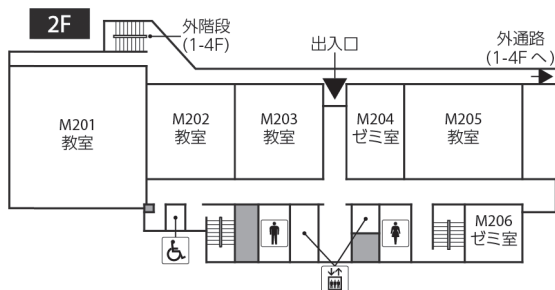
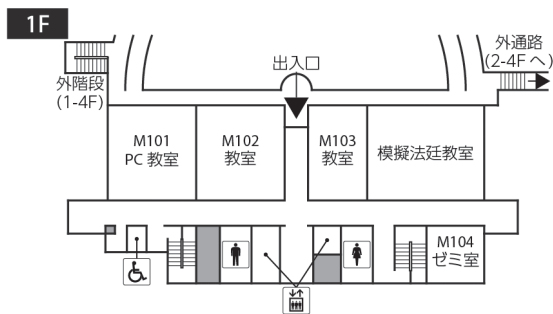


※B棟（教育学部棟）の5・6階は研究室階です（配置図は省略）

○ 教育学部棟別館（BA棟）



○ 本部棟（M棟）

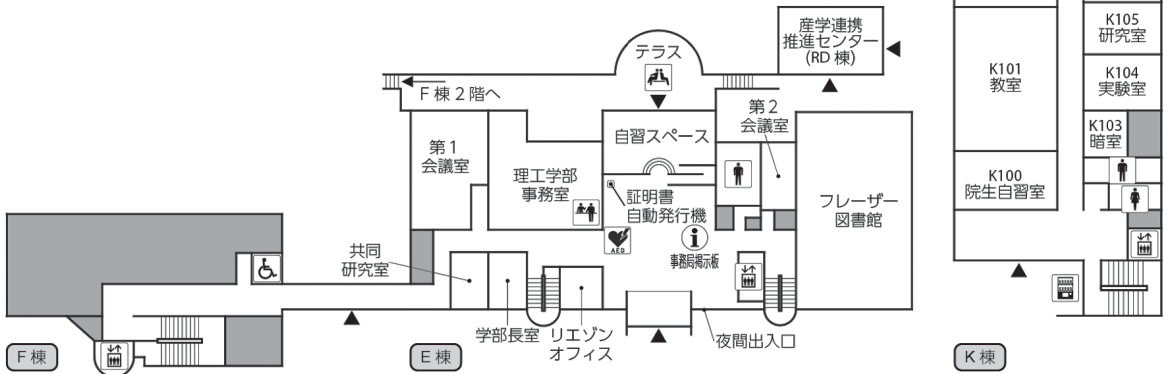


【その他の本部棟の施設】

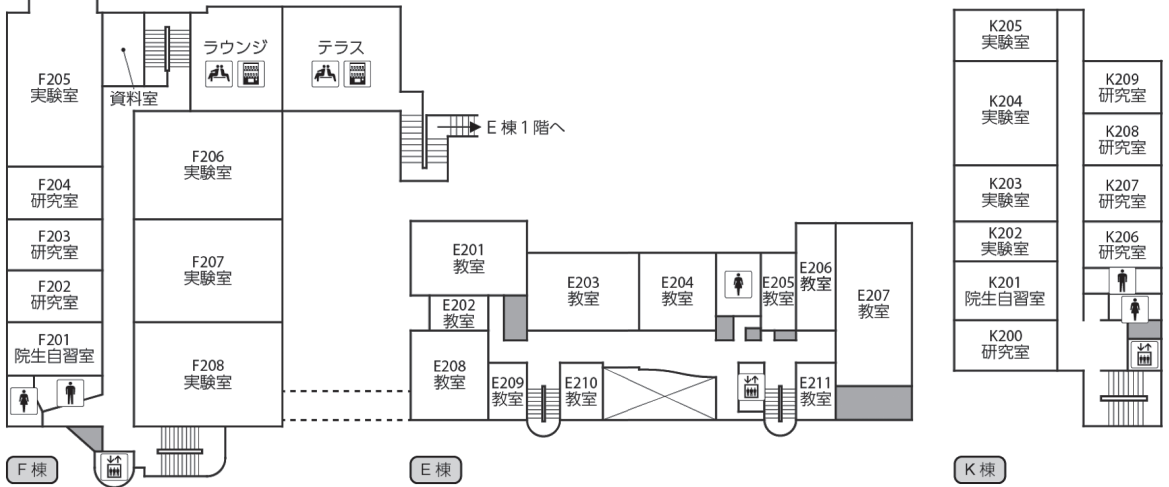
- ※5階の防災センターに AED が設置されています
- ※5・6階は展示フロアです
- ※7階に COSMOS（法学部生ラウンジ）があります
- ※8階に法学部事務局があります
- ※9階から12階は研究室フロアです
- ※13階は食堂（カフェテリア）です

○ 理工学部棟 (E・F・G・K棟)

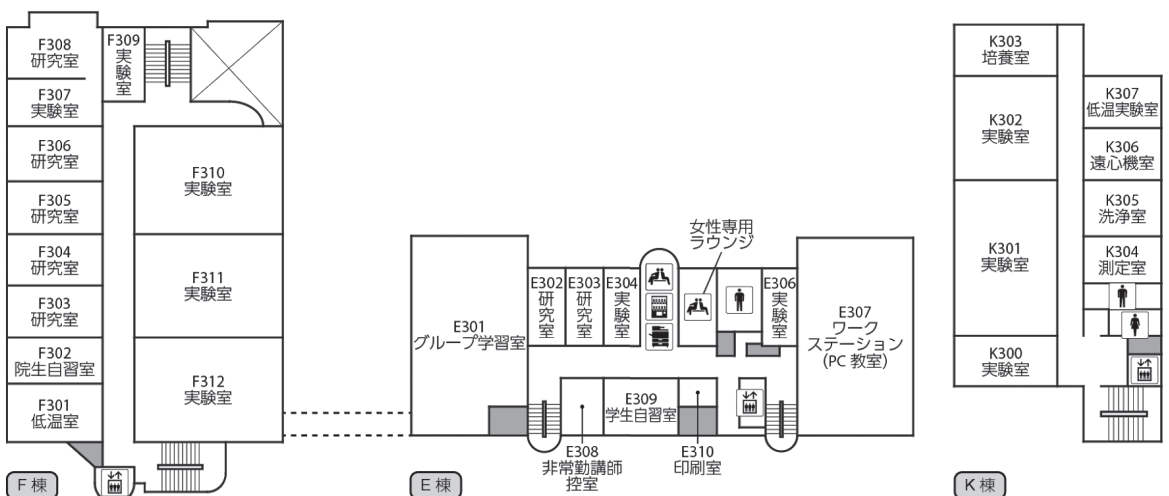
1F ※E棟、F棟、G棟は連絡通路でつながっています。
 ※E棟⇄F棟は1階・4階に連絡通路があります
 ※G棟へはF棟4階から行くことができます
 (G棟1階とF棟4階が連絡通路でつながっています)

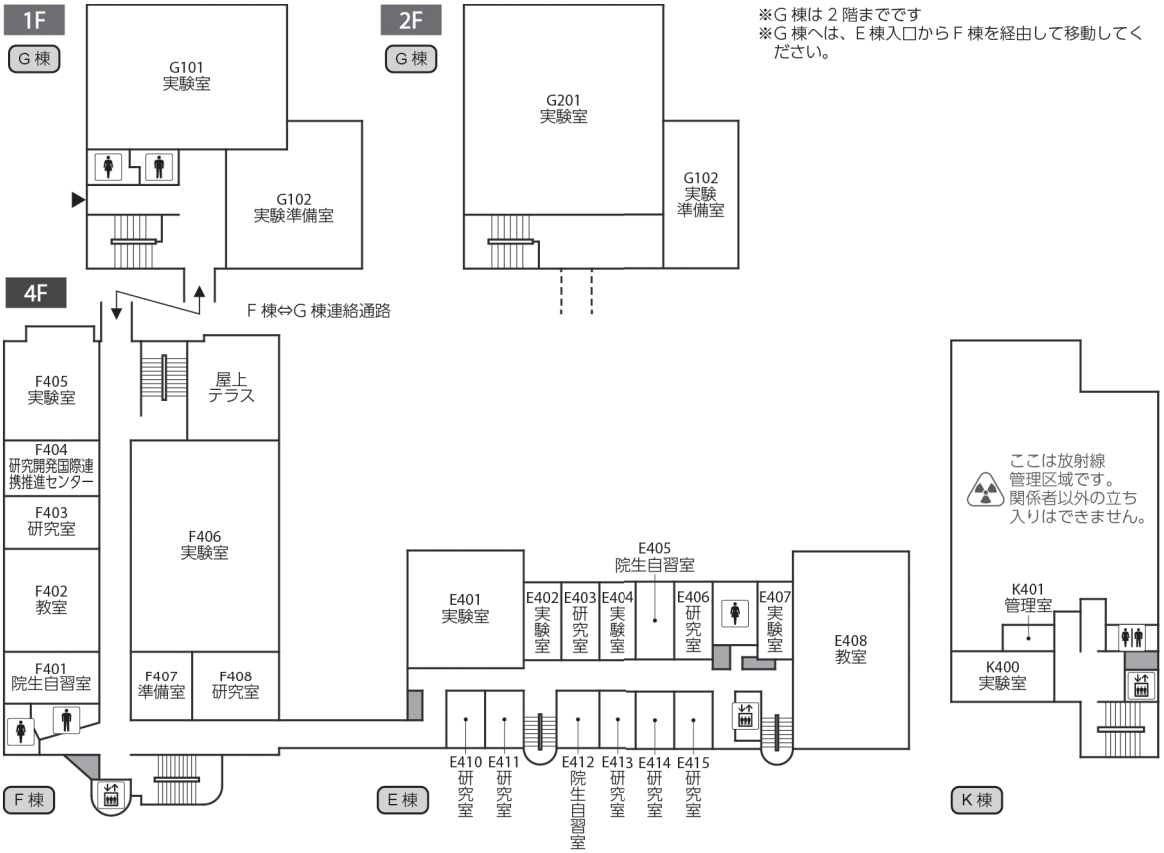


2F

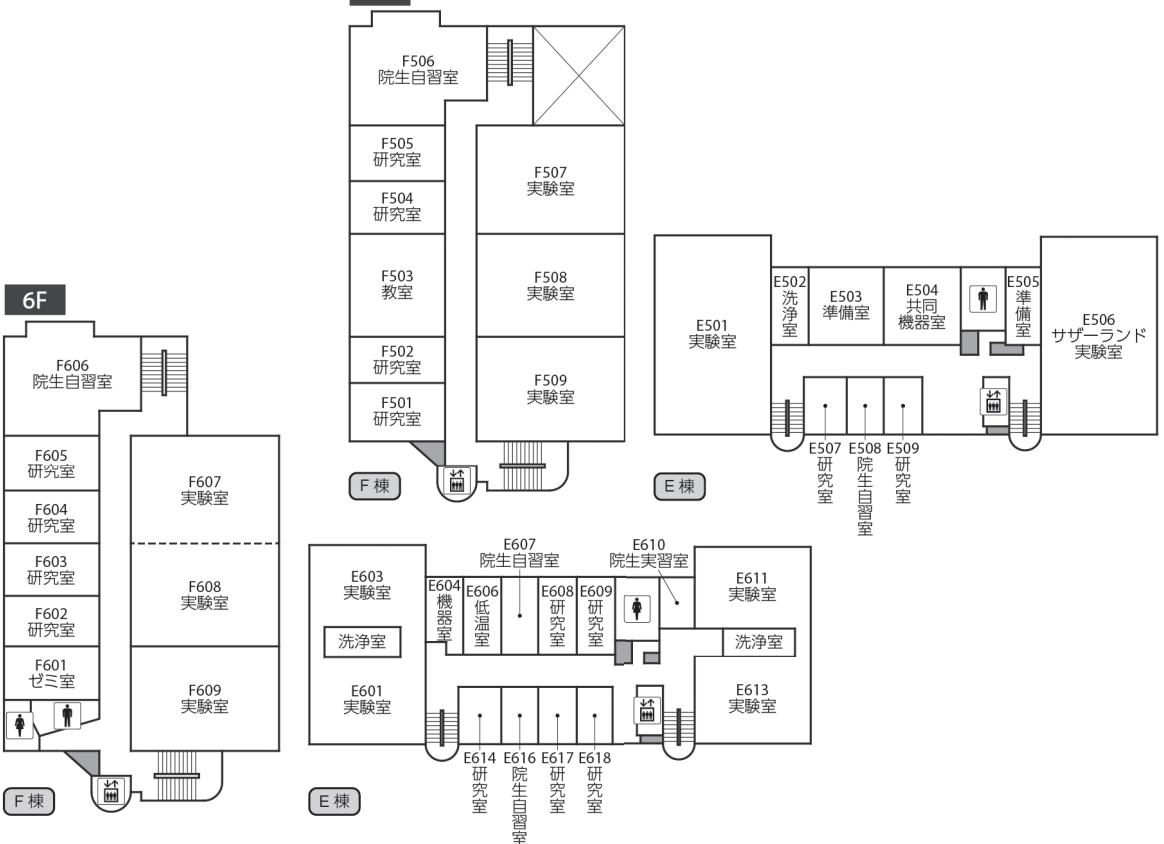


3F

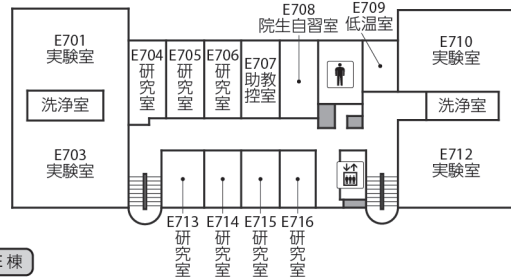
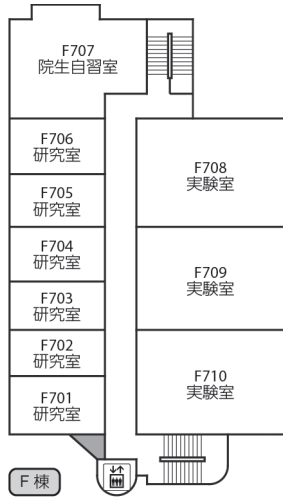




5F ※K棟は4階までです

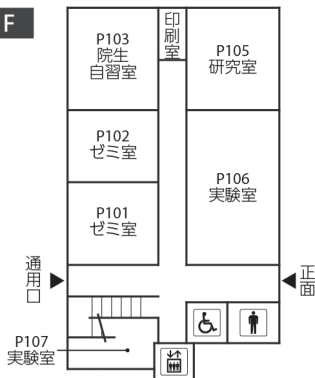


7F



○ 理工学部棟 (P棟)

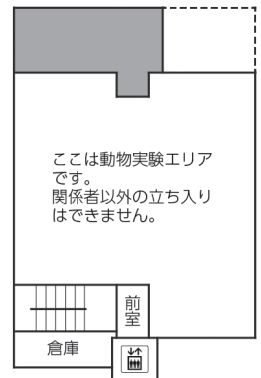
1F



2F



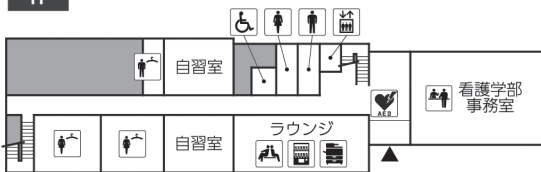
3F



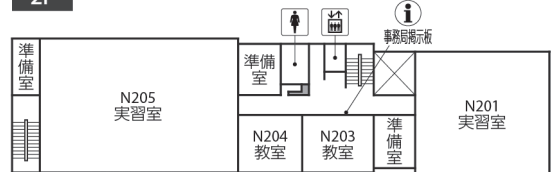
※学生の皆さんが授業や実験のためにP棟に入館する場合は「通用口」を利用してください。

○ 看護学部棟 (N棟)

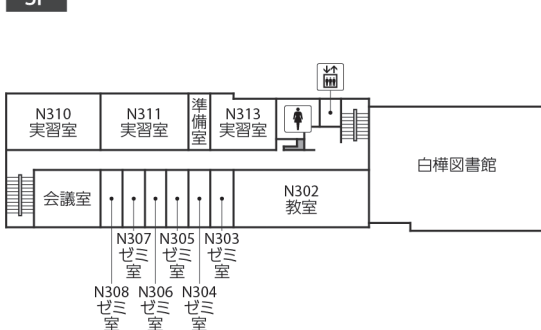
1F



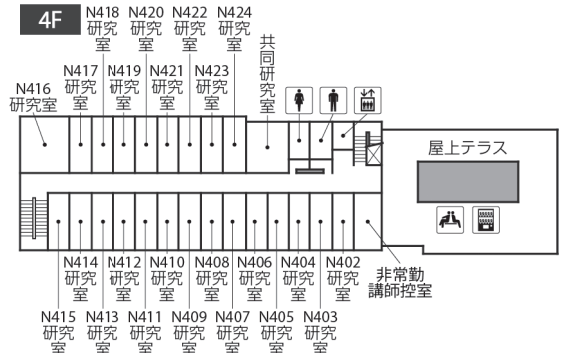
2F



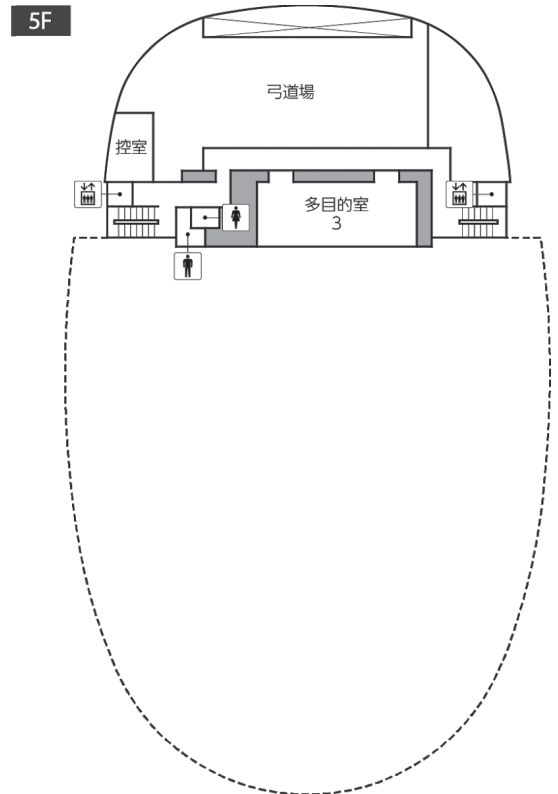
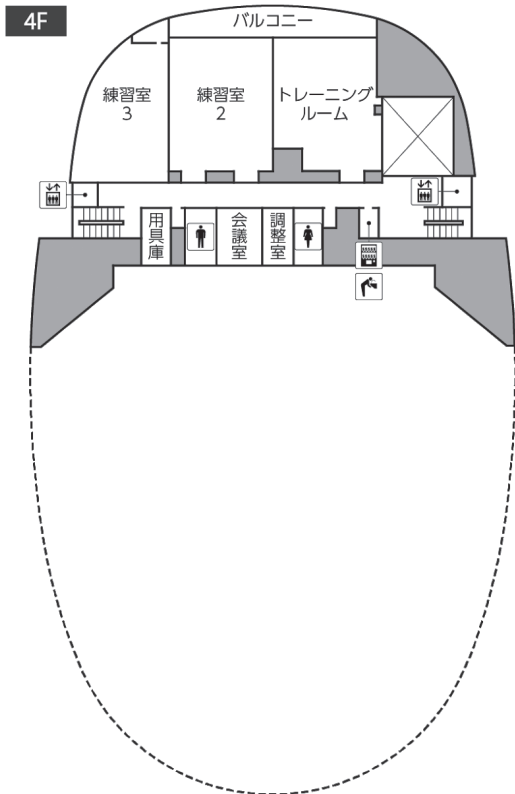
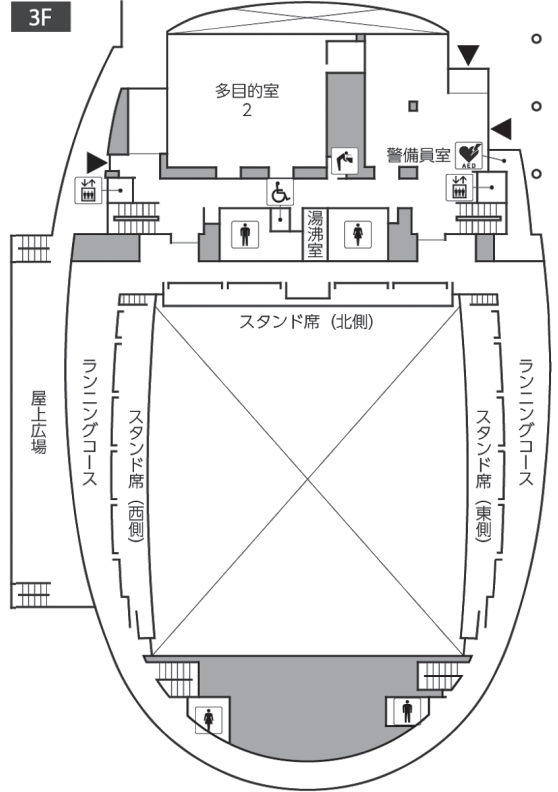
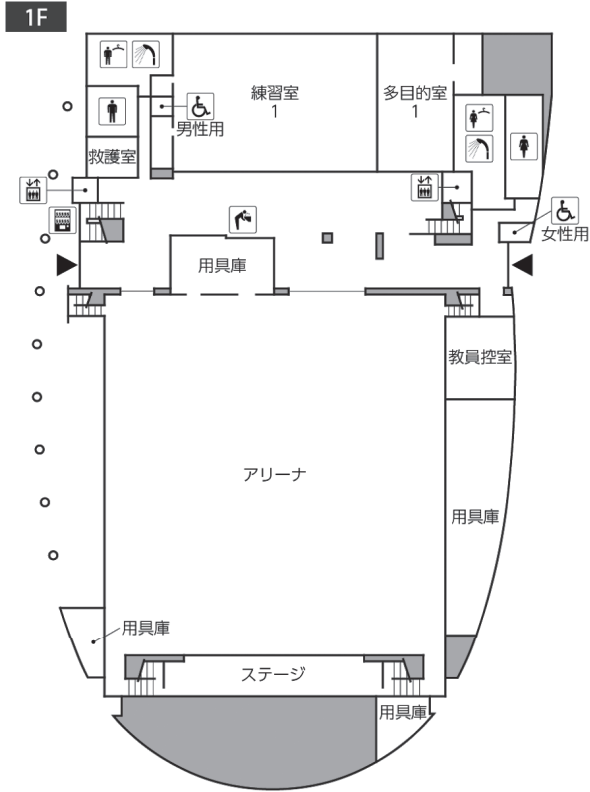
3F



4F



○ 総合体育館



※総合体育館 2階は機械室フロアのため立ち入りはできません。

MEMO

MEMO

◆時間割プランニングシート

【第__セメスター】

※履修登録の締切日：__月__日まで

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
集中 講義					

履修単位数	単位	GPAの目標
今学期必ず履修しなければいけない科目		
自分メモ		

※コピーを取るなどをして、毎学期の時間割作成などに活用してください

学籍番号：

氏名：



SOKA University